

博士論文(要約)

近世民家における意匠操作

目次

(灰色部分は平面図が含まれることから、住人のプライバシーを考慮し、本要約から除外した)

1章 序論001

1-1 研究の目的002

1-2 既往研究(民家の意匠・部材幅)003

- 1-2-1 民家の意匠研究 003
- 1-2-2 民家の意匠に関する記述 003
- 1-2-3 民家の部材幅等の寸法研究 005
- 1-2-4 民家と座敷の相反する空間形式 006

1-3 用語定義006

- 1-3-1 時代 006
- 1-3-2 部屋名称 008
- 1-3-3 柱幅区分 009
- 1-3-4 片蓋 010
- 1-3-5 狐 010
- 1-3-6 その他の部材・語彙 011
- 1-3-7 図表の読み方・数値等 012

1-4 研究対象民家について015

- 1-4-1 母数 015
- 1-4-2 地域区分 016
- 1-4-3 立地区分 016
- 1-4-4 積雪量 018
- 1-4-5 降水量 019

1-5 意匠操作の典型例024

- 1-5-1 武田家の例 024
- 1-5-2 渡辺家の例 027
- 1-5-3 論文構成の概要と予想される技法類型
028

2章 各種基本寸法031

2-1 規模032

- 2-1-1 既往研究(主要寸法) 032
- 2-1-2 平面積 033
- 2-1-3 棟高 037
- 2-1-4 軒高 037
- 2-1-5 茅葺の屋根勾配 038
- 2-1-6 部屋の規模 040
- 2-1-7 天井高さ上屋桁高さ 041

2-2 柱幅区分042

- 2-2-1 柱幅1区分 042
- 2-2-2 柱幅2区分 043
- 2-2-3 柱幅3区分 046
- 2-2-4 柱幅4区分 048
- 2-2-5 柱幅5区分以上 050
- 2-2-6 柱幅区分数の時代的地域的傾向 056

2-3 土間の太い柱幅057

- 2-3-1 既往研究(大黒柱) 057
- 2-3-2 最大柱幅の時代的地域的傾向 059
- 2-3-3 太い柱の配置について 061
- 2-3-4 最大幅の柱の材種 063

2-4 座敷の細い柱幅064

- 2-4-1 座敷柱幅の中間値の傾向 064
- 2-4-2 座敷柱幅が一様に細いもの 065
- 2-4-3 座敷柱の材種について 066

2-5 柱幅と部屋の広さの比例関係067

2-6 水平材の寸法068

- 2-6-1 長押 068
- 2-6-2 指鴨居 069
- 2-6-3 薄鴨居 071
- 2-6-4 貫 072
- 2-6-5 梁 073

3章 垂直材の意匠操作075

3-1 片蓋柱片蓋束全体の傾向076

3-2 座敷の柱間・束間と片蓋078

- 3-2-1 既往研究(柱間) 078
- 3-2-2 座敷の柱間束間が不均一なものから均一なものへ 078
- 3-2-3 式台・床の柱間 086
- 3-2-4 座敷等の柱間の時代的地域的傾向 091

3-3 土間・広間・外壁の柱間と片蓋092

- 3-3-1 狭い柱間の構造的な使用 092
- 3-3-2 狭い柱間の意匠的な使用 096
- 3-3-3 外壁の均一な柱間 101
- 3-3-4 土間・広間の柱間の時代的地域的傾向
102

3-4 五平柱103

- 3-4-1 加工斑による五平柱 103
- 3-4-2 太く見せるための五平柱 104
- 3-4-3 五平柱の時代的地域的傾向 107

3-5 狐柱・狐束108

- 3-5-1 凸字型断面の狐柱 108
- 3-5-2 立面方向の狐柱 111
- 3-5-3 凸字型断面の狐束 113
- 3-5-4 表裏で面幅を変える狐柱と狐束 114
- 3-5-5 別材種をはりつける狐柱 116
- 3-5-6 大戸口の狐柱 120
- 3-5-7 狐柱・狐束の時代的地域的傾向 120

3-6 柱幅の段階的調整121

- 3-6-1 柱幅段階的調整のない例 121

3-6-2	2段階の柱幅調整	122
3-6-3	3段階の柱幅調整	124
3-6-4	5段階の柱幅調整	126
3-6-5	柱幅の段階的調整の時代的地域的傾向	129

3-7 柱幅が異なる場合の畳割調整 130

3-7-1	柱下端をかきとる畳割調整	130
3-7-2	柱を寄せる・敷居の幅を変える畳割調整	131
3-7-3	五平柱にする畳割調整	133
3-7-4	畳割調整の時代的地域的傾向	134

4章 水平材の意匠操作 ……135

4-1 座敷飾り ……136

4-1-1	座敷飾りの時代的地域的傾向	136
4-1-2	広間における長押の使用	138
4-1-3	土間や外壁における長押の使用	139

4-2 指鴨居・胴差・マグサ ……140

4-2-1	既往研究（指鴨居）	140
4-2-2	指鴨居の構造的な使用から意匠性重視への変遷	142
4-2-3	片蓋胴差	148
4-2-4	大戸口のマグサの意匠性	151
4-2-5	指鴨居・胴差・マグサの時代的地域的傾向	152

4-3 狐鴨居 ……153

4-3-1	既往研究（狐鴨居）	153
4-3-2	狐鴨居の様々な使用例	153
4-3-3	狐鴨居の時代的地域的傾向	170

4-4 梁 ……172

4-4-1	既往研究（梁の意匠性）	172
4-4-2	意匠性の低い梁	172
4-4-3	意匠性の高い梁	174
4-4-4	広間と外観で梁を見せる傾向	178
4-4-5	座敷で梁を隠す傾向	181
4-4-6	梁の時代的地域的傾向	184

4-5 貫 ……185

4-5-1	既往研究（貫の意匠）	185
4-5-2	貫の納まりについて	185
4-5-3	貫が全く見えないもの（塗籠貫）	186
4-5-4	貫が座敷に見えてしまうもの	187
4-5-5	貫を座敷に見せず、広間に見せるもの	188
4-5-6	両面貫により広間の4面に貫を見せるもの	190
4-5-7	外壁に貫を見せるもの	193
4-5-8	貫の時代的地域的傾向	193

4-6 水平材成の調整 ……194

4-6-1	長押成の調整	194
4-6-2	指物成の調整	196

4-6-3	薄鴨居成の調整	199
4-6-4	貫成の調整	200
4-6-5	水平材成の調整の時代的地域的傾向	201

5章 その他の意匠操作 ……203

5-1 軒における意匠操作 ……204

5-1-1	区別化のない一様な軒	204
5-1-2	区別化された座敷の軒	205
5-1-3	軒の意匠操作の時代的地域的傾向	215

5-2 余剰空間が生じる意匠操作 ……216

5-2-1	床の奥行調整	216
5-2-2	変形敷地の調整により生じる余剰空間	219

6章 意匠操作全体分析 ……221

6-1 各種技法の類型化 ……222

6-2 各技法の地方性 ……229

6-3 意匠操作の数 ……231

6-3-1	代表的な意匠操作	231
6-3-2	意匠操作数の詳細分析	234
6-3-3	意匠操作数と関連性の高い数値	238

6-4 意匠操作数と家業の関係 ……240

6-4-1	遠隔地との取引を営んだ家	240
6-4-2	その他の家業	244
6-4-3	遠隔地取引による建築技術伝搬の具体的事例	245
6-4-4	時代的背景分析における今後の課題	246

7章 結論 ……247

7-1 各章の小結 ……248

7-2 各時代ごとの意匠傾向 ……251

7-3 各地域ごとの意匠傾向 ……252

7-4 近世民家の意匠操作について 255

7-5 今後の課題と展望 ……256

巻末資料 ……257

各種一覧表 ……257

一覧表 -1 平面積 (2-1-2)	258
--------------------	-----

一覧表 -2	広間天井高さ(2-1-7)	259
一覧表 -3	座敷天井高さ(2-1-7)	260
一覧表 -4	棟高 (m) (2-1-3)	261
一覧表 -5	茅葺の屋根勾配 (2-1-6)	262
一覧表 -6	柱幅 1 区分 (2-2-1)	263
一覧表 -7	柱幅 2 区分の2A型 (2-2-2 ①)	263
一覧表 -8	柱幅 2 区分の2B型 (2-2-2 ②)	264
一覧表 -9	柱幅 3 区分の 3 A型 (2-2-3 ①)	264
一覧表 -10	柱幅 3 区分の 3 B型 (2-2-3 ②)	265
一覧表 -11	柱幅 3 区分の3C型 (2-2-3 ③)	265
一覧表 -12	柱幅 4 区分の 4 A型 (2-2-4 ①)	265
一覧表 -13	柱幅 4 区分の 4 B型 (2-2-4 ②)	265
一覧表 -14	柱幅 5 区分以上 (2-2-5)	266
一覧表 -15	最大柱幅 (尺) (2-3-2)	267
一覧表 -16	土間の太い柱の本数 (2-3-3)	268
一覧表 -17	最大柱幅の材種 (2-3-4)	270
一覧表 -18	座敷柱幅 (尺) (2-4-1 2-4-2)	271
一覧表 -19	座敷柱種一覧 (2-4-3)	273
一覧表 -20	座敷のN値 (2-5)	274
一覧表 -21	長押成 (尺) (2-6-1)	276
一覧表 -22	指鴨居成 (尺) (2-6-2)	277
一覧表 -23	薄鴨居成 (尺) (2-6-3)	279
一覧表 -24	貫の断面寸法 (2-6-4)	280
一覧表 -25	垂直材の配置と使用法一覧 (3 章)	281
一覧表 -26	水平材の配置と使用法一覧 (4 章)	287
一覧表 -27	その他の配置と使用法一覧 (4 章・5 章)	292
一覧表 -28	意匠操作数 (6 章)	297

参考文献 303

参考図書	303
参考報告書	304
参考論文	308
調査日程	308

1 章 序論

1-1 研究の目的

民家には、素朴な美しさがある。しかし、それは、財力がないために結果的に庶民の身分相応の民家形状になってしまった、というわけでは必ずしもない。財力があつたとしても、家作制限によって、民家の形状が庶民の「身分相応にみえるように」作られるという特殊な状況があつた。その意匠は文学的に表現されてしまうことが多いのだが、民家の意匠を多くの人が明快に理解できる形で示せないかと長年考えてきた。人はそもそも民家のどこに美しさを感じているだろうか。一般の人が民家をほめるとき、「こんな太い大黒柱があつて、太い梁があつて、大きな家」といわれることをよく耳にする。また、「柱・梁と壁の造り出す快い階調、内に入ると太い柱と梁との交錯する力強い小屋組」（民家のみかた調べかた）といった記述がなされることもある。伝統技術を持つ大工と話していても、美しさの話になると全体構成も論点の一つになるが、部材幅の微小な差異を非常に気にしており、それは大工のセンスだという大工もいた。民家ではないが、匠明等の木割書において示される比例数値のほとんども部材幅である。以上のように、部材幅が今も当時も意匠的に重要な要素であつたと筆者は考える。そうであれば、部材幅を詳細に研究することで、意匠的意図を明快に示せるのではないかと予想して研究を始めた。

部材幅についての既往研究はほとんどない。しかし、そうであるがゆえに筆者が部材幅について研究すると部材幅には様々な工夫が凝らされていたことがわかってきた。その工夫が凝らされていたこと自体が、部材幅を重要視していたことを意味しよう。そもそも部材幅等の民家の寸法を体系的にまとめたものがないため、それらをまとめる。それをもとに、部材幅調整や部材配置や見せかけ材による意匠操作（「意匠操作」とは、見せかけの部材や特殊な部材幅計画や特殊な部材配置によって民家の意匠を意図的にコントロールすること、と本論文において定義する。）を分析する。その意匠操作という技法をわざわざ使って作られた部材配置や部材幅は、当時意匠的に好まれた形状だと考えられる。また、その意匠操作の「数」は民家の意匠のこだわりの程度を示すと考えられる。そのような意匠操作の数の平均を時代ごと地域ごとに分析することで、各時代各地域の意匠のこだわりの程度も示すことができる。以上のように、部材幅や部材配置を意匠的視点から詳細に分析することによって、民家の意匠的意図と意匠的こだわりの度合いを明快に示すのを主たる目的とするのが本論文である。

しかしながら、本論文は意匠操作のような技巧的な意匠を強調しすぎている嫌いがある。例えば、本論文では、鉾仕上げよりも鉋仕上げの方が、指鴨居よりも狐鴨居（表と裏で形状や材質の異なる指鴨居や胴差や鴨居）の方が、意匠性が高いとしている。ただし、鉾仕上げには素朴で現代人を引き付ける風合いがあるし、指鴨居の力強さに魅せられる人も多い。これらも民家特有の素朴な意匠の一つであり、これを当時の大工が好んで用いた例も中にはあるだろう。しかし、このような意匠は、見栄えをよくしようと純粋な意匠的意図で行ったものなのか、構造・工法上必然的に作らざるをえなかったのか、客観的に判別することが難しく、主観が入りこみやすくなり、先述の文学的な表現を使わざるを得なくなる。本論文では、主観が入り込みやすい「意匠」という題材を、できるだけ客観的に論ずることを目標としている。よって、主観が入り込みやすい素朴な意匠よりも、純粋に意匠を意図していると判断しやすい技巧的な意匠操作に重点を置いている。その反面、民家本来の素朴な意匠については分析がなされておらず、技巧的な民家意匠を強調する論文となっている。よって、民家意匠に関する誤解を読者に与えてしまう可能性があるが、客観的に意匠を論じようとした場合の限界だと考えている。

研究対象としては、図面が整い部材幅などが明記された書籍が必要なため、重要文化財民家で修理工事報告書が発刊されたものの内、記述が十分な民家230棟に限った。よって、県指定や市指定や無指定の民家については対象外であることと、修理工事報告書が発刊された重要文化財民家は近世がほとんどで明治期のものが少ないことに注意されたい。

1-2 既往研究（民家の意匠・部材幅）

本論文は、民家の部材幅等の寸法や見せかけ材を通して意匠的な意識を分析するものである。その研究方法が民家研究史の中でどのように位置づけられるのだろうか。寸法研究と民家の意匠の既往研究に絞って研究例をあげる。各部材個別の既往研究については、2章以降の各節でふれることとする。

1-2-1 民家の意匠研究

「意匠」の概念をどこまで含めるかはあいまいである。「意匠」に民家の構成全体を含めて（鈴木充著『日本の美術 37 民家』（小学館，1975.3）では民家の意匠と題して民家の間取、部屋の使い方、座敷飾りなど民家の構成全体を述べている）とらえている研究もある。しかし、本論文においては、「物品の形状・模様・色彩、またはこれらの結合であって、視覚を通じて美観を起こさせるもの」という『建築大辞典』に合致するものを言うこととする。つまりは、「見栄えと関係する形状や材質」を「意匠」ということとする。その意味では、民家の「意匠」を研究したものは少ない。

民家の細部装飾を研究したものと、川島宙次著『民家のデザイン』（相模書房，1986.11）が挙げられる。欄間、破風、鬼瓦、樋等の装飾を川島宙次氏自らがスケッチしたものを掲載している。また、同氏の川島宙次著『減びゆく民家—間取・構造・内部』（主婦と生活社，1973.11）、『減びゆく民家—屋根外観』（主婦と生活社，1973.5）においても民家の意匠について触れているが、時代的傾向については述べていない。

大場修氏は、『近世近代町家建築史論』（中央公論美術出版，2004.12）の「第六部ファサードの類型と変容」等において、平入りと妻入の分布、町家のファサードや、鋳屋根が梁間規制と関係していることに言及している。格子構えが、近畿を中心として年代が下がるにつれて全国的に拡散していくという指摘は近畿が町家の文化の中心であったことを示唆する。

大野秀敏「吉島家住宅の形態構造とその意味論的關係」『日本建築学会論文報告集第 278 号』（1979. 4, pp. 163-175）においては、長押、竿縁の配置などから、吉島家におけるダイコ空間とザシキ空間の関係性を分析している。

貫の意匠について研究したものとしては火原阿弥「化粧貫からみた民家の意匠傾向に関する研究」（2003 年度 京都府立大学環境デザイン学科卒業研究（大場研究室））がある。貫が座敷に見えないようにすることや、我妻家において両面に貫が見えるようにしていること等を分析し、構造材だと見られていた貫に意匠的な要素があることを指摘している。

以上のように、意匠研究は、町家のファサード、民家の細部の視点で研究が行われている。対して、本論文は、部材幅や見せかけ材を通して意匠を研究するものであり、既往の民家の意匠研究とは異なる。民家ではないが、藤井恵介著『日本建築のレトリック／組物を見る』（INAX，1994.3）では見せかけという視点で社寺の組物を研究しており、本論文はそのような研究法を民家で行ったものである。

1-2-2 民家の意匠に関する記述

研究まではいかなくとも、民家の意匠に関して簡単に述べているものは多く確認できた。それを以下にまとめて民家の意匠の印象を、簡単に分析する。大河直躬氏は 1962 年に民家の美しさについて以下のように述べている

民家の美しさ

民家の様式は、国宝になっている社寺建築や貴族住宅のように、その時代の第一級の工匠技術を使い、費用を惜しみなく投じてつくられたものではない。それと反対に民衆のふだんの生活のなかで、長い年月をかけてじっくりつくりあげられてきた様式である。間取り、梁の組み方、屋根のかたち、障子の使い方など、どの部分にも、天才的なひらめきや複雑な技巧はみられないけれども、長いあいだの経験といったものがある。ちょっとやそとでは動かせないようなつくり方である。柱はみてくれよりも、風雪に耐える強さが大事で、栗や椎などの雑木がつかわれている。屋根の材料は少ない費用ですむように、茅や葦や割板など手近に採集できるものである。梁や小屋組は構造に必要なもので、みかけだけの材料はあまり見当たらない。…（中略）…民家のなかには、時代や住む人々の暮らし向きによって、装飾の多いもの少ないもの、技巧の優れたもの無骨なものなど、いろんな性質のものがあり、一様ではない。しかし民家の建築として持っている美しさの一番の特徴、あるいはとては、やはり実用性と経済性に基つた構造でありながら、長いあいだの洗練によって、それ自身が美しい表現を持っていると

いうことであろう。¹

以上のように、民家は社寺の対極にたつものだととらえられ、民家の「柱はみてくれよりも、風雪に耐える強さ」が第一だとし、「みかけだけの材料はあまり見当らない」という。確かに、見せかけの材が少ない民家もあるが、本論文で述べるように、江戸後期以降の民家では見せかけの材が多く見つかる民家もある。

少し時代が下って川島宙次氏は1973年に以下のように述べる。

屋根のかたちや葺き方、梁の組み方、いろりやかまどなどの設備にいたるまで、そこには寸分の間も無駄もなく、実用に徹したものであり、永年の洗練によって煮つめられた真実の美があり、それがわれわれの心を打つのである。社寺や宮殿のように、最高の技術と材料を用いて贅を尽したものは対照的に、何物をもまどわぬ裸の美しさがそこにある。²

これも同様の文章で、民家は社寺の対極にあり、無装飾の材が使用されているから美しいという考え方をしている。文化庁は1967年に以下のように述べる。

実用的な、飾りのない、そして作為的なデザインがないだけに、卒直に人の心を打つものがある。…（中略）…自然に溶けこんだ民家のたたずまい、近づいてみれば柱・梁と壁の造り出す快い階調、内に入ると太い柱と梁との交錯する力強い小屋組、いろりを中心とする御上（広間）の、いかにも生活の中心といった落つきなど、さまざまな美しさを、そこに見いだす。普通の建築でもそうだが、とくに民家は平面と構造と意匠とが一体となっているところに、そのほんとうの美しさがある。民家のある特定の細部だけを取りあげて、それを追うだけでは、民家の本来の美しさは忘れられてしまう。³

民家は「飾りのない」「作為的なデザインがない」と指摘し、「特定の細部だけを取り上げて」はいけないと書かれている。以上、民家の意匠に関して書かれた3つの文章を引用したが、いずれも民家を「実用的な建物」という考えでとらえた文章であった。しかし、次の文章は川島宙次氏が1986年に述べた文章であるが、先ほど取り上げた13年前の1973年の同氏の文書とは異なる捉え方がなされている。

日本の民家は元来無装飾で、用に徹しているところが、その美しさであると思っていた。やって見るとなかなかそうでもなく、日本の民家も装飾的な要素が非常に豊富でもあることに気付いた。小作農などの質素な民家ではそんなことはないが、商家や素封家の建物では、まことに優れたデザインが豊富に見いだされたのであった。粗末な民家でも一ヶ所や二ヶ所は必ず見せ所というものがある。例えば戸口脇の庇を支える持送り（支え木）などもそれである。訪客の目につきやすい所なので、大工はとくに力をいれる。銭かねに拘らず手間を惜しまず作る。そうせずにはいられない職人魂があったのだ。あの家は何の太郎兵衛の作だといわれるのが、彼らの報酬でもあったのである。⁴

川島宙次氏は「日本の民家は元来無装飾で、用に徹しているところが、その美しさであると思っていた」のだが、実際は、「日本の民家も装飾的な要素が非常に豊富で」、「訪客の目につきやすい所なので、大工はとくに力をいれる」と指摘する。つまり、川島宙次氏は、民家が実用的で飾り気がないために美しいのではないという考え方に变化したのである。

伊藤ていじと二川幸夫による『日本の民家』が発刊されたのが1957年で、学習研究社による『日本の民家』が発刊されたのが1980～1981年であり、民家の緊急調査報告書が発刊されたのが、1969～1983年である。川島宙次氏による『民家のデザイン』が発刊された1986年には、民家の全国的な調査が一通りなされた時代であり、その時代的影響もあるのではないか。また、モダニズムの考え方からポストモダニズムの考え方に移行していく時代的傾向もあるのだろう。

ところで、この『民家のデザイン』における川島宙次氏の印象は筆者が民家を研究し始めてから感じた印象と一致する。つまりは、民家は「実用的で機能的なものだけなので美しい」という人から聞いた先入観で筆者は川崎民家園を見に行ったのだが、それとかけ離れたところが多い。実用一辺倒でつくられた民家はごく一部で、多くのものは一つ以上は装飾がある。持送の装飾、欄間、長押等があり、床の間のある座敷は最たるもので実用とかけ

1 大河直躬著『日本の民家—その美しさと構造—』（社会思想社、1962.7, pp.10-14）

2 川島宙次著『減ひゆく民家—屋根外観』（主婦と生活社、1973.5）

3 文化庁編『民家のみかた調べかた』（第一法規出版、1967.1, pp. 7-8）

4 川島宙次著『民家のデザイン』（相模書房、1986.11, p. 2）

離れているものがあまりに多いと感じた。実用的で美しい民家をみにきていたので、そのような実用とかけ離れたものは見てみないふりをして混乱しながら見学した。しかし、よく考えれば、実用的に見栄えを気にせずで作ったものが偶然にも美しくなる可能性は低いのではないか。見栄えを気にして、美しくしようとしたりから美しくみえるのだらう。後者の方が明らかに美しくなりうる可能性は高い。

1-2-3 民家の部材幅等の寸法研究

民家の研究は、屋根形状、梁架構、家作制限、普請、等様々な視点で行われているが、最も中心となるのが間取研究である。日本全国の間取を全国的に研究したものと、吉田靖著『日本における近世民家（農家）の系統的発展』（奈良文化財研究所，1985.3）等が挙げられる。ただし、間取りを研究することにより民家の概要を把握することができたが、それ以外の研究はまだ発展途上のように思われる。

民家の寸法研究は柱間の研究が主であり、その他の寸法研究は少ない。柱間を研究したものは多数あり、各民家の報告書ではほぼ必ず柱間寸法の計画の分析が行われている。民家の平面積や桁高や棟高を研究したものと、草野和夫著『東北民家史研究』（中央公論美術出版，1991.4）などが挙げられる。

柱幅を研究したものとしては、各修理工事報告書にある。しかし、柱幅が網羅的に書かれている報告書と書かれていない報告書とがあった。重要文化財の修理工事報告書は、本研究データの一次資料の大多数を占める。ただし、柱幅の一覧が書かれている報告書と、残念ながら網羅的に書かれていない報告書とがある。柱間寸法、矩形寸法、主要部材の断面寸法については、実測調査に基づくデータを示した上で分析整理した結果を示すなどの記述法が標準化されることを望みたい。

柱幅を分析した論文としては、吉田純一「柱寸法による民家の編年に関する一考察 石川県奥能登地方の民家」『日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）』（1972. 10, pp. 1277-1278）があった。石川県奥能登地方の13棟の民家において土間部分の柱幅は年代が下るとともに細くなっていき、居住部の柱幅に近づいていく傾向が示されている。また、同氏が、吉田純一「柱寸法による近世上層民家の接客部に関する一考察 大阪平野と奈良盆地の場合」『日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）』（1973. 10, pp. 1555-1556）において、大阪平野と奈良盆地の十数棟の民家の接客部の柱幅を4.0寸前後、4.5～5.0寸前後、糸面の4.5～5.0寸前後、の三種類に分け、それらの変遷等について考察している。

緊急民家調査報告書の中のごく一部には、柱幅や指物や長押の幅の地域的傾向について考察されているものがある。例えば、宮澤智士編『越後の民家 上越編 新潟県民家緊急調査報告Ⅰ』（新潟県教育委員会，1980.3, p. 39）においては、「指物と長押」と題し、

指物はチャノマ廻りやダイドコ廻りに多く用いられるが、能生町、名立町、上越市西部の山間ではセイの高い長押を打って軸部を固めている。指物のセイを実測したが、最も高いものが51cm（1.68尺）であり、以下46.5cm, 44cmなどがあり、30～40cm（1.0～1.3尺）のものが多い。チャノマ廻りの長押もセイが高く、20cmを超えるものもあり、18cm（6寸）が標準的である。なお貫のセイは実測例は少ないがセイが高く17cmの例もしばしばみられた。

と記述されている。また、「柱の太さ」と題し

太い柱はチャノマ、ダイドコ廻りに用いられる。太いもので25cmであり、30cmをこえる例は調査対象民家にはなく、20～24cmのものが大部分を占め、平均21cmほどである。座敷周りは12～18cmで、チャノマより細くする。また、他の部分には両者の中間の太さの柱を用いるのが普通である

とあった。越後の民家中越編、下越編でも同様の分析がなされる。これらの分析で重要なのは、チャノマやダイドコが太く、座敷が細いが、「他の部分には両者の中間の太さの柱を用いるのが普通である」と指摘している点である。これは本論文における「広間」の柱幅区分であり、「柱幅の段階的調整」とも通ずる柱幅の分類の仕方である。本論文ではこの中間の柱幅の区分が広間の柱幅区分に相当する。

民家の木割については、伊藤鄭爾著『中世住宅史』（東京大学出版会，1958.5, pp. 8-11）において、「木割のある住宅」として寺社の書院をあげ、「木割のない住宅」として農家や町家をあげている。そもそも民家には木割が存在しないということなのだろうか。文化財建造物保存技術協会編『重要文化財閑家住宅主屋・書院及び表門保存修理工事報告書』（2005.10, p.50）において、閑家における部材寸法値（柱、小屋束、真束、貫、桁等）とそれらの比例関係を以下のようにまとめている。

上屋柱幅 (.46 尺) = 柱間 (6.0 尺) × 0.08

下屋柱幅 (.43 尺) = 上屋柱幅 (.46 尺) × 0.9

貫成 (.40) = 柱幅 (.46) - 0.06 尺

しかし、以上の報告書における考察は関家だけにおける比例関係であり、それが他の民家においても適用されるのかについては述べられていない。

指鴨居の成については、例えば、源愛日児著『指物（指付け技法）の変遷過程と歴史的木造加工の類型化に関する研究』（文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書，2005.3, p93-92）の内、大野敏氏が執筆担当した章において、合掌造りの民家 14 件について実測による分析をしている。この5節として、「指鴨居の断面比例と使用位置」と題し、意匠的な傾向を成巾比率から検討している。成巾比率が、古例では 1.68 と 1.4 なのに対し、18C 半ばを境に比率が 2.0 以上となる。部材長さも 2.5 間と長い。約 1 世紀の間に指鴨居の意匠が大きく変化したと結論付ける。

柱幅と指鴨居寸法を同時に研究したものとしては、上田忠司氏⁵による論考がある。指鴨居が柱に大入となるか輪雑ぎとなるかについては柱と指鴨居の寸法関係により決まるという論点の中での分析である。15 棟の民家において柱幅と指鴨居の幅・高さ・高さ/幅を列記している。柱の平均寸法は年代が下るにつれて約 4 寸に収束する傾向がみられること、高さ/幅の比率が時代が下るほど大きくなることが示されている。後者については、家格の表現における意匠的な配慮だと推測している。

以上のように、既往の寸法研究は、地域が限定されたものであった。本論文のような民家の寸法について、重要文化財に限りながらも全国的に 200 棟以上のデータ数で研究されたものはない。

1-2-4 民家と座敷の相反する空間形式

宮澤智士氏の文章を以下に引用する。

書院座敷の成立

書院造と民家は構造上どのように違っているのだろうか。その最も重要な点は、民家では梁組をはじめとする構造材がそのまま表れており、見える「化粧」の部分と見えない「野」の部分とを原則として区別していないのに対し、書院造では化粧と野とを明確に区別していることである。したがって、書院造では、たとえば二間の柱間の場合には薄い鴨居を入れ長押を打ち、これらの上の天井裏に梁を渡して、ここから鴨居を吊りもたせる構法をとる。これに対し、民家では、断面の大きな指鴨居を入れて、これを直接構造材とするのである。書院造と民家のこのような構造の違いは、当然のこととして意匠に表れる。民家の素朴な荒々しさにに対し、書院造は繊細な意匠が可能になる。構造、意匠が異なる民家に書院造をそのまますぐに取り入れることはできない。江戸時代初期の大規模民家に見られる別棟座敷の存在は、書院造の座敷を主屋内に取り込むまでの過渡的状況を示すものであった。⁶

民家の意匠および構造を的確にとらえた文章であり、本論文における論旨と重なっている。民家の本来的な、構造と化粧が「一体」となった形式に、座敷という構造と化粧が「分離」した形式がとりこまれると指摘している。この考え方は「7-4 結論」をまとめるときにも参照した考え方である。

また、モリス・マーティン氏が上層住宅と庶民住宅についての論考⁷で、上層住宅の台所が、他の建物と別棟となっていることが多く、台所の平面構成等が庶民住宅と強い類似性があることを示している。その原因としては、上層階級が下層の使用人に台所で食事の準備を任せたと関係があるだろうと考察している。民家の座敷がもともと別棟であったこともこのモリス氏の論考のように使用主体が異なるためという見方もできるかもしれない。

1-3 用語定義

1-3-1 時代

江戸前期以前…～ 1660（万治）年

江戸中期…1661（寛文）～ 1750（寛延）年

⁵ 上田忠司、麓和善「奈良県近世民家の軸組における差物仕口の変遷過程に関する研究－日本伝統民家の軸組における差物仕口に関する研究 その1－」『日本建築学会計画系論文集 第80巻 第715号』（2015.9, pp. 2091-2100）

⁶ 宮澤智士著『日本列島民家史』（住まいの図書館出版局, 1989.7, p.116）

⁷ マーティン・モリス・N「近世初期上層住宅の台所と庶民住宅」『建築史学』（1996 11, pp. 2-33）

江戸後期…1751（宝暦）～1829（文政）年

江戸末期…1830（天保）～1867（慶応）年

明治 …1868～1911年

以上は「建立年代区分表」文化庁文化財部参事官（建造物担当）編『国宝・重要文化財建造物目録』（文化庁，2009.3）を参照した。室町時代の民家は江戸前期以前の民家に含めた。

各建物の年代は、『国宝・重要文化財建造物目録』を記載の年代を優先させながらも、各修理工事報告書を適宜参照しつつ定めた。当初復原でないもの（現状維持や後世の時代に復原されたもの）は復原年代を記した。

集計や平均値などの計算には Microsoft Excel を使用した。集計の都合上、年代に幅がある建物であってもその平均値を入力して行った。例えば、江戸前期なら 1638 年、江戸中期なら 1706 年、18 世紀初期は 1710 年、18 世紀前期は 1725 年、18 世紀中期は 1750 年、18 世紀後期は 1775 年、18 世紀末期は 1790 年、とした。

1-3-2 部屋名称

①土間

屋内において三和土で仕上げられた空間、と本論文においては定義する。親しい客は大戸口から入り土間で家人が対応することも多い。土間は実用的な場所だと見られてきたが、上級の客以外が最初に訪れるところであり、土間においても意匠的な意識があるのではないかと考え分析を行っていくこととしたい。

②広間

床上部分で広く、家の中心近くにあり、土間の近くにある部屋のことを広間と呼ぶこととする。部屋の設備としては、囲炉裏があり、内法材は貫や指鴨居を見せ、天井がはられないことが多い。ただし、天井がはられ内法材に長押や薄鴨居を用いることもある。板敷が多いが、畳敷きの場合もある。使い方としては、家族のだんらんの間としてだけでなく上手の座敷を使うほどでない気のおけぬ客時の対応にも当てられた。⁸

③座敷

床等の座敷飾りを備えた畳敷の客間、と本論文においては定義する。⁹

④余剰空間

平面形状を各所で意匠的に操作することによって結果的に生じる空いた空間、と本論文においては定義する。具体的には、床裏の押入、床裏における人と物が入れない空間、変形敷地と矩形平面の居室空間に挟まれた変形平面の土間、などが該当する。詳しくは6章で詳述する。

⑤章番号

各章番号は、章、節、項の順に並んでいる。すなわち

「1-2」とは、「1章2節」のことで、

「1-3-4」とは、「1章3節4項」のことである。

⁸この用語は、他の文献には以下のように記述されている。

吉田靖著『日本における近世民家（農家）の系統的発展』（奈良文化財研究所，1985.3 pp. 66-67）において、以下が記述されていた。「ひろま、ざしき、だいどころ、おえ、ちゃのま、じょうい、いどころ、の他いろいろの呼名がある。逆にこれらの名前の部屋が全部広間というわけではない。広間は家の中央近くにある土間に面するほか他のいくつかの部屋と接し、部屋の結びつきの中心となる重要な部屋である。広間は名前のとおり床上部分では通常一番広い。床は板床、竹貫子、古い時期には土座も多く、畳敷は一般に新しい。天井は吹抜け、簀子、種々の板天井があるが梁組をあらわすものが多い。周囲の間仕切は接する部屋によって異なる。座敷との境は各種の板戸、戸襖、寝間境は壁と片引の板戸が一例であるが時代や地方によって変化に富む。土間境は開放もあれば壁や建具で仕切るのもあってこれも地方性が強いようである。外側は少なくとも一部に出入口か窓をとる。広間が表側に位置している場合は正面に格子窓を構え、これが時代的特色を示している地方もある。広間の設備としてはまづいろいろがあげられる。いろいろを欠く地方も時々あるが、そのような広間は広間らしさが稀薄となっている。」

彰国社編『建築大辞典 縮刷版』（彰国社，1976.3, p1312）において、以下が記述されていた。「近世農家の三間取平面において土間に広い室の一般称。通常は板敷で、台所・広間として使われ、しばしば炉を切る。地方によってさまざまの称がある。」

日本民族建築学会編『写真でみる民家大辞典』（柏書房，2005.4）において、以下が記述されていた。「土間近くに位置する屋内最大の居室。上手の座敷を使うほどでない気のおけぬ客時の対応にも当てられた。居間は天井がなく、梁組を見渡すことができたが、その後には根太天井を張るようになった。周囲には厚い指鴨居を廻し、他の柱よりも太い大黒柱や上屋柱がたっている。広間の正面には神棚を設え、その下に仏壇を置いている場合もある。」

⁹この用語は、他の文献には以下のように記述されている。

彰国社編『建築大辞典 縮刷版』（彰国社，1976.3, p. 576）において、以下が記述されていた。「畳敷の室は客用の室として初めに現れたので客間のようになった。民家においても同じ。」

吉田靖著『日本における近世民家（農家）の系統的発展』（奈良文化財研究所，1985.3 pp. 68-69）において、以下が記述されていた。「ざしきの他ではてい、きゃくま、がよく使われるが、他の部屋にくらべ種類が少なく、ざしきと呼ぶ所が非常に多い。座敷の床は畳敷が多い。というより畳敷が座敷である要件の一つでもある。天井は檜縁、根太、竹貫子、ときには梁組をみせ、東北、関東、四国、九州、には吹抜けもある。間仕切は壁が少なく各種の板戸、襖、明障子など建具が多い。外側を雨戸仕立にしたり、明障子を多用して部屋を明るく開放的に作り、二室以上座敷がある場合、部屋境の柱を抜き小壁を欄間にして二室を一部屋として使えるような工夫もされている。しかし他の部屋とのつながりは少なく内向きの部分から切離す傾向がある。座敷の設備では床の間、違棚、書院の書院飾があげられる。しかしこれらが全部揃わず床の間だけ、さらには装飾的な板壁だけといった場合もある。書院があっても付書院（出書院）のかわりに平書院にしたり、床の間の上にも長押を廻すなど、省略した形、正規のものからくずれた形もみられる。以上のような書院的なもののほかに長押や柱に面皮の細い材を使い天井竿縁を竹にするといった数寄屋風の座敷、仏壇を主体にした仏間的な座敷もあって、後者は民家の中で重要な位置を占める。座敷はいままでもなく改った接客、祝儀、不祝儀、仏事に使われ、名主の家では役人を迎えることもあったであろう。座敷には家族でも普段はあまり入らないような家がある一方、畳を上げて蚕室にしたり、客用の寝室などいろいろに使われ方があったと想像される。」

1-3-3 柱幅区分

① 柱幅◇区分 (◇= 1～5)

柱幅が計画的に使い分けられているとみられる区分数のこと。その区分名として、以下を用いるものとする。上屋・下屋(全体)・土間上屋(大黒柱含む)・広間・座敷上屋・土間下屋(正面含む)・座敷下屋、である。

② 上屋

下屋よりも背の高い柱と主要な梁で組まれた部分で、周囲に上屋桁がまわる領域を上屋、と本論文においては定義する。土間側と座敷側で領域と柱幅に偏りがなければこの区分とした。(偏りがある場合は土間上屋・座敷下屋に分けた)

③ 下屋

上屋の周囲にまわる半間から1間の柱幅の細い領域、と本論文においては定義する。

④ 土間上屋

上屋の中でも土間寄りの領域、と本論文においては定義する。大黒柱もこの領域の中に含まれる。座敷上屋より柱幅が太い。

⑤ 座敷上屋

上屋の中で座敷寄りの領域、と本論文においては定義する。土間上屋より柱幅が細い。

⑥ 広間

上屋の中で、土間上屋と座敷上屋の間の領域、と本論文においては定義する。土間上屋と座敷上屋の間の柱幅である。

⑦ 土間下屋

下屋の内土間側の領域、と本論文においては定義する。

⑧ 座敷下屋

下屋の内座敷側の領域、と本論文においては定義する。

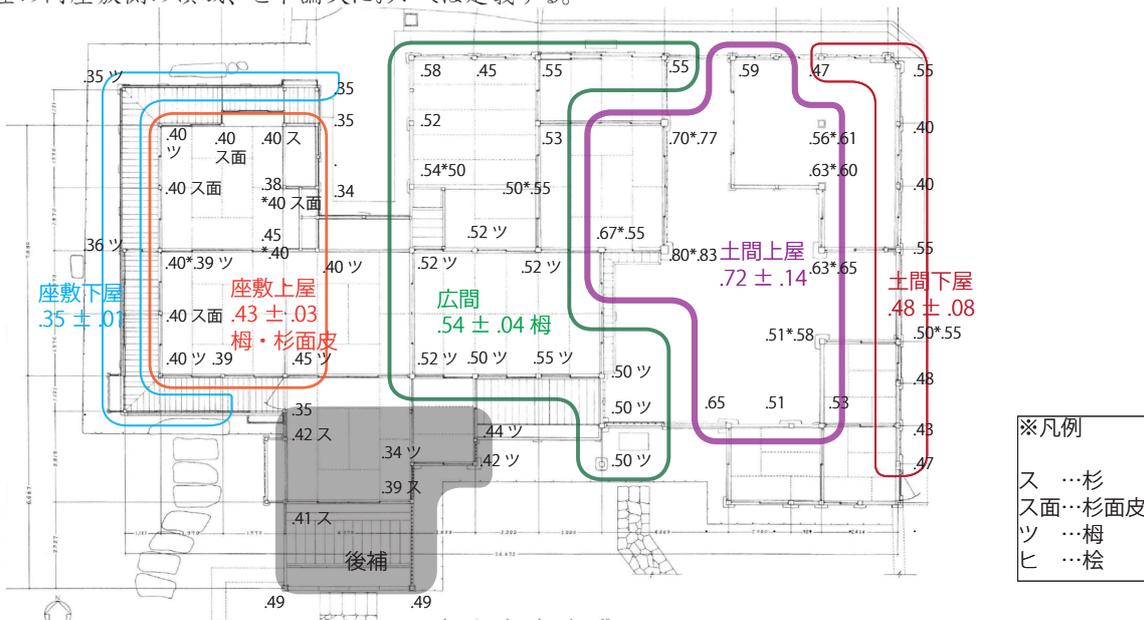


図 1-08 増田家平面図に柱幅書き込み(和歌山, 報 053 引用加筆, 宝永 3=1706)

柱幅 5 区分の基本形である土間上屋・土間下屋・広間・座敷上屋・座敷下屋の典型例。

⑨ 柱幅区分から除外したもの

大戸口脇、式台、付書院柱等においては、1～2本のみ柱幅が異なる場合がある。本数が少なすぎることで特殊であることから領域区分からは除外したが、柱幅区分数を数える時はこれらも数える場合がある。また、間柱(管柱)で、他の柱よりも細いものがあるが、それについても領域区分から除外した。

⑩ 備考

以上のように定義したが、次頁以降の実際の柱幅区分は、上記の定義通りとなっていないところもある。そのようなものは総合的に判断して最も適切な区分を選択した。これらの区分はきれいに分かれるものでなく、特に古い時代では柱幅の区分があいまいであり、必然的に本論文における柱幅区分の境界もあいまいである。また、1区分の中の柱幅のばらつきが±.20尺以上となるものもある。これはつまり.40尺の柱と.80尺の柱であっても使い分けが見られないために同じ区分にいた場合もあったということであり、このようなばらつきが大きい区分については課題を残す。おそらく、すべての柱幅を意識して計画していたのではないということであろう。したがって、柱幅区分という枠ですべて区分けしようとする、どうしてもあいまいな部分が出てしまうのではないかと。また、各平面図の柱幅区分や柱幅区分の定

義について、筆者の区分けした柱幅区分以外の区分けがあるように読者が考えられる事例もあるだろう。確かに異なる区分法も取りうると思う。本論文における区分は何種類かある区分法の中での一つの区分法にすぎない。これは、柱幅区分による分類方法の限界であろう。

時代が下って発達した民家においては柱幅区分ははっきりとしたものとなる傾向があり、柱幅のばらつきが.01尺程度のものもある。

古い時代では加工斑から柱幅にばらつきがあるが、意図的な柱幅の使い分けではないため、ばらつきがあっても一つの分類の中に入れた。柱幅が同様でも、柱材や空間性を考慮して異なる分類にいった柱がある。例えば、土間下屋柱幅が.45 ± .05尺 (= .40 ~ .50尺)で座敷下屋柱が.45 ± .05尺 (= .40 ~ .50尺)であっても、土間下屋柱が栗でチョウナ仕上、座敷下屋柱が杉でカンナ仕上であれば別区分とした。柱材が同様でもたとえば、土間と座敷の間に塀がある場合や、それらが離れた場所にある場合は、別区分とした。

この区分以上に細分化されている民家もあったが、煩雑になるのを避けるため、6区分や13区分の民家であっても「5区分以上」の節にまとめた。例えば、広間の中にも広間上屋と広間下屋の概念があると考えられる事例もあったが、それは「広間」の1区分の中に収めた。そのような特殊事例については個別に述べる。

⑩ 柱幅の段階的調整

一つの民家の中で柱幅の最大と最小が大きく異なる場合に、その間にある柱の幅を区域ごとに段階的に変化させる技法のこと、と本論文においては定義する。

1-3-4 片蓋¹⁰

壁の片側からしか見えない材を片蓋と呼ぶことにする。その材が柱ならば片蓋柱、束ならば片蓋束、指鴨居なら片蓋指鴨居、胴差なら片蓋胴差、梁なら片蓋梁とする。

① 片蓋柱

基本的に本来の断面の二つ割程度の、壁の片側にしか見えない柱、と本論文においては定義する。

その典型例は下図Aである。下図Bのように、床隅にあるような三方から壁に挟まれた柱も、壁の片側にしか見えないので片蓋柱に含める。下図Cのように、見込幅と見付幅がほぼ等しい柱でも壁の片側にしか見えない柱であれば片蓋柱と呼ぶこととする。しかし、「本来の断面の二つ割程度」であっても、建具を通すために薄くした方立柱や、大戸口脇にあり太く見せようとした五平柱は、壁の両側からみえるため、片蓋柱に含めない。

② 片蓋束

本来の断面の二つ割程度の、壁の片側にしか見えない束、と本論文においては定義する。

③ 片蓋指物

本来の断面の二つ割程度の、壁の片側にしか見えない指物、と本論文においては定義する。

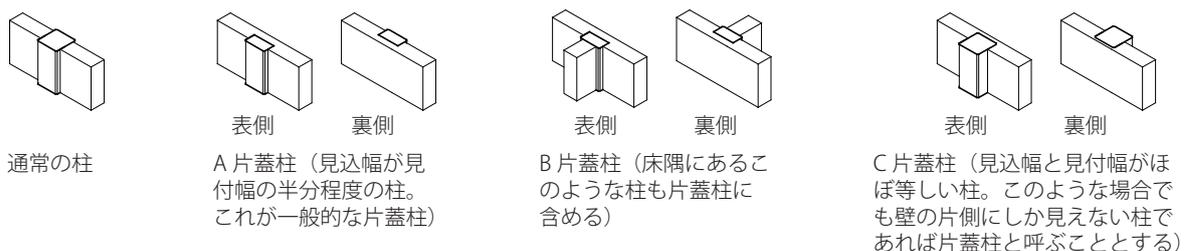


図 1-01 片蓋柱の定義

1-3-5 狐

① 狐鴨居

表と裏で形状や材質の異なる指鴨居や胴差や鴨居、と本論文においては定義する。この用語は、他の文献には以下のように記述されている。他では、表に指鴨居、裏に長押が見えるものを狐鴨居と定義しているのが一般的な

¹⁰ 片蓋に関する語彙としては以下のようなものがある

片蓋…壁に附着しある断面矩形なる柱型。片蓋柱ともいう。(日本建築辞彙)

片蓋…壁面の外に、そのも本来の断面の二つ割程度の部材を取り付け、外見的には見付き幅と同じ奥行があるように見せる手法。片蓋柱、片蓋斗、片蓋束など(建築大辞典)

片蓋柱…壁の側面に接して設けられた付け柱。通常、荷重は負担しない。木造の場合は本柱の二つ割程度のものが用いられる。(建築大辞典)

建築大辞典における「本来の断面の二つ割程度」つまりは「見込幅÷見付幅÷2」という概念は曖昧で、見込幅が見付幅の何割までだったら片蓋柱だと言えるか厳密な判断が難しい。よって、本論文においては、見込幅と見付幅の比率は問わないこととし、壁の片側から附着された材を片蓋と呼ぶこととする。壁の片側からしか見えない材である。その材が柱ならば片蓋柱、束ならば片蓋束、指鴨居なら片蓋指鴨居、胴差なら片蓋胴差、梁なら片蓋梁とする。

ので注意したい。¹¹

② 狐柱

表と裏で形状または材質の異なる柱、と本論文においては定義する。

壁の片面には指鴨居が見え、その反対面には長押が見えるものを「狐鴨居」と呼び、「狐戸」が、「板戸の表側に襖紙を張ったもの」をさす。つまり、「狐」という語が「表と裏で形状または材質の異なるもの」をさすことがある（狐鴨居の脚注参照）ことから派生させてこの「狐柱」という用語を作成した。

③ 狐束

表と裏で形状または材質の異なる束、と本論文においては定義する。

1-3-6 その他の部材・語彙

① 意匠

見栄えと関係する形状や材質のこと、と本論文においては定義する。

他の書籍「意匠」というのをどこまで含めるかはあいまいである。「意匠」に民家の構成全体を含めてとらえている研究¹²もある。しかし、本論文においては、「物品の形状・模様・色彩、またはこれらの結合であって、視覚を通じて美観を起こさせるもの」という『建築大辞典』に合致するものを言うこととする。つまりは、「見栄えと関係する形状や材質」を意匠ということとする。

② 意匠操作

見せかけの部材や特殊な部材幅計画や特殊な部材配置によって、民家の意匠を意図的にコントロールすること、と本論文においては定義する

③ 柱間束間一間指向

柱又は束同士の間隔が、1間程度（畳の長手方向一枚分程度）の間隔となるように配置する指向、と本論文において定義する。下図のように、柱間が2間飛んでいても、その中央に吊束があれば隣接する柱または束の間隔は1間であり、柱間・束間が1間だとみなす。詳しくは2章の「座敷における均一な柱間・束間」で述べる。

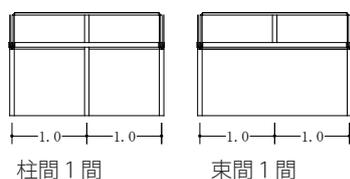


図 1-02 柱間1間・束間1間とみなすもの

④ 大黒柱

民家において平面の中央付近、特に土間と表と勝手関係の境目にある太い柱（建築大辞典参照）、と本論文においては定義する。

この「太い」というのをどの程度のもので定義づけるのは困難であるが、柱幅計画上他の柱幅と比べて太く計画されていると考えられるものを大黒柱とする。『建築大辞典』においては「民家において平面の中央付近、特に土間と表と勝手関係の境目にある太い柱を言う」と記載されていた

⑤ 五平柱

長方形断面の柱のこと、と本論文においては定義する。詳しくは3章の五平柱の節で説明するが、柱断面の長辺と短辺の比が、1より大きく1.2未満ならば加工斑による五平柱とし、1.2以上ならば意匠的を持った五平柱だとして分析を行う¹³。1.2で区切ったのは、1.2以上の五平柱には、長辺が見付方向となっているものが多いためである。

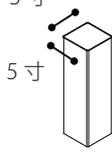
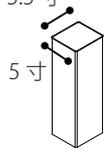
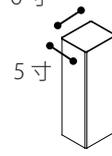
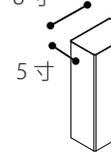
¹¹ 日本建築学会民家語彙集録部会編『日本民家語彙集解』（紀伊國屋書店、1985.10. p. 228）において、以下が記述されていた。
「キツネガモイ（狐鴨居）…片面だけに鴨居をつくり出した差し鴨居を指す呼称。これに付ける内法長押も別に取り付けたものと、この鴨居につく
だしたものとがある。座敷と次の間との境に使用されることが多い」
日本建築学会民家語彙集録部会編『日本民家語彙集解』（紀伊國屋書店、1985.10. p. 229）において、以下が記述されていた。
「キツネザシ（狐差し）…大阪府南河内郡地方の民家において片面だけに鴨居を作り出して、普通の鴨居のように見せかけた差し鴨居をさす呼
称⇒キツネガモイ」
日本建築学会民家語彙集録部会編『日本民家語彙集解』（紀伊國屋書店、1985.10. p. 229）において、以下が記述されていた。
「キツネド（狐戸）…板戸の表側に襖紙を張ったものをさす呼称。いわゆる戸襖のこと。」

¹² 鈴木充著『日本の美術 37 民家』（小学館、1975.3）では民家の意匠と題して民家の間取、部屋の使い方、座敷飾りなど民家の構成全体を述べている

¹³ この用語は、他の文献には以下のように記述されている。

五平…長方形断面の材。またこの材を扁平に使うとき「五平に使う」もしくは単に「平に使う」という（建築大辞典）

表 1-01 五平柱の断面比率による分類

本論文における名称	通常の柱 or 角柱	五平柱 (加工斑によるもの)	五平柱 (意匠的意図をもったもの)	
長辺÷短辺	1 程度	1 より大きく 1.2 未満	1.2 以上	
例	5 寸 	5.5 寸 5 寸 	6 寸 5 寸 	8 寸 5 寸 
例の長辺÷短辺	1	1.1	1.2	1.6

⑥ 指物

指鴨居、胴差、マグサのこと、と本論文においては定義する。

⑦ 胴差

木構造の軸組において通し柱では 2 階以上の床の位置で柱を相互につなぎ、管柱では下階の柱の上端を相互につないでいる横架材。『建築大辞典』の定義をそのまま使用する。

⑧ 垂直材

柱や束など垂直方向の材、と本論文においては定義する。

⑨ 水平材

長押・指鴨居・薄鴨居・貫・梁等の水平方向の材、と本論文においては定義する。

⑩ 塗籠貫

壁の中に塗り込められて外に見えない貫である。

⑪ 片面貫

片面貫は、壁真と貫真がずれて貫が外に見える貫である。これは、貫が柱真からずれて壁が柱真にある場合 (B) と、逆に貫が柱真にあり壁が柱真からずれている場合 (C) の二種類がある。片面貫は片面にしか見えないという意味においては、片蓋の材と同様の意匠的性質をもつ場合がある。

⑫ 両面貫

両面貫は、壁の両側に見える貫である。これは、壁厚が薄いため貫が壁の両側に見える場合 (D) と壁の両側に二枚の貫を配した (E) 場合の、二種類がある。

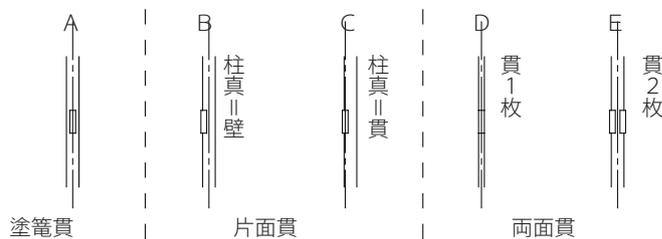


図 1-03 貫の納まり詳細断面図 (筆者作成)

1-3-7 図表の読み方・数値等

①「◇家(都道府県名, 報告書番号, 年代)」

図版のキャプションや本文中に「◇家(都道府県名, 報告書番号, 年代)」と書いている。例えば、「関家(神奈川県, 報 240 引用加筆, 17C 前)」とは、「関家住宅は、神奈川県に所在し、報 240 の報告書から図面や寸法を引用し、年代は 17 世紀前期」という意味である。各建物の年代は当初復原でない場合は復原年代を記した。

② 割合

各時代、各地域における該当割合を指す。例えば、母数が 35 棟である東北において、ある意匠技法に該当する民家が 7 棟であれば、 $7 \text{ 棟} \div 35 \text{ 棟} = 0.20$ なので、0.20 の割合となる。全国的な該当数であれば、例えば 143 棟が該当すれば、全国の 230 棟の母数で割り、0.62 の割合となる。

③ 割合や平均値の傾向の表現基準

各割合や平均が多いのか少ないのかについても一定の基準が必要だと考えた。 α を「各該当割合及び各平均値 ÷ 全国平均」とする。 α は 2 ~ 5 章に述べる各時代各地域における数値から定めた。本論文では、 α に応じて、仮に以下のように表現することとした。

- $\alpha = 0 \sim 0.6$ …非常に低い（非常に小さい、非常に少ない）
- $\alpha = 0.6 \sim 0.8$ …低い（小さい、少ない）
- $\alpha = 0.8 \sim 0.95$ …若干低い（若干小さい、若干少ない）
- $\alpha = 1.05 \sim 1.2$ …若干高い（若干大きい、若干多い）
- $\alpha = 1.2 \sim 1.5$ …高い（大きい、多い）
- $\alpha = 1.5 \sim$ …非常に高い（非常に大きい、非常に多い）

以上の数値に決めた理由について記す。βを「該当項目数÷全数」とする。βはαの値の0.05刻みで該当項目数を数えた。例えばαの値が0.95～1.00となるものは、223項目該当し、全項目数が1905なので、該当項目数223÷全項目数1905÷0.117=βとなる。αとβのグラフは下図となり、αが0.8～1.2となる範囲のβの合計が約0.5(50%)、0.6～1.5となる範囲のβの合計が約0.8(80%)である。下図の濃い灰色の部分の半分近くが該当するので、「若干」低いまたは高いととらえられる。薄い灰色の部分は上位1割と下位1割しか該当しないので、「非常に」低いまたは高いととらえられる。よって、αの値に応じて以上のような表現とすることにした。

全国平均で割った割合なので、各時代で「多い」または「少ない」のではなく、全国平均と比べて「多い」または「少ない」のだということに注意されたい。すべての数値について言及しているのではなく、割合や平均値が標準的だったものや、特筆する傾向が読み取れなかったものについては、本文中で言及していない。

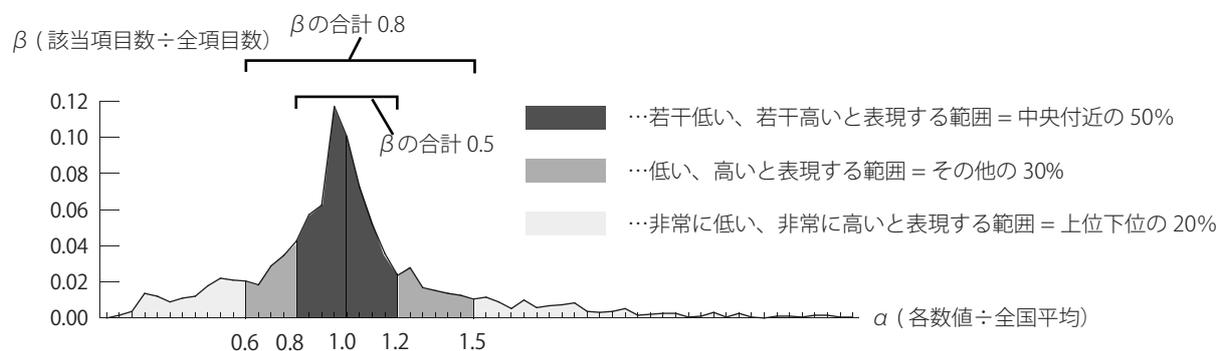


図 1-04 αとβのグラフ

④ 表の塗りつぶしなどの表現

③の傾向が視覚的にわかりやすくなるように、全国平均を基準として、1.2倍以上の高い割合を示すもの（③で「低い」と「非常に低い」に該当するもの）を太字とし、0.8倍以下の低い割合を示すもの（③で「多い」「非常に多い」に該当するもの）を灰色で塗りつぶし、一見してどれが全国平均と比べて低い数字でどれが全国平均と比べて高い数値なのかかわかるようにした。しかし、該当数が数棟しかないものは誤差が大きいと思われるので、1.2倍以上や0.8倍以下であっても誤解を避けるために太字や灰色塗しなかったものもある。

特記ない限り以上のように表現したが、各時代各地域ごとの割合の差が微小な場合は1.05倍を太字として0.95倍以下を灰色塗したものがある。その場合はそのように表記した。

表 1-02 表の表現例（全国平均×1.05以上→太字、全国平均×0.95以下→灰色塗）

	全国	時代ごと					地域ごと								
		江戸前	江戸中	江戸後	江戸末	明治	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州
母数(棟)	230	13	86	86	36	9	35	38	22	18	25	48	25	15	22
2区分 該当数(棟)	53	7	25	17	4	0	5	3	7	5	1	16	4	8	4
割合	0.23	0.54	0.29	0.20	0.11	0.00	0.14	0.11	0.32	0.28	0.06	0.33	0.16	0.53	0.18
2A型 該当数(棟)	26	3	15	6	2	0	2	0	5	4	1	5	0	5	4
割合	0.11	0.23	0.17	0.07	0.06	0.00	0.06	0.00	0.23	0.22	0.06	0.10	0.00	0.33	0.18
2B型 該当数(棟)	28	4	10	11	2	1	4	3	2	1	0	11	4	3	0
割合	0.12	0.31	0.12	0.13	0.06	0.11	0.11	0.11	0.09	0.06	0.00	0.23	0.16	0.20	0.00

⑤ 図の凡例

図面は基本的に修理工事報告書から引用し、下のような記号と寸法（筆者実測値または報告書記載値）を書き込んだ。

	…指物 (指鴨居・胴差・マグサ)	.54*.60	…紙面に向かって横方向の柱幅が .54 尺で紙面に向かって縦方向の柱幅が .60 尺ということ
	…長押		
	…薄鴨居		
	…貫		
	…束		

※数字は材成を示す (単位尺)

図 1-05 図の凡例

⑥ 表内の「無」

表内に「無」とあるのは、研究対象民家がないということである。

⑦ 相関係数

x と y の 2 つの変数において、各変数を x_i と y_i として、 X を x の平均値、 Y を y の平均値とする時、相関係数 $R = [\sum (x_i - X)(y_i - Y)] \div [\{ \sqrt{\sum (x_i - X)^2} \} \{ \sqrt{\sum (y_i - Y)^2} \}]$ と表せる。

相関係数 R は、

0 ～ 0.2 のとき相関関係がなく

0.2 ～ 0.4 のとき弱い相関があり

0.4 ～ 0.7 のとき相関があり

0.7 以上の時強い相関がある

とされる。

⑧ 寸法の精度

柱幅や指鴨居成や長押成等は、報告書に寸法が明示されている場合とされていない場合がある。その場合には図面から測定するか実測に赴かなければならないが、それらには当然ながら誤差がある。今までの測定結果のずれから判断して、

筆者実測値と報告書記載値とは ± 0.05 尺程のずれ

筆者実測値と図面測定値とは ± 0.10 尺程のずれ

があることが分かっている。報告書記載値のずれは、「計画値」に置き換えてしまっているだろうものや測定誤差のために ± 0.05 尺のずれが生じているものがほとんどだった。しかし、一部には測定ミスとしか考えられない大きな差がある場合があった。報告書記載値は、大方信用できるが必ずしも正確とは限らない。

図面測定値は、手書きの図面（保存図）であることによる不正確さと線の太さによる不正確さがあり、筆者実測値とは ± 0.10 尺ほどの大きなずれがあった。図面測定は指鴨居や大黒柱等大きな部材にしか使用していない。長押などの細い部材で図面測定すると 0.10 尺異なるだけで .40 尺の成のものが .30 尺になったり .50 尺になったりと大きなずれが出てしまうからだ。

ところで、報告書が執筆機関によって大きく質が異なっていた。柱幅等の部材幅については、奈良県の報告書では網羅的に示されている場合がほとんどだが、京都府のものでは柱幅の代表寸法が記されるだけで全ての柱幅を記載した報告書は無かった。他都道府県のは、全ての柱幅が明示されているものといえないものがあった。

⑨ 中間値

最大値と最小値の中間の値のことを本論文では中間値と呼ぶことにする。式で表せば、「中間値 = (最大値 + 最小値) ÷ 2」である。一つの民家の柱幅の平均をとるためにはすべての柱幅とその数を調べなければならないが、膨大な労力が必要である。最大値と最小値ならば個人の研究の範囲でまとめることができるためこの中間値を平均値に代用する。中間値は、柱幅が太いものから細いものまで均一に分布している場合は平均値と近い値が導き出せる。例えば、例えば、3本が .60 尺で 3本が .40 尺ならば、平均値も中間値も .50 尺である。しかし、1本だけ 1.00 尺幅の柱があり、他の 6本は .40 尺の場合、平均値は .425 尺だが、中間値は .70 尺と大きく異なってしまう。このような誤差があるということをあらかじめ断っておきたい。統計学的には、「中間値」は「有限個のデータを小さい順に並べたとき中央に位置する値」のことを差し、「中央値」と呼ばれることが多い。この定義と本論文における定義は異なる。

1-4 研究対象民家について

1-4-1 母数

前述の通り、本論文は部材幅や見せかけ材を分析することによって、民家の意匠的意図を明らかにするものである。その分析のためには、平面図断面図立面図等の図面はもちろんのこと、部材幅が網羅的に記録された書籍が必要であった。それに合致するのは重要文化財民家の修理工事報告書だけである。重要文化財以外の文化財民家の報告書では、部材幅や詳細図などの本論文で使用するデータが不足しているものが多い。各都道府県において行われた緊急民家調査報告書は、平面がのっているものの断面図や立面図がごく一部しかなく、部材幅の一部にふれたものならあるが、一つの民家のすべての柱幅等を網羅的に記録したものはない。よって、研究対象としては、修理工事報告書が発刊された重要文化財民家に絞ることとした。修理工事報告書が発刊された民家は260棟ほど確認されたが、部材幅などの記述が十分でない、もしくは復元年代および時代的変遷が明確でないなどした民家30棟ほどを除外し、227棟を研究対象とした。明治以降の民家の修理工事報告書はあまり発刊されていないため、近世の民家を中心としている。

これ以上多くの民家を研究することは資料の制約上難しいが、各時代・各地域¹⁴でみると、母数が少なく、正確なデータがとれているとは言い難い地域や時代もある。古い民家がよく残る地域と新しい民家がよく残る地域があるため、地域ごとに平均をとっても、地域的傾向でなく、時代的傾向が反映されてしまっている可能性がある。そのような、資料の制約による不正確さがあることについてここであらかじめ指摘しておく。例えば、下の「表1-03 各母数」において、全時代の行を見ると時代的には江戸中期と後期が最も多いが江戸前期、末期、明治期は少ない。地域ごとには、近畿が最も多いが、四国、九州は少ない。各時代ごとの平均値や各地域ごとの平均値も注意しなければならない。例えば江戸前期は近畿が非常に多いため、江戸前期の平均値等は近畿の傾向が強く反映されている。東海地域は江戸中期の民家が多いため、東海の平均値等は江戸中期の民家の傾向が強く反映されている可能性がある。各地域の時代ごとの分布（近畿の江戸中期等）についてはさらに注意しないとイケない。各地域を時代ごとに細分化したため、江戸前期や明治期において母数が10棟以下の少ないものがあるのだ。例えば東海の江戸前期は1棟しかないため、東海の江戸前期の平均値等は誤差が大きい。各地域の時代ごとの平均等については、江戸前期と明治期は参考程度としてあまり考慮しないようにしたい。

表1-03 各母数

(単位は棟。灰色は母数が2棟以下で母数が非常に少ないため注意されたい。各地域の定義は1-4-2を参照)

	全国	地域ごと										立地ごと			海岸内訳	
		東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	海岸	平地	山地	北前	他	
全時代	227	33	28	22	18	17	47	25	15	22	58	94	75	32	26	
江戸前	13	0	2	0	1	0	8	2	0	0	1	7	3	1	0	
江戸中	86	10	14	9	12	6	21	6	6	2	15	40	31	4	11	
江戸後	85	17	8	10	4	8	12	13	4	9	28	30	27	19	9	
江戸末	35	4	3	3	1	2	5	4	3	10	11	11	13	7	4	
明治	8	2	1	0	0	1	1	0	2	1	3	4	1	1	2	

また、重要文化財民家の修理工事報告書であっても柱幅等の部材幅記述が不十分な民家や現地で確認すべきと判断した特徴的な意匠操作を持つ民家があった。そのような民家については筆者が実測に赴いた。実測を行った民家は60棟である。実測した民家は020ページの「表1-08 研究対象民家一覧」の「測定」列のA部分であり、その調査日程については巻末の「調査日程」を参照されたい。

ところで、農家、町家、中下級武家住宅、揚屋建築、本陣、脇本陣、旅籠も「民家」に含めた。本研究において重要なのは、太い材を使用する土間と、細い材を使用する座敷の構成の間においてよく使用される意匠操作に関するものなので、土間と座敷を有する住宅を研究対象として優先している。本研究対象の母数の内の大部分が農家である。町家は、農家と構成が異なるものもあるが、新潟の渡辺家のように農家との区別がつかないものも多いため、民家に含めた。中級下級の武家住宅はほとんど農家と規模において大差なく、土間と座敷を有する。揚屋建築も、農家と同じく土間と座敷をもちそれらの間で意匠操作がある。本陣、脇本陣、旅籠は農家や町屋と同様の構成のものが多い。以上のものを「民家」に含めた。

¹⁴ 各地域の定義は1-4-2を参照

1-4-2 地域区分

本論文における地域区分は総務省統計局のもの（表 1-04）を基本的に採用しているが一部差異がある。3棟しかない北海道を30棟の東北地域に含めたこと、「南関東」を「関東」、「北関東・甲信」を「甲信」と便宜上表現することである。北海道は松前藩の民家が2棟と北海道南部の民家1棟であり、東北地域の延長ととらえられる。

表 1-04 地域区分

本論文の定義			総務省の定義		
地域区分	都道府県	棟数	地域区分	都道府県	棟数
東北	北海道、	33	北海道	北海道	3
	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島		東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	30
甲信	茨城、栃木、群馬、山梨、長野	25	北関東・甲信	同左	同左
北陸	新潟、富山、石川、福井	22	同左	同左	同左
東海	岐阜、静岡、愛知、三重	18	同左	同左	同左
関東	埼玉、千葉、東京、神奈川	17	南関東	同左	同左
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	47	同左	同左	同左
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	23	同左	同左	同左
四国	徳島、香川、愛媛、高知	16	同左	同左	同左
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	22	同左	同左	同左

表 1-07 各都道府県毎の対象民家数（棟）

北海道	3	滋賀	3
青森	3	京都	7
岩手	9	近畿	大阪 10
東北	宮城 4	兵庫 4	
秋田	7	奈良 17	
山形	3	和歌山 6	
福島	4	鳥取 2	
茨城	4	島根 4	
栃木	5	中国	岡山 5
甲信	群馬 6	広島 6	
山梨	5	山口 6	
長野	5	徳島 5	
埼玉	7	四国	香川 2
千葉	4	愛媛 6	
関東	東京 2	高知 3	
神奈川	4	福岡 4	
新潟	5	佐賀 5	
北陸	富山 6	長崎 1	
石川	5	九州	熊本 2
福井	6	大分 4	
岐阜	10	宮崎 2	
静岡	4	鹿児島 2	
東海	愛知 3	沖縄 2	
三重	1		



図 1-09 地域区分地図

1-4-3 立地区分

本論文で研究する意匠技法は、海沿と平地と山地と異なる傾向を示す印象をもった。それを検証するため、仮に海岸沿と平地と山地の三種に分類する。筆者が前章までの様々な技法を分析する中で、立地ごとに民家の性質が大きく異なることを感じた。例えば、内陸部では構造優先で意匠技法が少ない民家が多いが、海岸沿い、特に北前船航路沿では意匠技法が大変多いという印象をもった。その原因はなぜなのだろうか。中央指向という言葉だけでは民家の意匠操作を語れないであろう。民家の立地という視点からこれまで述べた技法をまとめ、立地に着目して分析を行う。そのために、各民家の立地ごとに、海岸沿（海岸と略）、平地、山地の三種に区分する。さらに、海岸沿の中で北前船航路沿（北前と略）の民家とそれ以外の海岸沿の民家（他と略）に区分する。各区分は1章に詳述した。

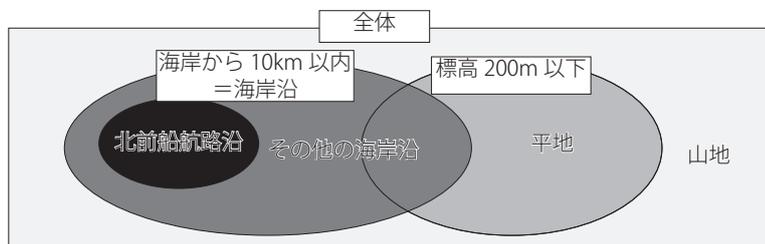


図 1-10 立地区分概念図

① 海岸沿（海岸と略す）

海岸から水平距離 10km 未満¹⁵の地域

② 平地

海岸から水平距離 10km 以上で標高 200m 未満¹⁶の地域

③ 山地

標高 200m 以上の地域

海岸沿の地域をさらに、以下の二種に区分する

・ 北前船航路沿

海岸沿の内、下図の北前船航路沿の民家

・ 北前船航路沿以外の海岸沿

海岸沿の内、下図の北前船航路沿以外の民家

15 金森敦子著『江戸庶民の旅：旅のかたち・間所と女』（平凡社、2002）において、旅行記などから、旅での1日の移動距離は成人男性は9～10里（約35～39km）で女性は6～8里（約23～31km）ほどであったことがわかっている。1日に5里（約20km）までならほとんどの人が歩けると仮定し、その半分が10kmである。よって、10km未満であればほとんどの人が宿泊することなく1日で往復できるため、人の交流圏内だと考えた。

16 気象庁の定義では、平地を「平野（起伏の極めて少ない地帯）と大きな盆地」、山地を「山の多いところ」と定義していて、標高に関する明確な定義がないが、筆者が便宜的に200mの標高で区切った。一般の日本全体の地形図（日本気候図など）でも、標高を200mごとに区切っており、最小の区分が標高200mであった。標高200m未満に該当する民家は76棟と若干少ないが十分な数なので、この区分とした。



図 1-11 立地区分地図

1-4-4 積雪量

各積雪量は、気象庁編『日本気候図 1990年版』（大蔵省印刷局，1993.8）内の、「寒候期最深積雪量」を元に作図した。江戸期のものでなく1990年のデータであることに注意されたい。元図では、積雪量ごとに細かく10種類に色分けがなされていたが、本論文では分析の都合上、最深積雪量ごとに大きく3種に分けた。

0.5～2.0mを表では「多」、文章中では「積雪量が多い」と、

0.01～0.5mを表では「少」、文章中では「少ない」と、

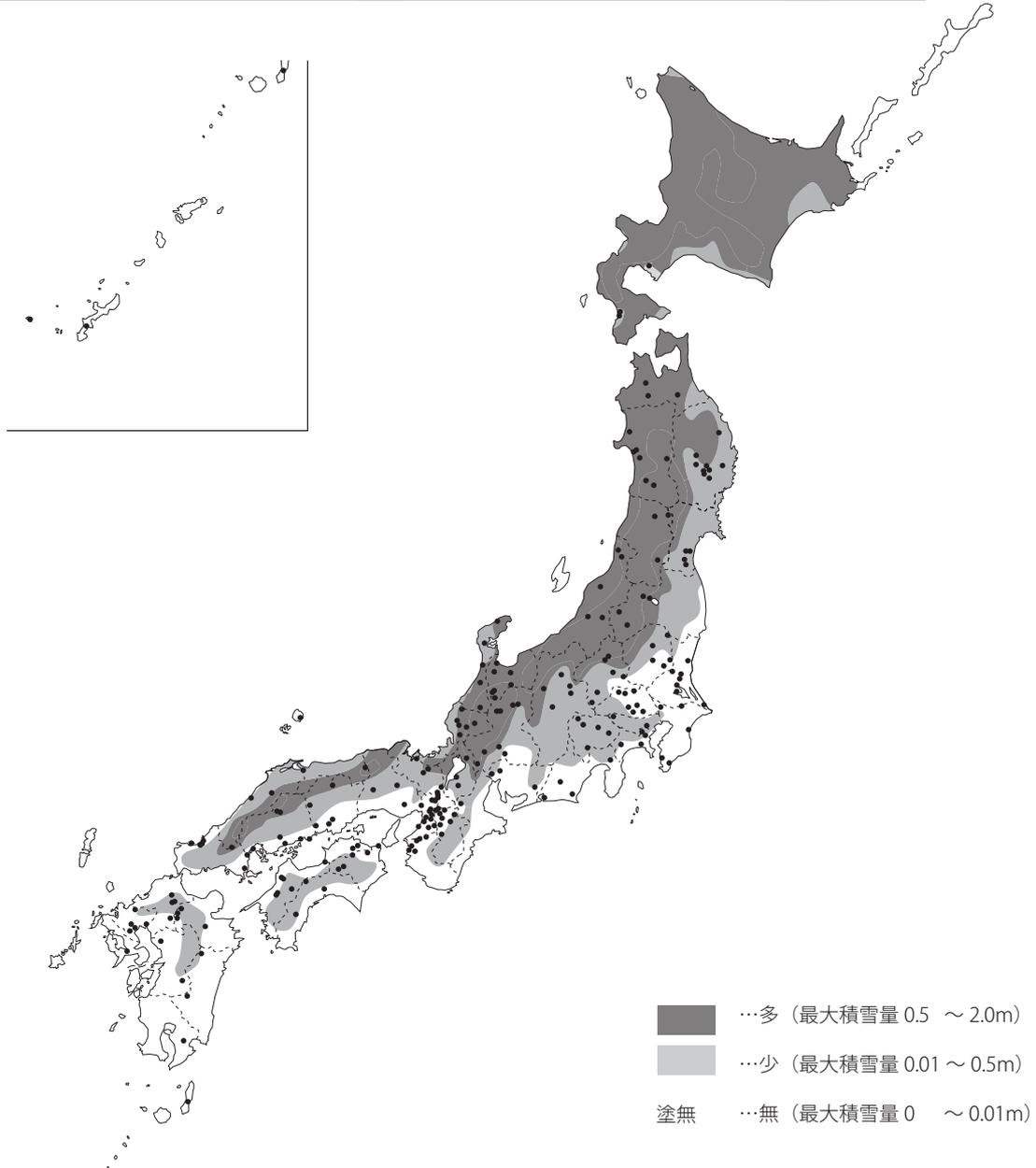
0～0.01mを表では「無」、文章中では「ほとんど無い」と表現することにする。

下表のように、東北、北陸、北前船航路沿では積雪量が多いものの割合が高い。逆に、東海、近畿、四国、九州では積雪量が少ないか全くないものの割合が高い。

2章以降の分析においては、積雪量と関連が認められたもののみ積雪量ごとの内訳を掲載した。

表 1-05 積雪量内訳 (0.5以上→太字、0.2以下→灰色塗)

	全国 平均	地域ごと										立地ごと			海岸内訳	
		東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	海	平	山	北前	他	
全数	227	33	28	22	18	17	47	25	15	22	58	94	75	32	26	
積雪量 多	該当数	65	20	8	21	1	7	2	6	0	0	13	14	38	13	0
	該当割合	0.29	0.61	0.29	0.95	0.06	0.41	0.04	0.24	0.00	0.00	0.22	0.15	0.51	0.41	0.00
少	該当数	58	13	10	1	4	6	4	5	8	7	11	16	31	6	5
	該当割合	0.26	0.39	0.36	0.05	0.22	0.35	0.09	0.20	0.53	0.32	0.19	0.17	0.41	0.19	0.19
無	該当数	104	0	10	0	13	4	41	14	7	15	34	64	6	13	21
	該当割合	0.46	0.00	0.36	0.00	0.72	0.24	0.87	0.56	0.47	0.68	0.59	0.68	0.08	0.41	0.81



1-4-5 降水量

各降水量は、気象庁編『日本気候図 1990 年版』（大蔵省印刷局，1993.8）内の、「年降水量」を元に作図した。江戸期のものでなく1990年のデータであることに注意されたい。元図では、年間降水量ごとに細かく11種類に色分けがなされていたが、本論文では分析の都合上、年間降水量ごとに大きく3種に分けた。

2.4～3.2mを表では「多」、文章中では「降水量が多い」と、

1.6～2.4mを表では「中」、文章中では「降水量が標準的」と、

0.8～1.6mを表では「少」、文章中では「降水量が少ない」と表現することにする。

降水量ごとの母数は、下表のように、東北、甲信、関東、近畿では降水量の少ないものが多く、逆に、北陸、東海、では降水量の多いものが多い。

2章以降では降水量との明確な関係が分かったもののみ降水量ごとの表を掲載することにする。

表 1-06 降水量内訳 (0.5以上→太字、0.2以下→灰色塗)

	全国 平均	地域ごと										立地ごと			海岸内訳	
		東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	海	平	山	北前	他	
全数	227	33	28	22	18	17	47	25	15	22	58	94	75	32	26	
降 水 量	多 該当数	23	0	0	12	0	6	0	0	2	3	7	2	14	4	3
	該当割合	0.10	0.00	0.00	0.55	0.00	0.35	0.00	0.00	0.13	0.14	0.12	0.02	0.19	0.13	0.12
中	該当数	85	9	1	10	4	10	9	17	6	19	31	24	30	19	12
	該当割合	0.37	0.27	0.04	0.45	0.22	0.59	0.19	0.68	0.40	0.86	0.53	0.26	0.40	0.59	0.46
少	該当数	119	24	27	0	14	1	38	8	7	0	20	68	31	9	11
	該当割合	0.52	0.73	0.96	0.00	0.78	0.06	0.81	0.32	0.47	0.00	0.34	0.72	0.41	0.28	0.42

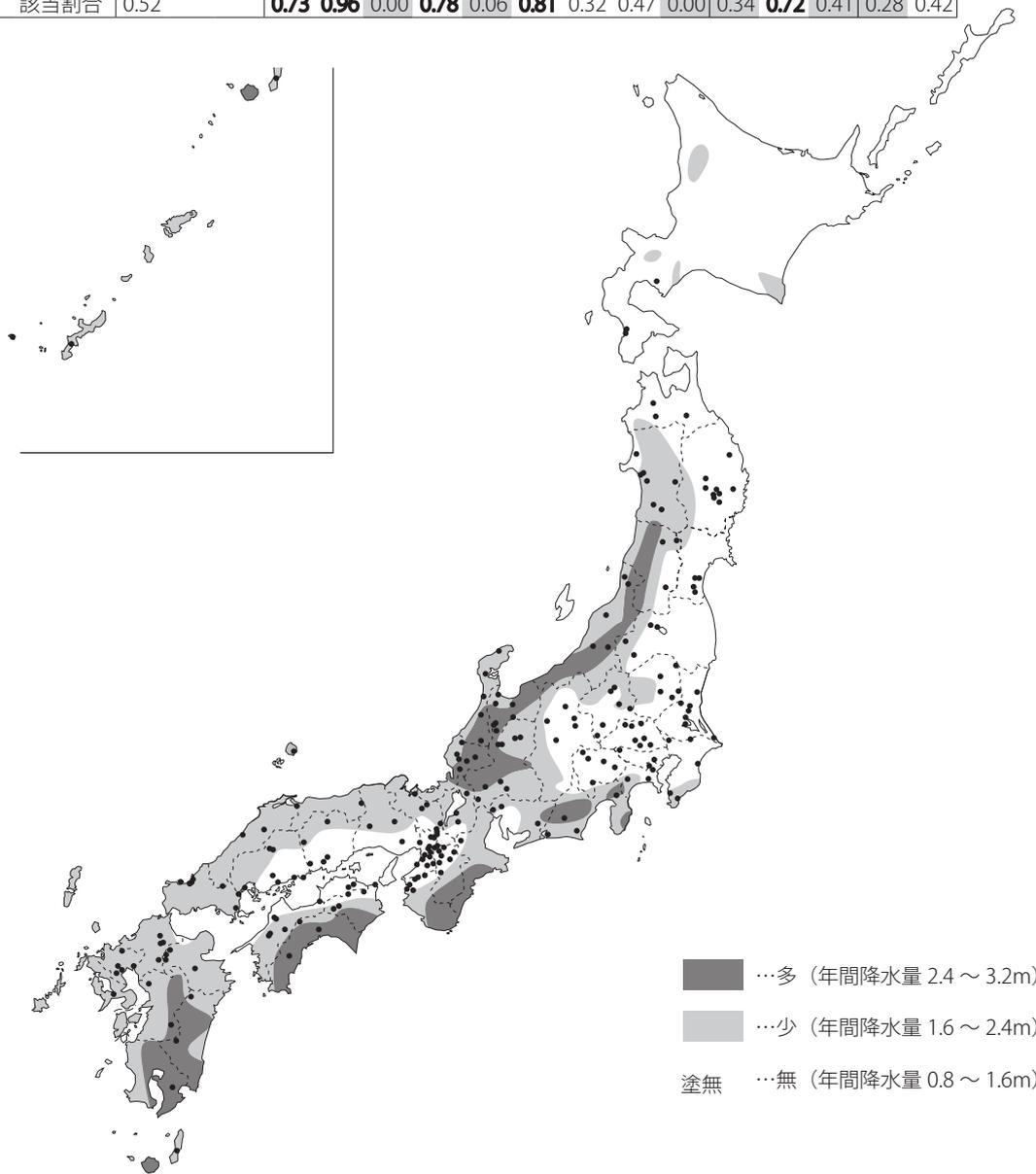


図 1-13 年間降水量

表 1-08 研究対象民家一覽

A…筆者が実測したもの B…修理工事報告書で大半の柱幅の記載があるもの C…修理工事報告書で柱幅の代表値のみ記載があるもの
 D…修理工事報告書で柱幅の記載がなく、図面から計測したもの

地域	県名	名	年代区分	年代	立地	北前	積雪	降水	測定	
東北	秋田	土田	江戸中	17 C後	平		多	中	D	
	秋田	鈴木		17 C末	山		多	中	D	
	福島	横山		江戸中	平		多	少	D	
	福島	馬場		江戸中	山		多	少	B	
	山形	有路		江戸中	山		多	中	B	
	山形	尾形		江戸中	山		多	少	B	
	福島	五十嵐		享保 3	山		多	中	D	
	岩手	後藤		元禄~宝永	山		少	少	D	
	岩手	菅野		享保 13	山		少	少	D	
	福島	旧五十嵐		享保 14	山		多	少	B	
	岩手	小原	江戸後	18 C中	山		少	少	D	
	岩手	菊池		18 C中	山		少	少	D	
	宮城	我妻		宝暦 3	平		少	少	A	
	秋田	奈良		宝暦頃	海	北前	多	中	A	
	宮城	洞口		宝暦頃	海	他	少	少	B	
	岩手	工藤		宝暦 9	平		少	少	D	
	青森	平山		明和 6	山		多	少	A	
	岩手	伊藤		18 C後	山		少	少	B	
	青森	石場		18 C前	山		多	少	A	
	青森	笠石		18 C後	山		多	少	D	
	宮城	佐藤	18 C後	平		少	少	C		
	山形	矢作	江戸後	平		多	中	D		
	岩手	佐々木	江戸後	山		多	少	D		
	宮城	中澤	江戸後	海	他	少	少	B		
	秋田	嵯峨	19 C前	海	北前	多	中	A		
	岩手	藤野	19 C前	山		少	少	D		
	北海道	笹浪	19 C前	海	北前	少	少	A		
	秋田	草薨	江戸末	天保頃	山		多	中	B	
	秋田	大山		19 C中	海	北前	多	少	D	
	秋田	三浦		文久元	海	北前	多	中	B	
	岩手	中村		文久元	平		多	少	A	
	北海道	三戸部		明治 20頃	平		多	少	C	
北海道	中村	明治 22頃		海	北前	少	少	A		
甲信	群馬	彦部		江戸前	17 C前	平		無	少	C
	長野	曾根原			17 C中	山		多	少	B
	茨木	椎名			延宝 2	平		無	少	B
	山梨	平田			17 C後	山		多	少	B
	茨木	中崎	元禄元		平		無	少	C	
	長野	春原	17 C末		山		少	少	B	
	山梨	門西	江戸中		17 C末	山		多	少	B
	茨城	山本			江戸中	平		無	少	B
	茨城	羽生			江戸中	平		無	少	C
	群馬	生方			江戸中	山		多	少	C
	群馬	戸部		江戸中	山		多	少	D	
	群馬	茂木		江戸中	山		少	少	D	
	群馬	阿久沢		江戸中	山		少	中	D	
	茨木	飛田		江戸中	海	他	無	少	B	
	栃木	三森		享保 18	山		少	少	B	
	茨城	太田		18C中	平		無	少	B	
	長野	真山	江戸後	明和 3	山		少	少	D	
	茨城	塙		18 C後	平		無	少	C	
	栃木	羽石		18 C後	平		無	少	B	
	栃木	荒井		18 C後	平		少	少	A	
	山梨	高野		江戸後	山		多	少	A	
	栃木	岡本		江戸後	平		無	少	A	
	長野	横田		寛政 6	山		少	少	B	
	山梨	八代		文化 5	山		多	少	A	
	栃木	入野		天保 12	平		少	少	B	
	長野	小野		江戸末	江戸末	山		少	少	B
	山梨	星野	嘉永 2-4		山		多	少	A	
	群馬	黒澤	明治		江戸末	山		少	少	C

地域	県名	名	年代区分	年代	立地	北前	積雪	降水	測定		
北陸	福井	坪川	江戸中	17 C末	山		多	中	A		
	福井	瓜生		元禄 12	平		多	中	A		
	富山	羽馬		江戸中	山		多	多	C		
	福井	堀口		18 C初	山		多	多	A		
	石川	座主		18 C初	海	北前	少	中	D		
	富山	江向		18 C初	山		多	多	D		
	福井	橋本		18 C初	山		多	多	B		
	新潟	長谷川		享保元	平		多	多	A		
	新潟	佐藤		元文 3	山		多	多	D		
	石川	時国		江戸後	宝暦 6	海	北前	多	中	A	
	富山	佐伯	明和 4		平		多	中	A		
	新潟	若林	明和 6		海	北前	多	中	C		
	富山	武田	寛政 3		海	北前	多	中	A		
	富山	嶋	18 C末		山		多	多	D		
	福井	谷口	文化 6		平		多	中	A		
	石川	喜多	江戸末		19 C初	海	北前	多	中	A	
	新潟	渡辺			文化 14	海	北前	多	多	A	
	新潟	笹川			文政 9	海	北前	多	中	A	
	富山	浮田			文政 11	海	北前	多	多	A	
	石川	小倉		江戸末	山		多	多	B		
石川	松下	19 C中		海	北前	多	多	B			
福井	石倉	慶応		海	北前	多	多	A			
神奈川	関	江戸前		17 C前	平		少	少	B		
千葉	花野井			17 C後	平		無	少	C		
千葉	作田			17 C後	海	他	無	少	A		
神奈川	石井		17 C後	海	他	無	少	D			
神奈川	北村		貞享 4	山		無	中	B			
埼玉	高橋		17 C末	平		無	少	C			
埼玉	高麗		17 C末	平		無	少	D			
埼玉	小野		18 C初	平		無	少	C			
神奈川	伊藤		18 C初	平		少	少	D			
埼玉	吉田		享保 6	平		無	少	B			
関東	埼玉	平山	江戸中	18 C前	平		無	少	B		
	千葉	尾形		享保 13	海	他	無	中	C		
	埼玉	新井		延享 2	平		無	少	D		
	岐阜	矢籠原		宝暦元	山		多	中	D		
	東京	大場		宝暦 3	平		少	少	D		
	千葉	御子神		安永 8	海	他	無	中	D		
	埼玉	大沢		寛政 4	平		無	少	D		
	東京	宮崎		江戸末	19 C中	山		少	少	D	
	岐阜	牧村			元禄 14	平		多	多	A	
	静岡	中村			貞享 5	海	他	少	中	B	
	岐阜	田中	18 C初		山		多	多	B		
	静岡	大鐘	18 C初		平		少	中	B		
	静岡	友田	18 C前		山		少	多	B		
	静岡	植松	延享元		海	他	少	多	D		
	岐阜	林主屋	安永 2		平		無	中	D		
	岐阜	小坂	安永 2		平		多	中	B		
	愛知	望月	18 C後		平		無	中	B		
	東海	三重	町井	江戸後	江戸後	山		少	少	C	
		岐阜	荒川		寛政 8	山		多	中	C	
		岐阜	若山		寛政 9	山		多	多	B	
岐阜		桑原	寛政 12		平		多	中	D		
岐阜		林隠居屋	文政 12		平		無	中	C		
愛知		服部	江戸末		天保	海	他	少	中	B	
岐阜		大戸			天保 4	山		多	多	C	
愛知		東松			明治	明治 34	海	他	無	中	D

地域 県名	名	年代区分	年代	立地 北前	積雪	降水	測定
近畿	兵庫 古井	江戸前	室町後	平	少	中	C
	兵庫 箱木		室町後	平	無	少	C
	奈良 中村		寛永9	平	無	少	B
	大阪 左近		江戸前	平	無	少	B
	大阪 吉村		江戸前	平	無	少	C
	奈良 西田		江戸前	平	無	少	B
	京都 石田		慶安3	山	多	中	C
	奈良 今西		慶安3	平	無	少	C
	奈良 豊田		寛文2	平	無	少	C
	兵庫 岡田		延宝2	平	無	少	B
	奈良 臼井	元禄頃	平	無	少	B	
	兵庫 友井	元禄頃	山	少	中	C	
	滋賀 大角	元禄頃	平	少	中	A	
	大阪 山添	宝永2	平	無	少	D	
	滋賀 西川	宝永3	平	無	中	A	
	京都 渡邊	江戸中	山	少	中	C	
	大阪 奥田	江戸中	平	無	少	A	
	大阪 高橋	江戸中	海 他	無	少	B	
	大阪 山本	江戸中	平	無	少	D	
	和歌山 増田	宝永3	平	無	少	A	
	大阪 北田	宝永5 ~享保19	平	無	少	A	
	奈良 米谷	18 C 前	平	無	少	C	
	奈良 森村	享保17	平	無	少	C	
	大阪 杉山	享保19	海 他	無	少	B	
	京都 伊佐	享保19	平	無	少	A	
	京都 澤井	元文5	平	無	少	A	
	奈良 上田	延享元	平	無	少	B	
	和歌山 妹背	延享3	平	無	少	A	
	和歌山 谷山	寛延2	海 他	無	少	B	
	滋賀 宮地	宝曆4	平	多	中	C	
	京都 瀧澤	宝曆10	平	無	中	B	
	奈良 中	明和	平	無	少	A	
奈良 藤田	18 C 後	平	無	少	B		
奈良 片岡	天明2	平	無	少	A		
和歌山 鈴木	天明5	平	無	少	B		
京都 角屋	江戸後	平	無	少	A		
奈良 河合	江戸後	平	無	少	B		
奈良 中橋	江戸後	平	無	少	B		
大阪 高林	寛政11	海 他	無	少	D		
和歌山 柳川	文化4	海 他	無	少	B		
京都 行永	文政8	海 北前	無	中	C		
奈良 高木	文政~ 嘉永	平	無	少	B		
奈良 岩本	嘉永頃	山	無	少	C		
和歌山 中筋	嘉永5	平	無	少	A		
大阪 鴻池新 田	嘉永6	平	無	少	A		
奈良 音村	安政2	平	無	少	C		
奈良 藤岡	明治 18 C 後	平	無	少	B		

地域 県名	名	年代区分	年代	立地 北前	積雪	降水	測定
中国	広島 吉原	江戸前	寛永12	海 北前	無	少	A
	鳥取 矢部		江戸前	山	多	中	B
	広島 木原	江戸中	寛文5	平	少	中	A
	山口 菊屋		江戸中	海 北前	無	中	A
	岡山 犬養		江戸中	平	無	少	D
	広島 幡山		江戸中	山	多	中	B
	島根 堀江		18 C 前	山	多	中	B
	鳥取 後藤		正徳4	海 北前	少	中	A
	広島 太田		18 C 中	海 北前	無	少	A
	山口 熊谷		明和5	海 北前	無	中	A
	山口 国森		明和5	海 北前	無	中	B
	岡山 前原		18 C 後	山	少	中	B
	広島 奥	天明8	平	多	中	B	
	岡山 森江	17 C 末	山	多	中	D	
	広島 林	江戸後 18 C 末	海 北前	無	少	C	
	岡山 大橋	寛政9	平	無	少	A	
	島根 熊谷	文化	海 北前	少	中	A	
	山口 早川	文政	海 北前	無	中	B	
	島根 道面	19C 前	山	多	中	C	
	山口 目加田	19C 前	海 北前	無	中	C	
	徳島 福永	文政11	海 北前	無	少	C	
	島根 佐々木	天保7	海 北前	少	中	B	
	岡山 石井	江戸末	平	無	少	A	
	山口 口羽	19 C 中	海 北前	無	中	B	
	広島 頼	安政2	海 北前	無	少	C	
	徳島 木村	江戸中	元禄12	山	少	中	B
	香川 恵利		江戸中	海 北前	無	少	D
	香川 細川		江戸中	平	無	少	B
	愛媛 真鍋		18 C 初	海 他	無	少	D
	高知 山中		18 C 前	山	少	中	D
	徳島 長岡		享保12	平	少	少	D
	愛媛 豊島		宝曆8	平	無	少	D
愛媛 山中	18C 後		山	少	中	B	
高知 竹内	18 C 末		山	少	多	C	
高知 関川	文政2		海 他	無	多	D	
徳島 小采	天保	山	無	中	B		
徳島 田中	江戸末	元治2	平	無	少	C	
愛媛 渡部		慶応2	平	無	少	D	
愛媛 本芳我		明治 17	平	少	中	C	
愛媛 上芳我		明治 27	平	少	中	D	
佐賀 川打		江戸中	江戸中	平	無	中	D
長崎 本田			江戸中	海 他	無	中	B
沖繩 上江洲			宝曆4	海 他	無	中	B
大分 神尾			明和8	山	少	中	B
福岡 平川			18 C 後	山	無	中	B
大分 後藤			江戸後	山	少	中	D
大分 矢羽田	18 C 後		山	無	中	B	
宮崎 藤田	天明7		山	少	中	D	
佐賀 吉村	天明9		平	無	中	D	
沖繩 中村	江戸後		海 他	無	中	A	
鹿兒島 二階堂	江戸末	文化6	海 他	無	多	D	
熊本 境		文政13	平	無	中	A	
宮崎 黒木		天保6	山	無	多	C	
福岡 永沼		天保10	山	少	中	A	
福岡 数山		天保13	山	少	中	A	
大分 行徳		弘化4	山	少	中	B	
鹿兒島 古市		弘化3	海 他	無	中	B	
佐賀 土井		江戸末	海 他	無	中	D	
熊本 太田		江戸末	山	無	多	B	
佐賀 西岡		安政2	海 他	無	中	A	
福岡 中島	安政6	平	少	中	D		
佐賀 山口	明治 明治	海 他	無	中	C		

1-5 意匠操作の典型例

本論文の題名ともなっている「意匠操作」とは先述の通り「見せかけの部材や特殊な部材幅計画や特殊な部材配置によって、民家の意匠を意図的にコントロールすること」を指す。しかし、この概念は一般には使われない表現であり、わかりにくいので、本節においてその典型的な例を示す。

1-5-1 武田家の例

武田家の広間側の壁面が下図左で、広い部屋に、太い柱・太い束・太い指鴨居・太い梁で構成されている。一方、座敷側の壁面が下図右であり、狭い部屋に、低い天井、細い柱、細い長押で構成される。全く異なる部材幅と部屋の大きさの空間だが、実はこの二つの壁面は同一の壁面の表と裏であることには気づきにくいのではなかろうか。座敷において細く見える壁面の裏には太い部材を隠すという巧妙な仕事が行なわれているのである。これが「意匠操作」である。

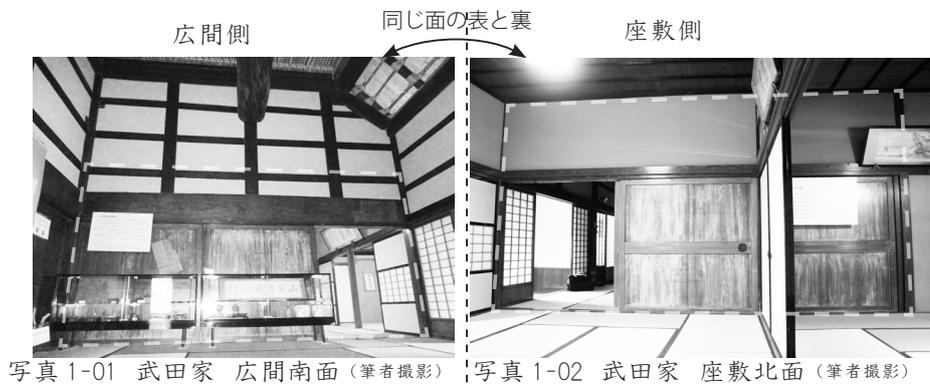


写真 1-01 武田家 広間南面 (筆者撮影)

写真 1-02 武田家 座敷北面 (筆者撮影)

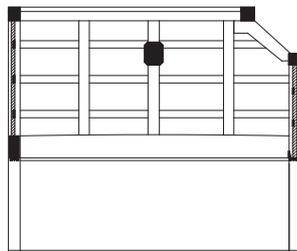


図 1-15 武田家内部立面図 広間南面 (筆者作成)

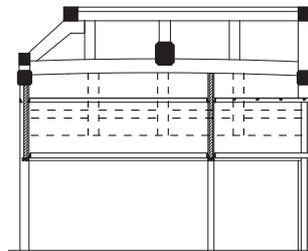


図 1-16 武田家内部立面図 座敷北面 (筆者作成)

このような意匠操作が行われる根本的な理由としては、広間において部屋を広く、材を太くする一方、座敷においては部屋を狭く、材を細くする意図（1-5-3 のC）があることが予想される。これを証明するためには、各民家の基本寸法をまとめる必要があるため、2章において、部屋の大きさ、柱幅の全体的な計画、太い柱と細い柱の寸法、水平材の寸法をまとめた。

例えば、武田家においては、以下のような柱幅区分が見られた。

土間上屋 .70 ± .10 尺

土間下屋 .45 ± .02 尺

広間上屋 .77 ± .01 尺

広間下屋 .59 ± .01 尺

座敷上屋 .38 ± .02 尺（筆者実測）

先述の武田家の広間側の壁面の柱幅は広間上屋にあたり、座敷側の壁面の柱幅は座敷上屋にあたる。水平材については、広間の指鴨居成 1.40 尺の太いものがまわり、座敷には .32 尺の細い長押がまわり、梁は 1.0 ～ 1.3 尺の径のものが用いられていた。広間の .80 尺ほどの幅の柱や 1.40 尺の成の指鴨居は非常に太い材のように思えるが、全国平均と比較してどの程度太いのだろうか。また、座敷の細い材についても全国平均と比べてどの程度細いのだろうか。これを2章で述べる。

武田家では、太い材で占められた広間と細い材で占められた座敷の境において、特殊な部材が散見される。武田家においては、下図左の「狐柱」の部分に、下図右のような凸字型断面の狐柱が使用されていた。その束版が下図左の「狐束」の箇所に使用されていた。もし通常の角柱を使ったならば、広間上屋の太い柱に合わせれば座敷の細い柱の中に1本だけ太い柱が見えてしまう。逆に座敷上屋の細い柱に合わせれば広間上屋の太い柱の中に1本だけ細い柱が見えてしまう。太い柱で占めた空間には太い材で一様に見せ、細い材で占められた空間には細い材で一様にみせていることが予想される（1-5-3 のD）。また、下図右のように片蓋の束も使用されている。狐柱のように表と裏で見え方の異なる材だけでなく、表には柱が見え、裏には柱が見えない片蓋柱によっても意匠操作がなされていた。このような垂直材の意匠操作の全国的な傾向について、3章で述べる。

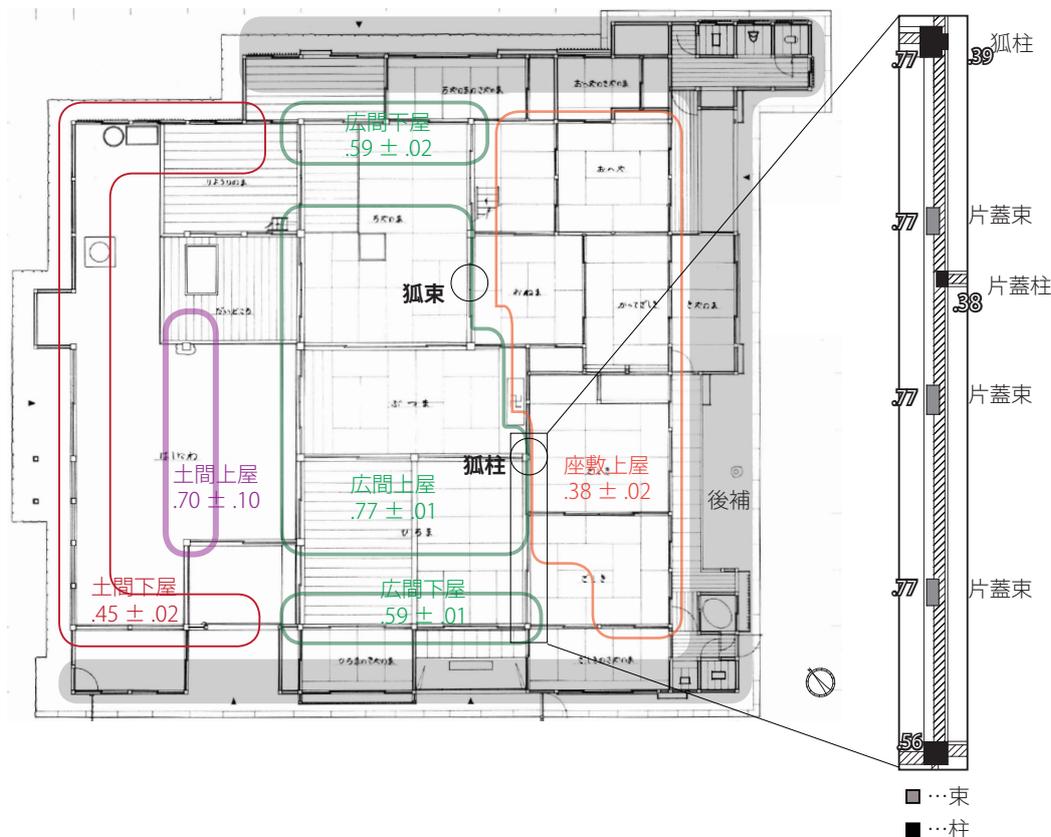


図 1-17 武田家平面図に柱幅書き込み（富山,報 077 引用加筆,寛政）左は平面図、右は垂れ壁の高さで切った平面詳細

武田家においては、以上のような垂直材だけでなく指鴨居のような水平材においても意匠操作がなされていた。下図のように広間1と2については、太い指鴨居がまわるが座敷においては細い長押がまわる。その境において、広間には太い指鴨居に見せ、座敷には細い長押に見せる、「狐鴨居」と呼ばれる材が用いられていた。また、指鴨居のかけられる柱間が1.5～3間までさまざまあるにもかかわらず指鴨居の成は1.33～1.45尺とほとんど変化がない。指鴨居を柱間によって構造的な要請から決めているのではなく、意匠的な要請によって指鴨居の成が揃って見えるようにしているのではないか。そしてそのような部屋の四面の成を揃える傾向（1-5-3のD）が狐鴨居を生んでいるのではないか。そのような水平材の意匠操作について、全国的に分析するのが4章である。

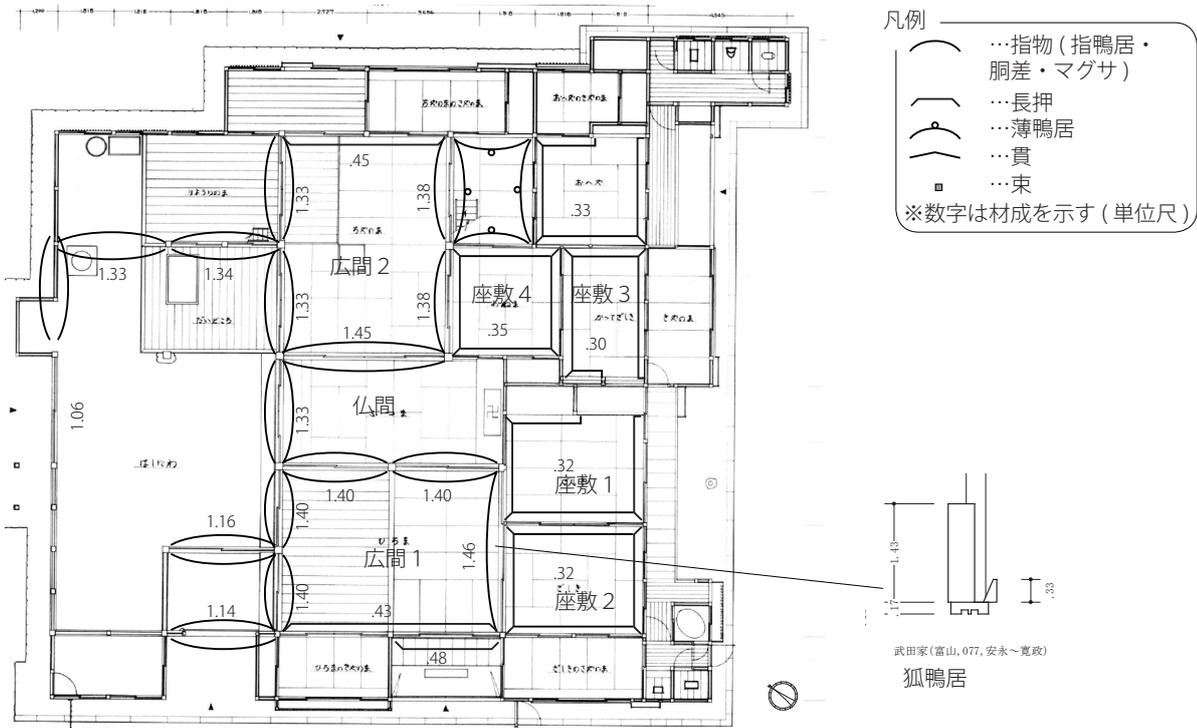


図1-18 武田家平面図に水平材成書き込み（富山，報077引用加筆，寛政）

1-5-2 渡辺家の例

・柱幅の段階的調整

柱幅の段階的調整の最も明確な例がこの新潟の渡辺家である。最も細い座敷上屋の柱が $.40 \pm .02$ 尺である一方、最も太い「土間上屋太」の柱が $.95 \pm .01$ 尺で柱幅が2倍以上異なっている。その間の柱幅が、

土間上屋太 ($.95 \pm .01$)

↓ $-.10$ 尺

土間上屋 ($.85 \pm .04$)

↓ $-.13$ 尺

広間やや太 ($.72 \pm .05$)

↓ $-.12$ 尺

広間 ($.60 \pm .02$)

↓ $-.08$ 尺

座敷上屋やや太 ($.52 \pm .02$)

↓ $-.12$ 尺

座敷上屋 ($.40 \pm .02$)

の順に柱幅が5段階で変化 (1-5-3 のE) していた。その変化量は $.08 \sim .13$ 尺と非常に小さいものである。しかし、5段階も経ているので、4寸の座敷上屋の細い柱から、1尺近くの土間上屋の太い柱へと段階的に変化していた。よって、急激な柱幅の変化が感じられないようになっている。また、部屋ごとにみても柱幅の変化が $.10$ 尺程度なら部屋ごとの柱幅のばらつきは必然的に $.10$ 尺程度に抑えられる。これにより、部屋ごとの柱幅もばらつきの少ない統一されたものとなる。 以上のような寸法の微調整も意匠操作の一種だと考えることにする。

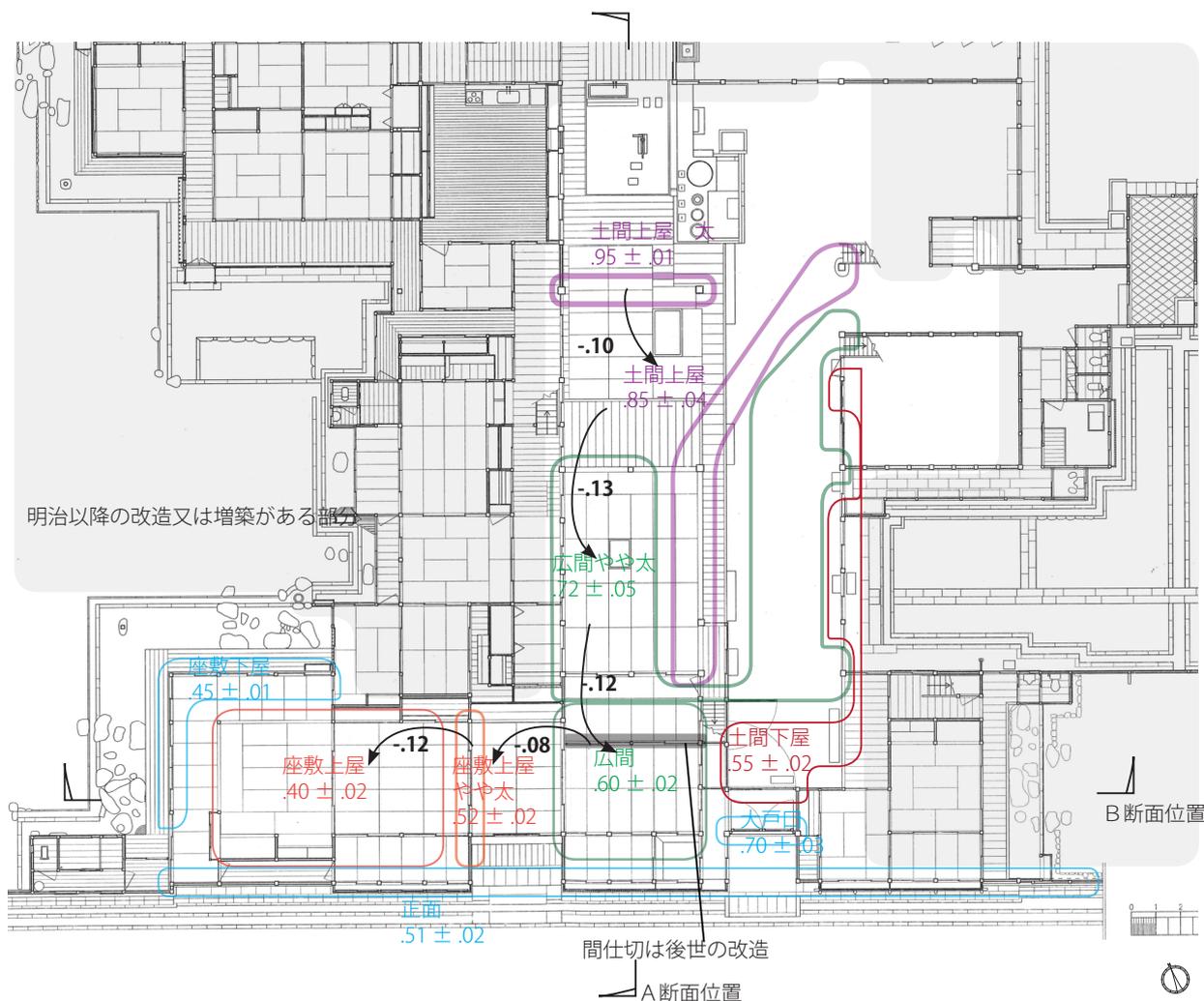


図 1-19 渡辺家平面図に(新潟,報 085 引用加筆,文化 14=1817)1:300

・長押成の段階的調整

渡辺家において段階的に寸法の微調整がなされていたのは、柱だけでない。下図のように長押成は

- 座敷1 .35 尺 (12 畳)
- 座敷2 .35 尺 (15 畳)
- 座敷3 .38 尺 (10 畳)
- 座敷4 .47 尺 (21 畳)

と、座敷4～1の順に段階的に細くなっている。その理由としては、座敷4が21畳なのに対し、座敷1・2は12～15畳で小さいことが一つの理由であろう。ただし、座敷3は部屋の大きさと長押成が連動していない。この長押成の段階的調整は柱幅の段階的調整とも連動している。

このように、長押などの水平材の寸法の微調整について4章の「水平材の調整」などで分析する。

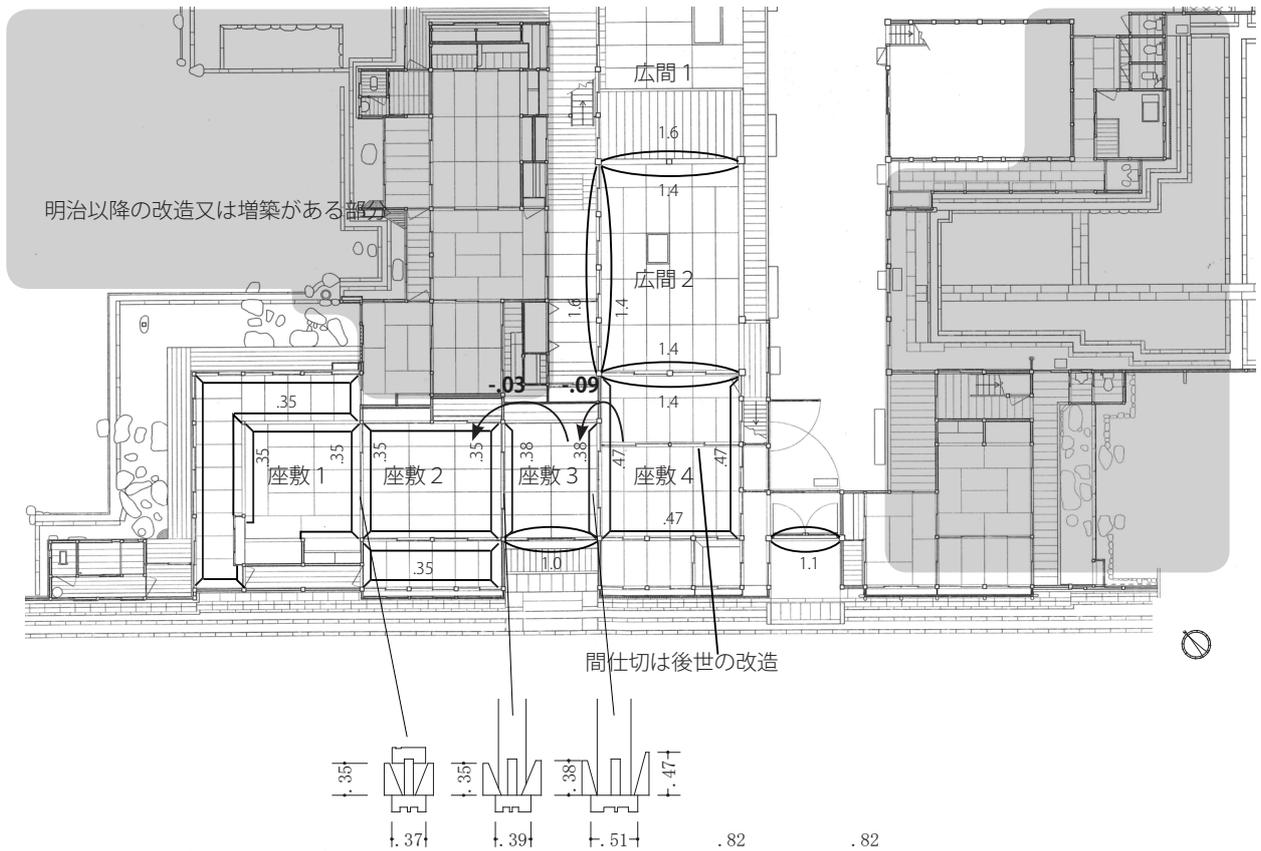


図 1-20 渡辺家水平材成書き込み (新潟, 報 085 引用加筆, 文化 14=1817)1:250、下詳細図は 1:25

1-5-3 論文構成の概要と予想される技法類型

本節で述べたような、意匠操作の具体的事例を整理し、それらの目的や背景を探るのが本論文の主目的である。1章では序論として研究の方法や既往研究、意匠操作の典型例を示す。2章では、民家の規模、部屋の規模、柱幅、長押成、指鴨居成など、民家の基本的な寸法の全国的な研究自体がないのでそれを概観することにする。2章でまとめた寸法体系を適宜参照しながら、3章と4章における意匠操作を分析していく。3章では、特殊な部材幅使用や見せかけ材の使用など、垂直材の意匠的な使用を詳細に分析する。4章においては、長押・指鴨居・薄鴨居・貫・梁等の水平材の意匠操作に関する分析である。水平材の部材幅の特殊な使用や見せかけ材の使用など、水平材の意匠的な使用を詳細に分析する。5章においては軒の意匠的な技法についてまとめる。また、平面形状を各所で意匠的に操作することによって結果的に生じる余剰空間について述べる。6章においては、2～5章において述べた意匠操作の数を数値化し、その時代的地域的分布について触れる。7章においては、それまでの分析において得られた結論をまとめる。それを通じて全国的な民家の意匠操作傾向を総括する。

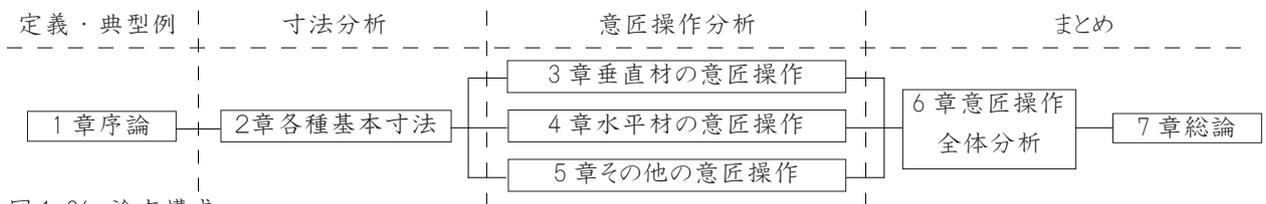


図 1-06 論文構成

「1-5-1 武田家の例」と「1-5-2 渡辺家の例」の分析から、A 基本寸法を整理する必要性が感じられ、意匠操作は C ～ E に分類されることが予想された。また、C ～ E の意匠操作と対比するため、「B 意匠操作の意識が低い」例も対比として取り上げる必要があるだろう。本論の論旨の流れとしては大方以上の流れで進めていくことにしたい。ところで、「6-1 各種技法の類型化」で述べるように、ほとんどの節が A ～ E に分類されるので、以下の A ～ E は本論の論旨の反映でもある。

A 基本寸法など（民家の基本寸法や該当数量の整理）

B 意匠操作の意識が低い（意匠操作が見られず、構造をそのまま見せたもの）

C 各空間形式の順守と強調

C1 土間広間の材を太く、座敷の材を細く見せる（武田家の狐柱等）

C2 座敷で極力構造材を見せない（武田家で座敷に貫を見せないこと）

C3 土間の構造材を密に配置する（武田家の広間で貫を密に配置すること等。）

D 部材配置と部材幅の均一化

D1 座敷の部材配置と部材幅の均一化（武田家の座敷の片蓋柱や片蓋束）

D2 広間の部材配置と部材幅の均一化（武田家の広間の束配置や均一な指鴨居成）

E 寸法の微調整（渡辺家の柱幅の段階的調整や長押成の段階的調整等。各部屋の大きさや形式に合わせて部材寸法を調整する技法）

6章 意匠操作全体分析

6-1 各種技法の類型化

2～5章で様々な事例を取り上げたが、本節ではそれらを意図ごとに類型化を試みたい。そのために、各節の内容を以下のA～Eの5種類に分け、それらの内容の時代的地域的分析を行う。各節がA～Eのどれに対応しているかについては、下表を参照されたい。Aは基本数値なので、B～Eを重点的に分析する。各節の論旨のほとんどがA～Eに区分されるため、A～Eは本論文の論旨の反映でもある。下表の「代表的な意匠操作」の列に○がついているものは、意匠的意図が非常に明確な意匠操作であり、234ページの「6-3-2 意匠操作数の詳細分析」で分析する。

ところで、3～5章において、各意匠操作を説明する前に、必ず構造的な使用法を分析した。構造が優先された形式を明らかにしないと、どのようなものが意匠を優先させた形式なのか判別がつきにくいからである。

A 基本寸法など…民家の基本寸法や該当数量の整理

B 意匠操作の意識が低い例

B1 民家の構造がそのまま見えるもの…座敷に梁が見える民家(4-4-2)、貫が座敷に見えるもの(4-5-5)など

B2 部材幅や部材配置の均一化が意識されていないもの…座敷の不均一な柱間(3-2-2)など

C 各空間形式の順守と強調

C1 土間広間の材を太く、座敷の材を細く見せる…3-4 五平柱、3-5 狐柱、4-2-2 指鴨居の意匠的使用、4-2-4 大戸口のマグサ、4-3 狐鴨居など

C2 座敷で極力構造材を見せない…胴差(4-2-3)、貫(4-5-5)、梁(4-4-5)を座敷に見せない傾向

C3 土間の構造材を密に配置する…3-3-2 狭い柱間の意匠的使用など

D 部材配置と部材幅の均一化

D1 座敷の部材配置と部材幅の均一化…座敷の均一な柱間(3-2-2)など

D2 広間の部材配置と部材幅の均一化…広間の均一な指鴨居成(4-2-2)など

E 寸法の微調整…柱幅の段階的調整(3-6)、水平材成の調整 3-6 など

表 6-01 各節の論旨と各節ごとのつながり

章 節	項	区分	代表的な意匠操作	要約	
2章 各種基本寸法	全体			2章において、民家における寸法を整理した。まずは基本寸法として、平面積、高さ、部屋の大きさなど、規模に関する事項をまとめた。	
	2-1 規模	A		各基本寸法を整理した。また、この節にも意匠との関連性を探ろうとする意図がある。平面積(2-1-2)は、民家の格式や財力と連動する基本的な数値である。平面積は時代が下るほど大きくなる傾向や、北陸、近畿や北前船航路治で大きいことが分かった。棟高・軒高・屋根勾配(2-1-2 2-1-3)は、構造や平面に影響を受けるが、建物の外観を決める意匠的な要素ももつだろうと予想したが、あまり明確な傾向は読み取れなかった。部屋の大きさについては2間角の8畳間が大半を占めることが分かったが、これらがどのような数値をとるのが整理した。	
	2-2 柱幅区分	A		民家は様々な柱幅が混在することが多いが、それらを体系的に整理することを試みた。この柱幅区分という概念は3章の意匠操作を検討する際の基本となる。例えば、柱幅区分が広間と座敷で大きく差がついていれば狐柱を使用するし、柱幅区分を広間から座敷まで段階的に変化させていけば、柱幅の段階的調整があると言える。このように本節の柱幅区分という概念がなければ3章の検討を始められない。	
	2-3 土間の太い柱幅			土間における太い柱幅と座敷における細い柱幅を整理した。各柱幅の標準がわかれば、3章以降で各民家における柱幅が通常と比べて太いのか、細いのか分かる。また、標準より著しく太いまたは細いならならばそれはなんらかの意図があると考えられるだろう。	
	2-4 座敷の細い柱幅	A		柱幅は部屋の大きさに応じて太くするものであり、それは構造的でなく、意匠的な意図によるものであることを明らかにした。	
	2-5 柱幅と部屋の広さの比例関係	A		各水平材の標準的な寸法を分析し、全国平均などを明らかにすることで、4章において各水平材寸法が通常と比べて太いのか細いのか述べられるようにした。	
	2-6 水平材の寸法	A			
3章 垂直材の意匠操作	全体			垂直材の配置(柱間)および断面形状(片蓋柱、五平柱、狐柱、柱幅の段階的調整)を、その意図によって構造的用法と意匠的用法に分類しその使用法の目的を探った。また、その使用の時代性と地域性を明らかにし、垂直材の意匠操作の全容を整理した。	
	3-1 片蓋柱の傾向	A		3-2-3-3でも片蓋柱について分析しているが、片蓋柱を使用した形式や目的ごとに分類しており、片蓋柱を使用している民家の総数の分析はない。本節で片蓋柱を使用している民家の総数についてまとめた。	
	3-2 座敷の柱間・束間	B(不均一な柱間) C1(均一な柱間)	○(均一な柱間)	座敷の柱間はどのようなものが構造的意図が強く意匠的に好まれたのかを明らかにした。また、不均一で構造的柱配置(B)から意匠的に均一にみせる意匠的柱配置(C1)への流れも説明した。片蓋柱の座敷における使用法について多くとりあげ、分析した。	
	3-3 土間・広間・外壁の柱間	3-3-1 狭い柱間の構造的な使用	B		土間や広間の柱間について、3-2と同様の分析をした。ただし、明確な意匠操作があまり見られなかったため、主に構造や工法的視点で各技法を分類した。
		3-3-2 狭い柱間の意匠的な使用	C3		土間や広間の狭い柱間について明らかに意匠的なものがあったので、その例を挙げた。
		3-3-3 外壁の均一な柱間	D2		片蓋柱の外壁における使用について多くとりあげ、分析した。
	3-4 五平柱	3-4-1 加工斑による五平柱	B		五平柱を、その断面寸法の長辺と短辺の比と向きによって、意匠的意識が低い場合と高い場合とで分類した。東日本や古い時代に多い技法であった。
		3-4-2 太く見せるための五平柱	C1	○	
	3-5 狐柱・狐束	C1	○		狐柱・狐束について、その使用法ごとに分類した。また、狐柱が生じた原因について分析するために、2-2で分析した柱幅区分の概念を使い、異なる柱幅区分の境で狐柱が用いられることを明らかにした。
	3-6 柱幅の段階的調整	E	○		柱幅の段階的な調整について述べた。これも2-2の柱幅区分の概念を基に説明した。柱幅区分が少ないものから多いものになるにつれ、柱幅の段階的な調整も多くなっていく。2-5で示した部屋の大きさとも関連性が深いだろう。
3-7 柱幅が異なる場合の量割調整	E			2-2や3章では様々な柱幅の使い分けについて説明したが、そのような場合は当然量割が完成しにくくなる。それを納めるための微細な寸法の調整方法を分析した。	

章 節	項	区分	代表的な意匠操作	要約	
全体				座敷飾りの数を分析するとともに、指物、狐鴨居、梁、貫を、構造的用法と意匠的使用法に分類し、その使用の意図を探った。また、水平材の成の調整についても分析した。水平材の意匠操作の全容を整理するのを目的としている。	
4-1	座敷飾り	A		意匠操作の前に、各座敷飾りの使用数について分析する。これが座敷における意匠の優先度合いを示すであろう。	
4-2	指鴨居・胴差・マグサ	4-2-2 指鴨居の構造的な使用から意匠性重視への変遷	B・D2	指物について、形式ごとに分類した。指鴨居については、既往研究で指摘されているものが多いが、指鴨居の成に特に着目して使用法を分類する。指鴨居は構造的意図が強いものが多いが、成に着目することで新たな視点も提示する。指鴨居の成を均一にする傾向は広間における均一性の確保という意味でD2に分類した。	
	4-2-3 片蓋胴差	C2	○	胴差を片蓋とすることで、広間に胴差を廻しながらも、座敷に胴差が見えないようにする技法について分析した。胴差という構造材を座敷に見せない傾向（C2）が読み取れた。	
	4-2-4 大戸口のマグサの意匠性	C1	○	土間の大戸口のマグサを太くする（C1）あるいはそりをつける意匠操作について分析した。土間の入り口で材をより太く見せるあるいは意匠性を強める意図があるだろう。	
4-3	狐鴨居	C1・D1・D2	○	狐鴨居の使用法について、過渡的なものから完成したものまで分類し分析した。広間で指鴨居を均一（D2）にしながらも、座敷を長押で統一（D1）するという意図と、広間に太く、座敷に細く見せる（C1）意図が読み取れた。	
4章 水平材の意匠操作	4-4-2	意匠性の低い梁	B	梁について、意匠の優先度が低いものから高いものまで分析した。	
	4-4-3	意匠性の高い梁	C1	○	座敷の見え隠れの梁よりも広間の見え掛りの梁を太くする例を分析した。広間の材を太く見せる効果（C1）があるだろう。
	4-4-4	広間と外観で梁を見せる傾向	C1		広間と外観で梁を意図的に見せる傾向が読み取れるものを分析した。広間などで太い梁を見せることで、広間の材を太く見せる効果（C1）を意図しているだろう。
	4-4-5	座敷で梁を隠す傾向	C2	○	座敷で天井を張ることで、構造材である梁を座敷に見せない傾向（C2）について分析した。
	4-5-2	貫の納まりについて	A		貫を工法ごとに分類した。座敷に貫が見えるものと、座敷で貫を見せず広間に貫を見せるものをそれぞれ分析した。
	4-5-3	貫が全く見えないもの（塗筆貫）	A		
	4-5-4	貫が座敷に見えてしまうもの	B		貫を座敷に見せることを躊躇していない例について述べる。座敷に貫を見せない傾向が読み取れないものであり、座敷に構造材を見せない意識が少ないと考えられる。
	4-5-5	貫を座敷に見せず、広間に見せるもの	C2	○（広間の四面に貫があるもの）	貫を座敷に見せないが、広間に貫が見えるものについてのべた。構造材を座敷に見せず、さらに広間には構造材を強調しようとする傾向が読み取れる。
	4-5-6	両面貫により広間の四面に貫を見せるもの	D2		広間の四面に貫を見せる傾向について述べた。
	4-5-7	外壁に貫を見せるもの	C		外壁に貫を見せる技法について分析した
4-6	水平材成の調整	4-6-1 長押成の調整	E	○	水平材を微調整する技法について分析した。これは、「2-2 柱幅区分」によって空間ごとに柱幅使い分けられていることがわかったが、その水平材版であった。部屋の大きさや柱幅などに合わせた意匠的意図が読み取れるが、貫成については上屋の貫成を構造的に太くする意図が強い代表例には含めていない。
	4-6-2 胴差成の調整	E	○		
	4-6-3 薄鴨居成の調整	E	○		
	4-6-4 貫成の調整	E			
5章 その他の意匠操作	5-1 軒における意匠操作	5-1-1 差別化のない一様な軒	B		軒について、構造に素直な例と、意匠性を重視し各場所で軒の形状を変えた例を述べた。
	5-1-2 差別化された座敷の軒	C2・C3	○		
	5-2 余剰空間が生じる意匠操作	5-2-1 床の奥行調整	E	○	前節までは意匠操作それ自体について分析したが、本節では意匠操作によって余剰空間が生じる例を分析した。余剰空間以外の空間を意匠上優先させることで、余剰となる空間が押し入らなったり変形した平面となったりする例について述べた。平面計画では余りの空間であるが、それを作るのを躊躇しないことで他の空間を意匠的・平面計画的に優先させて作ることができていた。
	5-2-2 変形敷地の調整により生じる余剰空間	E			

B 意匠操作の意識が低い例

構造が優先される、あるいは部材幅や部材配置の統一性が低いなどして、意匠操作の意識が低いものである。

B1 民家の構造がそのまま見えるもの

民家を形作る構造がそのまま中にある人にみえるものである。指鴨居を大きな柱にのみ入れると、その指鴨居の部材幅だけが太く、その他が細くなる。座敷に天井を張らないために、民家の骨組を支える梁が座敷に見えるもの（4-4-5）や、座敷に貫が見えるもの（4-5-4）はよい例である。

B2 部材幅や部材配置の均一化が意識されていないもの

部材配置や部材幅を均一化する意識が低い民家が本項で述べるものである。半間幅の下屋や大壁の半間間隔の柱がそのまま見えるために、座敷に半間幅の柱間が見え、座敷の柱間が不均一になるもの(3-2-2)が一つである。加工班によって生じた五平柱(3-4-1)は、部材幅を見付幅と見込幅で均一化させる意識は低い。指鴨居が大きな柱間にしかないもの(4-2-2)は、大きな柱間にしか指鴨居がないために、その箇所だけが太い部材となり、他の薄鴨居との成の差が大きく、部材幅の統一性の意識は低いと考えられる。

Bの時代的地域的傾向

意匠操作の意識が低い例を下表にまとめた。時代的にはどの技法も江戸前中期に多く、江戸末期以降に少ない(五平柱を除く)。地域ごとには、東北と関東で多い傾向があるが、近畿・中国では少ない。

以上より、このような構造優先の技法は古式な技法であり、中央の地域では少ないといえる。

表 6-02 Bの例の時代的地域的傾向 (全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗)

章 節 項	分類		全国	時代ごと					地域ごと								江戸 後末 期に 多い	中央 指向 多い	北陸 で多 い		
				江戸 前	江戸 中	江戸 後	江戸 末	明治	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国				九州	
		母数(棟)	227	13	86	85	35	8	33	28	22	18	17	47	25	15	22				
3 2 2	B2	座敷の柱間 が不均一な もの(半間 柱間)	該当数	69	3	36	23	6	1	19	10	10	7	4	7	3	4	5	×	×	○
		該当割合	0.30	0.23	0.42	0.27	0.17	0.13	0.58	0.36	0.45	0.39	0.24	0.15	0.12	0.27	0.23				
3 4 1	B2	加工班による 五平柱	該当数	53	4	25	14	10	0	10	7	10	0	6	12	4	2	2	×	—	○
		該当割合	0.23	0.31	0.29	0.16	0.29	0.00	0.30	0.25	0.45	0.00	0.35	0.26	0.16	0.13	0.09				
4 4 5	B1	座敷に梁が 見える民家	該当数	76	5	42	25	3	1	20	9	4	11	4	11	2	9	6	×	—	—
		該当割合	0.33	0.38	0.49	0.29	0.09	0.13	0.61	0.32	0.18	0.61	0.24	0.23	0.08	0.60	0.27				
4 2 2	B2	②指鴨居が 大きな柱間 にしかない もの	該当数	52	4	22	23	2	1	9	11	4	5	4	6	4	3	6	×	×	—
		該当割合	0.23	0.31	0.26	0.27	0.06	0.13	0.27	0.39	0.18	0.28	0.24	0.13	0.16	0.20	0.27				
4 5 4	B1	座敷に貫が 見えるもの	該当数	52	5	30	14	2	1	15	7	6	8	3	6	1	2	4	×	×	—
		該当割合	0.23	0.38	0.35	0.16	0.06	0.13	0.45	0.25	0.27	0.44	0.18	0.13	0.04	0.13	0.18				
Bの平均割合			0.27	0.32	0.36	0.23	0.13	0.10	0.44	0.31	0.31	0.34	0.25	0.18	0.11	0.27	0.21	×	×	—	

C 各空間形式の順守と強調

主に客を迎えるために使用する座敷の形式と家族の生活等に使用される広間や土間の形式は、機能的に異なるものであり、必然的に構成や形式が異なる。しかし、機能的要請以上にそれぞれの形式を順守し、形式の差を強調していると考えられる技法がCに分類される技法である。

そのような空間形式の差は柱幅に代表される。2間四方が半数近くを占める座敷(2-1-6 部屋の規模)においては、.45尺角の細い柱が平均であった(2-4-1)。一方、各民家での最大柱幅は全国平均で.80尺であり(2-3-2 最大柱幅の時代的地域的傾向)、その柱は土間に配置されている大黒柱がほとんどである。よって、座敷と土間では2倍程度の差があるのが標準である。その差が生じる原因としては、「2-5 柱幅と部屋の広さの比例関係」で述べたように、部屋の大きさと柱幅が連動していることが考えられる。つまりは、座敷のような狭い部屋では柱幅を細く、広間や土間のような広い部屋では柱幅を太くしているのではないかということである。さらに、これは構造的な意識ではなく、意匠的な意識により生じた部材幅の差であることも2-5で明らかにした。以上のように、座敷と土間・広間では部材幅などの空間形式が大きく異なるのであり、そのような形式を順守しながらも、そのような差をさらに強調する傾向がC1～C3の傾向である。

C1 土間広間の材を太く、座敷の材を細く見せるもの

前章までで、土間や広間において太い材で占められるように、五平柱(3-4-2)、狐柱(3-5)、土間の太い梁(4-4-3)など様々な意匠操作が行われたことを示した。これは、柱間を飛ばすなどしたために最初は構造的に材を太くしていたものが意匠化した(3-3-2)ものだと推測される。座敷においては、4寸5分ほどの細い柱やその9割程度の幅の長押など細い材だけで占めるようにした(2章)。以上のように土間や広間では太い材でしめる一方、座敷では細い材で占められるため、狐柱(3-5)や狐鴨居(4-3)などが使用されていた。

また、狐柱(3-5)や狐鴨居(4-3)は、Dで述べるような各部屋の部材幅を均一化する傾向も読み取れる。つまりは、細い材で構成された座敷と太い材で構成された広間の境界においては、太い材を使用すれば座敷に太い材が見え、

細い材を使用すれば広間に細い材が見えてしまう。それを解消するために狐柱(3-5)や狐鴨居(4-3)を使用している
と考えることもできる。このような意味では、狐柱(3-5)や狐鴨居(4-3)は「D部材配置と部材幅の均一化」の傾向
も読み取れる。

C2 座敷で極力構造材を見せない

座敷では、柱を除けば、極力構造材を見せない傾向があると考えられる。胴差(4-2-3)、貫(4-5-5)、梁(4-4-5)
を座敷に見せない傾向を述べたが、これらはいずれも民家を支える構造材である。構造材を見せず、意匠材だけ
を見せる傾向があると考えられる。その原因としては、構造材は材が太い場合が多いこと、構造材は荷重がかかっ
てたわんでしまいやすいこと、構造材を見せること自体が客間としてふさわしくないという認識があったこと、な
どが推測される。

C3 土間の構造材を密に配置する

土間は大空間を作り出すために柱間が大きく、そのために太い梁をかけ渡している。そのような大空間を補強する
ために、建物の外周には半間ほどの間隔で密に柱を配置するものがある(3-3-1)。これはほとんどの場合、積雪に耐
えるためや壁のつなぎ材とするためなど、工法・構造的意識が強い。しかし、明らかに意匠的に密に柱を配置し
ているものがあることを示した(3-3-2 広間の半間指向、数が少なく下表には載せていないが3-3-2 狭い柱間の意匠
的な使用)。

Cの時代的地域的傾向

Cの平均割合を主にみると、Cに分類される技法は、江戸前中期に該当割合が低く、江戸後期に該当割合が高
い技法が多い。ただし、五平柱や土間梁が著しく太いもの等は江戸前期に多い。地域ごとには、北陸、近畿、中
国地方で多いが、東北、甲信、関東、四国、九州で少ないことが特筆される。

各空間形式の順守と強調の傾向は、江戸後末期の民家によく見られ、中央指向が強いことがわかる。また、北
陸に最も多く見られ、次が中国地方で、近畿は3番目であることは特筆される。

表6-03 Cの例の時代的地域的傾向(全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗)

章 節 項	分 類		全国	時代ごと					地域ごと									江戸 後末 期に 多い	中央 指向 多い	北陸 で多 い
				江戸 前	江戸 中	江戸 後	江戸 末	明治	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州			
		母数(棟)	227	13	86	85	35	8	33	28	22	18	17	47	25	15	22			
3 3 4	C3	広間の半間指向	該当数 10 該当割合 0.04	2	1	4	3	0	0	1	3	0	0	2	4	0	0	—	—	○
3 4 2	C1	太く見せるための五平柱	該当数 35 該当割合 0.15	2	18	12	3	0	5	7	5	7	3	4	1	2	1	×	×	○
3 5	C1	狐柱・狐束	該当数 20 該当割合 0.09	0	2	15	3	0	2	0	4	1	2	6	4	1	0	○	○	○
4 3	C1	狐鴨居使用	該当数 52 該当割合 0.23	2	8	25	16	1	8	1	9	1	5	7	11	4	6	○	—	○
4 2 4	C1	大戸口のマグサの意匠的使用	該当数 33 該当割合 0.15	1	15	13	4	0	0	0	3	1	3	19	5	0	2	—	○	○
4 4 3	C1	土間梁が著しく太いもの	該当数 50 該当割合 0.22	4	20	17	9	0	5	3	5	1	4	18	12	0	2	×	○	—
4 4 3	C1	広間の天井下に梁	該当数 61 該当割合 0.27	4	23	27	7	0	5	6	11	6	5	20	4	1	3	—	○	○
4 2 3	C2	片蓋胴差を使用する民家	該当数 27 該当割合 0.12	0	5	10	9	3	2	0	4	0	3	4	9	2	3	○	—	○
4 5 5	C2	広間に貫、座敷に貫なしの例	該当数 47 該当割合 0.21	4	21	26	9	0	11	9	16	5	2	9	3	3	2	—	—	○
5 1 2	C2	座敷の軒が区別化されたもの	該当数 57 該当割合 0.25	1	17	27	11	1	5	5	6	1	4	19	12	2	3	○	○	—
Cの平均割合			0.17	0.15	0.15	0.21	0.21	0.06	0.13	0.11	0.30	0.13	0.18	0.23	0.26	0.10	0.10	○	○	○

D 部材配置と部材幅の均一化

柱間などの部材配置を均一化する傾向や、柱幅や指鴨居成を均一化する傾向である。Cで前述したように狐柱(3-5)や狐鴨居(4-3)にもDの傾向があるが、ここでは述べない。

D1 座敷の部材配置と部材幅の均一化

座敷における部材配置や部材幅の均一化である。座敷において1間間隔で柱が配置されること(3-2-2)などを示した。座敷の柱幅が一様に細い(2-4-2)ものは、座敷における柱幅を均一にする意識がみられるものである。客間である座敷においては、部材配置や部材幅を均一化させ、見栄えが整って見えるように意匠操作したと考えられる。

D2 広間の部材配置と部材幅の均一化

座敷だけでなく、広間においても均一化の傾向がみられる。指鴨居については、大きな柱間だけでなく、狭い柱間に通す(4-2-2③)あるいは部屋全長に渡って通す(4-2-2④)ことによって、部屋全体を指鴨居で統一させる意識がある。貫においても同様に部屋の四面を貫で統一させる意識がある(4-5-6)民家がある。指鴨居の成を揃える傾向(4-2-2⑤)もみられ、部材幅も均一化する傾向がある。広間においては、座敷ほどではないが、部材配置や部材配置を均一化する傾向が読み取れる。

Dの時代的地域的傾向

時代ごとには、江戸末期に該当割合が高い技法が多い。貫を除けば、江戸前期には該当割合が低いものが多い。地域ごとには、東北、甲信、関東と東日本で該当割合が低いが、北陸、近畿、九州では高く、西日本では全国平均化それ以上のものが多かった。

部材配置と部材幅を均一化する傾向は江戸末期に多く、西日本、特に近畿、北陸でよく使用される技法だといえる。

表 6-04 Dの例の時代的地域的傾向 (全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗)

章	節	項	分類		全国	時代ごと					地域ごと							江戸 後末 期に 多い	中央 指向 多い	北陸 で多 い		
						江戸 前	江戸 中	江戸 後	江戸 末	明治	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国				四国	九州
				母数(棟)	227	13	86	85	35	8	33	28	22	18	17	47	25	15	22			
2	4	2	D1	座敷柱幅が一様に細いもの	該当数 62 該当割合 0.27	2	16	21	20	3	7	11	6	2	0	19	9	1	7	○	○	—
						0.15	0.19	0.25	0.57	0.38	0.21	0.39	0.27	0.11	0.00	0.40	0.36	0.07	0.32			
3	2	2	D1	座敷の1間指向(片蓋)	該当数 39 該当割合 0.17	1	13	13	8	4	5	5	3	0	4	13	1	0	8	○	○	—
						0.08	0.15	0.15	0.23	0.50	0.15	0.18	0.14	0.00	0.24	0.28	0.04	0.00	0.36			
3	2	3	D1	式台1間片蓋	該当数 9 該当割合 0.04	2	2	1	4	0	0	0	1	0	0	4	1	0	3	—	○	—
						0.15	0.02	0.01	0.11	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	0.09	0.04	0.00	0.14			
3	2	3	D1	床壁内に柱を見せない	該当数 47 該当割合 0.21	0	18	17	10	2	4	6	5	3	5	18	0	1	5	○	○	—
						0.00	0.21	0.20	0.29	0.25	0.12	0.21	0.23	0.17	0.29	0.38	0.00	0.07	0.23			
4	2	2	D2	③狭い柱間でも指鴨居がつくもの(柱勝)	該当数 74 該当割合 0.33	4	26	28	14	2	7	2	11	5	8	15	12	6	8	○	—	○
						0.31	0.30	0.33	0.40	0.25	0.21	0.07	0.50	0.28	0.47	0.32	0.48	0.40	0.36			
4	2	2	D2	④指鴨居を部屋全長に渡って通すもの(指鴨居勝)	該当数 48 該当割合 0.21	1	15	18	14	0	6	0	7	1	3	10	7	6	8	○	—	○
						0.08	0.17	0.21	0.40	0.00	0.18	0.00	0.32	0.06	0.18	0.21	0.28	0.40	0.36			
4	2	2	D2	⑤指鴨居の成を揃えるもの	該当数 61 該当割合 0.27	1	15	25	17	3	7	4	6	1	2	21	7	6	7	○	—	—
						0.08	0.17	0.29	0.49	0.38	0.21	0.14	0.27	0.06	0.12	0.45	0.28	0.40	0.32			
4	5	5	D2	広間の四面に貫が見えるもの	該当数 36 該当割合 0.16	3	17	12	4	0	9	4	8	3	2	5	2	0	3	×	×	○
						0.23	0.20	0.14	0.11	0.00	0.27	0.14	0.36	0.17	0.12	0.11	0.08	0.00	0.14			
Dの平均割合					0.21	0.13	0.18	0.20	0.33	0.22	0.17	0.14	0.27	0.10	0.18	0.28	0.20	0.17	0.28	○	○	○

E 寸法の微調整

部屋の大きさや部屋の形式（座敷・広間・土間）に合わせて、部材寸法や部材間隔を微調整する傾向について述べる。

土間広間で部材幅が太く、座敷で部材幅が細い原因としてはCの冒頭で前述した。太い材で占められた土間広間と座敷が壁一枚で隔てられる場合には、表と裏で形状や材質が異なる狐柱(3-5)や狐鴨居(4-3)を使用する必要があった(C)。その意図としては、各空間形式の順守と強調(C)だけでなく、各空間において部材配置と部材幅を均一化(D)することが考えられた。

対して、柱幅の段階的調整は、もっぱら土間広間と座敷の間に数室の部屋がある場合に用いられる技法である。そのような場合は、各部屋ごとの段階的に部材幅を変化させることで、部屋ごとの部材幅の差を緩やかなものにしてきた。これは、各部屋の大きさとも連動する(「2-5 柱幅と部屋の広さの比例関係」)であろう。また、そのように様々な柱幅が存在した場合における、畳割の調整方法も様々な方法があることを述べた(3-7)。柱幅だけでなく、長押成(4-6-1)、指物成(4-6-2)、薄鴨居成(4-6-3)も部屋の大きさや形式に合わせて微調整されている。

部材幅だけでなく、床の奥行を調整する技法(5-2-1)や余剰空間を生じさせる意匠操作(5-2)も寸法の微調整の一種だと考えられる。

Eの時代的地域的傾向

Eの代表的な技法を下表に掲載した。Eの平均割合は全国で1割程度で該当数が少ないため時代ごと地域ごとには誤差が大きいことに注意されたい。時代ごとには江戸前期に少ないが、江戸末期に該当割合が高いものが多い。地域ごとにみると、東北、関東、四国、九州では該当割合が低いものが多いが、北陸で最も多く、近畿中国にでも多い。

寸法の微調整は該当数が少ないものの、江戸末期によく見られ、中央指向が強く、また北陸で最も多いことが特筆される。中国地方でも該当割合が高い。

表 6-05 Eの例の時代的地域的傾向 (全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗)

章 節 項		全国	時代ごと					地域ごと									江戸 後 期 に 多 い	中央 指 向 で 多 い	北 陸 で 多 い	
			江戸 前	江戸 中	江戸 後	江戸 末	明治	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州				
	母数(棟)	227	13	86	85	35	8	33	28	22	18	17	47	25	15	22				
2 2 5	柱幅5区分以上	該当数	38	1	14	15	8	0	7	5	7	1	2	8	7	0	1	○	—	○
		該当割合	0.17	0.08	0.16	0.18	0.23	0.00	0.21	0.18	0.32	0.06	0.12	0.17	0.28	0.00	0.05			
3 6	柱幅の段階的調整	該当数	29	0	14	10	5	0	3	4	6	1	5	8	2	0	0	—	—	○
		該当割合	0.13	0.00	0.16	0.12	0.14	0.00	0.09	0.14	0.27	0.06	0.29	0.17	0.08	0.00	0.00			
3 7	畳割調整	該当数	17	0	8	5	3	1	2	2	3	0	1	4	4	0	1	—	—	○
		該当割合	0.07	0.00	0.09	0.06	0.09	0.13	0.06	0.07	0.14	0.00	0.06	0.09	0.16	0.00	0.05			
4 6 1	長押成の調整	該当数	14	0	3	10	1	0	1	2	6	1	1	1	2	0	0	—	×	○
		該当割合	0.06	0.00	0.03	0.12	0.03	0.00	0.03	0.07	0.27	0.06	0.06	0.02	0.08	0.00	0.00			
4 6 2	指物成の調整	該当数	23	0	7	5	11	0	4	4	1	1	0	4	3	2	4	—	—	×
		該当割合	0.10	0.00	0.08	0.06	0.31	0.00	0.12	0.14	0.05	0.06	0.00	0.09	0.12	0.13	0.18			
4 6 3	薄鴨居成の調整	該当数	16	0	2	8	5	1	1	1	4	0	1	4	3	1	1	○	—	○
		該当割合	0.07	0.00	0.02	0.09	0.14	0.13	0.03	0.04	0.18	0.00	0.06	0.09	0.12	0.07	0.05			
5 2 1	床の奥行調整があるもの	該当数	36	1	13	16	5	1	3	3	5	2	1	13	5	1	3	○	○	○
		該当割合	0.16	0.08	0.15	0.19	0.14	0.13	0.09	0.11	0.23	0.11	0.06	0.28	0.20	0.07	0.14			
5 2	余剰空間が生じる意匠操作	該当数	22	0	7	9	4	2	2	2	2	0	2	8	6	0	0	—	○	—
		該当割合	0.10	0.00	0.08	0.11	0.11	0.25	0.06	0.07	0.09	0.00	0.12	0.17	0.24	0.00	0.00			
Eの平均割合		0.11	0.02	0.10	0.11	0.15	0.08	0.09	0.10	0.19	0.04	0.10	0.13	0.16	0.03	0.06	○	○	○	

6-2 各技法の地方性

前節ではC～Eの意匠操作技法が、いずれも北陸に非常に多く、中国地方でも多いことを述べた。他にも、筆者が前章までの様々な技法を分析する中で、立地ごとに民家の性質が大きく異なることを感じた。例えば、内陸部では構造優先で意匠技法が少ない民家が多いが、海岸沿い、特に北前船航路沿では意匠技法が大変多いという印象をもった。その原因はなぜなのだろうか。中央指向という言葉だけでは民家の意匠操作を語れないであろう。民家の立地という視点からこれまで述べた技法をまとめ、立地に着目して分析を行う。そのために、各民家の立地ごとに、海岸沿（海岸と略）、平地、山地の三種に区分する。さらに、海岸沿の中で北前船航路沿（北前と略）の民家とそれ以外の海岸沿の民家（他と略）に区分する。各立地区分は1-4-3に詳述した。

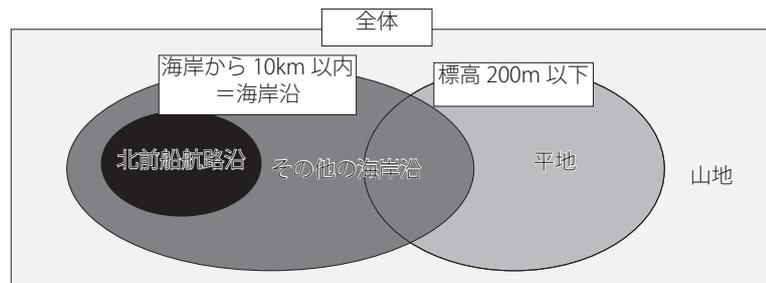


図 6-01 立地区分概念図

前節で分析した技法を立地ごとにまとめたのが下表である。わかりやすくなるように、下表右側に○×の欄を設けた。その列の先頭行に書いた性質に関して、該当するものを「○」、どちらともいえないものを「-」、逆の性質を示すものを「×」とした。例えば、「山地で少数」に「○」がついていれば山地で少ないということで、「×」がついていれば山地では多いということである。「-」がついていればどちらともいえないということである。

まず下表の平面積と座敷節数に着目したい。これらは、民家の財力や意匠のこだわりの程度を反映したものだと考えられる。平面積、座敷節数ともに海岸沿に多く、山地に少ない傾向を示している。海岸沿の内訳を見ると、北前船航路沿で多いことがわかる。

B意匠操作の意識が低い例の平均割合は5種のいずれにも×がついている一方、C～Eの平均割合については、Dの「山地で少数」の列を除いていずれにも○がついていることがわかる。このことから、意匠操作が多い地域は、山地以外で、特に北前船航路沿や北陸であることがわかる。意匠操作が多いのは、時代が下った民家で、中央指向が強いこともわかる。これらから総合して考えると、北前船航路沿の民家は、中央の情報が入りやすく、また先進的な技法が多くみられるともいえるのではないか。このことが、北前船航路で囲まれている中国地方や、北前船船主が著しく多かった北陸地方¹で、意匠技法が多い理由の一つだと考えられる。北前船とは、江戸中期から明治30年代まで大阪と北海道を日本海回りで結んでいた帆船の買積船である。この船を通じて、昆布、塩、瓦、石材、木綿等の各地の特産品が伝搬しただけでなく、民謡や食等の文化も伝搬したとされる（牧野1989年）。直接的な関連性は見だせていないが、このような廻船の遠隔地貿易に伴う民家の技法の伝搬もあったのではなかろうか（「6-4 意匠操作数と家業の関係」でも分析する）。

海岸沿の内訳で、北前船航路沿以外の民家を見ると、平面積や「C各空間形式の順守と強調」の技法において、低い割合を示していることも注目される。北前船以外にも様々な廻船があったのだが、北前船以外の廻船の航路沿の民家では意匠操作が発達していないのだろう。例えば、東海地域や関東地域を通った菱垣樽廻船は、北前船と違い、各寄港地における売買が禁止されていた直送便で、運賃のみで儲けていた。北前船は運賃に加えて荷物とは別に自分で荷を仕入れて各寄港地において売って稼いだ「帆待」による収入が莫大で、菱垣樽廻船の船頭と比べて10倍ほどの儲けがあった²。このような収入の差や個人的な売り買いの有無が、各地での文化伝搬に影響を与えているのではないかと推測しているが、明確ではない。

¹ 中西総一著『海の富豪の資本主義』（名古屋大学出版会、2009.11）

² 加藤貞仁著『海の総合商社 北前船』（無明舎出版、2003.3, pp. 85-91）において以下が指摘されている。菱垣樽廻船の船頭は、運賃のみ払われ年収が40両の固定給である。一方、北前船の船頭は運賃としての年収が3両であるが、荷物とは別に自分で荷を仕入れて各寄港地において売って稼いだ「帆待」による年間収入が、450～500両あった。北前船の船頭の収入は菱垣樽廻船の船頭の収入の10倍以上である。

表 6-06 立地ごとの各種数値 (全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗)

章 節 項	区 分		全国	立地ごと			海岸内訳		立地ごと概要		江戸後 末期に 多い	中央 指向 多い	北陸で 多い	
				海岸	平地	山地	北前	他	山地で 少数	北前船 が多い				
		母数 (棟)												
2 1 2	A	平面積	215	261	214	181	312	174	○	○	○	○	○	
4 1 1	A	座敷飾数	2.9	3.6	2.8	2.4	4.1	2.9	○	○	○	○	○	
3 2 2	B2	座敷の柱間が不均一なもの (半間柱間)	該当数	69	10	28	31	1	9	×	×	×	×	○
			該当割合	0.30	0.17	0.30	0.41	0.03	0.35					
3 4 1	B2	加工斑による五平柱	該当数	53	12	16	25	7	5	×	—	×	—	○
			該当割合	0.23	0.21	0.17	0.33	0.22	0.19					
4 4 5	B1	座敷に梁が見える民家	該当数	76	10	32	34	2	8	×	×	×	—	—
			該当割合	0.33	0.17	0.34	0.45	0.06	0.31					
4 2 2	B2	②指鴨居が大きな柱間にし かないもの	該当数	52	10	18	24	4	6	×	—	×	×	—
			該当割合	0.23	0.17	0.19	0.32	0.13	0.23					
4 5 4	B1	座敷に貫が見えるもの	該当数	52	7	23	22	2	5	×	×	×	×	—
			該当割合	0.23	0.12	0.24	0.29	0.06	0.19					
B (意匠操作の意識が低い例) の平均割合			0.27	0.17	0.25	0.36	0.10	0.25	×	×	×	×	—	
3 3 4	C3	広間の半間指向	該当数	10	5	5	0	5	0	×	○	—	—	○
			該当割合	0.04	0.09	0.05	0.00	0.16	0.00					
3 4 2	C1	太く見せるための五平柱	該当数	35	4	18	13	2	2	—	—	×	×	○
			該当割合	0.15	0.07	0.19	0.17	0.06	0.08					
3 5	C1	狐柱・狐束	該当数	20	9	9	2	9	0	○	○	○	○	○
			該当割合	0.09	0.16	0.10	0.03	0.28	0.00					
4 3	C1	狐鴨居使用	該当数	52	24	21	7	19	5	○	○	○	—	○
			該当割合	0.23	0.41	0.22	0.09	0.59	0.19					
4 2 4	C1	大口口のマグサの意匠的使用	該当数	33	7	22	4	5	2	—	—	—	○	○
			該当割合	0.15	0.12	0.23	0.05	0.16	0.08					
4 4 3	C1	土間梁が著しく太いもの	該当数	50	12	26	12	11	1	○	○	×	○	—
			該当割合	0.22	0.21	0.28	0.16	0.34	0.04					
4 4 3	C1	広間の天井下に梁	該当数	61	15	25	21	11	4	—	○	—	○	○
			該当割合	0.27	0.26	0.27	0.28	0.34	0.15					
4 2 3	C2	片蓋洞差を使用する民家	該当数	27	14	12	1	11	3	○	○	○	—	○
			該当割合	0.12	0.24	0.13	0.01	0.34	0.12					
4 5 5	C2	④間に貫、座敷に貫なしの 例	該当数	47	6	18	20	1	5	—	○	—	—	○
			該当割合	0.21	0.10	0.19	0.27	0.03	0.19					
5 1 2	C2	座敷の軒が区別化されたもの	該当数	57	21	29	7	16	5	○	○	○	○	—
			該当割合	0.25	0.36	0.31	0.09	0.50	0.19					
C (各空間形式の順守と強調) の平均割合			0.17	0.20	0.20	0.12	0.28	0.10	○	○	○	○	○	
2 4 2	D1	座敷柱幅が一様に細いもの	該当数	62	21	26	15	16	5	○	○	○	○	—
			該当割合	0.27	0.36	0.28	0.20	0.50	0.19					
3 2 2	D1	座敷の1間指向(片蓋)	該当数	39	8	18	13	4	4	—	—	○	○	—
			該当割合	0.17	0.14	0.19	0.17	0.13	0.15					
3 2 3	D1	式台1間片蓋	該当数	9	0	5	4	0	0	—	—	—	○	—
			該当割合	0.04	0.00	0.05	0.05	0.00	0.00					
3 2 3	D1	床壁内に柱を見せない	該当数	47	11	24	12	5	6	—	×	○	○	—
			該当割合	0.21	0.19	0.26	0.16	0.16	0.23					
4 2 2	D2	③狭い柱間でも指鴨居がつ くもの(柱勝)	該当数	74	19	32	23	11	8	—	○	○	—	○
			該当割合	0.33	0.33	0.34	0.31	0.34	0.31					
4 2 2	D2	④指鴨居を部屋全長に渡っ て通すもの(指鴨居勝)	該当数	48	11	15	22	9	2	×	○	○	—	○
			該当割合	0.21	0.19	0.16	0.29	0.28	0.08					
4 2 2	D2	⑤指鴨居の成を揃えるもの	該当数	61	17	29	15	12	5	—	○	○	—	—
			該当割合	0.27	0.29	0.31	0.20	0.38	0.19					
4 5 5	D2	広間の四面に貫が見えるもの	該当数	36	10	11	15	8	2	×	○	×	×	○
			該当割合	0.16	0.17	0.12	0.20	0.25	0.08					
D (部材配置と部材幅の均一化) の平均割合			0.21	0.21	0.21	0.20	0.25	0.15	—	○	○	○	○	
2 2 5	E	柱幅5区分以上	該当数	38	14	16	8	10	4	○	○	○	—	○
			該当割合	0.17	0.24	0.17	0.11	0.31	0.15					
3 6	E	柱幅の段階的調整	該当数	29	11	12	6	7	4	○	○	—	—	○
			該当割合	0.13	0.19	0.13	0.08	0.22	0.15					
3 7	E	畳割調整	該当数	17	8	5	4	6	2	—	○	—	—	○
			該当割合	0.07	0.14	0.05	0.05	0.19	0.08					
4 6 1	E	長押成の調整	該当数	14	8	4	2	8	0	○	○	—	×	○
			該当割合	0.06	0.14	0.04	0.03	0.25	0.00					
4 6 2	E	指物成の調整	該当数	23	4	11	8	3	1	—	○	—	—	×
			該当割合	0.10	0.07	0.12	0.11	0.09	0.04					
4 6 3	E	薄鴨居成の調整	該当数	16	8	7	1	6	2	○	○	○	—	○
			該当割合	0.07	0.14	0.07	0.01	0.19	0.08					
5 2 1	E	床の奥行調整があるもの	該当数	36	13	15	8	8	5	○	○	○	○	○
			該当割合	0.16	0.22	0.16	0.11	0.25	0.19					
5 2	E	余剰空間が生じる意匠操作	該当数	22	10	5	7	7	3	—	○	—	○	—
			該当割合	0.10	0.17	0.05	0.09	0.22	0.12					
E (寸法の微調整) の平均割合			0.10	0.15	0.09	0.07	0.20	0.09	○	○	○	○	○	

6-3 意匠操作の数

前章までで述べた意匠操作の中でも意匠的意識がはっきりと読み取れる意匠操作の時代的地域的傾向を本節で分析する。2～5章で詳述した内容と重複する部分もあるが、より俯瞰的な視点で分析する。また、各民家における意匠操作の数を数値化し各時代・各地域でまとめる。それにより、前章までに述べてきた意匠操作全体の時代的地域的傾向を読み取れるとともに、それらの総論を展開できると考えた。意匠操作が多い民家とは、部材幅や部材配置が意匠的によく吟味された民家だと言えよう。また、そのような民家は当時の民家において好まれた意匠を体現した民家だと考えられる。

6-3-1 代表的な意匠操作

前章までで述べた意匠操作の内、意匠的意識がはっきりと読み取れるものとして以下の17点が挙げられる。

表 6-07 明確な意図を持つ意匠操作

意匠操作	分類	章番号	明確な意匠的意図を持つと判断した理由
① 柱幅5区分以上	E	2-2-5	柱幅4区分までは、柱間に応じて柱幅を調整している構造的意識をもつように判断されるものがあり、意匠的意識があるとは必ずしも言えない。しかし、5区分以上は柱間や屋根重量などの構造と関係なく、各空間に合わせて柱幅を変化させる意匠的意識のあるものが多い。
② 座敷柱幅が一様に細いもの	D1	2-4-2	座敷柱の柱幅を細く統一するという明らかな意匠意識がある
③ 柱間束間を1間間隔にするための片蓋柱	D1	3-2-2	片蓋柱という構造的には不利な材を用いることによって、柱間が1間間隔に見えるようにしているので、明らかな意匠意識がある
④ 太く見せるための五平柱	C1	3-4-2	土間や広間において五平柱の太い方をよく見える側に配置している
⑤ 狐柱・狐束	C1 D1 D2	3-5	柱幅や柱材を表と裏で変えるという構造的には不利で施工的には手間のかかる技法である。手間をかけてでも部屋ごとに柱幅や柱材を使い分けようとする明らかな意匠意識がある。
⑥ 2段階以上の柱幅の段階的調整	E	3-6-2 ～3-6-4	柱幅を土間から座敷に向かって、各空間ごとに段階的に変化させる傾向があり、明らかな意匠意識がある。
⑦ 狐鴨居使用	C1 D1 D2	4-3	表と裏で材成が異なるため、各部屋ごとに部材成を使い分けるとともに、各部屋ごとに材成を統一させようとする明らかな意匠傾向がある。
⑧ 大戸口のマグサの意匠的使用	C1	4-2-4	正面の入り口である大戸口のマグサを太く見せるか、そりをつけるという明らかな意匠意識がある。
⑨ 土間梁が著しく太いもの	C1	4-4-3	梁が下から見える土間には太い梁を使い、梁が天井裏に隠れる座敷には細い梁を使うという、明らかな意匠意識がある。
⑩ 片蓋胴差	C2	4-4-5	座敷に太い指物を見せず、細い材だけで揃えようとする明らかな意匠意識がある。
⑪ 指鴨居の成を揃えるもの	D2	4-2-2 ⑥	柱間が広くなるうが狭くなるうが、指鴨居の成を揃える傾向がみられるものであり、指鴨居の成を統一する明らかな意匠的意識がある。
⑫ 広間の四面に貫が見えるもの	D2	4-5-5 4-5-6	広間の4面に貫を見せるという明らかな意匠意識がある
⑬ 長押成の調整	E	4-6-1	長押の成を各部屋ごとに使い分けるといふ明らかな意匠意識がある
⑭ 指物成の調整	E	4-6-2	指物の成を座敷濡縁部だけ細くする傾向や段階的に指物成を変化させるものであり、指物の成を各空間に合わせて調整しようとする明らかな意匠意識がある
⑮ 薄鴨居成の調整	E	4-6-3	土間だけ薄鴨居を若干太くするなど、梁や指物など周囲の太い部材幅と調和させようとする明らかな意匠意識がみられる
⑯ 座敷の軒が区別化されたもの	C2	5-1-2	軒を座敷の外と土間の外とで変えるなど軒を使い分けようとする明らかな意匠意識が見られる
⑰ 床の奥行調整があるもの	E	5-2-1	床の奥行を調整するという明らかな意匠意識が見られる

以上の意匠操作の該当割合を下表にまとめた。各民家における上記の17項目の意匠操作の該当数を「意匠操作数」とし、最下行に意匠操作数の各平均値を掲載した。(表の読み方は1章の「図表の読み方」参照。)

各意匠操作の内、全国的に使用割合が2割を超える高いものは、②座敷柱幅が一様に細いもの、⑦狐鴨居使用、⑨土間梁が著しく太いもの、⑩座敷の軒が区別化されたものであった。逆に使用割合が1割以下の低いものは⑤狐柱・狐束、⑬長押成の調整、⑭指物成の調整、⑮薄鴨居成の調整、であった。

時代ごとにみると、各意匠操作は大方江戸前中期に少なく、江戸後末期に多いことがわかる(明治期は母数が少ないので考慮外とする)。それらの意匠操作の合計である意匠操作数も、時代が下るほど多くなっていくことがわかる。しかし、例外的に江戸前中期の古い時代に多いものがある。それは、④太く見せるための五平柱と、⑫広間の四面に貫が見えるもの、である。これらは山地部に若干多いということから判断しても、技法の古式が残る民家において使われる特殊な意匠操作だと考えられる。⑨土間梁が著しく太いもの、については、江戸前期と末期に多いという特殊な傾向を示す。これは今回研究対象としている重要文化財民家が江戸前期においては近畿に集中しており、近畿は「⑨土間梁が著しく太いもの」の該当数が高い地域であることが原因であろう。

地域ごとにみると、東北においては、①柱幅5区分以上、⑫広間の四面に貫が見えるもの、の割合が高い。①が多いのは、積雪に耐えるために最大柱幅が大きいことが原因であろう。甲信は、④太く見せるための五平柱、が多いが他の意匠操作は少ない。北陸は、いずれの意匠操作も多い傾向があり、特に、⑤狐柱・狐束、⑥2段階以上の柱幅の段階的調整、⑦狐鴨居使用、⑫広間の四面に貫が見えるもの、⑬長押成の調整、⑮薄鴨居成の調整、は全国平均の2倍近くの数値を示し非常に多い。北陸は全地域の中で最も意匠操作が多い地域となっている。東海は殆どの意匠操作が少ないが、④太く見せるための五平柱が非常に多いのが特徴である。近畿においては、意匠操作の該当割合が高いものが多いが、特に、⑧大戸口のマグサの意匠的使用が全国平均の3倍近く、⑨土間梁が著しく太いものが全国平均の2倍近く、と非常に多いことは特筆され、近畿においては土間や外観において材を太く見せる傾向がわかる。他にも、③柱間束間を1間間隔にするための片蓋柱、⑩座敷の軒が区別化されたもの、⑪床の奥行調整があるもの、が非常に多いことから判断して、座敷の意匠を整えようとする意識も強い地域だといえる。中国地方は、⑦狐鴨居使用、⑭座敷の軒が区別化されたもの、⑨土間梁が著しく太いもの、⑩片蓋胴差を使用する民家、が全国平均の2～3倍の割合を示し特徴的である。近畿地方と同様の傾向を示す意匠操作が多いことが特筆され、近畿と中国は近く、瀬戸内海の海上交通でつながっていることが原因として考えられる。四国については、意匠操作が全体的に少なく、全くない意匠操作が17点中7点でほぼ半数を占める。それを反映し、意匠操作数の平均値が1.5点と全地域の中で最も意匠操作数が少ない。九州においては、③柱間束間を1間間隔にするための片蓋柱、⑭指物成の調整、が多いものの、他は標準的か少ない傾向にあった。

地域ごとの傾向をより俯瞰的に眺めると、東国（東北・甲信・北陸・関東・東海）の地域によくみられる意匠操作と、近畿周辺（近畿・中国）によくみられる意匠操作に分かれることに気付く。東国によく見られる意匠操作は、④太く見せるための五平柱、⑫広間の四面に貫が見えるもの、であり、これは古い時代によく見られる意匠操作であることを先述した。逆に言うと、東国は古い意匠操作が使われ続けた地域ということもできるのではないかと。また、近畿周辺（近畿、中国、東海）によく見られる意匠操作は、②座敷柱幅が一様に細いもの、⑤狐柱・狐束、⑧大戸口のマグサの意匠的使用、⑨土間梁が著しく太いもの、⑭座敷の軒が区別化されたもの、⑪床の奥行調整があるもの、であり、近畿周辺においては土間や大戸口廻りを太い材で構成し、座敷においては部材幅等の整った座敷を好んだと言えよう。

立地ごとに見ると、海岸沿で該当割合が高い意匠操作数が多く、山地で該当割合が低い意匠操作が多いことがわかる。海岸沿の内訳をみると海岸沿の平均値を高めているのは北前船航路沿であり、北前船航路沿における該当割合が全国平均と比べて1.2以上に高い意匠操作（下表太字）が17点中13点を占め、意匠操作数の平均値も4.8点と非常に高い。③柱間束間を1間間隔にするための片蓋柱、が少ないが、これは積雪地方なので片蓋柱をあまり使わない傾向にある（3章片蓋柱）ためであろう。山地においては、ほとんどの該当割合が低いものの「⑫広間の四面に貫があるもの」だけが該当割合が高い。⑫は江戸前中期に多い古式な意匠操作であったことによるだろう。

立地ごとの傾向をより俯瞰的に眺めると、北前船航路沿の該当割合が高く、山地や北前船航路以外の海岸部で該当割合が低いものが大半を占めることに気付く。北前船航路沿には意匠操作が多く、山地や北前船航路沿以外の海岸沿には少ないということであろう。

表 6-08 各意匠操作の該当割合と意匠操作数 (全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗)

	全国	時代ごと					地域ごと									立地ごと			海岸内訳	
		江戸前	江戸中	江戸後	江戸末	明治	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	海岸	平地	山地	北前	他
母数(棟)	227	13	86	85	35	8	33	28	22	18	17	47	25	15	22	58	94	75	32	26
割合																				
① 柱幅5区分以上	0.17	0.08	0.16	0.18	0.23	0.00	0.21	0.18	0.32	0.06	0.12	0.17	0.28	0.00	0.05	0.24	0.17	0.11	0.31	0.15
② 座敷柱幅が一樣に細いもの	0.27	0.15	0.19	0.25	0.57	0.38	0.21	0.39	0.27	0.11	0.00	0.40	0.36	0.07	0.32	0.36	0.28	0.20	0.50	0.19
③ 柱間束間を1間間隔にするための片蓋柱	0.18	0.08	0.15	0.16	0.26	0.50	0.15	0.21	0.18	0.00	0.24	0.28	0.04	0.00	0.36	0.14	0.19	0.17	0.13	0.15
④ 太く見せるための五平柱	0.15	0.15	0.21	0.14	0.09	0.00	0.15	0.25	0.23	0.39	0.18	0.09	0.04	0.13	0.05	0.07	0.19	0.17	0.06	0.08
⑤ 狐柱・狐束	0.09	0.00	0.02	0.18	0.09	0.00	0.06	0.00	0.18	0.06	0.12	0.13	0.16	0.07	0.00	0.16	0.10	0.03	0.28	0.00
⑥ 2段階以上の柱幅の段階的調整	0.13	0.00	0.16	0.12	0.14	0.00	0.09	0.14	0.27	0.06	0.29	0.17	0.08	0.00	0.00	0.19	0.13	0.08	0.22	0.15
⑦ 狐鴨居使用	0.23	0.15	0.09	0.29	0.46	0.13	0.24	0.04	0.41	0.06	0.29	0.15	0.44	0.27	0.27	0.41	0.22	0.09	0.59	0.19
⑧ 大戸口のマグサの意匠的使用	0.15	0.08	0.17	0.15	0.11	0.00	0.00	0.00	0.14	0.06	0.18	0.40	0.20	0.00	0.09	0.12	0.23	0.05	0.16	0.08
⑨ 土間梁が著しく太いもの	0.22	0.31	0.23	0.20	0.26	0.00	0.15	0.11	0.23	0.06	0.24	0.38	0.48	0.00	0.09	0.21	0.28	0.16	0.34	0.04
⑩ 片蓋胴差を使用する民家	0.12	0.00	0.06	0.12	0.26	0.38	0.06	0.00	0.18	0.00	0.18	0.09	0.36	0.13	0.14	0.24	0.13	0.01	0.34	0.12
⑪ 指鴨居の成を揃えるもの	0.27	0.08	0.17	0.29	0.49	0.38	0.21	0.14	0.27	0.06	0.12	0.45	0.28	0.40	0.32	0.29	0.31	0.20	0.38	0.19
⑫ 広間の四面に貫が見えるもの	0.16	0.23	0.20	0.14	0.11	0.00	0.27	0.14	0.36	0.17	0.12	0.11	0.08	0.00	0.14	0.17	0.12	0.20	0.25	0.08
⑬ 長押成の調整	0.06	0.00	0.03	0.12	0.03	0.00	0.03	0.07	0.27	0.06	0.06	0.02	0.08	0.00	0.00	0.14	0.04	0.03	0.25	0.00
⑭ 指物成の調整	0.10	0.00	0.08	0.06	0.31	0.00	0.12	0.14	0.05	0.06	0.00	0.09	0.12	0.13	0.18	0.07	0.12	0.11	0.09	0.04
⑮ 薄鴨居成の調整	0.07	0.00	0.02	0.09	0.14	0.13	0.03	0.04	0.18	0.00	0.06	0.09	0.12	0.07	0.05	0.14	0.07	0.01	0.19	0.08
⑯ 座敷の軒が区別化されたもの	0.25	0.08	0.20	0.32	0.31	0.13	0.15	0.18	0.27	0.06	0.24	0.40	0.48	0.13	0.14	0.36	0.31	0.09	0.50	0.19
⑰ 床の奥行調整があるもの	0.16	0.08	0.15	0.19	0.14	0.13	0.09	0.11	0.23	0.11	0.06	0.28	0.20	0.07	0.14	0.22	0.16	0.11	0.25	0.19
平均意匠操作数	2.8	1.5	2.3	3.0	4.0	2.1	2.2	2.1	4.0	1.3	2.5	3.7	3.8	1.5	2.3	3.5	3.0	1.8	4.8	1.9

6-3-2 意匠操作数の詳細分析

では、それらの意匠操作の合計である意匠操作数に焦点を絞って述べていく。この意匠操作数は、各民家において意匠が吟味された割合を知る指標の一つとなるだろう。³

① 意匠操作数の時代による推移

各民家の意匠操作の数は下表のように、全国平均では2.8点で、最大は11点、最少は0点であった。時代的には江戸前期から江戸末期にかけて増え続ける。地域ごとには北陸、中国、近畿の順が多い。近畿が一番でないことは通常の認識と異なるだろう。少ないのは関東、四国である。幕府のあった関東において意匠操作数が最も少ないことは特筆される。立地ごとにみると、海岸が3.5点で多く、山地は1.8点と非常に少ない。海岸沿の内訳をみると、北前船航路沿が4.8点と非常に多く、すべての区分の中で最高の点数である。対して、他の海岸沿では1.9点と山地と同様に非常に少ない。

各地域・各立地の時代的推移について、全国平均の1.2倍である3.4点以上の時代(下表の太字)を主にみていく。ただし、江戸前期と明治期の重要文化財民家は母数が少ないため誤差が大きく、あまり考慮しないことにする。

・江戸中期

江戸中期に3.4点を越える(下表の太字)のは近畿地方だけである。近畿地方は江戸前期の1.5点から中期の4.5点へと著しい伸びをみせるものの、それ以降は少し減少し、失速している。近畿は意匠操作の先進的地域だといえる。中国地方や平地でも江戸前期から中期にかけて大きく伸びる。中国地方と近畿地方の意匠的類似性がわかる。

・江戸後期

江戸後期に初めて3.4点を越える(下表の太字)のは、北陸、中国、海岸沿、北前船航路沿であった。中でも、北陸は江戸中期の2.0点から後期の5.8点へと3倍近くの著しい伸びを見せ、全時代全地域を通して最も意匠操作数が多い。北前船航路沿も同様の傾向を見せる。この北陸と北前船航路沿の共通性は、北前船船主が北陸に多く、北前船が江戸後期に著しく発展する(中西2009年)ことと関連する可能性がある。また、江戸中期から江戸後期に向かって意匠操作が大きく伸びる地域が、北陸、甲信、東海であり、これらの地域は近畿周辺または北前船航路などでつながりがあった地域であり、その様な地域は江戸後期に意匠操作が発達すると考えられる。

・江戸末期

江戸末期に3.4点を越える(下表の太字)のは、東北、四国、九州、山地、北前船航路沿以外の海岸沿であり、意匠操作が多くなる時期が遅い。中でも東北は江戸後期の1.8点から末期の5.4点へと著しい伸びを見せる。山地では3.4点には満たないが、江戸末期に大きく意匠操作が増える。これらの地域は近畿と離れたつながりが薄い地域であり、そのような地域では江戸末期という遅い時期に急激に意匠操作が発達するといえる。

・まとめ

意匠操作数は、ほとんどの地域で時代が下るほど意匠操作数が増える傾向があるが、地域によって増え始める時期が異なる。近畿や中国は江戸中期に意匠操作数が増える先進地域である。江戸後期には、近畿に近い地域(東海、中国)や北前船航路でつながった地域(北陸、北前船航路沿)が増える。江戸末期には、近畿から遠い地域(東北、山地、北前船航路以外の海岸沿)で意匠操作が増える。近畿において他地域に見られるような江戸後末期に見られる意匠操作の増加がみられないことも特筆される。つまり、近畿の意匠操作数は江戸中期でピークに達した後、伸び悩むのである。関東においてはいずれの時代も1.5点以下で意匠操作が非常に少ない。関東には江戸幕府があるにもかかわらず意外だが、江戸に残る民家が少ないことによるかもしれない。

以上のように、意匠操作の文化は近畿を中心として、時代が下るほどが伝搬していくことがわかる。北前船航路沿の民家で江戸後期から意匠操作が増えることは、北前船の物資輸送が江戸後期から盛んになる(牧野1989)のと時代的に一致していることから、意匠操作と北前船がなんらか関連する可能性がある。ただし直接的な原因はわかっていないので再検証が必要である。しかしながら、近畿は他地域に見られるような江戸後期の伸びが見られないことも注目される。これは、大阪等の近畿の商人が17世紀に成長するものの、その後は北前船の商人の勢いに押されて衰退していくこと(杉山2012年)と時代的に大方一致する。

意匠操作の多い、つまりは意匠に強いこだわりをもって建てられた民家の中心は、近畿だと考えられる。その文化が、江戸後期ごろに近畿の周囲や平地や近畿と北前船でつながった地域に広がっていき、江戸末期には全国に伝搬し

³ ただし、筆者が現地でも確認していない民家で報告書の記述が十分でない民家については、意匠操作が見つからない場合もあるだろう。そのような民家については、実際よりも意匠操作数が低くなっているものもある。そのような資料的制約による不正確性をあらかじめ断っておきたい。

た。北前船航路沿の意匠操作が最高値（4.8点）をとっていることは、特筆される。意匠操作は、北前船などの遠隔地交易や経済成長と、間接的な関係性の可能性が考えられる（240ページの「6-4 意匠操作数と家業の関係」で詳しく分析する）。ただし、よく使用される意匠操作は各地域ごとに異なり、近畿の意匠操作がそのまま周辺に伝播したわけではない。

表 6-09 意匠操作の数（全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗、無=対象民家なし）

	全国			地域ごと									立地ごと			海岸内訳		備考
	平均	最大	最小	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	海岸	平地	山地	北前	他	
全時代	2.8	11	0	2.2	2.1	4.0	1.3	2.5	3.7	3.8	1.5	2.3	3.5	3.0	1.8	4.8	1.9	
江戸前	1.5			無	1.5	無	0.0	無	1.5	2.0	無	無	1.0	2.0	1.3	1.0	無	母数が少ないので誤差大きい
江戸中	2.3			1.5	1.3	2.0	1.5	2.0	4.5	3.3	0.5	0.5	2.1	3.1	1.5	3.0	1.7	
江戸後	3.0			1.8	3.1	5.8	1.5	2.9	3.6	3.8	1.5	1.6	4.0	3.1	1.7	5.2	1.6	
江戸末	4.0			5.8	4.0	4.3	0.0	2.5	3.8	5.5	3.7	3.5	4.7	4.4	3.0	5.4	3.5	
明治	2.1			2.5	2.0	無	無	2.0	5.0	無	1.0	1.0	2.7	1.8	2.0	5.0	1.5	母数が少ないので誤差大きい

以上の傾向は下図左のグラフでも明らかである。全国的には、時代が下るほど意匠操作が増える傾向にあるが、江戸中期に大きく増えるのは近畿だけである。江戸後期に大きく増えるのは北陸で、江戸末期に大きく増えるのは、東北と四国と九州である。また、右下の散布図を見ると、ばらつきは大きいものの、意匠操作数が明治時代を除いて時代下るほど多くなるのがわかる。

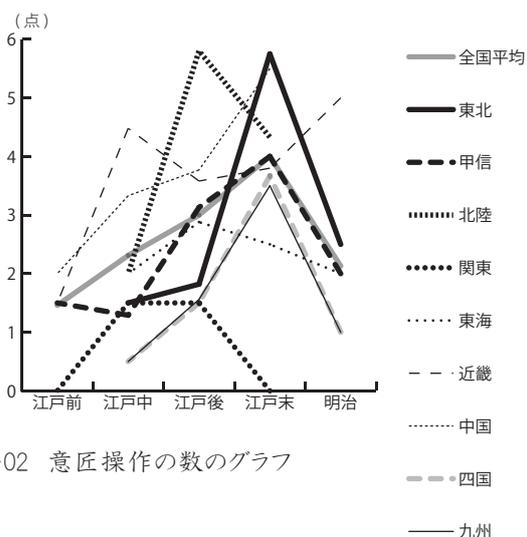


図 6-02 意匠操作の数のグラフ

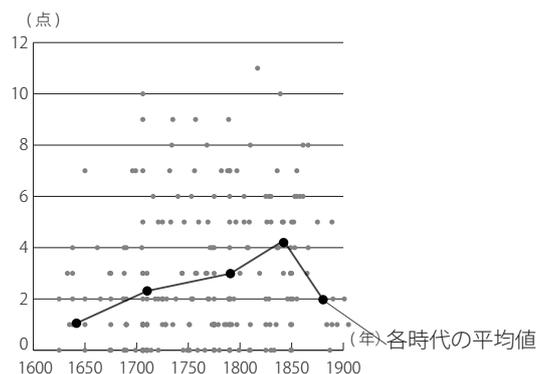


図 6-03 意匠操作の数の散布図

②意匠操作数の多い民家と少ない民家の位置

意匠操作が多い民家はどのようなところに分布しているのだろうか。仮に全国平均の2倍近くである5点以上の意匠操作数を持つ民家を見る。下表のように、全国的には0.26の割合で存在する。時代ごとには江戸前期から江戸末期にかけて割合が高くなる。地域ごとには、北陸、近畿、中国、北前船航路沿に多い。中でも北前船航路沿や北陸では、大半の民家が該当することが注目される。関東や四国や山地にはほとんど存在しない。

北前船航路との関連性が最も顕著であった狐鴨居のある民家の地図を下図右に掲載する。狐鴨居を使用する民家は、北前船航路沿いに非常に多く、菱垣樽廻船等が頻繁に往来した太平洋側には極端に少ない。

表 6-10 意匠操作数が5点以上の民家 (全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗)

	全国	時代ごと					地域ごと							立地ごと			海岸内訳			
		江戸前	江戸中	江戸後	江戸末	明治	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	海岸	平地	山地	北前	他
母数(棟)	227	13	86	85	35	8	33	28	22	18	17	47	25	15	22	14	16	8	10	4
該当数(棟)	59	0	16	25	16	2	8	5	11	1	3	17	10	0	4	22	28	9	19	3
該当割合	0.26	0.00	0.19	0.29	0.46	0.25	0.24	0.18	0.50	0.06	0.18	0.36	0.40	0.00	0.18	0.38	0.30	0.12	0.59	0.12



図 6-04 意匠操作数が5以上の民家



図 6-05 狐鴨居のある民家

意匠操作が全くない民家は下表のように、全国には2割ほどの割合で存在する。時代ごとには江戸前中期に割合が高いが、江戸後期に減少し始める。地域・立地ごとには、東北、関東、四国、山地、北前船航路以外の海岸沿の割合が高い。割合が低いのは東海、近畿、中国、九州、海岸沿、北前船航路沿である。

表 6-11 意匠操作が全くない民家 (全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗)

	全国	時代ごと					地域ごと							立地ごと			海岸内訳			
		江戸前	江戸中	江戸後	江戸末	明治	東北	甲信	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	海岸	平地	山地	北前	他
母数(棟)	227	13	86	85	35	8	33	28	22	18	17	47	25	15	22	14	16	8	10	4
該当数(棟)	50	4	25	16	4	1	12	6	5	6	2	7	3	6	3	9	19	22	1	8
該当割合	0.22	0.31	0.29	0.19	0.11	0.13	0.36	0.21	0.23	0.33	0.12	0.15	0.12	0.40	0.14	0.16	0.20	0.29	0.03	0.31

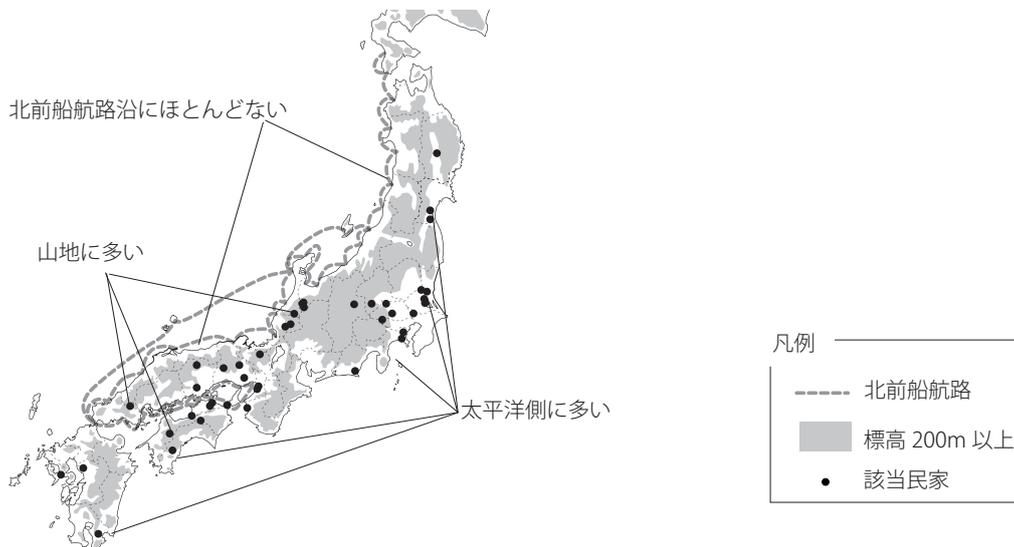


図 6-11 意匠操作がない民家

③意匠操作数が多い都道府県と少ない都道府県

意匠操作が多い都道府県はどこだろうか。各都道府県ごとに意匠操作数の平均をまとめた。

意匠操作数の平均が最も多いのは新潟で、次に京都、福岡、栃木が続く。上位にはほとんどが北前船航路沿の都道府県が並ぶ。

一方、平均が最も低いのは長崎、香川で0点だが、対象民家が少ないため誤差が大きいだろう。岩手は9棟と多数の研究対象民家がありつつも、0.8点と低い数値を示していて、意匠操作が非常に少ない県だと言えよう。兵庫、神奈川、岩手であった。

では、意匠操作の多い都道府県はどのあたりに分布しているのだろうか。意匠操作数の全国平均が2.8点なので、その1.2倍（1-3-6図表の読み方で「多い」と定義した範囲）の3.3点以上の都道府県を灰色で塗り、2.8点の1.5倍（1-3-6図表の読み方で「非常に多い」と定義した範囲）の4.2点以上の都道府県を濃い灰色で塗った。意匠操作が多い都道府県は、北前船航路沿と近畿に多いことが特筆される。

例えば、秋田は秋田杉を北前船を通じて運んだことが知られる⁴。広島県は鞆が瀬戸内海のほぼ中央にあって潮の流れがぶつかる位置にあり、潮の満ち引きがもたらす潮の流れを利用することで波待ちのための主要な港であった。広島の鞆の中村家（現在の太田家）は保命酒を福山藩の名酒として独占的に販売する権利を得ていた。その保命酒は京都で売られ、新潟の佐渡にもその保命酒専用の布袋徳利が残っているなど、北前船を通じて全国各地に伝搬したことで知られる⁵。滋賀県には近江商人が存在し、近江商人が北海道の蝦夷地との遠隔地交易を行う荷所船を江戸前期から行っており、これが北前船の先駆けである。近江商人は江戸・京都・大阪などへも出店しており、全国につながりがあった⁶。本論文で取り上げた西川家も近江商人の一人である。このように意匠操作数の平均が非常に多い都道府県のほとんどが北前船と密接な関係にあることも特筆されよう。ただし、栃木においても非常に意匠操作が多いが、その理由は不明である。今後の課題としたい。逆に意匠操作が平均以下の都道府県は太平洋側が多い。具体的には、東北の東側、南関東、東海、四国、九州南部である。

意匠操作数が多い民家の一覧を地図にしたのが下図である。意匠操作が多い民家は、近畿・北前船航路沿にある民家がほとんどであることが分かる。太平洋側には少ないが、栃木に多いことは特筆される。民家の意匠操作と北前船とが密接に関連していることを示唆する。

表 6-17 都道府県ごとの意匠操作数

平均（意匠操作数順に並べた）

県名	対象民家数	意匠操作数	県名	対象民家数	意匠操作数
三重	1	7.0	佐賀	5	2.2
滋賀	3	6.3	北海道	3	2.0
新潟	5	5.0	徳島	5	2.0
京都	7	4.9	岐阜	10	1.9
福岡	4	4.8	埼玉	7	1.9
栃木	5	4.6	高知	3	1.7
石川	5	4.4	長野	5	1.6
広島	6	4.3	東京	2	1.5
山口	6	4.3	愛媛	6	1.5
秋田	7	4.3	沖縄	2	1.5
和歌山	6	4.0	福島	4	1.3
島根	4	4.0	群馬	6	1.2
大阪	10	3.6	茨城	4	1.0
福井	6	3.5	千葉	4	1.0
奈良	17	3.4	熊本	2	1.0
富山	6	3.3	宮崎	2	1.0
山梨	5	3.2	鹿児島	2	1.0
岡山	5	3.2	岩手	9	0.9
青森	3	3.0	神奈川	4	0.8
鳥取	2	3.0	兵庫	4	0.8
大分	4	3.0	香川	2	0.0
愛知	3	2.7	長崎	1	0.0
山形	3	2.3			
宮城	4	2.3			
静岡	4	2.3			

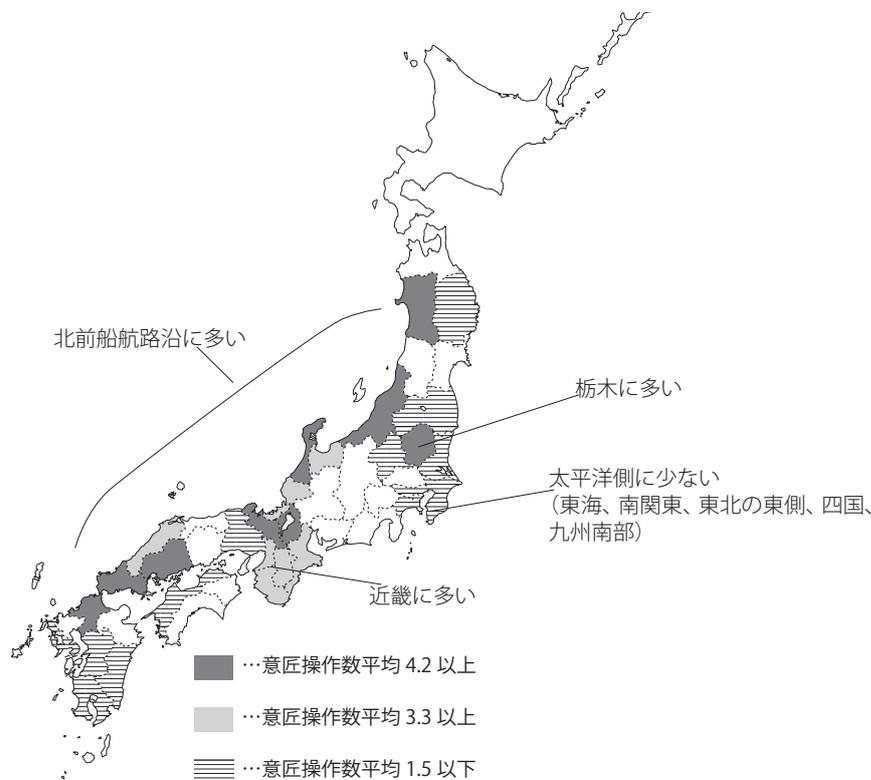


図 6-06 都道府県ごとの意匠操作数

4 加藤貞仁著『北前船と秋田』（無明舎出版、2005.1）

5 福山市教育委員会編『鞆の伝統産業』（福山市教育委員会、1979.3）

福山市教育委員会編『江戸末期からの鞆皿山焼』（福山市教育委員会、2009.10）

6 近江八幡市史編集委員会編『近江八幡の歴史 第五巻 商人と商い』（近江八幡市、2012.3, p.54-55）

6-3-3 意匠操作数と関連性の高い数値

意匠操作数とどのような数値が関連性が高いのだろうか。それを分析するために前章までで述べた数値と意匠操作数との相関係数をとる。相関係数が高いのは下表のように柱幅区分数と座敷飾数と平面積であった（相関係数を求めるのに使用した各種数値については巻末の一覧表-28を参照）。

表 6-12 意匠操作数との相関係数が高い数値

	平面積 (㎡)	座敷飾数	柱幅区分数
相関係数	0.52	0.62	0.67

相関係数が高い3つの数値について、意匠操作数に応じた平均をとったのが下表である。平面積、座敷飾数、柱幅区分数についてはいずれも、意匠操作数が多い民家程数値が高く、意匠操作数の少ない民家程数値が低いことがわかる。これらのことは下の散布図によってもわかる。よって、意匠操作数が多い民家は、概して平面積が大きく、座敷飾りが整い、柱幅区分数が多い民家だと言えよう。意匠操作数が少ない民家は、概して平面積が小さく、座敷飾りが整っておらず、柱幅区分数が少ない民家だと言える。

表 6-13 意匠操作数と平面積等との関係（全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗）

	平面積 (㎡)	座敷飾数	柱幅区分数
意匠操作が5点以上の家の平均	337	4.6	4.9
全国平均	215	2.9	3.3
意匠操作がない家の平均	137	1.5	2.3

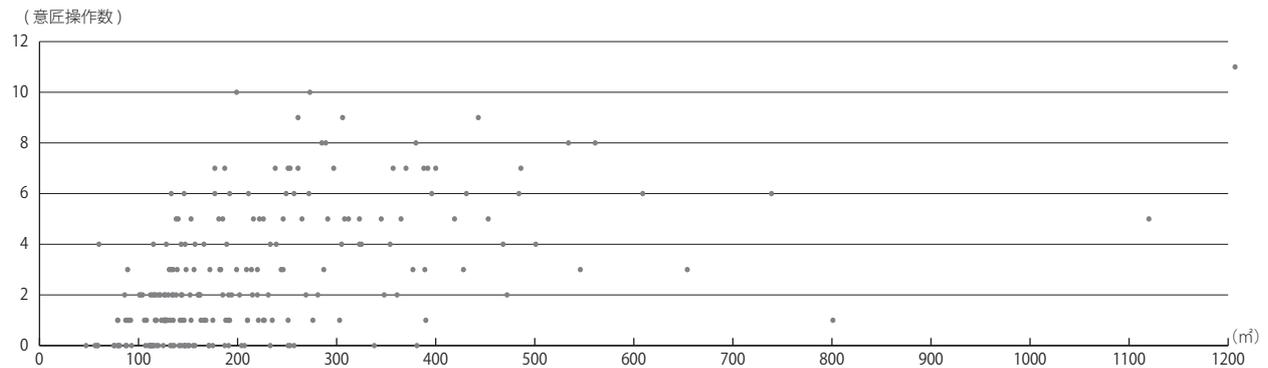


図 6-07 平面積と意匠操作数

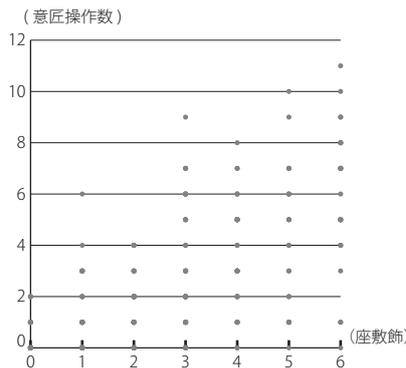


図 6-08 座敷飾数と意匠操作数

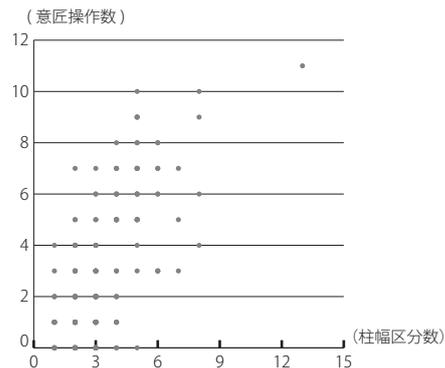


図 6-09 柱幅区分数と意匠操作数

以上の平面積、座敷飾数、柱幅区分数の多い都道府県を一覧表にし、それぞれの全国平均の1.2倍程度以上を薄い灰色に、1.5倍程度以上を濃い灰色にした。意匠操作数と大方同じ傾向があり、北前船航路沿と近畿に多く、太平洋側に少ない傾向がある。

表 6-18 都道府県ごとの平面積平均

(平面積順に並べた)

県名	対象 民家	平面積	県名	対象 民家	平面積
新潟	5	657	山口	6	195
秋田	7	305	福岡	4	193
鳥取	2	295	静岡	4	192
青森	3	293	岩手	9	191
滋賀	3	282	沖縄	2	186
岐阜	10	269	奈良	17	177
広島	6	265	茨城	4	174
三重	1	261	愛知	3	168
大阪	10	261	大分	4	161
石川	5	258	佐賀	5	157
山形	3	254	神奈川	4	147
山梨	5	247	熊本	2	137
和歌山	6	243	埼玉	7	136
富山	6	243	東京	2	136
兵庫	4	242	北海道	3	134
岡山	5	236	千葉	4	133
栃木	5	232	福島	4	125
宮城	4	232	高知	3	121
島根	4	227	徳島	5	120
群馬	6	219	鹿児島	2	111
長野	5	214	宮崎	2	109
愛媛	6	214	香川	2	94
京都	7	210	長崎	1	79
福井	6	201			

表 6-19 都道府県ごとの座敷飾数平均

(意匠操作数順に並べた)

県名	対象 民家数	座敷飾 数	県名	対象 民家数	座敷飾 数
新潟	5	5.0	沖縄	2	3.0
山口	6	5.0	広島	6	2.8
鳥取	2	4.5	茨城	4	2.8
滋賀	3	4.3	山形	3	2.7
石川	5	4.0	奈良	17	2.6
三重	1	4.0	東京	2	2.5
和歌山	6	3.8	福井	6	2.5
愛媛	6	3.8	愛知	3	2.3
山梨	5	3.8	高知	3	2.3
青森	3	3.7	静岡	4	2.3
長野	5	3.6	群馬	6	2.0
大阪	10	3.6	徳島	5	2.0
秋田	7	3.6	熊本	2	2.0
京都	7	3.6	大分	4	2.0
佐賀	5	3.4	埼玉	7	1.9
島根	4	3.3	神奈川	4	1.8
福岡	4	3.3	宮崎	2	1.5
岐阜	10	3.2	岩手	9	1.2
岡山	5	3.2	兵庫	4	1.0
富山	6	3.2	香川	2	1.0
北海道	3	3.0	長崎	1	1.0
栃木	5	3.0	宮城	4	0.8
千葉	4	3.0	福島	4	0.5
鹿児島	2	3.0			

表 6-20 都道府県ごとの柱幅区分数平均

(意匠操作数順に並べた)

県名	対象 民家	柱幅区 分数	県名	対象 民家	柱幅区 分数
宮城	4	5.5	神奈川	4	3.0
秋田	7	5.5	佐賀	5	3.0
山形	3	5.5	岩手	9	2.7
新潟	5	5.5	群馬	6	2.7
滋賀	3	5.3	岐阜	10	2.5
栃木	5	4.8	島根	4	2.5
鳥取	2	4.5	宮崎	2	2.5
大阪	10	4.1	東京	2	2.5
茨城	4	4.0	奈良	17	2.4
三重	1	4.0	高知	3	2.3
岡山	5	4.0	福岡	4	2.3
広島	6	4.0	大分	4	2.3
熊本	2	4.0	福島	4	2.3
山梨	5	3.8	千葉	4	2.3
石川	5	3.8	兵庫	4	2.3
静岡	4	3.8	愛媛	6	2.3
京都	7	3.7	山口	6	2.2
愛知	3	3.7	徳島	5	2.0
富山	6	3.5	香川	2	2.0
福井	6	3.5	長崎	1	2.0
和歌山	6	3.5	北海道	3	1.5
長野	5	3.4	沖縄	2	1.5
青森	3	3.3	鹿児島	2	1.0
埼玉	7	3.0			



図 6-14 都道府県ごとの平面積



図 6-12 都道府県ごとの座敷飾数

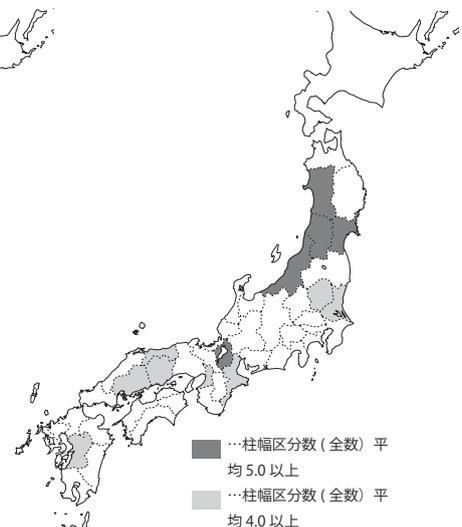


図 6-13 都道府県ごとの柱幅区分数

6-4 意匠操作数と家業の関係

前節において、意匠操作数によって各時代・各地域の全体傾向についてまとめ、意匠操作数と立地や北前船航路との関係を述べた。そのような意匠操作数と立地や交易との関連性を本節においてより詳しく分析する。「6-4-1 遠隔地との交易を営んだ家」「6-4-2 その他の家業」で意匠操作数の多い民家の歴史的背景を、「6-4-3 遠隔地交易による建築技術伝搬の具体的事例」で交易による文化伝搬の事例を述べる。

分析に入る前に、職業別の意匠操作数を述べる。下表のように、村役人（大庄屋、庄屋、名主、十村等）、遠隔地商人（遠隔地との交易をおこなったことがわかるもの）、商人（遠隔地商人も含む）、武士の4つの職種に分けた。職業が判明していない民家が多いことと、遠隔地商人が村役人でもあるなど重複もあることに注意されたい。

武士は全国平均を大きく下回っていて、意匠操作が発達していないことがわかる。意匠操作数が多いのは、遠隔地商人、商人、村役人の順である。特に遠隔地商人は全国平均の2倍を超え、著しく意匠操作が多い。「6-3 意匠操作の数」によって、北前船航路沿と意匠操作数との関係の可能性を指摘したが、その北前船航路を積極的に利用した遠隔地商人は意匠操作数が多いということである。交易と意匠操作のなんらかの関連の可能性がわかる。交易に必然的に伴う人同士の様々な文化交流や財力の蓄積が意匠に影響しているのではないか。交易先の客人との交渉を行うような意匠の整った座敷が商人にとっては必要だったとも推測される。本節では特に遠隔地商人に注目して述べていくことにする。

表 6-14 職業別意匠操作数（全国平均×1.2以上→太字、全国平均×0.8以下→灰色塗）

	村役人	遠隔地商人	商人	武士
該当数（棟）	88	11	49	5
割合	0.39	0.05	0.22	0.02
意匠操作数平均	3.4	6.3	4.2	1.6

6-4-1 遠隔地との交易を営んだ家

遠隔地との交易を営んだことが分かる重要文化財民家を、下表（表 6-15 遠隔地交易を営んだ家一覧）にまとめた。廻船業関係であることが分かれば遠隔地交易の明確な記録がなかったとしてもこの表に含めた。廻船業以外であっても遠隔地との交易の記録がある場合はこの表に含めた。

表 6-15 遠隔地交易を営んだ家一覧

県名	建物名	年代	年代区分	意匠操作数	平面積 (㎡)	座敷飾数	柱幅区分数	備考
新潟	渡辺	文化14	江戸後	11	1207	13	13	北前船史上に名を残す船主であり、大阪等とも交易を行った。廻船業によって大きな利益を上げ、大名貸も行い、大庄屋や勘定頭格等の破格の待遇を受けた。（報告書 pp. 4-7, 日本ナショナルトラスト pp.12-13）
滋賀	西川	宝永3	江戸中	10	273	8	8	遠隔地商人の代表ともいえる近江八幡の商人の内の一人で、江戸前期に江戸店等各地に出店しており幕府の御用達を勤めた。江戸中期という早い時期に近畿で経済が発展することと、意匠操作が多くなることの間接的な関連性が見られる好例である。（報告書 pp.1-5）
石川	喜多	19	江戸初	8	534	5	5	宝暦頃から商人地主として活動し、北前船を所有していた時代もある。十村役（大庄屋）を務めるとともに、加賀藩の陣屋を兼ねていた。
山口	熊谷	明和5	江戸後	8	285	4	4	萩藩の御用達として、米の仲買、塩田開墾、鉱山、捕鯨、海運等様々な商売を手掛けた。熊谷家は来萩する文人・茶人・学者などが来遊する社交の場であったとされ、藩主もしばしばお忍びで来られた。（報告書 p.21）
石川	時国	宝暦6	江戸後	7	357	6	6	江戸前期という早い時代から廻船業を行っていた。3艘の船を持ち、大津・京都・大阪と交易を行っていた。塩田による製塩、炭を売るだけでなく、金融業を営む等多角的企業家であった。（網野 2005年）
島根	佐々木	天保7	江戸末	7	253	3	3	寛政3年に118石積の船を持ったという記録が残り、廻船業を営んでいた。（報告書 p.2）
佐賀	西岡	安政2	江戸末	7	238	4	4	文化7年頃から塩田や陶器商で商いを営んでおり、以後幕末にかけて肥後、下関、などへ度々往来し、塩などを荷揚げした記事が散見される。（報告書 p.2）
広島	太田	18	江戸C中	6	175	5	3	江戸時代には薬酒である保命酒の他、各種の酒造を営んだ。福山藩の御用酒として全国に名が売れていて、朝鮮通信使や三条美里も愛飲したと伝わる。江戸時代には中村家が所有していたが、明治期に廻船業を営んでいた太田家が入手した（報告書 pp.5-6）。保命酒の容器は布袋のついた布袋徳利という特徴的なもので、これが新潟の佐渡、京都、江戸でも発見され、全国に運ばれた（鈴木重治 2009年）
鳥取	後藤	正徳4	江戸中	3	381	3	×	鳥取藩の海運の中心地であった米子において、数隻の船を所有し、代々廻船問屋を営んでいた富裕な商家であった（報告書 p.1）。少なくとも宝暦10年（1760）には廻船業を始めている（新修米子市史）。

県名	建物名	年代	年代区分	意匠操作数	平面積 (m ²)	座敷飾数	柱幅区分数	備考
徳島	田中	元治2	江戸末	3	182	×	4	寛永頃に藩の招きにより播磨の国から藍作の指導者として阿波国にすんだ。田中家は藩から豊後を販売地に指定され、藍玉を豊後に売り、帰りは畳表等九州の特産品を仕入れ販売した。その他に金融業や地主として常に百人の人々を雇い、文化から明治中期が全盛期であった。読み書きそろばんや茶の湯、生け花を教え、庭では剣道、柔道を行い、文武両道渡って教育文化の面でも地方発展に寄与していた。(報告書 pp.1-2)
和歌山	谷山	寛延2	江戸中	0	110	1	1	谷山家の所在する下津は、漆器、米麦、みかん、材木などを九州、東海、江戸などに運んでいた海運業の要地であった。この下津において代々海運と漁業を営んだ住宅である(報告書 pp.65-66)



図 6-10 本節で取り上げる民家一覧

上表(表 6-15)に掲げた遠隔地交易を営んだ民家の平均値と、全国平均値を下表にまとめた。遠隔地交易を営んだ家は、全国平均と比べて、意匠操作数、平面積、座敷飾数、柱幅区分数がいずれの数値も非常に高く、平均の約 2 倍である。渡辺家は北前船史上に名を残すほど大きな利益をあげた民家であり、そのような遠隔地の交易の大成功者の家において意匠操作数が全国 1 位であることは特筆される。また、全国 2 位が、その北前船の先駆である荷所船を行なった近江商人の一人である西川家(西川家自身は荷所船に関わった記録はなく、他の近江商人が荷所船を行なった記録はある)であることも何らかの関連性があるだろう。ただ、意匠操作数が平均を下回っている民家もある。和歌山の谷山家は意匠操作が全くないが、江戸中期という早い時代のものであり、まだ廻船業が最盛期を迎えていない時期だからではないか。

表 6-16 遠隔地との交易を行った民家の平均と全国平均の比較

	意匠操作数	平面積 (m ²)	座敷飾数	柱幅区分数
遠隔地交易を営んだ民家の平均=A	6.3	363	4.7	5.2
全国平均=B	2.8	215	2.9	3.3
A÷B	2.3	1.7	1.6	1.6

以上により、遠隔地交易を営んだ民家は概して意匠操作数が多いことがわかった。つまりは遠隔地交易と意匠とが密接に関係しているということであろう。それらの民家の家業について、詳細が分かる渡辺家、西川家、時国家、熊谷家、中村家の家業について以下に述べる。いずれの家も、物質的な交易だけでなく、文化交流を行い、文化的なレベルが高いことがわかる。特記無い限り各修理工事報告書を参考にした。

① 渡辺家 (11 点)

渡辺家(新潟, 報 085, 文化 14=1817)は、初代は村上城主松平大和守家臣・郡奉行をつとめていたが、隠

居のために寛文7年(1667)に渡辺家の現在の所在地である新潟県下関村に移住した。二代目から大阪との通商・廻船業を開始し、三代目の享保11年(1726)頃に急成長し、天明年間(1781-89)以降は発展が著しかったと言われる。北前船史上に名を残す船主である(加藤 p.167)。この期間に新田開発・土地の購入を行い、嘉永期には所有石高3800石の大地主となり、大庄屋を務め、苗字帯刀が許され、米沢藩の勘定頭格となり、大名貸しを行うなど繁栄を極めた。歴代の当主は俳諧や茶道などにも造詣が深い人が多く、伊勢や讃岐で遊んだと伝わる。(報085 pp. 4-7, 日本ナショナルトラスト pp.12-13)

この最盛期に建てられた渡辺家は、平面積は1207㎡と日本最大を誇り(2章平面積参照)、意匠操作数も全国最多である。内部の細長い土間からみる広間は巨大でありながらも柱などに透漆塗が施されるなど洗練されたつくりで、座敷は部材の細い華奢で洗練された空間である。意匠操作についても、柱幅の段階的調整が日本最多の5段階みられ、柱幅だけでなく長押成も段階的に変化しているなど、全体構成から細部技法までこだわりつくされている。

②西川家(10点)

近江八幡は豊臣秀次が天正13年(1585)に開かれた城下町だが建設後10年で城が破却され、その後は商人の町として栄える。布・紙・油・陶器・塩・漁類など様々な商品を県内の諸市場はもとより、奥伊勢・京都・美濃・越前若狭方面へ行商した。近江商人は近江の特産物を各地に売り歩くだけでなく、売った先の商品を持って下り荷、登せ荷という形で行商の往復途上で商品を販売するという無駄のない形態をとった。日本橋通りには慶安4年(1651)に西川利右衛門など10名が出店しており、幕府の御用達を務めるなど、この時期の近江八幡の商人は目覚ましい活躍ぶりであった。また、北海道の松前に江戸前期から進出しており、北前船の先駆である荷所船をおこなっていた⁷ことも知られる。

そのような近江八幡に所在するのが西川家(滋賀, 報011, 宝永3=1706)である。この当主である西川利右衛門は、蚊帳や畳表などを主に行商して財をなした。寛永年間に大阪店、正保2年に日本橋の江戸店、安永6年に京都店を持つなど、江戸前中期の早い時期から各所に出店している。慶安4年に日本橋に出店した10人のうちの一人であり、蚊帳・畳表の幕府の御用達を勤め、幕末においても江戸長者番付に名を連ねるなど、江戸時代を通じて近江を代表する豪商としての地位を築いた。江戸末期が最盛期であったが、幕末から明治にかけて大名への貸し倒し金などにより衰退し、明治25年には廃業した。(報011参照)

このように江戸前期から経済的に成長し、様々な遠隔地との取引があったことが分かる西川家においては、平面積は273㎡とあまり大きくないものの、座敷に杉面皮材が使われるとともに、各空間ごとの材種の使分けが明確であり、狐鴨居も使用されている。江戸中期という早い時期でありながらも意匠操作が多く、近畿の江戸中期における経済発展と意匠操作数が間接的に連動していることがわかる事例の一つである。

③武田家(9点)

武田家(富山, 報077, 寛政)は意匠操作数が9点と非常に多いが、廻船などの商売をしたという記録は今のところ見つかっていない。甲斐の武田信玄の弟道遠軒信綱(1525～1582)の子孫と伝えられており、代々太田村の肝煎(きもいり)を務めた豪農である。安永年間(1772～1780)から寛政年間(1789～1800)にかけて伏木勝興寺本堂が再建されたときの余材で建てられたという伝承が残っている。高岡市にも問い合わせたが、武田家の歴史については明らかになっていない。本論の分析では、北前船の寄港地である伏木港のすぐ近くにあるため、他の意匠操作の多い家と同じように北前船交易をおこなっていたであろうと推測している。今後武田家の歴史が明らかになることを望みたい。

④熊谷家(8点)

熊谷家(山口, 報158, 明和5=1768)は山口県萩市に所在する。元禄・享保年間の商業資本発展期に、藩の御用達として活躍し、御目見、扶持、給米、大年寄格の待遇を次々と与えられ、帯刀が許され、自ら熊谷姓を公称するまでになった。家業も、米の仲買、塩田開墾、鉾山、捕鯨、海運等様々な商売を手掛けた萩藩の御用商人である。京都・大阪や海外とも交易を行い、明和5年に樽屋町にあった家屋では狭かったため、今魚店町に新築したのが現在重要文化財に指定されている熊谷家である。ここは、来萩する文人・茶人・学者などが来遊する社交の場であったとされ、藩主もしばしばお忍びで来られたという。文政時の当主は蘭学に関心が深く、シーボルトとの交遊は有名で、シーボルトが帰国する時に彼に送ったピアノは現在日本最古といわれている。熊谷家は萩藩一の商人として、大阪だけでなく海外とも交易をおこない、その住宅では文化人や藩主の集まる社交の場であったことがわかる。ところで山口県萩にある熊谷家(山口, 報158, 明和5=1768)に厳島神社の社家である林家(広島, 報273, 18C末)で行った祈禱札が残るため、萩と瀬戸内の地域間交流があったことが分かる(報273, p. 21)

⁷ 牧野隆信著『北前船の研究』(法政大学出版局, 1989.3, p. 24)

熊谷家は、本座敷と二の間の間に左甚五郎作と伝えられる鯉の透かし欄間（火災で焼失し現在は復原品が付けられる）があり、座敷は華奢な造である一方、土間や広間は指鴨居や梁などの太い材がまわり、優れた意匠を持つ。意匠操作については、広間に四面に指鴨居を見せ、座敷には四面に長押を見せる狐鴨居の典型例となる建物である。土間においても貫を全く見せない塗込貫の代表例でもあり、軒は座敷と土間で明確な意匠の使い分けがみられる。

⑤喜多家(8点)

喜多家(石川,報070,19C初)は、宝暦～天明頃より商業活動を盛んに行い、商人地主として活躍した。具体的には米の精米と小売、材木商売、酒造、金融も行ったとされる。年代は不明だが、北前船を所有し日本海の手運で資産を増やした時代もあった。寛政8年(1796)に十村役に就任する。十村役は加賀藩独自の名称であるが、他藩の大庄屋に相当するもので、藩の行う村支配を代行する村役人組織の頂点にたつ役職である。寛文年間、山奉行の下僚として百姓から「山廻り」役を登用し、山林管理や伐採、木材下付を担当した。新田開発促進、新田検地、新田での農事督励などを職務とする新田裁許が設置されたが、これも十村の分役とされた。十村は、藩の下級官僚的な側面があり、公務への精励を求められたので、喜多家が従来やっていたような地主経営や質商売・北前船経営など私的な商売は制約を受けた。喜多氏の商才とその財力が認められ、新田裁許、平十村と抜擢されたが、公然と高利貸しや土地集積を行うことは憚られるようになり、商売によっては名義を代えて行った。

喜多家は現当主からの聞き取りによれば、加賀藩の陣屋であったと伝わる。先述の通り、加賀藩の前田家は112万石だとされるため、それとの関係もあろう。陣屋とは藩の行政機能を持つ住宅のことであり、喜多家の中には、住人の暮らすスペースと役人が公務を行うスペースとが、床に段差をつけて明確に区画されている。この奥座敷には藩主が本陣として宿泊したこともあり、面皮柱に杉の面皮の長押が使用されていて趣向が凝らされている。加賀藩の藩主は茶を好んだと伝わり美意識の高い藩主との関係も考えられる。柱幅は5区分(2章)と多く、柱幅の段階的調整(3章)、等の9点の意匠操作があった。意匠操作数が9点の武田家(富山,報077,寛政)と6点の浮田家(富山,報078,文政11=1828)と親戚関係がある(当主談)ということも特筆される。

⑥時国家(7点)

時国家(石川,報066,宝暦6=1756)は平家の末裔とされ、中世以来この地方に強大な勢力を誇った家柄だとされている。しかし、この家が廻船業によって強大な勢力を手に入れたことはあまり知られていない。昭和38年(1963)の時国家の指定説明には全く廻船の家業が触れられず「時国家は平時国の末孫と伝え、中世以来この地方に強大な勢力を誇った家柄で現在は上下両家に分かれている」と書かれるし、平成17年(2005)発行の修理工事報告書には「農業、塩業、廻船業などを営んでいた」と一言書かれるのみである⁸。時国家と廻船との関係が書かれていない。しかし、廻船と時国家との関係に触れられなかったことには理由がある。

時国家は、時国家(下時国家)と上時国家に分立する前は、200人ぐらいの下人を従えているということが分かっていた。この事実から考えて、以前の学説では、隷属的な性格を持つ人々を駆使して、中世的な巨大な手作り経営をしてきた「豪農」だとされていた。学者によってはこれを家父長制的な大農奴主経営などと記述していた。つまり、あくまでも農業が本業だととらえられてきたのだ。奥能登には「千枚田」という極度に狭い水田が山の上まで積み重なった段々田があることに代表されるように、山がちで平地が少なく、田畑が開けない土地だから貧しいところだと考えられてきた。実際、田畑を所有できない水呑百姓が7割近くもいたことが数量データによっても証明されていた⁹。しかし1990年頃からの網野善彦氏の研究によってその奥能登の歴史観は大きく変わる事となる。

網野善彦氏は時国家の文書を読んだところ、時国家は江戸初期以前から大きな船を3艘程持っており、近江の大津や京都、大阪とも取引を行っていたことが元和5年(1619)の文書にはっきりと書かれていることを発見した。昆布などを松前から運んで京都、大阪まで運んで販売することも時国家の船は早くから行っていた。海岸には塩田を多く持ち、製塩を行い、塩を出羽や越後に江戸初期の時点で運んでいた。背後の山には材木が豊富なので、それを焼いて炭にして売っていた。鉾山の経営をすることを前田家に元和4年(1618)に願い出たり、年貢米や塩などの蔵元として物資の出入りを管理したり、蔵の米や塩の代銀を流用して金融業を営んだり、多角的企業家ともいえる様々な経営を行っていたのだ。

時国家の土間においては、太い梁が縦横に組まれる梁組が特徴的であるが、梁が通っているように見せるための意匠操作などがみられ、意図的に整っているように見せていることが分かる(4章土間の太い梁を見せる意識)。ま

⁸ 指定説明には家柄の説明として「時国家は平時国の末孫と伝え、中世以来この地方に強大な勢力を誇った家柄で現在は上下両家に分かれている」(報066より引用)とあり、廻船の話が全くでてこない。修理報告書(報066)の沿革には、「加賀藩領となった当家は、山廻り代官役、御塩懸相見役、御塩方吟味人役など藩の役職を代々受け継ぐとともに、農業、塩業、廻船業などを営んでいた。」と廻船について一言ふれるが、その具体内容については全く触れられていない。

⁹ 網野善彦著『日本の歴史をよみなおす(全)』(筑摩書房,2005,7,pp.231-246)この書籍は、同氏の『日本の歴史をよみなおす』1991と『続・日本の歴史をよみなおす』1996を合わせて1冊としたものである

た、全体に貫が見せられながらも座敷にだけは貫を見せないようにするという配慮（4章広間に貫を見せ、座敷に貫を見せない傾向）や、柱幅の段階的調整（3章柱幅の段階的調整）や、面を調整した狐柱（3章狐柱・狐束）、が見られるなど、さまざまな意匠操作を持つ、意匠が考え抜かれた民家である。意匠操作と廻船との関係の強さがわかる事例である。

⑦中村家（7点）

中村家（北海道，報131，明治20年代）は、近江の呉服商大橋宇兵衛が北前船の終着港である北海道の江差にたてたものである。北海道の地に近江商人の家があるというのは興味深い。ここは支店であったので当主が常駐していたわけではなかったようだが、江差と近江商人のつながりが建物によってわかる（報131）。内部は雪国らしい太い梁や高い天井で構成されるが、長押や欄間などが使用され、近畿の文化との影響もみられる。

⑧我妻家（6点）

我妻家は宝暦3年に建てられた民家であり、意匠操作数が6点と多い。特に、貫を壁の両面に2枚使用する技法は貫を意匠的に見せる技法としては典型例である。その我妻家は、慶長7年より肝入をつとめ、二代当主（寛文5年（1665）没）より紅花、木綿、太物などの商いははじめ、七代当主（文化10年（1813）没）の頃まで京・大阪と商いの取引を行い、その間、仙台には出店を出し、藩主には金子を用立て、その地度知行を受けるほどに繁栄した。宝暦3年（1753）はこのような我妻家が京・大阪等遠隔地にも交易していた時に建てられた民家であり、近畿の文化の影響も何らかの形で受けているのではないかと考えられる。

6-4-2 その他の家業

「6-3 意匠操作の数」で述べたように、北前船航路沿いには意匠操作が多い傾向にあった。また、「6-4-1 遠隔地との交易を営んだ家」で、北前船だけでなく、遠隔地交易を営んだ家でも意匠操作が多いことが分かった。しかし、そのような北前船航路沿や遠隔地交易を営んだ民家でなく、村役人を務めた民家でも、意匠操作が多い民家が存在する。

①永沼家（10点）

永沼家（福岡，報185，天保10=1839）は海岸から離れた山地にある民家ながら、意匠操作数が10点と非常に多い。意匠操作が山地にも多くなってくる江戸末期という時代性や、庄屋・大庄屋を務めるとともに「宮柱（みやばしら）」という産土神を奉戴する、居村において特別な家柄であったことも影響すると考えられる。しかも、日本三大修験霊山の一つに数えられる英彦山への主要な参詣道沿いに所在していることも非常に強く関係していると考えられる。

英彦山は幕府公認の天台修験別本山として賑わい、宝永7年（1710）の記録では山伏、俗人の男女が合計3015人暮らしており、幕藩体制化の一般地域とは異なり、自治組織を持つ聖域であった。当時の豊前国の中では、小倉・中津の城下町以外にはこれほどの大規模な町はなかったとされる。¹⁰

さらに、英彦山参詣は伊勢参りの半分の功德があるという意味で「半参宮（はんさんぐう）」とも呼ばれ、九州各地から参詣者が集まったが、そうした参詣者が通る道（伊良原口英彦山道 / 「英彦山七口」とよばれた七つの主要参詣路の一）沿いに永沼家はある。永沼家は、山地にありながらも人通りの多い場所であったことが分かる。また永沼家には藩の役人（山奉行や手代、廻郡の諸役人など主として地方支配の吏員）も宿泊したとされ、庄屋という役目柄、小倉藩の末端行政拠点としても利用されていたことが窺える。

なお、英彦山とその周辺の木は、英彦山はもとより周辺の大建築にも使われている。例えば、中世には豊前国の南部の宇佐郡に鎮座する全国八幡神の総本社である宇佐神宮（国宝）に、英彦山周辺を杣山として伐り出した木が使われていた事が知られるほか、近世では四日市別院（大分県宇佐市）や浄喜寺本堂（福岡県行橋市）など、現在も残る巨大木造建築の材料供給地であったことが分かっており、英彦山内に一定規模の杣工や大工集団がいたと考えられている。また、江戸後期以降、長州大工と呼ばれる周防大島（山口県）を拠点とする大工集団が、社寺建築を中心に、当地方に盛んに建築と足跡を残していることも注目される事象である¹¹。

永沼家を作る際には英彦山はもとより、広島職人や大分県日田の職人を呼んできたと記録されており（永沼家普請帳『家建諸控帳』）、英彦山から指呼の距離にある瀬戸内を介して広島との交流があったということが分かり、北前船ともなんらかの関係があるように考えられ興味深い。

しかしながら、この永沼家の昭和52年（1977）指定説明には、「大分県境に近い山間部に位置する農家で、代々

¹⁰ 長峰正秀著『豊前国英彦山 その歴史と信仰』（海鳥社，2016.8）

¹¹ みやこ町の歴史について長年調べている福岡県みやこ町教育委員会生涯学習課文化係（歴史民俗博物館）木村達美氏の教授による

庄屋を務めていた」と書かれるのみで、報告書においても、「永沼家は代々庄屋を務め一時は節丸手水十五ヶ村を治める大庄屋であったことが記録に残されている」（報 185 参照）と述べられるのみである。英彦山との関わりや「宮柱」を担当していたことは書かれておらず、永沼家の歴史が十分に記述されていない。

永沼家は太い梁組を見せる土間、太い指鴨居を見せる広間、長押の配された続き座敷をもつ上質な作りである。意匠操作も、表裏で面幅を変える狐柱（3章 狐柱・狐束）、狐鴨居（4章 狐鴨居）、土間だけ二重梁にして土間の梁を見せる傾向（4章 土間の太い梁を見せる意識）、立面がし字型の変形した指鴨居を使用し指鴨居の成を揃えようとする意識がみられる（4章 指鴨居を見せる意匠操作⑦指鴨居の成を揃えるもの）。以上のように多数の意匠操作があり、それらは各意匠操作の代表例として取り上げられる典型的なものが多かった。

②奥家（7点）

奥家（広島、報 149、天明 8=1788）は広島県に所在するが山地にあり、廻船との関係が薄いように見える。しかし、意匠操作数が7点と非常に多い。土間上では梁を五重に組む（4章 土間の太い梁を見せる意識）など力強さが強調される一方、ザシキには杉の面皮柱を用い、内法長押を廻すなど、趣向を凝らしている。狐鴨居が居間と座敷境だけでなく外部内部境にも用いられており（4章 狐鴨居）、意匠操作が多い。なぜ意匠操作の少ない山地にこのような意匠操作の多い民家があるのか。それには奥家の特殊な立地が関係している。

奥家は丹波国の武士の出自で、天正の頃この地方に移り住んだのが初代と伝えられている。いくつか居を移した後、宝永年間に至り現在の広島県三次市吉舎（きさ）町内に屋敷を構えた。屋敷は、吉舎町内を南北に流れる馬洗川の南側に位置する高台に構える。少なくとも江戸末期にはこの地の庄屋を務めたことが確かめられている。奥家が所在する三次市は広島県北部に所在し、北西には島根の石見銀山、北東には北前船の寄港地となった島根の境港、東南には瀬戸内海運の要所となった尾道、南西には厳島神社のある宮島や広島というように、栄えた都市があった。石見銀山でとれた銀は、石見から街道を通して三次を経由し尾道へ出、尾道から船で大阪・京都の銀座まで運んでおり、石見から三次までの道は銀山街道と名がつくほど銀の往来が盛んな街道であった。三次市はそのような山陽と山陰の栄えた都市どうしを結ぶ街道がすべて三次市を中継して結ばれているところに立地的特徴がある。近世には三次が宿駅として人足と伝馬が常置されるなど、瀬戸内の海産物や中国山地で採れる米や鉄、紙などの交易・中継の場として栄えた。

③増田家（9点）

増田家（和歌山、報 053、宝永 3=1706）は、意匠操作数が9点と多く、江戸中期でありながら非常に多い住宅で、近畿の意匠操作が早期に発達することがわかる例の一つである。増田家は、元は士族であり、25カ村を治める大庄屋であった。延宝元年（1675）に紀州徳川家二代藩主光貞が休息したとき、その織に藩主直筆の杉戸を拝領し、それが今でも残っているなど、増田家は藩との結びつきが強かったとみられる。この住宅は意匠操作が多いものの、他の意匠操作の多い民家のように商売を行った記録がない。増田家のように商売を行ってならず、村役人だけを務めた民家でも、意匠操作が多いものがある。増田家の場合は、稼業よりも意匠操作が早期に発達する近畿という地域的影響を強く受けたということであろう。

6-4-3 遠隔地交易による建築技術伝搬の具体的事例

北前船とは江戸中期から明治30年代まで大阪と北海道を日本海回りで結んでいた帆船の買積船であり、北前船による交易は江戸後期から特に盛んになった。各寄港地での物資の売買（＝買積）が半ば公然と許可されており、密貿易の温床ともなっていたほどである。そのような自由に商売ができる環境にあったため、北前船を通じて、昆布、塩、瓦、石材、木綿等の各地の特産品が伝搬しただけでなく、民謡や食等の文化も伝搬したとされる。北前船で大阪から北海道まで一往復すれば1億円ほどの儲けがあったといわれる。¹²

民家意匠と遠隔地交易と直接的な関連性はほとんど見つからなかったので今後の課題であるが、それを考えるうえで示唆に富む論考があったので引用する。石川県輪島市に所在し、輪島塗等の漆塗りの美術館である「漆芸美術館」における、中室勝郎氏による紀要¹³である。それを以下に要約して掲載する。ただし、中室勝郎氏が職人から聞いた内容も多く織り交ぜられていることに注意したい。

輪島塗は18世紀までは特産品ではなかった。全国的に輪島塗が知られるようになったのは流通が発達した文

¹² 牧野隆信著『北前船の研究』（法政大学出版局、1989.3）

¹³ 中室勝郎「輪島塗史の研究―塗師文化と輪島のかたち―」『石川県輪島漆芸美術館紀要第11号』（2016.3, pp.45-54）

化文政期のころである。塗師屋が全国の富裕層に行商を行ったのである。ただ、旅先でスムーズに顧客と面談できたわけではなく、多くが門前払いにあった。しかし、文化人として認められることで顧客が奥へと招き入れてくれるようになった。塗師仲間はそれぞれの訪問先を区分けしており、互いに知り得た情報や顧客の好みの傾向などを交換する機会が、帰郷すると自然に発生した。明治になると、行商は顧客の招きにより奥座敷で行い、あわせて文人・墨客として顧客からの文化指導の要望に応じた。全国の優れた文化を塗師屋が媒介となって持ち込んだのであり、輪島には江戸や京にも劣らない独自の文化を構築した。

以上は、交易を通じて文化が伝搬した直接的な例として興味深い。行商の為にはまず文化人になる必要があり、そこで各地の富裕層の「奥座敷」に通されるようになる。そのようにして知り得た各地の文化を塗師屋が輪島まで持ち帰り、輪島では情報を交換する機会が開かれた。この際に、各地の民家の良質な座敷意匠の情報が輪島に広がった可能性は十分に考えられるであろう。

建築材料の運搬が北前船を通じて行われたものもある。秋田杉¹⁴、能登の釉薬瓦¹⁵、青い色を示す福井の笏谷石¹⁶などで、特に瓦と石は商品としてだけでなく船体安定の重しのためにも使われよく運ばれた。それらが北前航路沿に使用された建築も散見される。実際に民家においてそのような建築材料が使われた具体例としては、北海道江差の廻船問屋である中村家（北海道、報131、明治22頃=1889）の基礎石として使われた笏谷石がある。また、灯籠や狛犬において、石材の共通性だけでなく、様式の共通性が北前船航路沿や日本海沿にあることが指摘されている¹⁷。

民家建築技術の直接的な伝搬の事実は判明しなかったが、他の技術と同様に木造建築技術も伝搬された可能性はあるだろう。

6-4-4 時代的背景分析における今後の課題

本節（6-4 意匠操作数と家業の関係）の内容については検討の余地がある。本節の内容は、意匠操作数の増加と、経済発展・遠隔地交易の発展とが地域的時代的に一致しているという指摘のみである。これは間接的な関連性でしかなく、民家の意匠と北前船の直接的な関連性がほとんどみだせていない。五街道は交通量が多かったにもかかわらず意匠操作が海上交通程多くない。中でも、東海道筋の交通量は年間2万人をこえており、菱垣樽廻船が頻繁に往来する地域で、東海地域や関東地域では交通量が非常に多かった¹⁸。しかし、その東海地域は意匠操作数がやや少なく、関東地域においては意匠操作数が最も少ない。東海地域や関東地域を通った菱垣樽廻船は北前船と違い、各寄港地における売買が禁止されていた直送便で、運賃のみで儲けていた。北前船は運賃に加えて荷物とは別に自分で荷を仕入れて各寄港地において売って稼いだ「帆待」による収入が莫大で、菱垣樽廻船の船頭と比べて10倍ほどの儲けがあった¹⁹。このような収入の差や個人的な売り買いの有無が、各地での文化伝搬に影響を与えているのではないかと推測しているが、明確ではない。必ずしも交通量と意匠操作数とが比例するわけではないということであろう。意匠操作が生じた文化的背景については、経済や交通以外にも大工の伝搬など広い視点で検討すべきものであり、今後の課題としたい。

14 加藤貞仁著『北前船と秋田』（無明舎出版、2005.1）

15 牧野隆信著『北前船の研究』（法政大学出版局、1989.3、pp. 375-377）

16 牧野隆信著『北前船の研究』（法政大学出版局、1989.3、pp. 375-377）

17 牧野隆信著『北前船の研究』（法政大学出版局、1989.3、pp. 375-377）、廣江正幸著『狛犬見聞録：出雲・石見』（ワン・ライン、2010.5）

18 土田良一「江戸時代における街道交通量」『歴史地理学 117』（1982.6、pp. 28-38）

19 加藤貞仁著『海の総合商社 北前船』（無明舎出版、2003.3、pp. 85-91）において以下が指摘されている。菱垣樽廻船の船頭は、運賃のみ払われ年収が40両の固定給である。一方、北前船の船頭は運賃としての年収が3両であるが、荷物とは別に自分で荷を仕入れて各寄港地において売って稼いだ「帆待」による年間収入が、450～500両あった。北前船の船頭の収入は菱垣樽廻船の船頭の収入の10倍以上である。

7 章 結論

7-1 各章の小結

①1章

1章では序論として研究の方法や既往研究、意匠操作の典型例を示した。本論文は、見せかけの部材や特殊な部材幅計画や特殊な部材配置によって、民家の意匠を意図的にコントロールする技法に関する研究である。そのために、図面や部材幅が網羅的に記録された修理工事報告書が必要である。そのため、修理工事報告書が発刊された重要文化財民家に絞り込んで分析を行った。民家の研究は、屋根形状、梁架構、家作制限、普請、等様々な視点で行われているが、最も中心となるのが間取研究である。民家の意匠や民家の寸法に関する研究はほとんどなく、あったとしても限られた地域における分析であるため、本論文において全国的に意匠研究と寸法研究を行った。そこが本論の大きな特徴である。

木太い土間・広間と、木細い座敷の境において見せかけ材が多く用いられているが、その点については民家の構成法とも密接にかかわってくる。民家の本来の、構造と化粧が「一体」となった土間や広間の形式に、構造と化粧が「分離」した座敷の形式がとりにまれるという宮澤智士氏の指摘は極めて重要である。広間と座敷の境に見せかけ材が多く用いられていることは、広間の材が太く座敷の材が細いことだけでなく、広間と座敷はそもそも構成原理が異なることとも関係が深いであろう。

民家の意匠に関する概論的な記述はあるが、それらはほとんどが「実用的な、飾りのない、そして作為的なデザインがない」ところに美しさがあると指摘してきた。「民家のある特定の細部だけを取りあげて、それを追うだけでは、民家の本来の美しさは忘れられてしまう。」とさえ表現されるほどで、民家の部材や寸法等細部に関する研究はこのような一般概念によってもなかなか進みにくい状況にあったと言える。

②2章

2章では、柱や束などの垂直材の部材幅の通観的研究自体がないのでそれを整理した。民家の平面積は時代が下るほど大きくなる傾向と最大最小の差が大きくなる傾向があるが、地域ごとに見ると北陸で最大最小の差が大きいことが特筆される。

部屋の規模は広間は一定しないものの、座敷より大きく、2.5間ほどが標準である。座敷は圧倒的に2間四方の8畳間が多かったため、民家の座敷の標準はこの大きさだと言えよう。2間四方という大きさが3章で述べる座敷柱の1間指向とも密接にかかわってくる。

広間の天井高はばらつきが大きいのが9～13尺ほどで、座敷の天井高は平均9尺程度である。

柱幅区分は民家の柱幅を分類する実験的な試みである。柱幅1区分は柱幅が未分化なものである。柱幅2区分は古い民家に多く、柱幅3区分は前時代を通してまんべんなくある。柱幅4区分・柱幅5区分以上のものは時代が下るほど多くなる傾向がある。

最大柱幅は0.8尺ほどが標準で、最大は1.97尺であった。地域的には南に行くほど細く、北に行くほど太くなり、概して積雪量と比例するのだとみられる。ただし民家の間口と最大柱幅に相関関係($R=0.41$)があったことは意匠と最大幅の柱との関係を示唆する。太い柱がない民家は、近畿から離れた東北や四国や九州に多い。太い柱が数本しかないものは近畿に多く、太い柱が土間全体に使用されているものは東北や北陸に多かった。

座敷柱は.46尺が平均で、時代的にも地域的にもあまりばらつきはなかった。最も細いのは四国でその次が近畿と九州であった。座敷柱が一様に細い(座敷柱が.50尺以下の柱幅で占められ、そのばらつき(最大幅と最小幅の差)が.05尺以下のものは、時代が下るほど多くなり、地域的には近畿中国四国で顕著であった。逆に東北では少ない傾向があった。

座敷の柱幅は部屋の大きさと比例関係にあることがわかった。時代が下るほど部屋の大きさと比べて細くなる傾向があった。

長押は平均.40尺で、長押成÷柱幅は0.88が平均であった。

指鴨居成は1.1尺が平均で、江戸中期以降は太い傾向があった。指鴨居は使用法ごとに成が異なる。構造的に使用された指鴨居は成が.80ほどで、意匠的傾向が強い指鴨居は1.1尺程度の太いものを用いる傾向がある。鴻池新田会所において太く見せるために2材をはりつけていることから、指鴨居の太さは構造だけでなく意匠とも密接に関係することが分かった。

薄鴨居は.18尺の成が標準で、4寸の柱を割って使用することに起因する。しかし、土間には太い薄鴨居を使用する傾向がある。

貫は.10×.40尺が標準である。時代ごとにも地域ごとにもあまり変化はないが、北国ほど太いものを使用する傾向がある。

各民家の最大梁径は、全国平均で土間の化粧材は1.2尺ほど、座敷の野物材は.9尺ほどであった。時代ごと地域ごとにはあまり変化はないが、江戸前期には座敷の梁が細い傾向にある。地域ごとには近畿の土間の梁径が太いことが特筆される。

2章では、さまざまな寸法の平均や時代的地域的傾向が判明した。平面積の時代的地域的傾向は民家の財力だけでなく意匠とも密接に関係するだろう。2章を適宜参照しながら、3～4章の意匠操作を分析する。

③3章

3章では、2章でまとめた部材幅の傾向を元にして、特殊な部材幅使用や見せかけ材の使用など、垂直材の意匠的な使用を詳細に分析した。

座敷の柱については、柱・束の間隔が、古いものでは半間と1間が入り混じっているが、次第に柱間1間に収束していく傾向が読み取れ、それを実現させるために片蓋柱などを用いるものも多くなっていく。2章で座敷の標準だと分かった2間四方の座敷において柱・束を等間隔に配置する(2間÷2=1間)ためであろう。座敷において許容できる柱間は0.75～1.5間であったことも重要である。柱間が広すぎず狭すぎないように配置したことを意味する。

外部や広間に狭い柱間とする例があったことは特筆される。元は積雪に耐えることや大壁の安定性などを考え、構造的な要請から狭い柱間を使用した。しかし、中家や岡本家のような一部の民家のように狭い柱間を意匠として見せるものもあった。広間においても狭い柱間を使用する民家があったが、それは北陸地方のものであった。ところで、外部においては1間間隔に見せるために片蓋柱等を使用している民家もあり、外部においては比較的自由に柱間を構成できていたと考えられる。

五平柱には使用法から3種に分けられる。1つ目は加工の素朴さによるものであり、雑木を使用したことと加工斑により結果的に生じるもので、時代が下るほど少なくなる。2つ目は太く見せるためのもので北陸東海甲信に多く、使用場所は土間が多く正面と大戸口脇にもあり、時代が下るほど少なくなる。3つ目は畳割調整のためのものであるが例は少ない。

狐柱は壁の表と裏で形状・材質の異なる柱である。このようなものは凸字型断面のもの、立面方向にL字型となっているもの、表裏で面幅を変えるもの、別材種をはりつけるもの、大戸口のものがある。いずれも壁の表と裏で柱幅区分が異なるものである。このようなものは束にもみられた2章で述べた柱幅区分内、広間のような太い柱幅区分と座敷のような細い柱幅区分の境において狐柱が見られた。太い柱の領域には太く、細い柱の領域には細く見えるように、つまりは各領域の意匠が調和をとれるようにこのような特殊な断面を使用したのだろう。

柱幅の段階的調整は、太い柱幅の領域から細い柱幅の領域へと柱幅を段階的に変化させる技法である。2章で明らかにしたように、柱幅区分には1、2、3、4、5以上の柱幅区分があり、柱幅区分が各領域ごとに細かく分けられるようになった柱幅3区分以上のものにおいて確認される。最大は渡辺家の5段階であるが、段階的変化は1寸程度のため、見た目には柱幅の変化に気づかないほどである。急激な変化を嫌い、土間の太い木割と座敷の細い木割の著しい差を和らげてできるだけ一様に見せるように計画された柱幅だと考えられる。

民家においては様々な柱幅の組み合わせがあることを明らかにしたが、その場合には畳割が成立しにくくなる。そのような場合でも畳が上手く納まるように配慮している民家がある。古い民家では柱下端を欠き取って畳を入れているが、太い柱を土間に寄せたり、各柱列で敷居幅を変えたり柱幅を列ごとに揃えたり、五平柱にするなどして、柱が畳にはみ出ないように調整していた。

④4章

4章においては、2章を基にして水平材の部材幅の特殊な使用や見せかけ材の使用など、水平材の意匠的な使用法を詳細に分析した。また、座敷飾りには長押など水平方向の材が多いので座敷飾りも本章で分析した。

座敷飾りは時代が下るほど増える傾向があるが、近畿においては江戸後期に一時的に座敷飾りが少なくなることを指摘した。

狐鴨居(表と裏で形状や材質の異なる指鴨居・胴差・鴨居)を使用することで、広間の4面を指鴨居で統一し、座敷の4面を長押で統一していた。狐鴨居以外の様々な形状の例も取り上げ、狐鴨居を使用して周囲の材との意匠の調和をとろうとしたことがわかった。狐鴨居を使用した民家は北前船航路と関連している可能性があった。

土間と座敷の梁径については、均一に細いものと土間だけ太いものがあった。スパンと関係なく土間の梁径を太くしているものがあり、梁の明らかな意匠性が見られた。他にも、土間の梁だけ鉋をかけるもの、土間だけ二重梁になるもの等、土間の梁の意匠性を意識したものが見られた。

貫については、貫を見せる傾向が東国(東北、甲信、北陸)に、貫を見せない傾向が西国(中国、四国、九州)にあることを指摘した。東国においては、広間の4面に貫を見せるという意匠的な技法を使用するものがあり、貫を意

匠的に使用する民家があることを指摘した。

長押、指鴨居、薄鴨居、貫の成を部屋の大きさや周囲の部材幅に合わせて微調整する例があることも指摘した。土間ではより太く、座敷ではより細くする傾向がある。

⑤5章

5章においては軒の意匠的な技法についてまとめた。軒は土間と広間で一様に茅下地を見せる軒と、一様に垂木と広小舞が見える軒とがある。以上のようなものは濡縁の軒とその他の軒の形式を変えない事例である。しかし、座敷の濡縁の軒だけ区別化する傾向がでてくる。座敷にだけ下屋をまわしたものが最初だったと考えられる。茅下地を隠して垂木と広小舞を見せながらも、座敷濡縁の軒だけ化粧小舞をつける例などは座敷濡縁の軒の区別化の典型例である。また、意匠上重要な箇所のみ垂木を密に配置するもの、部屋の大きさに合わせて軒の大きさをかえるもの、椽羽の軒を調整するものなど、軒の意匠性を考えて自由に軒を構成していったことが分かる。

床の奥行は半間(3尺ほど)が通常である。しかし、床の奥行を1.5～2.4尺程度に浅くすることで、床の裏に空き(＝余剰空間)ができる。この余剰空間は、人が入れずものもおけない空所や物置とされることが多い。また、居室部と変形敷地の間にある土間や押入も余剰空間だと考えられる。以上のように、床の浅い奥行や変形敷地内での矩形平面など、各形状を優先させることで結果的に余剰空間が作り出される。余剰空間は、平面的には無駄な空間であるが、これが作り出されることを躊躇しないことでこの空間以外意匠を優先させたといえよう。

⑥6章

6章においては、2～5章で述べた技法を類型化するとともに、代表的な意匠操作の数を分析した。

A 基本寸法など…民家の基本寸法や該当数量の整理

B 意匠操作の意識が低い例

B1 民家の構造がそのまま見えるもの…座敷に梁が見える民家(4-4-2)、貫が座敷に見えるもの(4-5-5)など

B2 部材幅や部材配置の均一化が意識されていないもの…座敷の不均一な柱間(3-2-2)など

C 各空間形式の順守と強調

C1 土間広間の材を太く、座敷の材を細く見せる…3-4五平柱、3-5狐柱、4-2-2指鴨居の意匠的使用、4-2-4大戸口のマグサ、4-3狐鴨居など

C2 座敷で極力構造材を見せない…胴差(4-2-3)、貫(4-5-5)、梁(4-4-5)を座敷に見せない傾向

C3 土間の構造材を密に配置する…3-3-2狭い柱間の意匠的使用など

D 部材配置と部材幅の均一化

D1 座敷の部材配置と部材幅の均一化…座敷の均一な柱間(3-2-2)など

D2 広間の部材配置と部材幅の均一化…広間の均一な指鴨居成(4-2-2)など

E 寸法の微調整…柱幅の段階的調整(3-6)、水平材成の調整3-6など

Bは山地や江戸前中期や中央から離れた地域に多い古式な例であった。C～Eは江戸後末期に多く、中央指向がある先進的な意匠技法であった。また、C～Eは北陸や北前船航路沿いに多く、山地に少ないことも特筆され、中央指向や時代だけでは民家の意匠操作を表現することができないこともわかった。

次に意匠操作の数を分析した。意匠操作が多い民家とは、意匠にこだわり、部材幅や部材配置のプロポーションがよく吟味された民家だということもできるだろう。意匠操作数は、時代が下るほど増え、地域ごとには北陸、中国、近畿の順が多い。近畿が3番目という事は特筆される。関東が最も少なく、四国が次に少ない。時代的推移を詳細にみると、ほとんどの地域で時代が下るほど意匠操作数が増える傾向があるが、地域によって増え始める時期が異なる。近畿や中国は江戸中期に意匠操作数が増える先進地域である。江戸後期には、近畿に近い地域(東海、中国)や北前船航路でつながった地域(北陸、北前船航路沿)が増える。江戸末期には、近畿から遠い地域(東北、山地、北前船航路以外の海岸沿)で意匠操作が増える。近畿において他地域に見られるような江戸後末期に見られる意匠操作の増加がみられないことも特筆される。関東においてはいずれの時代も1.5点以下で意匠操作が非常に少ない。関東には江戸幕府があるにもかかわらず意外だが、江戸に残る民家が少ないことによるかもしれない。

意匠操作の文化は近畿を中心として、時代が下るほどが伝搬していくことがわかる。北前船航路沿いの民家で江戸後期から意匠操作が増えることは、北前船の物資輸送が江戸後期から盛んになる(牧野1989)のと時代的に一致していることから、意匠操作と北前船が関連する可能性がある。直接の関連性があるわけではないので、北前船と関連しているかどうか慎重に検討する必要がある。しかしながら、近畿は他地域に見られるような江戸後期の伸びが見られないことも注目される。これは、大阪等の近畿の商人が17世紀に成長するものの、その後は北前船の商人の勢いに押されて衰退していくこと(杉山2012年)と時代的に大方一致する。

しかしながら、近畿の意匠操作は江戸中期でピークに達した後、伸び悩むことも注目される。むしろ、北前船沿いの地域の意匠操作の江戸後期以降の伸びが著しい。これは、近畿で江戸後期以降経済的勢いが失速することと、北前船が江戸後期から急激に発達し北前船を通じて物資だけでなく様々な文化が伝播し、近畿を上回る地域もでることと連動している可能性がある。山地において意匠操作数が少ないことも考え合わせると、経済や民間交易の発達と民家の意匠操作数は関連する可能性がある。

7-2 各時代ごとの意匠傾向

多い、少ないなどの表現基準については、

0～0.6…非常に低い（非常に小さい、非常に少ない。この値になるのは全αの内の10%）

0.6～0.8…低い（小さい、少ない。この値になるのは全αの内の25%）

0.8～0.95…若干低い（若干小さい、若干少ない）

1.05～1.2…若干高い（若干大きい、若干多い）

1.2～1.5…高い（大きい、多い）

1.5～…非常に高い（非常に大きい、非常に多い）

とした。詳しくは1章の「数値傾向の表現基準」を参照されたい。

①江戸前期

平面積が若干小さい傾向にある。柱幅区分数は江戸前期は少ない。江戸前期における柱幅区分数は、2区分の内、2A型（土間上屋・上屋）が多く、2B型（上屋・下屋）は非常に多く、他の区分数は少ない。2A型が多いのは2A型の多い近畿の民家が多く含まれていることが影響しているだろう。2B型が非常に多いことはこの時代の特徴と言えるだろうが、上屋下屋の意識が強いからであろう。指鴨居は、全くないものが非常に多く、指鴨居があったとしても大きな柱間にしかないことが多い。全体に指鴨居を配置するものや指鴨居の成を揃える民家は非常に少ない。座敷に半間の柱間が見えることが多く、座敷の柱幅が一様に細いものは少ない。座敷飾りは長押・天井・欄間が若干少ない傾向にある。貫が塗り込められることは少なく、座敷に貫が見えることが非常に多い。

江戸前期は意匠操作数が少なく、意匠操作数5以上のものはほとんどない。特に、狐柱、柱幅の段階的調整、座敷縁の指鴨居を薄くするものは全く見られず、指鴨居の成を揃えるものや、座敷の軒の区別化は少ない。江戸前期の母数は近畿が多いため、他の地域の傾向があまり反映されていないことに注意したい。

②江戸中期

平面積は若干小さい傾向にある。柱幅区分は2区分の中の2A型（上屋下屋）、3区分の中の3A型（土間上屋・座敷上屋・下屋）が非常に多い。3A型が増えたことが江戸前期との大きな違いで、江戸前期では上屋の区分が一つだったが、江戸中期になると、上屋の中に土間上屋と座敷上屋で差を設ける意識が強くなり、3A型が増えたのだろう。指鴨居については、江戸前期と同様で、指鴨居がないものが非常に多い。座敷は、半間間隔の柱間が見えるもの、柱幅が一様でないもの、梁や貫が見えるものが江戸前期に引き続き多い。座敷飾数は少ない傾向にあり、欄間、付書院が非常に少ない。

意匠操作は少なく、江戸前期と同様の傾向を示す。しかし、五平柱、外壁における貫は江戸中期によく用いられる傾向があり、江戸後期以降は少なくなっていくので、江戸中期の特徴的な意匠傾向だといえよう。

江戸中期は江戸前期とほとんどが同様の傾向を示すが、いくつかの点で異なるものがある。

③江戸後期

平面積は平均が若干大きい傾向があるが、平面積の大小の差が江戸前中期よりも開いていく傾向がある。柱幅区分は2区分と3区分が少なくなり、1区分と4区分と5区分が多くなる。柱幅が規格化された1区分と、柱幅のバリエーションが多い4区分以上のものに2極化するということであろう。指鴨居については、江戸前中期と異なり、全くないものが非常に少なくなり、大きな柱間に使用するものや全体に使用するものが若干多い。座敷には、半間間隔の柱間が見えるものが少なくなり、座敷飾数が標準的になり、座敷に貫が見えるものが少なくなる。江戸前中期と比べて、江戸後期には座敷の形式が整ってくる可言えよう。

意匠操作数は若干多い。狐柱、狐鴨居、長押成の調整、薄鴨居製の調整、座敷の軒の区別化、床の奥行調整が多い。

江戸後期においては、江戸前中期とは大きく異なる傾向を示すものが多い（平面積の巨大化、柱幅4区分以上の増加、座敷の柱間1間指向の該当数増加、五平柱の減少、座敷節数の増加、狐鴨居使用の大幅な増加、梁が見える座敷の大幅な減少）。民家の形式や意匠操作においては、江戸後期に大きく発達すると考えられる。

④江戸末期

平面積は若干大きい傾向があり、300㎡以上の民家が多く、120㎡以下の民家が少ない。柱幅区分は江戸後期と同様の傾向を示すが、柱幅5区分以上が多いのが特徴である。指鴨居は、全く使用されない民家がほとんどなくなり、全体的に指鴨居を使用するとともに、指鴨居を部屋全長に渡って通すものや狭い柱間でも指鴨居を組むものや、指鴨居の成を揃えるものが非常に多くなる。元は柱間を飛ばすという構造的役割だけだったが、指鴨居の太さを見せる意匠的意識が強くなるのだと考えられる。土間は、檜材が使用されることが多い。座敷においては、柱幅が一樣に細いものが非常に多く、2間四方の部屋、柱に杉・杉面皮・松を使用することが多くなる。座敷節数が多くなり、長押、天井が多く、欄間、付書院は特に多い。逆に、座敷に貫が見えるものはほとんどない。江戸末期においては、座敷の形式が非常に整ってくると言えるだろう。

意匠操作は最も多い時代である。特に意匠操作5点以上のものが非常に多くみられるようになる。中でも、座敷の柱幅が一樣に細いもの、座敷の1間指向、柱幅の段階的調整、土間の梁が非常に太いもの、片蓋胴差、指鴨居の成を揃えるもの、薄鴨居成の調整、座敷の軒の区別化が多くなる。

江戸末期では、座敷の形式化、意匠操作などが江戸後期以上に多数認められる。

7-3 各地域ごとの意匠傾向

①東北地域

平面積は若干大きい傾向がある。部屋の広さは広間が大きい傾向にあり、座敷も若干大きい。柱幅区分数が若干多く、3区分のうちの3C型（土間上屋・上屋・下屋）、5区分が多い。指鴨居は全くない民家が多く、指鴨居を全体に使用するとしても柱間に応じて成を変えるため、指鴨居の成を揃える意識はあまり見られない。貫は、広間の4面に貫が見えるものも多く、座敷に貫が見える民家も多い。土間においては、最大柱幅が若干太い傾向にあり、太い柱が全くないものと全体的に太いものが多いが、太い柱が数本しかないものはほとんどない。土間の外壁部では、柱間を半間とするものも多く、柱断面については加工班による五平断面が多い。土間・座敷の柱材種は共に栗が非常に多い。座敷においては、半間間隔の柱間が見えるものも多く、座敷節数も少ないことから、座敷は他地域と比べて整っていない傾向がある。梁は鉋仕上げのものが少なく、土間梁が太いものも若干少ない。家作制限の影響か、座敷に天井がはられないために座敷に梁が見える民家が非常に多い。梁の見栄えについてはあまり考えられていないと思われる。

意匠操作数は低い傾向があり、全く意匠操作がない民家もよくみられる。江戸末期に急激に意匠操作が多くなる地域である。片蓋胴差、長押成の調整、薄鴨居成の調整、床の奥行調整が多い。

東北においては、積雪を考慮し、材が太いものが多いが、座敷節と意匠操作が少ないなど、あまり技巧が凝らされていない素朴な構成が多い。

②甲信地域

平面積・棟高ともに全国平均並みである。広間が若干大きい傾向にある。柱幅区分数は3区分と4区分が多い。指鴨居は大きな柱間にしかないものも多く、貫は壁の両面に見えるものが多い。土間は、太い柱が数本のものか全体的に太いものも多く、檜材が多い。指鴨居は全くないか、大きな柱間にしかないものが多い。

意匠操作数は全体的には少ない傾向にあるが、江戸後期から若干の増加を示す。五平柱によって太く見せるものが多いが、狐柱、狐鴨居、片蓋胴差、指鴨居の成を揃えるもの、広間の四面に貫が見えるもの、床の奥行調整は少ない。

甲信は中山道が通る地域である。ほとんどが内陸部で、意匠操作の多い北前船航路沿から離れているため、全体的に見れば意匠操作が少ないのだろう。ただし、岐阜においては、近畿に近い位置にあるためか、意匠操作が多かった。

③北陸地域

平面積が非常に大きい傾向にあり、300㎡以上の大きな民家が特に多く、広間も大きい傾向にある。柱幅区分数は3区分以上が多く、5区分以上の民家が非常に多い。柱幅区分数が多いことが影響し、柱幅の段階的調整

がよく見られる。土間の柱は、材料については檜が非常に多く、栗や松は少ない。柱の配置については、真壁で半間ごとに角柱を建てるものが多く、積雪を考慮したものであろう。座敷節数は多い傾向があり、杉面皮柱を使用することが多い。指鴨居は、全体に組まれることが非常に多く、広間に指鴨居を使用し座敷に長押を使用する民家もよくみられる。このために、狐鴨居がよく使用されるのだろう。広間の四面に貫を見せ、座敷に貫が見えないという、貫の意匠的な使い分けが明確にみられるものが非常に多い。

意匠操作数は非常に多い傾向がある。広間の天井下に梁を見せるもの、片蓋胴差、広間の4面に貫を配置するもの、長押成・薄鴨居成の調整、床の奥行調整が多い。

北陸は一般に意匠操作数が多いが、江戸中期の民家は意匠操作が少ないことに注意したい。北陸は意匠操作が多い北前船航路沿の傾向を最も色濃く反映している地域であり、北前船船主が北陸に最も多かった¹ことと間接的に関連する可能性がある。

④ 関東地域

関東地域は、平面積が最も小さい地域である。柱幅区分は2区分のうちの2A型（上屋下屋）が非常に多く、3区分も多い。最大柱幅が若干細く、柱幅区分も少ない傾向にある。太い柱が全くない民家が多い。座敷においては、座敷節数が少なく、貫や梁がみえてしまうものが非常に多く、座敷の意匠があまり発達していない。

意匠操作数は最も少ない地域である。五平柱を使用する民家は非常に多く、貫を紙面に見せるものも標準的だが、それ以外の意匠操作は非常に少ないものがほとんどである。関東は幕府がある地域だが、庶民においては民家の意匠があまり発達しなかった地域だと言えよう。ただし、東京の民家がほとんど残っていないため注意を要する。

⑤ 東海地域

東海地域は、民家の平面積は標準的で、柱幅区分は3区分と4区分が多い。他の寸法は標準的なものが多い。意匠操作数は若干少ない。座敷の1間指向や柱幅の段階的調整などが多い。東海地域は東海道筋にあり交通の活発だったところであるが、意匠操作があまり多くない。

⑥ 近畿地域

平面積、棟高ともに標準的である。広間は小さい傾向にある。柱幅は古いものに2区分の内、2B型（土間上屋・上屋）が非常に多い。4区分も多い。土間では、太い柱が数本のもものが非常に多く、太い柱が全くないものや全体的に太いものは少ない。土間の柱配置は、大壁で半間ごとに配置されているもの、1間間隔で角柱を真壁で配置しながらその間に片蓋柱が配置されたものが多い。土間の柱は檜を使用するものが多く、栗は非常に少ない。指鴨居については、全く使用しないことがほとんどなく、全体に使用するものが多い。座敷においては、欄間、付書院、が多い傾向にあるものの、長押が少ないという特異な傾向を示す。これは家作制限との関連性があると考えられる。座敷の柱幅が一様に細いものが多く、座敷柱の材種は杉の面皮柱、榎、檜が非常に多いが、松や栗は非常に少ない。

意匠操作数は非常に多いが、北陸には及ばない。ただ、江戸中期という早い時代から意匠操作が高い数値を示すことは特筆すべきで、意匠的な先進地域であることを示す。床の奥行調整、座敷柱が一様に細いもの、片蓋柱を使用した座敷の柱間1間指向、薄鴨居成の調整、座敷の軒の区別化が多い。土間梁が著しく太いもの、大戸口のマグサの意匠性が顕著なものについては非常に多いことが特筆される。土間に数本の太い柱（≡大黒柱）が使用されることが多いこととも考え合わせると、近畿においては座敷以外において太い材を見せる傾向が非常に強いということがいえる。座敷においても柱幅が全国平均並みで細くはない。一般に「京風」といえば細い材を使うことを示すが、近畿の民家においてはそのような傾向が見られないことは注意すべきであろう。

近畿は、意匠操作が江戸中期という早い時期から発達する先進地域であり、近畿において早い時期から庶民の経済が発展すること²と間接的な関連性があるであろう。

⑦ 中国地域

平面積、棟高さ共に標準的である。広間は若干小さい傾向にあり、座敷は2間四方が多い。柱幅区分は1区分、2区分の内2B型、3区分野内の3B型・3C型、4区分野内の4A型、5区分以上、が多い。広間では、指鴨居が全くない民家が非常に少なく、指鴨居を全体に配置する傾向がある。座敷においては、座敷飾り数が若干多い傾向にあり、欄間の仕様が非常に多い。座敷の柱材は杉・栗・松が多い。

意匠操作数は、北陸に次いで2番目に多い。柱幅5区分以上、狐鴨居、片蓋胴差、土間の著しく太い梁、座敷の軒の区別化が非常に多い。大戸口のマグサの意匠的使用、薄鴨居の成の調整、座敷縁の薄い指鴨居、

¹ 中西総一著『海の富豪の資本主義』（名古屋大学出版会、2009.11、p. 14）参照

² 杉山伸也著『日本経済史 近世一現代』（岩波書店、2012.5）参照

も多い。

中国地域の傾向は、近畿と類似するところが多く、瀬戸内海の海上交通を介してつながっている近畿地域との結びつきが強かったのではないかと考えられる。中国地方は、瀬戸内、日本海側ともに北前船が通る地域であり、北前船航路沿であることも意匠操作の数等に影響を与えている可能性がある。

⑧ 四国地域

四国は平面積が小さい傾向にあり、棟高も若干低い。2間四方の座敷は少ない。柱幅区分数は非常に少ない傾向にあり、2区分、3区分のうちの3B型が非常に多い一方、4区分、5区分は全く見られない。土間の柱は、太い柱が全くないものが非常に多く、土間の柱材は栗・松が多い。座敷においては、柱が細い傾向にあり、柱配置については半間間隔の下屋の柱間が見えてしまう傾向が非常に強い。座敷飾り数は若干少ない傾向にあり、天井、欄間が少ない。材が細いことは積雪量の少なさを反映しているだろう。

意匠操作数は非常に少ない傾向にあり、意匠操作が5以上のものが全くなく、意匠操作自体が見られないものが非常に多い。片蓋柱を用いた座敷の1間指向、柱幅の段階的調整、大戸口のマグサの意匠性が顕著なもの、土間の梁が著しく太いもの、広間の4面に貫が見えるもの、長押の成の調整、は全く見られない。四国は全地域区分のうちで最も意匠操作数が少ない地域である。

⑨ 九州地域

平面積は小さい傾向にある。茅葺の屋根勾配は若干急で、降水量と関係しているものと考えられる。広間、座敷共に若干小さい傾向がある。柱幅区分数は少なく、1区分、2区分のうちの2A型（上屋・下屋）が非常に多い。最大柱幅が他の地域と比べて細い傾向にあり、太い柱が全くないものが非常に多く、梁成も若干細い傾向にある。

意匠操作数は若干少ない傾向にあるが、江戸末期に急に増加する。座敷柱幅が一様に細いもの、座敷柱間の1間指向、狐鴨居の仕様、片蓋胴差が多いが、五平柱、段階的柱幅調整、座敷の軒の区別化は少ない。

九州は積雪量が少ないため、柱幅が若干細い傾向にあり、それに伴い柱幅区分数も少ない。近畿から離れているために、意匠操作が若干少ないのだろう。このような地域でも、江戸末期になると意匠操作数が増え、意匠が発達する。

7-4 近世民家の意匠操作について

最後に、民家の意匠の発展を見せかけ材と部材幅を中心として私見をまとめた。

古形式の民家では、柱や梁等がすべて細い材で構成されてきた。古形式の民家とは、江戸前中期や山地などの民家が該当する。雑木を使うなどして部材幅が一定しておらず、まさに生活のために作られた最低限の構成である。当然意匠には趣向が凝らされておらず、素朴な形式であった。柱間がそもそも狭いなどして太い材が必要なく、柱については4～5寸程度、指鴨居については7寸程度の細い材が専ら使用された。このような民家は化粧と野を原則として区別しておらず、構造材がそのまま表れる形式(6-1のB1)である。部材幅や部材配置の均一化が意識されていないものがほとんどである(6-1のB2)。一方、書院造の座敷では化粧と野とを明確に区別しており、見せかけ材が生じやすい構成である。そのように構成が違う民家と座敷は古い時期は別棟で建てられていたが、時代が下って座敷が民家の中に取り込まれていく。相反する空間形式が融合していく始まりであり、見せかける技法が使用されやすくなった。これが民家の構造および意匠への第一の転換である。この時点ではまだ座敷においてのみ片蓋柱等の見せかけ材が用いられ、座敷と広間及び土間の部材幅や形式の差は大きくなかった。

その後は各空間で独自に意匠が発達する。これが民家の意匠における第二の転換である。座敷においては、広さが2間4方で、柱幅が0.4尺ほどで一様に細く、柱間束間が1間程度など、細い材で構成されるとともに形式が定型化する傾向にある(2章)。一方、広間や土間においては、柱間を広くしたことなどにより部材幅が1尺以上の太い指鴨居や太い梁や太い柱が、構造的必要性から使用される。しかし、次第にその太さ自体が意匠化し、指鴨居を柱間と無関係に成を揃え著しい太さのものとするものなどがでてくる。このように、座敷は細い材のまま定型化する一方広間や土間は以前より太い材を構造的意匠的に使用したため、各空間の構造的意匠的構成の差が大きくなった。そのような異なる形式の空間が一つの建物の中に存在するのだから、太い広間の材が細い材で構成された座敷の1面に見えてしまうなど、4面が統一されないちぐはぐな意匠になりやすい。それを防ぐために、狐鴨居や片蓋材等の見せかけ材を使用して、部屋の4面の意匠を統一するようにした(6-1のD1D2)。つまりは、部屋ごとには意匠が大きく異なるものの、各部屋内でみれば意匠は統一されるように意匠操作したのである。意匠操作は、各部屋の独自の意匠をより際立たせるとともに、独自の意匠を持つ部屋どうしが干渉しあわないようにするために用いられた。そのため、第一の転換では座敷にのみ意匠操作がみられたが、第二の転換では、座敷だけでなく民家全体に意匠操作の技法が波及した。

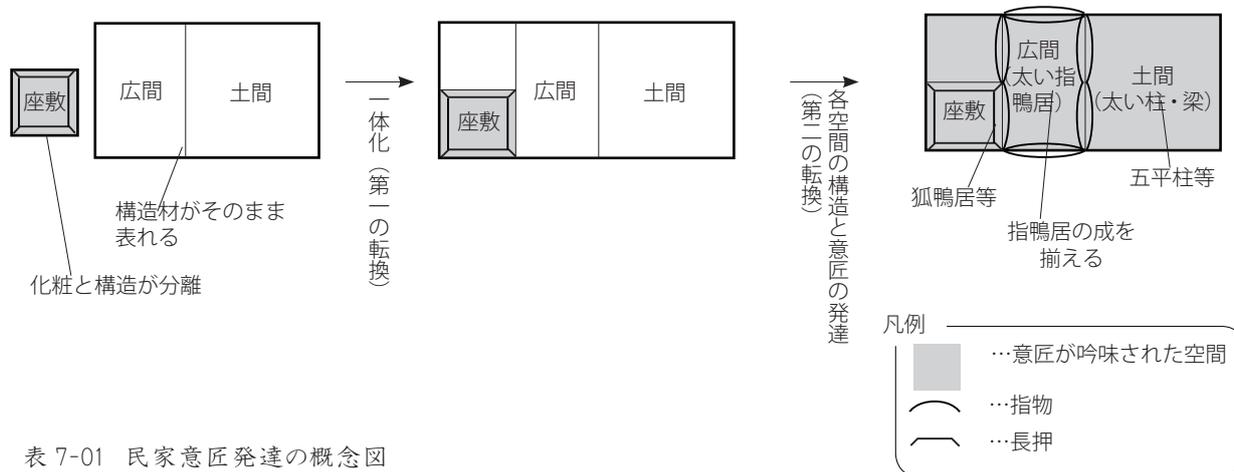


表 7-01 民家意匠発達概念図

第一の転換のような座敷の取り込みは江戸前中期には一般化する。第二の転換のような意匠操作は江戸後期以降に増え、江戸末期が最盛期である。地域ごとにみると近畿が進んでいて、江戸中期という早い時期に意匠操作が発達するのだが、近畿は江戸中期が最盛期であり江戸後期以降は意匠操作数が減じるという特異な傾向を示す。その後、近畿との民間交易が活発だった地域、つまりは北前船航路沿等では少し遅れて江戸後期に意匠操作が発達し近畿を上回る地域もある。山地や東北などの近畿との民間交易が少ない地域は、江戸末期になって意匠操作が発達する。全時代を通してみると、最も意匠操作が多い地域は北陸であり、近畿は3番目であることは特筆すべきであろう。逆に意匠操作が少ないのは四国や東海(東海・南関東)地域であった。このような時代的地域的傾向は、各地域における民間交易や経済の隆盛と時代的に大方一致している。近世(特に江戸後期以降)は流通の時代であり、庶民は自給自足するだけでなく遠方の物資が手に入る状況にあった。近畿は江戸中期に経済

が発達するが、それ以降は民間交易の発達に伴って地方で遠隔地交易を行う商人が力をつけ、近畿の商人は勢いが衰えるのである。民間交易や経済の発達と民家の意匠の発達とは間接的に密接な関係にあると考えられる。この直接的な関係は今後の研究課題としたいが、民間交易の発達によって可能となった遠隔地交易によって財力がつくとともに、売渡の交渉に必然的に伴う様々な文化的交流があったことが大きな要因だと考えている。文化的交流により意匠にこだわろうとする文化的土壌が形成され、財力があつたためその意匠的こだわりを実現できたのではなからうか。

民家は「実用的な、飾りのない、そして作為的なデザインがない」ために美しいという見方がなされてきたが、必ずしもそうとは限らない。本論文で述べたように、時代が下って意匠技法が発達した民家は、「作為的な」意匠操作によって見栄えをコントロールしていたのだ。民家は気候などの風土や実用性によってのみ構成された建築では必ずしもない。近世の民家は、細部まで意匠が考えつくされた建築も多いのである。

7-5 今後の課題と展望

本論文によって、民家の技巧的意匠について網羅的に分析したつもりではあるが、まだまだいたらない点が多い。筆者が明らかにできていないと考えている箇所と今後の展望を述べる。

・意匠を客観的に論じたことによる限界

まず「1-1 研究の目的」でも述べたように、意匠操作のような技巧的な意匠を強調しすぎている嫌いがあり、民家本来の素朴な意匠については分析がなされていない。意匠を数値化しているが、数値化されない意匠もさまざまあるはずである。これは客観的に意匠を論じようとした場合の限界であろう。

・より発展的な研究と考察の可能性

筆者が選んだ意匠操作は筆者の恣意性があり、おそらく他の研究者が分析すれば異なる意匠操作が見出されるであろう。例えば、「2-2 柱幅区分」は他の柱幅区分法があるだろうし、「6-4 意匠操作数と家業の関係」についても他の家業分類があり得るだろうし、本論で全く取り上げられていない意匠操作もあるだろう。

本研究のような意匠操作は、広間、座敷における各意匠形式の順守のための操作であることが多かった。逆に言うと、この意匠操作から民家の形式や様式を論ずることもできるだろう。これは現時点で考えていることについては「7-4 近世民家の意匠操作について」でまとめたが、これ以上により発展的な考察ができるはずである。

2章では大量のデータによって様々な考察をしたが、データが大量なため、筆者が気づいていない数値同士の関連性が多数あるはずで、筆者の分析力、構想力、知識の不足によって話をあまり発展させられていない。

・意匠操作を要素に分割したことによる見落とし

本論文の構成を考える際、意匠操作の要素ごとに述べるべきか、家ごとに述べるべきか、悩んだ。武田家や渡辺家のように一つの家で様々な意匠操作が関連しているとみられる例は少なく、家ごとに意匠操作を述べることは限界があった。よって、本論文では「1-5 意匠操作の典型例について」で家ごとに述べるだけとし、ほとんどの場合は意匠操作の要素ごとに分析した。しかし、要素ごとに分析したことによってもれてしまった論点もあるだろう。

・交易と民家の意匠の関係

6-4-4でも述べたように、交易と民家の関係については課題がある。直接的な関連性が見いだせていないので、今後も慎重に検討する必要がある。

・近代の意匠操作

明治以降の意匠操作は、修理工事報告書が発刊された民家が少ないためにほとんど取り上げられなかったが、近代にこそ多くの意匠操作が存在しているはずである。これは数十年後に近代和風などの修理工事報告書が増えてきたときに分析する予定である。

・他の建築形式での意匠操作

本論文では民家について分析したが、他の建築形式でもこのような意匠操作はあるはずである。庫裏、書院、数寄屋などでも、修理工事報告書が発刊された重要文化財建造物における意匠操作を分析しようと考えている。その後、社寺や城郭など他の建築形式における意匠操作の分析にも発展させていきたい。

以上のように、意匠操作には様々な可能性があると考えるので、今後も研究を続けていきたい。

各種一覽表

一覧表 -1 平面積 (2-1-2)

報告書の主要寸法を参照した。主屋だけでなく、主屋とつながった部分の面積もふくめている。但し、蔵などの別棟部分は面積に含めない。

県名	建物名	年代	年代区分	平面積㎡
新潟	渡辺	文化 14	江戸後	1207
新潟	笹川	文政 9	江戸後	1120
広島	頼	安政 2	江戸末	739
兵庫	岡田	延宝 2	江戸中	654
新潟	長谷川	享保元	江戸中	609
秋田	三浦	文久元	江戸末	561
岐阜	桑原	寛政 12	江戸後	546
石川	喜多	19 C 初	江戸後	534
滋賀	大角	元禄頃	江戸中	486
大阪	鴻池新田	嘉永 6	江戸末	484
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	468
島根	熊谷	文化	江戸後	453
富山	武田	寛政	江戸後	443
富山	浮田	文政 11	江戸後	431
愛媛	豊島	宝暦 8	江戸後	428
和歌山	中筋山	嘉永 5	江戸末	419
京都	角屋	江戸後	江戸後	400
宮城	我妻	宝暦 3	江戸後	396
奈良	森村	享保 17	江戸中	392
岐阜	矢篋原	宝暦元	江戸後	390
岡山	石井	江戸末	江戸末	389
岡山	大橋	寛政 9	江戸後	388
鳥取	後藤	正徳 4	江戸中	381
大阪	杉山	享保 19	江戸中	380
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	377
福井	瓜生	元禄 12	江戸中	370
青森	平山	明和 6	江戸後	365
群馬	彦部	17 C 前	江戸前	361
石川	時国	宝暦 6	江戸後	357
大阪	吉村	江戸前	江戸前	354
群馬	黒澤	江戸末	明治	348
岐阜	荒川	寛政 8	江戸後	345
大阪	高林	寛政 11	江戸後	338
愛媛	渡部	慶応 2	江戸末	325
山形	尾形	江戸中	江戸中	323
青森	石場	18 C 前	江戸後	323
和歌山	妹背山	延享 3	江戸中	312
山梨	高野	江戸後	江戸後	308
和歌山	増田山	宝永 3	江戸中	306
長野	小野	江戸末	江戸末	305
秋田	鈴木	17 C 末	江戸中	303
山口	菊屋	江戸中	江戸中	297
大阪	北田	宝永 5	江戸中	291
		~享保 19		
福井	石倉	慶応	江戸末	289
秋田	大山	19 C 中	江戸末	287
山口	熊谷	明和 5	江戸後	285
秋田	嵯峨	19C 前	江戸後	281
長野	曾根原	17 C 中	江戸前	276
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	273
栃木	岡本	江戸後	江戸後	272
山形	有路	江戸中	江戸中	269
栃木	三森	享保 18	江戸中	265
京都	伊佐	享保 19	江戸中	261
三重	町井	江戸後	江戸後	261
京都	澤井	元文 5	江戸中	257
岩手	工藤	宝暦 9	江戸後	257
島根	佐々木	天保 7	江戸末	253
静岡	大鐘	18 C 初	江戸中	253
岐阜	大戸	天保 4	江戸末	251
岩手	菅野	享保 13	江戸中	251
大阪	奥田	江戸中	江戸中	251
栃木	荒井	18 C 後	江戸後	249
栃木	入野	天保 12	江戸末	246

県名	建物名	年代	年代区分	平面積㎡
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	246
茨城	山本	江戸中	江戸中	244
静岡	中村	貞享 5	江戸中	239
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	238
群馬	生方	江戸中	江戸中	235
山梨	八代	文化 5	江戸後	233
岩手	後藤	元禄~宝永	江戸中	233
奈良	中	明和	江戸後	231
茨城	塙	18 C 後	江戸後	227
佐賀	土井	江戸末	江戸末	226
愛知	服部	天保	江戸末	226
埼玉	平山	18 C 前	江戸中	222
秋田	土田	17 C 後	江戸中	221
奈良	中村	寛永 9	江戸前	220
沖縄	上江洲	宝暦 4	江戸後	220
大分	行徳	弘化 4	江戸末	216
奈良	今西	慶安 3	江戸前	215
奈良	藤田	18 C 後	江戸後	214
福岡	中島	安政 6	江戸末	211
岐阜	若山	寛政 9	江戸後	210
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	210
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	209
岡山	犬養	江戸中	江戸中	207
岩手	小原	18 C 中	江戸後	204
埼玉	吉田	享保 6	江戸中	202
福岡	数山	天保 13	江戸末	199
福岡	永沼	天保 10	江戸末	199
新潟	若林	明和 6	江戸後 火災後	194
愛媛	上芳我	明治 27	明治	192
京都	行永	文政 8	江戸後	192
青森	笠石	18 C 後	江戸後	191
東京	大場	宝暦 3	江戸後	191
広島	吉原	寛永 12	江戸前	191
北海道	笹浪	19 C 前	江戸後	190
和歌山	柳川山	文化 4	江戸後	189
山口	目加田	19C 前	江戸後	188
奈良	片岡	天明 2	江戸後	187
長野	真山	明和 3	江戸後	187
広島	林	18 C 末	江戸後	185
福井	谷口	文化 6	江戸後 頃	185
山梨	平田	17 C 後	江戸中	183
徳島	田中	元治 2	江戸末	182
奈良	藤岡	18 C 後	明治	181
秋田	草薨	天保頃	江戸末	177
広島	奥	天明 8	江戸後	177
広島	太田	18 C 中	江戸後	175
岩手	菊池	18 C 中	江戸後	175
高知	関川	文政 2	江戸後	172
山形	矢作	江戸後	江戸後	171
神奈川	関	17 C 前	江戸前	171
福井	坪川	17 C 末	江戸中	168
奈良	河合	江戸後	江戸後	166
愛媛	本芳我	明治 17	明治	166
福岡	平川	18 C 後	江戸後	163
熊本	太田	江戸末	江戸末	162
愛知	東松	明治 34	明治	162
大分	矢羽田	18 C 後	江戸後	161
長野	横田	寛政 6	江戸後	161
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	160
大分	神尾	明和 8	江戸後	157
石川	小倉	江戸末	江戸末	157
島根	堀江	18 C 前	江戸中	156

県名	建物名	年代	年代区分	平面積㎡
福島	横山	江戸中	江戸中	155
沖縄	中村	江戸後	江戸後	153
北海道	中村道	明治 22	明治	153
新潟	佐藤	元文 3	江戸中	152
宮城	中澤	江戸後	江戸後	151
徳島	木村	元禄 12	江戸中	150
奈良	上田	延享元	江戸中	148
茨城	羽生	江戸中	江戸中	147
奈良	高木	文政~嘉永	江戸末	147
茨木	椎名	延宝 2	江戸中	147
大阪	高橋	江戸中	江戸中	146
岐阜	田中	18 C 初	江戸中	146
山口	早川	文政	江戸後	146
静岡	友田	18 C 前	江戸中	144
神奈川	伊藤	18 C 初	江戸中	144
長野	春原	17 C 末	江戸中	143
千葉	花野井	17 C 後	江戸中	143
奈良	豊田	寛文 2	江戸中	143
茨木	飛田	江戸中	江戸中	142
神奈川	石井	17 C 後	江戸中	141
京都	瀧澤	宝暦 10	江戸後	140
山口	国森	明和 5	江戸後	139
富山	嶋	18 C 末	江戸後	138
石川	松下	19 C 中	江戸末	138
埼玉	高麗	17 C 末	江戸中	136
高知	山中	18 C 前	江戸中	135
広島	幡山	江戸中	江戸中	135
山梨	門西	17 C 末	江戸中	135
神奈川	北村	貞享 4	江戸中	134
宮城	佐藤	18 C 後	江戸後	134
静岡	植松	延享元	江戸中	133
岩手	中村	文久元	江戸末	133
岩手	藤野	19 C 前	江戸後	132
群馬	戸部	江戸中	江戸中	132
奈良	臼井	元禄頃	江戸中	131
奈良	米谷	18 C 前	江戸中	130
千葉	尾形	享保 13	江戸中	129
埼玉	高橋	17 C 末	江戸中	128
福島	馬場	江戸中	江戸中	128
宮崎	黒木	天保 6	江戸末	128
大阪	左近	江戸前	江戸前	127
徳島	福永	文政 11	江戸後	127
京都	渡邊	江戸中	江戸中	127
岐阜	牧村	元禄 14	江戸中	126
千葉	御子神	安永 8	江戸後	126
佐賀	山口	明治	明治	126
群馬	阿久沢	江戸中	江戸中	126
栃木	羽石	18 C 後	江戸後	126
茨木	中崎	元禄元	江戸中	125
大阪	山本	江戸中	江戸中	124
和歌山	鈴木山	天明 5	江戸後	123
広島	木原	寛文 5	江戸中	122
岩手	伊藤	18 C 後	江戸後	120
奈良	音村	安政 2	江戸末	120
鹿児島	二階望	文化 6	江戸後	118
愛知	望月	18 C 後	江戸後	118
福島	旧五十嵐	享保 14	江戸中	117
山口	口羽	19 C 中	江戸末	117
岐阜	小坂	安永 2	江戸後	117
奈良	西田	江戸前	江戸前	116
群馬	茂木	江戸中	江戸中	115
大阪	山添	宝永 2	江戸中	115

一覧表-2 広間天井高さ(2-1-7)

床上～廻縁・胴差下端まで。報告書の断面図を測定して筆者が算出したため、誤差がある

県名	建物名	年代	年代区分	平面積㎡
愛媛	山中	18C後	江戸後	115
佐賀	吉村	天明9	江戸後	114
富山	羽馬	江戸中	江戸中	113
香川	恵利	江戸中	江戸中	113
兵庫	古井	室町後	室町	113
熊本	境	文政13	江戸末	112
福井	堀口	18C初	江戸中	112
奈良	中橋	江戸後	江戸後	112
和歌	谷山	寛延2	江戸中	110
大分	後藤	江戸後	江戸後	108
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	107
岡山	前原	18C後	江戸後	106
鹿児島	古市	弘化3	江戸末	104
石川	座主	18C初	江戸中	102
福島	五十嵐	享保3	江戸中	101
兵庫	箱木	室町後	室町	96
京都	石田	慶安3	江戸前	93
埼玉	大沢	寛政4	江戸後	92
宮崎	藤田	天明7	江戸後	90
富山	佐伯	明和4	江戸後	89
岐阜	林隠居屋	文政12	江戸後	89
岡山	森江	17C末	江戸後	88
埼玉	小野	18C初	江戸中	87
埼玉	新井	延享2	江戸中	87
滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	86
東京	宮崎	19C中	江戸末	81
福井	橋本	18C初	江戸中	80
長崎	本田	江戸中	江戸中	79
佐賀	川打	江戸中	江戸中	79
徳島	長岡	享保12	江戸中	79
茨城	太田	18C中	江戸中	76
香川	細川	江戸中	江戸中	75
徳島	小采	天保	江戸末	60
愛媛	真鍋	18C初	江戸中	59
北海道	三戸部	明治20	明治	58
高知	竹内	18C末	江戸後	56
島根	道面	19C前	江戸後	47

県名	建物名	年代	年代区分	広間天井高さ尺
富山	武田	寛政	江戸後	17.0
新潟	佐藤	元文3	江戸中	17.0
石川	時国	宝暦6	江戸後	16.4
富山	浮田	文政11	江戸後	16.0
新潟	徳川	文政9	江戸後	15.0
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	15.0
山梨	星野	嘉永2-4	江戸末	14.8
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	14.7
福井	瓜生	元禄12	江戸中	14.5
大阪	鴻池新田	嘉永6	江戸末	14.0
新潟	渡辺	文化14	江戸後	13.9
埼玉	平山	18C前	江戸中	13.6
秋田	三浦	文久元	江戸末	13.5
大阪	北田	宝永5 ～享保19	江戸中	13.0
山形	尾形	江戸中	江戸中	13.0
神奈	石井川	17C後	江戸中	13.0
大阪	左近	江戸前	江戸前	12.6
奈良	藤田	18C後	江戸後	12.5
富山	佐伯	明和4	江戸後	12.5
福井	谷口	文化6	江戸後	12.3
岐阜	牧村	元禄14	江戸中	12.0
滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	12.0
岐阜	若山	寛政9	江戸後	12.0
岐阜	大戸	天保4	江戸末	12.0
福井	堀口	18C初	江戸中	12.0
静岡	友田	18C前	江戸中	12.0
福井	坪川	17C末	江戸中	12.0
栃木	入野	天保12	江戸末	11.8
奈良	片岡	天明2	江戸後	11.7
佐賀	西岡	安政2	江戸末	11.5
栃木	三森	享保18	江戸中	11.5
大阪	高橋	江戸中	江戸中	11.4
和歌	鈴木山	天明5	江戸後	11.4
長野	小野	江戸末	江戸末	11.3
京都	行永	文政8	江戸後	11.2
大分	行徳	弘化4	江戸末	11.0
神奈	北村川	貞享4	江戸中	11.0
神奈	伊藤川	18C初	江戸中	11.0
大分	神尾	明和8	江戸後	10.9
大阪	奥田	江戸中	江戸中	10.8
愛知	服部	天保	江戸末	10.8
大阪	山添	宝永2	江戸中	10.7
和歌	妹背山	延享3	江戸中	10.6
奈良	中	明和	江戸後	10.6
島根	熊谷	文化	江戸後	10.6
香川	恵利	江戸中	江戸中	10.5
大阪	山本	江戸中	江戸中	10.4
大阪	高林	寛政11	江戸後	10.2
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	10.0
岐阜	荒川	寛政8	江戸後	10.0
岡山	前原	18C後	江戸後	10.0
愛媛	豊島	宝暦8	江戸後	10.0
大分	後藤	江戸後	江戸後	10.0
大分	矢羽田	18C後	江戸後	10.0
京都	角屋	江戸後	江戸後	9.9
岐阜	桑原	寛政12	江戸後	9.8
島根	佐々木	天保7	江戸末	9.7
愛媛	上芳我	明治27	明治	9.6
奈良	中橋	江戸後	江戸後	9.6

県名	建物名	年代	年代区分	広間天井高さ尺
和歌	増田山	宝永3	江戸中	9.5
京都	渡邊	江戸中	江戸中	9.5
岡山	犬養	江戸中	江戸中	9.3
広島	奥	天明8	江戸後	9.2
京都	伊佐	享保19	江戸中	9.2
京都	澤井	元文5	江戸中	9.1
奈良	白井	元禄頃	江戸中	9.1
奈良	森村	享保17	江戸中	9.0
奈良	中村	寛永9	江戸前	9.0
岐阜	小坂	安永2	江戸後	9.0
富山	羽馬	江戸中	江戸中	9.0
秋田	大山	19C中	江戸末	9.0
岡山	森江	17C末	江戸後	9.0
広島	木原	寛文5	江戸中	9.0
山口	熊谷	明和5	江戸後	9.0
徳島	田中	元治2	江戸末	9.0
熊本	太田	江戸末	江戸末	9.0
山梨	高野	江戸後	江戸後	8.9
福岡	数山	天保13	江戸末	8.9
沖縄	上江洲	宝暦4	江戸後	8.7
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	8.6
山口	菊屋	江戸中	江戸中	8.6
埼玉	小野	18C初	江戸中	8.6
京都	石田	慶安3	江戸前	8.5
沖縄	中村	江戸後	江戸後	8.5
福岡	永沼	天保10	江戸末	8.3
京都	瀧澤	宝暦10	江戸後	8.2
兵庫	岡田	延宝2	江戸中	8.0
岡山	石井	江戸末	江戸末	8.0
広島	頼	安政2	江戸末	8.0
山口	国森	明和5	江戸後	8.0
徳島	福永	文政11	江戸後	8.0
奈良	高木	文政～ 嘉永	江戸末	8.0
大阪	吉村	江戸前	江戸前	7.8
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	7.7
奈良	豊田	寛文2	江戸中	7.5
和歌	中筋山	嘉永5	江戸末	7.5
福岡	中島	安政6	江戸末	7.5
北海道	中村道	明治22	明治	7.1
滋賀	西川	宝永3	江戸中	7.0
奈良	上田	延享元	江戸中	7.0
岡山	大橋	寛政9	江戸後	7.0
山口	目加田	19C前	江戸後	7.0
愛媛	本芳我	明治17	明治	7.0
佐賀	吉村	天明9	江戸後	7.0
岐阜	林隠居屋	文政12	江戸後	6.8
三重	町井	江戸後	江戸後	6.7
岐阜	林主屋	安永2	江戸後	6.6
山口	早川	文政	江戸後	6.5
奈良	藤岡	18C後	明治	6.0
石川	座主	18C初	江戸中	4.4
福岡	平川	18C後	江戸後	2.9

一覧表 -3 座敷天井高さ(2-1-7)

床上～廻縁・胴差下端まで。報告書の断面図を測定して筆者が算出したため、誤差がある

県名	建物名	年代	年代区分	座敷天井高さ	県名	建物名	年代	年代区分	座敷天井高さ	県名	建物名	年代	年代区分	座敷天井高さ
新潟	佐藤	元文3	江戸中	17.0	福岡	中島	安政6	江戸末	8.8	兵庫	友井	元禄頃	江戸中	7.7
千葉	作田	17C後	江戸中	14.0	島根	佐々木	天保7	江戸末	8.7	奈良	中	明和	江戸後	7.6
山梨	星野	嘉永2-4	江戸末	14.0	茨木	飛田	江戸中	江戸中	8.6	栃木	荒井	18C後	江戸後	7.5
埼玉	平山	18C前	江戸中	13.6	新潟	若林	明和6	江戸後	8.6	奈良	豊田	寛文2	江戸中	7.5
神奈川	石井	17C後	江戸中	13.0	島根	堀江	18C前	江戸中	8.6	奈良	河合	江戸後	江戸後	7.4
大阪	左近	江戸前	江戸前	12.6	広島	楠山	江戸中	江戸中	8.6	奈良	中橋	江戸後	江戸後	7.4
奈良	藤田	18C後	江戸後	12.5	島根	熊谷	文化	江戸後	8.6	奈良	高木	文政～	江戸末	7.3
福井	瓜生	元禄12	江戸中	12.2	広島	奥	天明8	江戸後	8.6	静岡	大鐘	18C初	江戸中	7.2
岐阜	若山	寛政9	江戸後	12.0	埼玉	小野	18C初	江戸中	8.6	滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	7.1
大阪	高橋	江戸中	江戸中	11.4	北海道	中村	明治22	明治	8.6	香川	恵利	江戸中	江戸中	7.0
新潟	渡辺	文化14	江戸後	11.1	山口	目加田	19C前	江戸後	8.6	富山	羽馬	江戸中	江戸中	7.0
神奈川	北村	貞享4	江戸中	11.0	大分	神尾	明和8	江戸後	8.6	奈良	藤岡	18C後	明治	7.0
神奈川	伊藤	18C初	江戸中	11.0	京都	澤井	元文5	江戸中	8.5	静岡	植松	延享元	江戸中	6.9
愛知	服部	天保	江戸末	10.8	京都	石田	慶安3	江戸前	8.5	千葉	御子神	安永8	江戸後	6.8
佐賀	西岡	安政2	江戸末	10.7	新潟	長谷川	享保元	江戸中	8.5	埼玉	高麗	17C末	江戸中	6.7
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	10.6	茨城	山本	江戸中	江戸中	8.5	岐阜	小坂	安永2	江戸後	6.7
大阪	山本	江戸中	江戸中	10.4	富山	佐伯	明和4	江戸後	8.5	石川	座主	18C初	江戸中	4.4
富山	武田	寛政	江戸後	10.0	秋田	大山	19C中	江戸末	8.5	福岡	平川	18C後	江戸後	2.4
石川	時国	宝暦6	江戸後	10.0	山口	熊谷	明和5	江戸後	8.5					
新潟	笹川	文政9	江戸後	10.0	沖縄	中村	江戸後	江戸後	8.5					
岡山	前原	18C後	江戸後	10.0	和歌山	中筋山	嘉永5	江戸末	8.5					
大分	矢羽田	18C後	江戸後	10.0	栃木	入野	天保12	江戸末	8.4					
佐賀	吉村	天明9	江戸後	10.0	三重	町井	江戸後	江戸後	8.4					
奈良	片岡	天明2	江戸後	10.0	大阪	奥田	江戸中	江戸中	8.4					
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	9.9	大阪	高林	寛政11	江戸後	8.3					
富山	嶋	18C末	江戸後	9.9	山梨	八代	文化5	江戸後	8.3					
秋田	三浦	文久元	江戸末	9.9	岩手	中村	文久元	江戸末	8.3					
長野	真山	明和3	江戸後	9.7	和歌山	増田	宝永3	江戸中	8.3					
青森	石場	18C前	江戸後	9.7	沖繩	上江洲	宝暦4	江戸後	8.3					
愛媛	上芳我	明治27	明治	9.6	滋賀	西川	宝永3	江戸中	8.3					
大阪	杉山	享保19	江戸中	9.5	埼玉	吉田	享保6	江戸中	8.3					
福井	石倉	慶応	江戸末	9.5	岐阜	牧村	元禄14	江戸中	8.3					
京都	渡邊	江戸中	江戸中	9.5	山梨	高野	江戸後	江戸後	8.3					
京都	行永	文政8	江戸後	9.5	岐阜	林主屋	安永2	江戸後	8.2					
大阪	吉村	江戸前	江戸前	9.4	栃木	岡本	江戸後	江戸後	8.2					
富山	浮田	文政11	江戸後	9.4	鳥取	矢部	江戸前	江戸前	8.2					
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	9.3	福井	坪川	17C末	江戸中	8.2					
岡山	犬養	江戸中	江戸中	9.3	岐阜	林隠居	文政12	江戸後	8.2					
岐阜	桑原	寛政12	江戸後	9.3	大阪	鴻池新田	嘉永6	江戸末	8.1					
和歌山	鈴木	天明5	江戸後	9.1	奈良	音村	安政2	江戸末	8.0					
奈良	白井	元禄頃	江戸中	9.1	青森	平山	明和6	江戸後	8.0					
茨城	塙	18C後	江戸後	9.1	北海道	笹浪道	19C前	江戸後	8.0					
山形	有路	江戸中	江戸中	9.0	鹿児島	二階堂	文化6	江戸後	8.0					
山口	口羽	19C中	江戸末	9.0	大阪	北田	宝永5	江戸中	8.0					
宮崎	黒木	天保6	江戸末	9.0	奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	8.0					
山形	尾形	江戸中	江戸中	9.0	大分	後藤	江戸後	江戸後	8.0					
岐阜	大戸	天保4	江戸末	9.0	徳島	田中	元治2	江戸末	8.0					
大分	行徳	弘化4	江戸末	9.0	熊本	太田	江戸末	江戸末	8.0					
大阪	山添	宝永2	江戸中	9.0	岡山	石井	江戸末	江戸末	8.0					
和歌山	妹背山	延享3	江戸中	9.0	山口	国森	明和5	江戸後	8.0					
岐阜	荒川	寛政8	江戸後	9.0	徳島	福永	文政11	江戸後	8.0					
愛媛	豊島	宝暦8	江戸後	9.0	奈良	上田	延享元	江戸中	8.0					
奈良	中村	寛永9	江戸前	9.0	岡山	大橋	寛政9	江戸後	8.0					
岡山	森江	17C末	江戸後	9.0	愛媛	本芳我	明治17	明治	8.0					
広島	木原	寛文5	江戸中	9.0	京都	瀧澤	宝暦10	江戸後	7.8					
山口	早川	文政	江戸後	9.0	広島	頼	安政2	江戸末	7.8					
福岡	永沼	天保10	江戸末	8.9	静岡	友田	18C前	江戸中	7.7					
福岡	数山	天保13	江戸末	8.9	京都	角屋	江戸後	江戸後	7.7					
石川	松下	19C中	江戸末	8.9										
秋田	草薨	天保頃	江戸末	8.8										
徳島	長岡	享保12	江戸中	8.8										
鹿児島	古市	弘化3	江戸末	8.8										
栃木	三森	享保18	江戸中	8.8										
山口	菊屋	江戸中	江戸中	8.8										

一覽表 -4 棟高 (m) (2-1-3)

礎石上端～棟頂。報告書の主要寸法参照

県名	建物名	年代	年代区分	棟高 m
岐阜	若山	寛政 9	江戸後	13.5
秋田	三浦	文久元	江戸末	13.4
岐阜	矢鹿原	宝暦元	江戸後	13.2
岐阜	大戸	天保 4	江戸末	13.0
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	11.9
東京	大場	宝暦 3	江戸後	11.7
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	11.6
奈良	今西	慶安 3	江戸前	11.4
富山	武田	寛政	江戸後	11.4
奈良	片岡	天明 2	江戸後	11.1
石川	時国	宝暦 6	江戸後	11.0
滋賀	大角	元禄頃	江戸中	10.9
岩手	菅野	享保 13	江戸中	10.8
福井	石倉	慶応	江戸末	10.7
福井	瓜生	元禄 12	江戸中	10.7
大阪	北田	宝永 5 ～享保 19	江戸中	10.5
福岡	永沼	天保 10	江戸末	10.3
愛知	東松	明治 34	明治	10.3
石川	喜多	19 C 初	江戸後	10.2
広島	太田	18 C 中	江戸後	10.2
秋田	草薨	天保頃	江戸末	10.1
山梨	高野	江戸後	江戸後	10.1
愛媛	本芳我	明治 17	明治	10.0
新潟	笹川	文政 9	江戸後	10.0
大分	神尾	明和 8	江戸後	10.0
奈良	森村	享保 17	江戸中	10.0
広島	奥	天明 8	江戸後	9.9
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	9.9
秋田	大山	19 C 中	江戸末	9.9
新潟	長谷川	享保元	江戸中	9.8
兵庫	岡田	延宝 2	江戸中	9.8
岩手	後藤	元禄～ 宝永	江戸中	9.8
静岡	中村	貞享 5	江戸中	9.8
栃木	三森	享保 18	江戸中	9.8
福井	堀口	18 C 初	江戸中	9.8
富山	佐伯	明和 4	江戸後	9.8
大阪	高橋	江戸中	江戸中	9.7
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	9.7
山梨	八代	文化 5	江戸後	9.7
岩手	小原	18 C 中	江戸後	9.7
福岡	平川	18 C 後	江戸後	9.6
福井	坪川	17 C 末	江戸中	9.6
京都	伊佐	享保 19	江戸中	9.6
愛媛	上芳我	明治 27	明治	9.6
埼玉	吉田	享保 6	江戸中	9.6
秋田	鈴木	17 C 末	江戸中	9.5
和歌山	鈴木	天明 5	江戸後	9.5
奈良	河合	江戸後	江戸後	9.5
秋田	土田	17 C 後	江戸中	9.4
宮城	我妻	宝暦 3	江戸後	9.4
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	9.3
栃木	荒井	18 C 後	江戸後	9.3
富山	羽馬	江戸中	江戸中	9.3
広島	吉原	寛永 12	江戸前	9.3
山形	有路	江戸中	江戸中	9.3
大分	行徳	弘化 4	江戸末	9.3
埼玉	平山	18 C 前	江戸中	9.2
大阪	杉山	享保 19	江戸中	9.2
大阪	山本	江戸中	江戸中	9.2
新潟	渡辺	文化 14	江戸後	9.2
埼玉	大沢	寛政 4	江戸後	9.2
山口	熊谷	明和 5	江戸後	9.1
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	9.1
京都	石田	慶安 3	江戸前	9.1

県名	建物名	年代	年代区分	棟高 m
奈良	豊田	寛文 2	江戸中	9.1
岐阜	桑原	寛政 12	江戸後	9.1
京都	渡邊	江戸中	江戸中	9.1
奈良	藤田	18 C 後	江戸後	9.0
富山	浮田	文政 11	江戸後	9.0
山梨	門西	17 C 末	江戸中	9.0
青森	笠石	18 C 後	江戸後	9.0
静岡	友田	18 C 前	江戸中	9.0
茨城	山本	江戸中	江戸中	9.0
秋田	嵯峨	19C 前	江戸後	8.9
新潟	佐藤	元文 3	江戸中	8.9
岩手	工藤	宝暦 9	江戸後	8.9
島根	堀江	18 C 前	江戸中	8.9
広島	頼	安政 2	江戸末	8.9
奈良	西田	江戸前	江戸前	8.9
青森	平山	明和 6	江戸後	8.9
栃木	岡本	江戸後	江戸後	8.9
栃木	入野	天保 12	江戸末	8.8
広島	木原	寛文 5	江戸中	8.8
広島	幡山	江戸中	江戸中	8.8
島根	熊谷	文化	江戸後	8.8
群馬	彦部	17 C 前	江戸前	8.7
群馬	黒澤	江戸末	明治	8.7
愛媛	豊島	宝暦 8	江戸後	8.7
大阪	左近	江戸前	江戸前	8.7
徳島	田中	元治 2	江戸末	8.7
岐阜	牧村	元禄 14	江戸中	8.6
山口	国森	明和 5	江戸後	8.6
福井	橋本	18 C 初	江戸中	8.6
愛知	服部	天保	江戸末	8.6
福岡	数山	天保 13	江戸末	8.6
大阪	高林	寛政 11	江戸後	8.6
大阪	山添	宝永 2	江戸中	8.6
奈良	中	明和	江戸後	8.6
奈良	高木	文政～ 嘉永	江戸末	8.6
石川	座主	18 C 初	江戸中	8.6
熊本	太田	江戸末	江戸末	8.5
長野	小野	江戸末	江戸末	8.5
大阪	奥田	江戸中	江戸中	8.5
福井	谷口	文化 6	江戸後	8.5
大阪	鴻池新田	嘉永 6	江戸末	8.5
千葉	尾形	享保 13	江戸中	8.5
静岡	大鐘	18 C 初	江戸中	8.5
鳥取	後藤	正徳 4	江戸中	8.5
岡山	大橋	寛政 9	江戸後	8.5
北海	中村道	明治 22	明治	8.4
山梨	平田	17 C 後	江戸中	8.4
茨木	椎名	延宝 2	江戸中	8.4
大分	後藤	江戸後	江戸後	8.4
岡山	前原	18 C 後	江戸後	8.3
佐賀	吉村	天明 9	江戸後	8.3
神奈川	石井	17 C 後	江戸中	8.3
山形	尾形	江戸中	江戸中	8.3
福岡	中島	安政 6	江戸末	8.2
和歌山	妹背山	延享 3	江戸中	8.2
宮崎	黒木	天保 6	江戸末	8.2
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	8.2
茨城	羽生	江戸中	江戸中	8.2
大分	矢羽田	18 C 後	江戸後	8.1
宮崎	藤田	天明 7	江戸後	8.1
山口	菊屋	江戸中	江戸中	8.1
徳島	木村	元禄 12	江戸中	8.1
茨城	塙	18 C 後	江戸後	8.0
奈良	音村	安政 2	江戸末	8.0
宮城	中澤	江戸後	江戸後	8.0
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	8.0

県名	建物名	年代	年代区分	棟高 m
岡山	森江	17 C 末	江戸後	8.0
岩手	藤野	19 C 前	江戸後	7.9
奈良	中村	寛永 9	江戸前	7.9
埼玉	高麗	17 C 末	江戸中	7.9
岐阜	小坂	安永 2	江戸後	7.9
鹿児島	二階堂	文化 6	江戸後	7.9
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	7.9
兵庫	箱木	室町後	室町	7.9
神奈川	関	17 C 前	江戸前	7.9
京都	澤井	元文 5	江戸中	7.8
岐阜	荒川	寛政 8	江戸後	7.8
京都	角屋	江戸後	江戸後	7.8
岩手	伊藤	18 C 後	江戸後	7.8
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	7.7
愛媛	山中	18C 後	江戸後	7.7
岩手	菊池	18 C 中	江戸後	7.7
兵庫	古井	室町後	室町	7.7
高知	関川	文政 2	江戸後	7.7
和歌山	増田山	宝永 3	江戸中	7.7
千葉	御子神	安永 8	江戸後	7.7
茨木	中崎	元禄元	江戸中	7.6
長野	春原	17 C 末	江戸中	7.6
長野	真山	明和 3	江戸後	7.6
福島	馬場	江戸中	江戸中	7.6
滋賀	宮地	宝暦 4	江戸後	7.6
埼玉	高橋	17 C 末	江戸中	7.6
千葉	花野井	17 C 後	江戸中	7.6
岡山	石井	江戸末	江戸末	7.6
京都	行永	文政 8	江戸後	7.5
愛媛	渡部	慶応 2	江戸末	7.5
長野	横田	寛政 6	江戸後	7.5
奈良	上田	延享元	江戸中	7.5
新潟	若林	明和 6	江戸後	7.5
三重	町井	江戸後	江戸後	7.5
栃木	羽石	18 C 後	江戸後	7.4
高知	山中	18 C 前	江戸中	7.4
東京	宮崎	19 C 中	江戸末	7.4
京都	瀧澤	宝暦 10	江戸後	7.3
福島	五十嵐	享保 3	江戸中	7.3
徳島	小采	天保	江戸末	7.2
神奈川	北村	貞享 4	江戸中	7.2
長崎	本田	江戸中	江戸中	7.2
群馬	阿久沢	江戸中	江戸中	7.1
岐阜	林隠居屋	文政 12	江戸後	7.1
宮城	佐藤	18 C 後	江戸後	7.1
奈良	白井	元禄頃	江戸中	7.0
愛知	望月	18 C 後	江戸後	7.0
福島	横山	江戸中	江戸中	6.9
静岡	植松	延享元	江戸中	6.9
山形	矢作	江戸後	江戸後	6.9
佐賀	土井	江戸末	江戸末	6.9
茨木	飛田	江戸中	江戸中	6.8
山口	早川	文政	江戸後	6.8
佐賀	山口	明治	明治	6.8
群馬	戸部	江戸中	江戸中	6.8
熊本	境	文政 13	江戸末	6.7
神奈川	伊藤	18 C 初	江戸中	6.7
島根	道面	19C 前	江戸後	6.7
徳島	福永	文政 11	江戸後	6.7
奈良	藤岡	18 C 後	明治	6.6
和歌山	谷山	寛延 2	江戸中	6.6

一覧表-5 茅葺の屋根勾配(2-1-6)

報告書の断面図を測定して筆者が算出したため、誤差がある

県名	建物名	年代	年代区分	棟高 m
和歌山	柳川	文化4	江戸後	6.6
茨城	太田	18C中	江戸中	6.6
福島	旧五十嵐	享保14	江戸中	6.6
徳島	長岡	享保12	江戸中	6.5
石川	小倉	江戸末	江戸末	6.5
青森	石場	18C前	江戸後	6.5
奈良	米谷	18C前	江戸中	6.5
佐賀	川打	江戸中	江戸中	6.5
岩手	中村	文久元	江戸末	6.5
岡山	犬養	江戸中	江戸中	6.4
奈良	中橋	江戸後	江戸後	6.4
香川	恵利	江戸中	江戸中	6.4
山口	目加田	19C前	江戸後	6.3
愛媛	真鍋	18C初	江戸中	6.3
群馬	生方	江戸中	江戸中	6.3
島根	佐々木	天保7	江戸末	6.2
埼玉	新井	延享2	江戸中	6.2
埼玉	小野	18C初	江戸中	6.2
沖縄	上江洲	宝暦4	江戸後	6.1
長野	會根原	17C中	江戸前	6.1
高知	竹内	18C末	江戸後	6.1
沖縄	中村	江戸後	江戸後	6.1
広島	林	18C末	江戸後	6.1
北海道	笹浪道	19C前	江戸後	6.0
石川	松下	19C中	江戸末	6.0
北海道	三戸部	明治20	明治	5.9
香川	細川	江戸中	江戸中	5.9
鹿児島	古市島	弘化3	江戸末	5.7
山口	口羽	19C中	江戸末	5.7
群馬	茂木	江戸中	江戸中	5.5
富山	嶋	18C末	江戸後	5.5
和歌山	中筋山	嘉永5	江戸末	4.5
岐阜	田中	18C初	江戸中	4.3

県名	建物名	年代	年代区分	平均 配	妻勾 配
富山	羽馬	江戸中	江戸中	1.72	切妻
長崎	本田	江戸中	江戸中	1.43	1.43
富山	江向	18C初	江戸中	1.40	切妻
岐阜	若山	寛政9	江戸後	1.40	切妻
岐阜	大戸	天保4	江戸末	1.30	切妻
富山	佐伯	明和4	江戸後	1.30	1.30
大分	後藤	江戸後	江戸後	1.30	1.04
愛媛	豊島	宝暦8	江戸後	1.28	1.33
大分	神尾	明和8	江戸後	1.25	1.25
大分	矢羽田	18C後	江戸後	1.25	1.25
岐阜	矢麓原	宝暦元	江戸後	1.20	1.35
奈良	片岡	天明2	江戸後	1.20	1.78
大阪	高橋	江戸中	江戸中	1.20	1.20
広島	幡山	江戸中	江戸中	1.20	1.25
佐賀	川打	江戸中	江戸中	1.19	1.21
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	1.18	1.54
広島	奥	天明8	江戸後	1.16	1.27
熊本	太田	江戸末	江戸末	1.14	1.14
宮崎	黒木	天保6	江戸末	1.14	1.73
奈良	藤田	18C後	江戸後	1.12	切妻
大阪	高林	寛政11	江戸後	1.12	1.12
京都	渡邊	江戸中	江戸中	1.11	1.25
秋田	三浦	文久元	江戸末	1.10	1.10
大阪	北田	宝永5	江戸中	1.10	1.10
福岡	平川	18C後	江戸後	1.10	1.10
福井	坪川	17C末	江戸中	1.10	1.06
秋田	土田	17C後	江戸中	1.10	1.10
大阪	山本	江戸中	江戸中	1.10	1.30
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	1.10	1.00
新潟	佐藤	元文3	江戸中	1.10	1.10
岐阜	牧村	元禄14	江戸中	1.10	1.17
岡山	前原	18C後	江戸後	1.10	1.07
佐賀	吉村	天明9	江戸後	1.10	1.30
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	1.10	1.10
宮崎	藤田	天明7	江戸後	1.10	1.38
岡山	森江	17C末	江戸後	1.10	1.10
兵庫	箱木	室町後	室町	1.10	1.00
高知	関川	文政2	江戸後	1.10	1.57
滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	1.10	1.10
島根	堀江	18C前	江戸中	1.09	1.09
京都	石田	慶安3	江戸前	1.08	1.27
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	1.07	0.90
熊本	境	文政13	江戸末	1.06	1.06
福岡	永沼	天保10	江戸末	1.05	1.05
岩手	小原	18C中	江戸後	1.05	1.05
山形	有路	江戸中	江戸中	1.05	1.05
徳島	小采	天保	江戸末	1.05	1.20
高知	竹内	18C末	江戸後	1.05	1.05
広島	吉原	寛永12	江戸前	1.04	1.12
岩手	後藤	元禄~ 宝永	江戸中	1.02	1.06
奈良	中	明和	江戸後	1.02	切妻
東京	大場	宝暦3	江戸後	1.00	1.00
岩手	菅野	享保13	江戸中	1.00	1.00
奈良	森村	享保17	江戸中	1.00	切妻
秋田	大山	19C中	江戸末	1.00	0.90
新潟	長谷川	享保元	江戸中	1.00	1.00
静岡	中村	貞享5	江戸中	1.00	1.00
栃木	三森	享保18	江戸中	1.00	1.10
大分	行徳	弘化4	江戸末	1.00	1.00
富山	浮田	文政11	江戸後	1.00	1.00
静岡	友田	18C前	江戸中	1.00	1.00
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	1.00	1.23
岩手	工藤	宝暦9	江戸後	1.00	1.00
大阪	左近	江戸前	江戸前	1.00	1.00
福井	橋本	18C初	江戸中	1.00	1.20
大阪	山添	宝永2	江戸中	1.00	1.00

県名	建物名	年代	年代区分	平均 配	妻勾 配
徳島	木村	元禄12	江戸中	1.00	1.00
岩手	藤野	19C前	江戸後	1.00	1.00
鹿児島	二階堂	文化6	江戸後	1.00	1.13
兵庫	古井	室町後	室町	1.00	1.00
長野	横田	寛政6	江戸後	1.00	1.00
新潟	若林	明和6	江戸後	1.00	1.00
東京	宮崎	19C中	江戸末	1.00	1.00
宮城	佐藤	18C後	江戸後	1.00	1.00
愛知	望月	18C後	江戸後	1.00	1.03
山形	矢作	江戸後	江戸後	1.00	0.72
佐賀	山口	明治	明治	1.00	1.00
島根	道面	19C前	江戸後	1.00	1.04
徳島	長岡	享保12	江戸中	1.00	1.07
愛媛	真鍋	18C初	江戸中	1.00	1.30
香川	細川	江戸中	江戸中	1.00	1.00
福岡	数山	天保13	江戸末	0.99	0.99
山形	尾形	江戸中	江戸中	0.98	1.30
福島	馬場	江戸中	江戸中	0.97	1.10
山梨	高野	江戸後	江戸後	0.96	0.96
山梨	八代	文化5	江戸後	0.96	0.96
秋田	鈴木	17C末	江戸中	0.96	1.07
愛媛	山中	18C後	江戸後	0.96	1.30
栃木	荒井	18C後	江戸後	0.95	1.25
青森	笠石	18C後	江戸後	0.95	0.95
岩手	菊池	18C中	江戸後	0.95	0.92
茨木	中崎	元禄元	江戸中	0.95	0.95
茨木	飛田	江戸中	江戸中	0.95	0.95
埼玉	小野	18C初	江戸中	0.95	1.00
千葉	尾形	享保13	江戸中	0.94	0.97
茨木	椎名	延宝2	江戸中	0.93	1.07
秋田	草薨	天保頃	江戸末	0.93	0.93
千葉	御子神	安永8	江戸後	0.93	0.96
山梨	門西	17C末	江戸中	0.92	0.92
群馬	彦部	17C前	江戸前	0.92	1.00
岩手	伊藤	18C後	江戸後	0.92	0.98
高知	山中	18C前	江戸中	0.92	1.25
埼玉	平山	18C前	江戸中	0.91	0.87
山梨	平田	17C後	江戸中	0.91	0.91
茨城	太田	18C中	江戸中	0.91	1.36
宮城	我妻	宝暦3	江戸後	0.90	0.93
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	0.90	0.94
茨城	羽生	江戸中	江戸中	0.90	0.95
埼玉	高麗	17C末	江戸中	0.90	0.80
埼玉	高橋	17C末	江戸中	0.90	0.90
青森	平山	明和6	江戸後	0.89	1.00
神奈川	石井	17C後	江戸中	0.89	0.95
京都	澤井	元文5	江戸中	0.89	0.94
群馬	戸部	江戸中	江戸中	0.89	0.89
栃木	羽石	18C後	江戸後	0.88	0.88
群馬	阿久沢	江戸中	江戸中	0.88	0.96
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	0.87	1.05
茨城	山本	江戸中	江戸中	0.87	1.00
福島	五十嵐	享保3	江戸中	0.87	0.87
千葉	作田	17C後	江戸中	0.86	1.10
千葉	花野井	17C後	江戸中	0.86	0.89
静岡	植松	延享元	江戸中	0.86	0.86
福島	旧五十嵐	享保14	江戸中	0.86	1.00
愛知	服部	天保	江戸末	0.85	1.00
長野	春原	17C末	江戸中	0.85	0.88
神奈川	伊藤	18C初	江戸中	0.85	0.85
神奈川	北村	貞享4	江戸中	0.84	1.00
栃木	岡本	江戸後	江戸後	0.83	0.93

一覧表-6 柱幅1区分(2-2-1)

県名	建物名	年代	年代区分	平均 配	妻勾 配	柱幅	±誤 差	材種	測定
長野	曾根原	17 C中	江戸前	0.44	0.06	不明		不明	B
岐阜	田中	18 C初	江戸中	0.47	0.07	不明		不明	B
和歌山	谷山	寛延2	江戸中	0.50	0.05	不明		不明	B
新潟	若林	明和6 火災後	江戸後	0.40	0.05	不明		不明	C
岩手	伊藤	18 C後	江戸後	0.54	0.14	栗			B
愛媛	山中	18C後	江戸後	0.46	0.00	不明		不明	B
福岡	平川	18 C後	江戸後	0.49	0.06	杉			B
大分	矢羽田	18 C後	江戸後	0.47	0.03	杉			B
沖縄	中村	江戸後	江戸後	0.34	0.02	不明		不明	A
鹿児島	二階堂 島	文化6	江戸後	0.45		不明		不明	D
島根	道面	19C前	江戸後	0.36	0.00	栗			C
山口	目加田	19C前	江戸後	0.40		不明		不明	C
奈良	高木	文政～嘉 永	江戸末	0.45	0.05	不明		不明	B
福岡	数山	天保13	江戸末	0.44	0.05	松			A
鹿児島	古市 島	弘化3	江戸末	0.46	0.02	杉 犬 模			B
山口	口羽	19 C中	江戸末	0.36	0.02	杉 松			A
北海 道	三戸 部 頃	明治20	明治	0.50	0.00	多種			C

一覧表-7 柱幅2区分の2A型(2-2-2 ①)

(上屋・下屋)

県名	建物名	年代	年代区分	上屋柱幅			下屋柱幅			測定
				平均	±誤 差	材種	平均	±誤 差	材種	
兵庫	古井	室町後	室町	0.55	不明	栗	0.42	不明	栗	C
兵庫	箱木	室町後	室町	0.50	不明	松	0.40	不明	松	C
京都	石田	慶安3	江戸前	0.45	不明	不明	0.40	不明	不明	C
千葉	花野 井	17 C後	江戸中	0.50	不明	桐	0.40	不明	不明	C
奈良	白井	元禄頃	江戸中	0.40	0.02	不明	0.35	0.03	不明	B
埼玉	高麗	17 C末	江戸中	0.48	0.02	杉	0.37	0.03	杉	D
福井	坪川	17 C末	江戸中	0.95	0.30	不明	0.54	0.02	不明	A
徳島	木村	元禄12	江戸中	0.44	0.02	桧	0.40	0.06	桧	B
京都	渡邊	江戸中	江戸中	0.59	0.11	栗杉	0.35	不明	杉	C
佐賀	川打	江戸中	江戸中	0.61	0.11	不明	0.43	不明	不明	D
長崎	本田	江戸中	江戸中	0.61	0.13	椎檜	0.40	不明	椎	B
福井	堀口	18 C初	江戸中	1.01	0.10	櫟	0.70	0.10	櫟	A
愛媛	真鍋	18 C初	江戸中	0.40	不明	不明	0.33	不明	不明	D
福井	橋本	18 C初	江戸中	不明	不明	不明	不明	不明	不明	B
高知	山中	18 C前	江戸中	0.56	不明	桧杉	0.40	不明	桧杉	D
千葉	尾形	享保13	江戸中	0.46	不明	杉椎	0.40	不明	杉	C
徳島	長岡	享保12	江戸中	0.43	0.07	栗松	0.35	0.03	栗松	D
新潟	佐藤	元文3	江戸中	0.68	0.03	ブナ松	0.50	不明	ブナ松	D
沖縄	上江 洲	宝暦4	江戸後	0.45	0.05	チャー ギ杉フ クギ	0.40	0.04	チャー ギ丸太	B
青森	笠石	18 C後	江戸後	0.55	0.05	栗	0.43	0.03	栗	D
千葉	御子 神	安永8	江戸後	0.45	不明	椎杉	0.40	不明	杉	D
宮崎	藤田	天明7	江戸後	0.50	不明	栗杉	0.46	不明	栗	D
岐阜	若山	寛政9	江戸後	0.67	0.02	不明	0.58	0.03	不明	B
北海 道	笹浪	19 C前	江戸後	0.40	0.03	不明	不明	不明	不明	A
徳島	小采	天保	江戸末	0.43	0.02	松	0.38	0.08	栗	B
石川	小倉	江戸末	江戸末	0.59	0.06	櫟杉	0.49	0.01	栗杉	B

※凡例

○柱幅0.44で±誤差0.06なら、柱幅が0.44±0.06尺であった、つまりは0.38～0.50尺のばらつきがあったということである。

○測定列のアルファベットについては、
 A 筆者が実測したもの
 B 修理工事報告書で大半の柱幅の記載があるもの
 C 修理工事報告書で柱幅の代表値のみ記載があるもの
 D 修理工事報告書の図面から計測したもの

一覧表-8 柱幅2区分の2B型(2-2-2②)

(土間上屋・上屋)

県名	建物名	年代	年代区分	土間上屋柱幅			その他柱幅			測定
				平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	
奈良	中村	寛永9	江戸前	0.82	0.09	不明	0.49	0.07	不明	B
大阪	吉村	江戸前	江戸前	0.75	0.05	不明	0.47	0.03	不明	C
奈良	西田	江戸前	江戸前	0.70	0.04	樺	0.47	0.02	樺	B
奈良	今西	慶安3	江戸前	1.06	0.03	樺	0.57	0.07	桧	C
奈良	豊田	寛文2	江戸中	1.11	不明	樺	0.48	不明	桧	C
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	0.60	不明	不明	0.40	不明	不明	C
山口	菊屋	江戸中	江戸中	0.73	0.19	松	0.46	0.02	松	A
福島	馬場	江戸中	江戸中	0.69	0.09	栗	0.46	0.09	栗杉	B
香川	恵利	江戸中	江戸中	0.47	0.03	栗	0.34	0.07	栗松杉	D
香川	細川	江戸中	江戸中	0.47	0.07	不明	0.35	0.05	不明	B
群馬	阿久沢	江戸中	江戸中	0.70	不明	不明	0.45	0.05	不明	D
福島	五十嵐	享保3	江戸中	0.85	0.15	不明	0.48	0.08	不明	D
奈良	米谷	18C前	江戸中	0.58	0.05	不明	0.48	0.02	不明	C
福島	旧五十嵐	享保14	江戸中	0.47	0.04	不明	0.40	0.04	不明	B
京都	瀧澤	宝暦10	江戸後	0.61	0.02	不明	0.38	0.02	不明	B
長野	真山	明和3	江戸後	不明	不明	不明	0.66	0.00	不明	D
岡山	前原	18C後	江戸後	0.58	0.03	栗	0.50	不明	栗	B
奈良	河合	江戸後	江戸後	0.57	0.00	不明	0.43	0.03	不明	B
奈良	中橋	江戸後	江戸後	0.49	0.03	不明	0.39	0.04	不明	B
富山	嶋	18C末	江戸後	0.70	0.10	不明	0.48	0.02	杉	D
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	0.60	0.00	栗	0.46	0.04	栗	A
広島	林	18C末	江戸後	0.66	0.06	杉	0.40	不明	杉面皮	C
埼玉	大沢	寛政4	江戸後	0.89	0.04	不明	0.65	0.05	不明	D
山梨	八代	文化5	江戸後	0.87	0.35	樺栗	0.43	0.02	杉	A
高知	関川	文政2	江戸後	不明	不明	不明	不明	不明	不明	D
徳島	福永	文政11	江戸後	0.71	0.00	梅	0.40	不明	梅	C
石川	松下	19C中	江戸末	0.48	0.03	当	0.39	0.03	当	A
奈良	音村	安政2	江戸末	0.54	不明	不明	不明	不明	不明	C
北海	中村道	明治22頃	明治	0.56	0.00	ヒバ	0.40	0.01	ヒバ	A

一覧表-9 柱幅3区分の3A型(2-2-3①)

(土間上屋・座敷上屋・下屋)

県名	建物名	年代	年代区分	土間上屋柱幅			土間下屋柱幅			広間柱幅			座敷上屋柱幅			座敷下屋柱幅			測定
				平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	
神奈	関川	17C前	江戸前	0.70	0.14	松樺						0.47	0.03	松	0.42	0.02	トサ	B	
大阪	左近	江戸前	江戸前	0.64	0.01	不明						不明	不明	栗樺	0.39	0.12	不明	B	
兵庫	岡田	延宝2	江戸中	0.71	0.10	桧梅						0.54	0.03	梅	不明	不明	不明	B	
茨木	椎名	延宝2	江戸中	0.60	0.10	椎樺						0.49	0.01	椎樺杉	0.43	0.03	樺松杉	B	
千葉	作田	17C後	江戸中	0.48	0.02	不明						0.43	0.01	不明	0.36	不明	不明	A	
神奈	北村川	貞享4	江戸中	0.67	0.11	不明						0.54	0.03	不明	0.44	0.03	不明	B	
岐阜	牧村	元禄14	江戸中	0.65	0.05	不明						0.49	0.07	不明	不明	不明	不明	A	
茨木	中崎	元禄元	江戸中	0.72	0.07	松						0.50	不明	松	0.56	0.10	松	C	
長野	春原	17C末	江戸中	0.58	0.13	不明						0.44	0.02	不明	0.33	0.04	不明	B	
埼玉	高橋	17C末	江戸中	0.79	0.05	樺						0.47	不明	杉	0.42	0.02	杉	C	
大阪	山本	江戸中	江戸中	0.72	0.00	不明						0.50	不明	栗	0.45	0.00	不明	D	
茨城	羽生	江戸中	江戸中	0.72	不明	松栗						0.56	不明	松栗	0.48	0.02	松栗	C	
群馬	戸部	江戸中	江戸中	0.57	0.09	不明						0.43	不明	不明	0.37	0.04	不明	D	
島根	堀江	18C前	江戸中	0.63	0.09	栗						0.48	0.01	不明	0.51	0.06	栗	B	
岩手	後藤	元禄~宝永	江戸中	0.85	不明	杉樺						0.50	不明	不明	不明	不明	不明	D	
埼玉	吉田	享保6	江戸中	0.78	0.19	樺						0.52	0.03	不明	不明	不明	不明	B	
奈良	上田	延享元	江戸中	0.54	0.11	不明						0.41	0.01	桧	0.37	0.01	不明	B	
茨城	太田	18C中	江戸中	0.54	0.03	クルミ松						0.45	不明	不明	不明	不明	不明	B	
滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	0.81	不明	不明						0.56	不明	桧栗	0.40	不明	不明	C	
愛知	望月	18C後	江戸後	0.65	0.00	不明						不明	不明	ヒバ杉	0.36	0.03	不明	B	
青森	石場	18C前	江戸後	0.64	0.11	ヒバ						0.45	0.01	ヒバ	0.38	不明	不明	A	
和歌	鈴木山	天明5	江戸後	0.66	0.11	椎桧						0.50	0.02	不明	0.41	0.04	不明	B	
長野	横田	寛政6	江戸後	0.45	不明	梅						0.36	0.02	杉	0.31	0.01	杉栗	B	
宮崎	黒木	天保6	江戸末	0.60	0.15	杉						0.44	不明	杉	0.36	不明	杉	C	
大分	行徳	弘化4	江戸末	0.44	0.01	杉						0.36	0.02	杉面皮	0.44	0.01	杉	B	
奈良	藤岡	18C後	明治	0.54	0.08	不明						0.37	0.01	梅杉磨丸太	0.50	0.04	不明	B	

一覧表 -10 柱幅3区分の3B型(2-2-3②)

(土間上屋・座敷上屋・土間下屋)

県名	建物名	年代	年代区分	土間上屋柱幅			土間下屋柱幅			広間柱幅			座敷上屋柱幅			座敷下屋柱幅			測定
				平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	
山梨	門西	17 C末	江戸中	0.89	0.20	不明	0.52	0.12	不明				0.49	0.03	不明				B
鳥取	後藤	正徳4	江戸中	0.66	0.07	松 櫻 栗	0.50	0.01	杉松				0.42	0.02	松杉 面皮				A
静岡	友田	18 C前	江戸中	0.70	0.05	不明	0.54	0.09	不明				0.51	0.01	杉				B
茨木	飛田	江戸中	江戸中	0.61	0.15	松	0.39	0.03	不明				0.38	0.02	不明				B
京都	澤井	元文5	江戸中	0.95	不明	不明	0.45	不明	不明				0.40	不明	不明				A
富山	佐伯	明和4 移築	江戸後	0.72	0.02	ヒバ	0.55	0.02	不明				0.49	0.04	ヒバ				A
奈良	中	明和	江戸後	0.86	0.24	不明	0.45	0.06	不明				0.42	0.04	桧				A
大分	神尾	明和8	江戸後	0.53	0.03	栗杉	0.45	0.03	杉栗				0.44	0.04	梅杉				B
島根	熊谷	文化	江戸後	0.74	0.06	櫻	0.52	0.02	栗				0.40	0.02	松				A
山口	早川	文政	江戸後	0.60	不明	松	0.52	不明	松				0.48	不明	杉				B
和歌山	柳川	文化4	江戸後	0.78	不明	梅	0.50	不明	梅				0.35	不明	梅杉				B
島根	佐々木	天保7	江戸末	1.20	0.00	不明	0.46	0.06	不明				0.45	0.01	松杉				B
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	0.95	0.35	不明	0.56	不明	不明				0.46	不明	桧栗				C
愛媛	本芳我	明治17	明治	1.24	0.09	不明	0.50	不明	桧				0.43	不明	桧				C

一覧表 -11 柱幅3区分の3C型(2-2-3③)

(土間上屋・上屋・下屋)

県名	建物名	年代	年代区分	土間上屋柱幅			上屋柱幅			下屋柱幅			座敷上屋柱幅			座敷下屋柱幅			測定
				平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	
広島	木原	寛文5	江戸中	0.70	0.10	松	0.51	0.06	松	0.44	0.01	松							A
福島	横山	江戸中	江戸中	1.20	不明	不明	0.56	0.04	不明	0.44	0.02	不明							D
埼玉	小野	18 C初	江戸中	0.57	0.04	栗	0.45	0.02	栗	0.57	0.04	栗							C
静岡	植松	延享元	江戸中	0.90	0.29	櫻	0.41	不明	杉	0.31	不明	杉							D
宮城	佐藤	18 C後	江戸後	0.69	0.19	栗	0.51	0.06	栗杉	0.33	0.00	杉							A
岡山	森江	17 C末	江戸後	0.80	0.10	栗	0.45	不明	栗	0.40	不明	栗							D
高知	竹内	18 C末	江戸後	0.68	0.02	桑杉	0.50	不明	桑杉	0.33	不明	桑杉							C
岩手	藤野	19 C前	江戸後	1.00	0.20		0.54	0.22		0.44	0.00	不明							A
佐賀	山口	明治	明治	0.55	0.06	杉	0.46	不明	杉	0.33	不明	杉							C

一覧表 -12 柱幅4区分の4A型(2-2-4①)

(土間上屋・土間下屋・座敷上屋・座敷下屋)

県名	建物名	年代	年代区分	土間上屋柱幅			土間下屋柱幅			広間柱幅			座敷上屋柱幅			座敷下屋柱幅			測定
				平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	
広島	吉原	寛永12	江戸前	0.71	0.20	栗	0.36	0.03	ヒ				0.44	0.04	松	0.44	0.02	梅	A
山形	有路	江戸中	江戸中	不明	不明	不明	不明	不明	不明				不明	不明	不明	不明	不明	不明	B
岩手	菅野	享保13	江戸中	0.56	0.09	不明	0.53	0.08	不明				0.56	0.09	栗	0.46	0.01		A
山口	熊谷	明和5	江戸後	0.82	0.10	松	0.46	0.06	桧				0.40	0.01	松杉	0.70	不明	丸太	A
茨城	塙	18 C後	江戸後	0.73	0.08	櫻杉	0.45	不明	松				0.46	不明	松杉	0.42	不明	杉	C
栃木	羽石	18 C後	江戸後	0.60	0.02	松	0.42	0.04	松栗				0.46	0.02	松	0.40	不明	松	B
奈良	片岡	天明2	江戸後	0.74	0.21	松	0.49	0.04	栗				0.45	0.02	桧	0.40	0.01	桧梅	A
山梨	高野	江戸後	江戸後	1.28	0.70	桧栗	0.46	0.02	桧杉				0.40	0.01	桧	0.35	0.03	桧	A
福井	谷口	文化6 頃	江戸後	0.70	0.10	櫻	0.38	0.03	櫻				0.51	0.06	杉	0.33	0.03	杉	A
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	0.76	0.18	不明	不明	不明	不明				0.60	0.01	杉	0.47	不明	不明	A
栃木	入野	天保12	江戸末	0.77	0.30	栗櫻	0.43	0.04	杉				0.47	0.02	杉	0.38	0.01	杉	B
和歌山	中筋	嘉永5	江戸末	0.70	0.11	不明	不明	不明	梅				0.45	0.03	梅	不明	不明	不明	A
佐賀	西岡	安政2	江戸末	0.94	0.00	タブ	0.59	0.06	檜杉				0.48	0.03	梅	0.36	0.01	夕	A

一覧表 -13 柱幅4区分の4B型(2-2-4②)

(土間上屋・広間・座敷上屋・下屋)

県名	建物名	年代	年代区分	土間上屋柱幅			土間下屋柱幅			広間柱幅			座敷上屋柱幅			座敷下屋柱幅			測定
				平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	
大阪	奥田	江戸中	江戸中	0.70	0.05	不明	0.49	0.07	不明	0.43	0.05	梅	0.36	0.01	杉面 皮				A
大阪	高橋	江戸中	江戸中	0.98	不明	梅	不明	不明	不明	0.60	不明	梅	0.52	不明	梅				B
静岡	大鐘	18 C初	江戸中	0.95	0.10	松	0.55	0.03	松	0.65	0.08	松	0.53	0.01	櫻				B
大阪	北田	宝永5 ~享保 19	江戸中	1.01	0.16	不明	0.50	0.01	不明	0.50	0.01	梅	0.45	0.01	梅杉				A
栃木	三森	享保18	江戸中	0.79	0.19	栗櫻	0.45	0.07	栗櫻	0.46	0.01	栗	0.47	0.01	杉面 皮				B
岐阜	小坂	安永2	江戸後	0.67	0.01	不明	0.52	0.07	不明	0.46	0.02	桧桜 杉	0.40	0.01	桧				B
奈良	藤田	18 C後	江戸後	0.84	0.13	松	不明	不明	不明	0.64	0.03	梅松	0.46	0.03	梅				B
三重	町井	江戸後	江戸後	0.71	0.21	不明	0.38	0.02	不明	0.46	不明	栗	0.40	不明	栗				C
宮城	中澤	江戸後	江戸後	1.04	0.13	不明	0.55	0.12	不明	不明	不明	不明	0.65	0.15	不明				B
富山	浮田	文政11	江戸後	0.75	0.05	不明	0.50	不明	不明	0.60	0.01	ヒバ	0.41	0.02	ヒバ				A
熊本	太田	江戸末	江戸末	0.54	0.03	不明	0.42	0.03	不明	0.43	0.01	不明	0.39	0.01	不明				B
山梨	星野	嘉永2-4	江戸末	1.07	0.37	櫻	0.46	0.02	栗杉	0.43	0.02	梅	0.43	0.01	桧				A
大阪	鴻池新田	嘉永6	江戸末	0.87	0.22	梅	0.40	0.04	梅杉	0.54	0.07	梅	0.40	0.02	梅				A
岩手	中村	文久元	江戸末	0.48	0.04	ヒバ	0.36	0.01	ヒバ	不明	不明	ヒバ	0.41	0.02	ヒバ				A

一覽表 -14 柱幅 5 区分以上 (2-2-5)

県名 建物名	年代	年代区分	土間上屋柱幅			土間下屋柱幅			広間柱幅			座敷上屋柱幅			座敷下屋柱幅			測定 柱幅 区分 数
			平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	平均	±誤差	材種	
鳥取 矢部	江戸前	江戸前	1.25	0.25	栗	0.55	0.05	栗	0.70	0.10	栗	0.45	0.05	栗	0.30	不明	栗	B 6
山梨 平田	17 C 後	江戸中	0.65	0.07	不明	0.45	0.08	不明	0.50	0.02	栗梅	0.43	0.03	梅	0.38	0.01	不明	B 6
静岡 中村	貞享 5	江戸中	0.66	0.07	松栗	0.50	0.04	梅	0.62	0.03	梅栗	0.53	0.01	梅	0.45	0.02	梅	B 5
滋賀 大角	元禄頃	江戸中	0.63	0.04	梅	不明	不明	不明	0.59	0.07	桧	0.39	0.01	梅杉面皮	0.39	0.02	桧	A 5
福井 瓜生	元禄 12	江戸中	1.10	0.11	樺	0.76	0.16	樺	0.71	0.05	樺	0.53	0.11	杉	0.36	0.02	不明	A 5
滋賀 西川	宝永 3	江戸中	0.66	0.01	桧	0.57	0.03	不明	0.37	0.01	梅	0.38	0.02	杉面皮	0.36	0.01	不明	A 8
和歌 増田山	宝永 3	江戸中	0.71	0.13	不明	0.48	0.08	不明	0.54	0.04	梅松	0.43	0.03	梅杉	0.36	0.01	不明	A 5
山形 尾形	江戸中	江戸中	0.91	0.26	栗ウ	0.57	0.13	ア栗	0.54	0.01	栗ア	0.49	0.02	ア面皮	0.45	0.01	栗ア	B 7
広島 幡山	江戸中	江戸中	0.80	0.16	栗松多角形	0.45	0.04	栗松多角形	0.55	0.02	栗松	0.48	0.03	栗松	0.38	不明	栗松	B 5
茨城 山本	江戸中	江戸中	0.72	0.07	不明	0.51	0.04	不明	0.56	0.04	不明	0.49	0.01	不明	0.43	0.01	不明	B 6
新潟 長谷川	享保元	江戸中	0.85	0.08	ヒバ	0.49	0.08	ヒバ	0.65	0.02	ヒバ	0.50	0.02	杉面皮	不明	不明	不明	A 6
埼玉 平山	18 C 前	江戸中	0.90	不明	不明	0.50	0.07	不明	0.51	不明	不明	0.45	不明	不明	0.40	不明	不明	B 5
大阪 杉山	享保 19	江戸中	0.89	0.08	不明	0.48	0.06	不明	0.67	0.07	梅	0.42	0.02	梅	0.42	不明	不明	B 6
京都 伊佐	享保 19	江戸中	0.83	0.10	不明	0.44	不明	不明	0.59	0.05	松梅	0.40	不明	杉面皮梅	0.42	不明	不明	A 5
和歌 妹背山	延享 3	江戸中	0.63	0.05	不明	0.36	0.03	不明	0.51	0.03	樺松	0.37	0.02	梅杉面皮	不明	不明	不明	A 5
広島 太田	18 C 中	江戸後	0.76	0.16	松	0.42	0.04	松	0.42	0.03	梅杉	0.33	0.02	梅杉	0.28	0.02	杉	A 5
宮城 我妻	宝暦 3	江戸後	0.83	0.13	栗樺	0.49	0.09	栗	0.76	0.03	栗	0.61	0.03	栗	0.46	不明	杉	A 8
東京 大場	宝暦 3	江戸後	1.15	0.25	樺	0.54	0.11	樺	0.71	0.11	樺	0.50	0.03	杉	0.30	0.00	杉	A 5
石川 時国	宝暦 6	江戸後	1.08	0.30	樺	0.55	0.06	樺ヒバ	0.51	0.01	ヒバ	0.51	0.01	杉面皮	0.35	不明	不明	A 6
秋田 奈良	宝暦頃	江戸後	1.05	0.46	不明	0.44	0.03	不明	0.51	0.01	不明	0.44	0.04	不明	0.40	0.01	不明	A 8
宮城 洞口	宝暦頃	江戸後	1.17	0.34	楠樺	0.55	0.13	栗杉	0.65	0.01	樺栗杉	0.57	0.07	杉	0.43	0.01	栗杉	B 7
青森 平山	明和 6	江戸後	0.59	0.05	ヒバ	不明	不明	不明	不明	不明	ヒバ	0.49	0.03	ヒバ	0.41	0.01	不明	A 5
栃木 荒井	18 C 後	江戸後	0.68	0.16	栗	0.42	0.04	栗	0.50	0.02	杉	0.49	0.01	杉面皮	0.41	0.04	杉	A 6
広島 奥	天明 8	江戸後	0.86	0.20	栗松	0.41	0.03	栗杉松	0.47	0.01	栗松	0.44	0.03	杉面皮	0.40	0.02	杉	A 5
富山 武田	寛政	江戸後	0.77	0.01	不明	0.45	0.02	不明	0.59	0.01	不明	0.38	0.01	不明	0.36	0.01	不明	A 5
京都 角屋	江戸後	江戸後	1.22	0.57	松杉桧	0.45	0.10	不明	0.41	0.04	杉	0.40	0.03	杉面皮	0.30	不明	杉面皮	A 7
栃木 岡本	江戸後	江戸後	0.68	0.15	桧栗樺	0.40	0.02	栗桧	0.44	0.02	栗杉	0.38	不明	杉	不明	不明	不明	A 5
岡山 大橋	寛政 9	江戸後	0.61	0.03	栗松	0.52	0.07	栗松	0.48	0.03	栗松	0.39	0.01	梅杉	0.35	不明	梅	A 6
石川 喜多	19 C 初	江戸後	0.74	0.01	樺当	0.51	0.01	樺当	0.46	0.03	当	0.35	0.01	杉面皮	不明	不明	不明	A 5
新潟 渡辺	文化 14	江戸後	0.84	0.11	樺松	0.55	0.02	樺松	0.61	0.11	樺	0.41	0.02	杉面皮	0.46	0.01	杉	A 13
京都 行永	文政 8	江戸後	0.72	0.07	樺	0.40	不明	栗	0.54	0.05	樺	0.43	0.03	桧面皮	0.40	0.00		A 5
愛知 服部	天保	江戸末	0.73	0.07	不明	0.43	0.04	不明	0.61	0.03	不明	0.57	0.02	不明	0.41	0.01	不明	B 5
秋田 草薨	天保頃	江戸末	1.00	0.02	杉	0.57	0.02	杉	0.68	0.02	杉	0.57	0.02	杉	0.49	0.02	杉	A 5
福岡 永沼	天保 10	江戸末	0.76	0.12	梅	0.52	0.04	梅	0.45	0.01	梅	0.40	0.03	梅	不明	0.00	不明	A 5
長野 小野	江戸末	江戸末	0.86	0.26	不明	0.70	0.02	不明	不明	不明	不明	0.40	0.02	不明	0.35	0.02	不明	B 8
秋田 大山	19 C 中	江戸末	1.04	0.02	松樺	0.53	0.07	杉	0.72	0.07	松	0.53	0.01	杉	0.44	0.02	杉	A 5
岡山 石井	江戸末	江戸末	0.79	0.07	松	0.54	0.07	松樺栗	0.43	0.03	杉松	0.37	0.02	梅	0.38	0.00	梅	A 5
広島 頼	安政 2	江戸末	0.57	0.00	松	0.40	0.00	松	0.37	0.03	松	0.40	不明	杉	0.35	不明	杉	C 5
秋田 三浦	文久元	江戸末	1.24	0.56	栗樺	0.50	0.09	栗杉	0.54	0.06	栗樺杉	0.49	0.02	杉	0.42	0.02	杉	B 5
福井 石倉	慶応	江戸末	0.75	0.02	樺	0.52	0.01	樺	0.97	0.15	樺	0.57	0.02	杉	0.38	0.03	栗	A 6

一覧表 -15 最大柱幅 (尺) (2-3-2)

(各民家の内の最大の柱幅)

県名	建物名	年代	年代区分	最大柱幅(尺)	測定
山梨	高野	江戸後	江戸後	1.97 A	
秋田	三浦	文久元	江戸末	1.80 B	
京都	角屋	江戸後	江戸後	1.79 A	
宮城	佐藤	18 C後	江戸後	1.70 A	
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	1.51 A	
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	1.50 B	
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	1.50 B	
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	1.44 A	
東京	大場	宝暦 3	江戸後	1.40 A	
石川	時国	宝暦 6	江戸後	1.38 A	
愛媛	本芳我	明治 17	明治	1.32 C	
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	1.30 C	
福島	横山	江戸中	江戸中	1.30 D	
福井	坪川	17 C末	江戸中	1.25 A	
山梨	八代	文化 5	江戸後	1.22 A	
福井	瓜生	元禄 12	江戸中	1.21 A	
愛媛	上芳我	明治 27	明治	1.20 D	
島根	佐々木	天保 7	江戸末	1.20 B	
静岡	植松	延享元	江戸中	1.19 D	
山形	尾形	江戸中	江戸中	1.17 B	
大阪	北田	宝永 5	江戸中	1.16 A	
宮城	中澤	江戸後	江戸後	1.16 B	
福井	石倉	慶応	江戸末	1.14 A	
長野	小野	江戸末	江戸末	1.12 B	
岐阜	荒川	寛政 8	江戸後	1.11 C	
奈良	豊田	寛文 2	江戸中	1.11 C	
奈良	中	明和	江戸後	1.10 A	
福井	堀口	18 C初	江戸中	1.10 A	
山梨	門西	17 C末	江戸中	1.09 B	
大阪	鴻池新田	嘉永 6	江戸末	1.08 A	
奈良	今西	慶安 3	江戸前	1.08 C	
新潟	笹川	文政 9	江戸後	1.07 A	
広島	奥	天明 8	江戸後	1.06 A	
栃木	入野	天保 12	江戸末	1.06 B	
静岡	大鐘	18 C初	江戸中	1.05 B	
群馬	黒澤	江戸末	明治	1.04 C	
秋田	草薨	天保頃	江戸末	1.01 A	
福島	五十嵐	享保 3	江戸中	1.00 D	
宮城	我妻	宝暦 3	江戸後	1.00 A	
群馬	茂木	江戸中	江戸中	1.00 D	
岩手	後藤	元禄~宝永	江戸中	1.00 D	
京都	澤井	元文 5	江戸中	1.00 A	
島根	堀江	18 C前	江戸中	0.99 B	
大阪	高橋	江戸中	江戸中	0.98 B	
奈良	藤田	18 C後	江戸後	0.97 B	
栃木	三森	享保 18	江戸中	0.97 B	
埼玉	吉田	享保 6	江戸中	0.97 B	
大阪	杉山	享保 19	江戸中	0.96 B	
新潟	渡辺	文化 14	江戸後	0.95 A	
広島	幡山	江戸中	江戸中	0.95 B	
奈良	片岡	天明 2	江戸後	0.94 A	
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	0.94 A	
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	0.94 A	
京都	伊佐	享保 19	江戸中	0.93 A	
三重	町井	江戸後	江戸後	0.92 C	
山口	熊谷	明和 5	江戸後	0.92 A	
山口	菊屋	江戸中	江戸中	0.92 A	
新潟	長谷川	享保元	江戸中	0.92 A	
埼玉	大沢	寛政 4	江戸後	0.92 D	
広島	太田	18 C中	江戸後	0.91 A	
奈良	中村	寛永 9	江戸前	0.91 B	
岡山	森江	17 C末	江戸後	0.90 D	
広島	吉原	寛永 12	江戸前	0.90 A	
埼玉	平山	18 C前	江戸中	0.90 B	

県名	建物名	年代	年代区分	最大柱幅(尺)	測定
福岡	永沼	天保 10	江戸末	0.88 A	
福井	谷口	文化 6	江戸後頃	0.87 A	
岐阜	若山	寛政 9	江戸後	0.86 B	
和歌山	増田	宝永 3	江戸中	0.85 A	
埼玉	高橋	17 C末	江戸中	0.84 C	
神奈川	関	17 C前	江戸前	0.83 B	
栃木	荒井	18 C後	江戸後	0.83 A	
栃木	岡本	江戸後	江戸後	0.82 A	
和歌山	中筋山	嘉永 5	江戸末	0.81 A	
滋賀	宮地	宝暦 4	江戸後	0.81 C	
兵庫	岡田	延宝 2	江戸中	0.81 B	
神奈川	伊藤川	18 C初	江戸中	0.80 D	
茨城	塙	18 C後	江戸後	0.80 C	
富山	嶋	18 C末	江戸後	0.80 D	
島根	熊谷	文化	江戸後	0.80 A	
富山	浮田	文政 11	江戸後	0.80 A	
岡山	大橋	寛政 9	江戸後	0.80 A	
広島	木原	寛文 5	江戸中	0.80 A	
愛知	服部	天保	江戸末	0.80 B	
群馬	生方	江戸中	江戸中	0.80 C	
岐阜	大戸	天保 4	江戸末	0.80 C	
大阪	吉村	江戸前	江戸前	0.79 C	
和歌山	柳川山	文化 4	江戸後	0.78 B	
徳島	田中	元治 2	江戸末	0.78 C	
広島	林	18 C末	江戸後	0.78 C	
茨木	中崎	元禄元	江戸中	0.78 C	
京都	行永	文政 8	江戸後	0.78 A	
静岡	中村	貞享 5	江戸中	0.78 B	
山形	有路	江戸中	江戸中	0.78 B	
茨城	山本	江戸中	江戸中	0.78 B	
福島	馬場	江戸中	江戸中	0.78 B	
富山	武田	寛政	江戸後	0.77 A	
神奈川	北村	貞享 4	江戸中	0.77 B	
富山	江向	18 C初	江戸中	0.77 D	
和歌山	鈴木山	天明 5	江戸後	0.76 B	
茨木	飛田	江戸中	江戸中	0.76 B	
宮崎	黒木	天保 6	江戸末	0.75 C	
青森	石場	18 C前	江戸後	0.75 A	
静岡	友田	18 C前	江戸中	0.75 B	
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	0.74 D	
大阪	奥田	江戸中	江戸中	0.74 A	
奈良	西田	江戸前	江戸前	0.74 B	
富山	佐伯	明和 4	江戸後	0.74 A	
石川	喜多	19 C初	江戸後	0.74 A	
長崎	本田	江戸中	江戸中	0.73 B	
大阪	山本	江戸中	江戸中	0.72 D	
山梨	平田	17 C後	江戸中	0.72 B	
茨城	羽生	江戸中	江戸中	0.72 C	
徳島	福永	文政 11	江戸後	0.71 C	
佐賀	川打	江戸中	江戸中	0.71 D	
京都	渡邊	江戸中	江戸中	0.70 C	
新潟	佐藤	元文 3	江戸中	0.70 D	
長野	春原	17 C末	江戸中	0.70 B	
茨木	椎名	延宝 2	江戸中	0.70 B	
岐阜	牧村	元禄 14	江戸中	0.70 A	
高知	竹内	18 C末	江戸後	0.70 C	
群馬	阿久沢	江戸中	江戸中	0.70 D	
岐阜	小坂	安永 2	江戸後	0.69 B	
和歌山	妹背山	延享 3	江戸中	0.67 A	
岩手	伊藤	18 C後	江戸後	0.67 B	
滋賀	大角	元禄頃	江戸中	0.67 A	

県名	建物名	年代	年代区分	最大柱幅(尺)	測定
長野	真山	明和 3	江戸後	0.66 D	
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	0.66 A	
岡山	犬養	江戸中	江戸中	0.66 D	
石川	小倉	江戸末	江戸末	0.66 B	
愛知	望月	18 C後	江戸後	0.65 B	
福井	橋本	18 C初	江戸中	0.65 B	
群馬	戸部	江戸中	江戸中	0.65 D	
奈良	上田	延享元	江戸中	0.64 B	
大阪	左近	江戸前	江戸前	0.64 B	
奈良	米谷	18 C前	江戸中	0.63 C	
青森	平山	明和 6	江戸後	0.63 A	
埼玉	小野	18 C初	江戸中	0.63 C	
栃木	羽石	18 C後	江戸後	0.62 B	
京都	瀧澤	宝暦 10	江戸後	0.62 B	
佐賀	山口	明治	明治	0.61 C	
奈良	藤岡	18 C後	明治	0.61 B	
青森	笠石	18 C後	江戸後	0.60 D	
岡山	前原	18 C後	江戸後	0.60 B	
熊本	境	文政 13	江戸末	0.60 A	
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	0.60 C	
山口	早川	文政	江戸後	0.60 B	
秋田	土田	17 C後	江戸中	0.57 D	
茨城	太田	18C中	江戸中	0.57 B	
広島	頼	安政 2	江戸末	0.57 C	
奈良	河合	江戸後	江戸後	0.57 B	
熊本	太田	江戸末	江戸末	0.56 B	
北海	中村道	明治 22	明治	0.56 A	
高知	山中	18 C前	江戸中	0.56 D	
兵庫	古井	室町後	室町	0.55 C	
福岡	平川	18 C後	江戸後	0.55 B	
大分	神尾	明和 8	江戸後	0.55 B	
和歌山	谷山	寛延 2	江戸中	0.55 B	
奈良	音村	安政 2	江戸末	0.54 C	
岐阜	田中	18 C初	江戸中	0.53 B	
大分	行徳	弘化 4	江戸末	0.53 B	
香川	細川	江戸中	江戸中	0.53 B	
埼玉	高麗	17 C末	江戸中	0.53 D	
岩手	中村	文久元	江戸末	0.51 A	
石川	松下	19 C中	江戸末	0.51 A	
奈良	中橋	江戸後	江戸後	0.51 B	
宮崎	藤田	天明 7	江戸後	0.50 D	
北海	三戸	明治 20	明治	0.50 C	
徳島	長岡	享保 12	江戸中	0.50 D	
香川	恵利	江戸中	江戸中	0.50 D	
奈良	高木	文政~嘉永	江戸末	0.50 B	
福島	旧五十嵐	享保 14	江戸中	0.50 B	
長野	曾根原	17 C中	江戸前	0.50 B	
千葉	花野井	17 C後	江戸中	0.50 C	
大分	矢羽田	18 C後	江戸後	0.50 B	
兵庫	箱木	室町後	室町	0.50 C	
沖繩	上江洲	宝暦 4	江戸後	0.50 B	
愛媛	真鍋	18 C初	江戸中	0.50 D	
千葉	作田	17 C後	江戸中	0.49 A	
福岡	数山	天保 13	江戸末	0.48 A	
北海	道	19 C前	江戸後	0.48 A	
鹿兒	古市	弘化 3	江戸末	0.47 B	
徳島	木村	元禄 12	江戸中	0.46 B	
愛媛	山中	18C後	江戸後	0.46 B	
千葉	尾形	享保 13	江戸中	0.46 C	
京都	石田	慶安 3	江戸前	0.45 C	
千葉	御子神	安永 8	江戸後	0.45 D	

一覧表 -16 土間の太い柱の本数 (2-3-3)

柱幅が0.65尺以上で土間周辺にあるもの。

県名	建物名	年代	年代区分	最大柱幅(尺)	測定
新潟	若林	明和6 火災後	江戸後	0.45	C
長野	横田	寛政6	江戸後	0.45	B
徳島	小采	天保	江戸末	0.45	B
鹿児島	二階堂	文化6	江戸後	0.45	D
奈良	臼井	元禄頃	江戸中	0.41	B
山口	目加田	19C前	江戸後	0.40	C
山口	口羽	19C中	江戸末	0.38	A
島根	道面	19C前	江戸後	0.36	C
沖縄	中村	江戸後	江戸後	0.35	A
岐阜	林隠居屋	文政12	江戸後	0.35	C

県名	建物名	年代	年代区分	柱本数
山形	尾形	江戸中	江戸中	12
岩手	後藤	元禄~ 宝永	江戸中	12
宮城	我妻	宝暦3	江戸後	11
島根	堀江	18C前	江戸中	11
新潟	長谷川	享保元	江戸中	10
新潟	佐藤	元文3	江戸中	10
秋田	三浦	文久元	江戸末	9
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	9
新潟	渡辺	文化14	江戸後	9
静岡	中村	貞享5	江戸中	9
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	8
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	8
福井	瓜生	元禄12	江戸中	8
秋田	草薨	天保頃	江戸末	8
福岡	永沼	天保10	江戸末	8
愛知	服部	天保	江戸末	8
山梨	平田	17C後	江戸中	8
福井	坪川	17C末	江戸中	7
大阪	鴻池新田	嘉永6	江戸末	7
福島	五十嵐	享保3	江戸中	7
栃木	三森	享保18	江戸中	7
広島	幡山	江戸中	江戸中	7
兵庫	岡田	延宝2	江戸中	7
岐阜	大戸	天保4	江戸末	7
山形	有路	江戸中	江戸中	7
東京	大場	宝暦3	江戸後	6
広島	奥	天明8	江戸後	6
埼玉	平山	18C前	江戸中	6
神奈川	伊藤川	18C初	江戸中	6
茨木	中崎	元禄元	江戸中	6
神奈川	北村	貞享4	江戸中	6
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	6
岩手	菅野	享保13	江戸中	6
岩手	藤野	19C前	江戸後	6
愛媛	豊島	宝暦8	江戸後	6
佐賀	吉村	天明9	江戸後	6
山梨	高野	江戸後	江戸後	5
福井	石倉	慶応	江戸末	5
新潟	笹川	文政9	江戸後	5
栃木	入野	天保12	江戸末	5
京都	澤井	元文5	江戸中	5
奈良	中村	寛永9	江戸前	5
広島	太田	18C中	江戸後	5
福井	谷口	文化6	江戸後頃	5
岐阜	若山	寛政9	江戸後	5
和歌山	増田	宝永3	江戸中	5
富山	浮田	文政11	江戸後	5
富山	武田	寛政	江戸後	5
富山	佐伯	明和4	江戸後 移築	5
長崎	本田	江戸中	江戸中	5
岐阜	牧村	元禄14	江戸中	5
岐阜	桑原	寛政12	江戸後	5
宮城	佐藤	18C後	江戸後	4
宮城	中澤	江戸後	江戸後	4
奈良	中	明和	江戸後	4
群馬	茂木	江戸中	江戸中	4
埼玉	吉田	享保6	江戸中	4
大阪	杉山	享保19	江戸中	4
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	4
茨城	塙	18C後	江戸後	4
群馬	生方	江戸中	江戸中	4
京都	行永	文政8	江戸後	4
福島	馬場	江戸中	江戸中	4
長野	春原	17C末	江戸中	4

県名	建物名	年代	年代区分	柱本数
茨木	椎名	延宝2	江戸中	4
岡山	犬養	江戸中	江戸中	4
岩手	小原	18C中	江戸後	4
岡山	石井	江戸末	江戸末	4
愛媛	渡部	慶応2	江戸末	4
佐賀	土井	江戸末	江戸末	4
京都	角屋	江戸後	江戸後	3
山梨	星野	嘉永2-4	江戸末	3
石川	時国	宝暦6	江戸後	3
愛媛	本芳我	明治17	明治	3
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	3
山梨	門西	17C末	江戸中	3
静岡	大鐘	18C初	江戸中	3
奈良	藤田	18C後	江戸後	3
三重	町井	江戸後	江戸後	3
山口	熊谷	明和5	江戸後	3
広島	吉原	寛永12	江戸前	3
栃木	荒井	18C後	江戸後	3
滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	3
岡山	大橋	寛政9	江戸後	3
大阪	吉村	江戸前	江戸前	3
茨城	山本	江戸中	江戸中	3
大阪	奥田	江戸中	江戸中	3
石川	喜多	19C初	江戸後	3
大阪	山本	江戸中	江戸中	3
茨城	羽生	江戸中	江戸中	3
佐賀	川打	江戸中	江戸中	3
群馬	阿久沢	江戸中	江戸中	3
滋賀	西川	宝永3	江戸中	3
奈良	森村	享保17	江戸中	3
秋田	大山	19C中	江戸末	3
鳥取	後藤	正徳4	江戸中	3
大分	後藤	江戸後	江戸後	3
群馬	彦部	17C前	江戸前	3
埼玉	新井	延享2	江戸中	3
福島	横山	江戸中	江戸中	2
愛媛	上芳我	明治27	明治	2
静岡	植松	延享元	江戸中	2
大阪	北田	宝永5 ~享保19	江戸中	2
長野	小野	江戸末	江戸末	2
奈良	豊田	寛文2	江戸中	2
岐阜	荒川	寛政8	江戸後	2
群馬	黒澤	江戸末	明治	2
佐賀	西岡	安政2	江戸末	2
山口	菊屋	江戸中	江戸中	2
埼玉	大沢	寛政4	江戸後	2
岡山	森江	17C末	江戸後	2
埼玉	高橋	17C末	江戸中	2
神奈川	関	17C前	江戸前	2
栃木	岡本	江戸後	江戸後	2
島根	熊谷	文化	江戸後	2
広島	木原	寛文5	江戸中	2
徳島	田中	元治2	江戸末	2
広島	林	18C末	江戸後	2
茨木	飛田	江戸中	江戸中	2
静岡	友田	18C前	江戸中	2
青森	石場	18C前	江戸後	2
宮崎	黒木	天保6	江戸末	2
岐阜	林主屋	安永2	江戸後	2
奈良	西田	江戸前	江戸前	2
高知	竹内	18C末	江戸後	2
岐阜	小坂	安永2	江戸後	2
福井	橋本	18C初	江戸中	2
大阪	左近	江戸前	江戸前	2
奈良	上田	延享元	江戸中	2
埼玉	小野	18C初	江戸中	2

県名	建物名	年代	年代区分	柱本数	県名	建物名	年代	年代区分	柱本数
京都	瀧澤	宝暦 10	江戸後	2	北海道	笹浪	19 C 前	江戸後	0
栃木	羽石	18 C 後	江戸後	2	福岡	数山	天保 13	江戸末	0
熊本	境	文政 13	江戸末	2	鹿児島	古市	弘化 3	江戸末	0
石川	座主	18 C 初	江戸中	2	徳島	木村	元禄 12	江戸中	0
福岡	中島	安政 6	江戸末	2	愛媛	山中	18C 後	江戸後	0
岐阜	矢籠原	宝暦元	江戸後	2	千葉	尾形	享保 13	江戸中	0
山梨	八代	文化 5	江戸後	1	京都	石田	慶安 3	江戸前	0
奈良	今西	慶安 3	江戸前	1	新潟	若林	明和 6	江戸後	0
大阪	高橋	江戸中	江戸中	1			火災後		
奈良	片岡	天明 2	江戸後	1	鹿児島	二階島	文化 6	江戸後	0
和歌山	中筋	嘉永 5	江戸末	1	千葉	御子神	安永 8	江戸後	0
富山	嶋	18 C 末	江戸後	1	長野	横田	寛政 6	江戸後	0
和歌山	柳川山	文化 4	江戸後	1	徳島	小采	天保	江戸末	0
和歌山	鈴木山	天明 5	江戸後	1	奈良	白井	元禄頃	江戸中	0
徳島	福永	文政 11	江戸後	1	山口	目加田	19C 前	江戸後	0
和歌山	妹背山	延享 3	江戸中	1	山口	口羽	19 C 中	江戸末	0
石川	小倉	江戸末	江戸末	1	島根	道面	19C 前	江戸後	0
愛知	望月	18 C 後	江戸後	1	沖縄	中村	江戸後	江戸後	0
奈良	米谷	18 C 前	江戸中	1	岐阜	林隠居屋	文政 12	江戸後	0
奈良	藤岡	18 C 後	明治	1	秋田	鈴木	17 C 末	江戸中	0
佐賀	山口	明治	明治	1	岩手	菊池	18 C 中	江戸後	0
奈良	河合	江戸後	江戸後	1	岩手	佐々木	江戸後	江戸後	0
奈良	音村	安政 2	江戸末	1	岩手	工藤	宝暦 9	江戸後	0
大阪	山添	宝永 2	江戸中	1	東京	宮崎	19 C 中	江戸末	0
神奈川	石井川	17 C 後	江戸中	1					
富山	江向	18 C 初	江戸中	0					
京都	渡邊	江戸中	江戸中	0					
岩手	伊藤	18 C 後	江戸後	0					
長野	真山	明和 3	江戸後	0					
群馬	戸部	江戸中	江戸中	0					
青森	平山	明和 6	江戸後	0					
青森	笠石	18 C 後	江戸後	0					
岡山	前原	18 C 後	江戸後	0					
秋田	土田	17 C 後	江戸中	0					
茨城	太田	18C 中	江戸中	0					
北海道	中村道	明治 22 頃	明治	0					
高知	山中	18 C 前	江戸中	0					
熊本	太田	江戸末	江戸末	0					
兵庫	古井	室町後	室町	0					
福岡	平川	18 C 後	江戸後	0					
大分	神尾	明和 8	江戸後	0					
岐阜	田中	18 C 初	江戸中	0					
香川	細川	江戸中	江戸中	0					
大分	行徳	弘化 4	江戸末	0					
埼玉	高麗	17 C 末	江戸中	0					
奈良	中橋	江戸後	江戸後	0					
石川	松下	19 C 中	江戸末	0					
長野	曾根原	17 C 中	江戸前	0					
奈良	高木	文政~ 嘉永	江戸末	0					
兵庫	箱木	室町後	室町	0					
福島	旧五十嵐	享保 14	江戸中	0					
北海道	三戸部	明治 20 頃	明治	0					
徳島	長岡	享保 12	江戸中	0					
香川	恵利	江戸中	江戸中	0					
愛媛	真鍋	18 C 初	江戸中	0					
大分	矢羽田	18 C 後	江戸後	0					
宮崎	藤田	天明 7	江戸後	0					
沖縄	上江洲	宝暦 4	江戸後	0					
千葉	花野井	17 C 後	江戸中	0					
千葉	作田	17 C 後	江戸中	0					

一覧表 -17 最大柱幅の材種 (2-3-4)

報告書または筆者現地目視確認による。

県名	建物名	年代	年代区分	樺	栗	松	その他材種
神奈川	関	17 C 前	江戸前	×	×	○	
奈良	中村	寛永 9	江戸前	○	×	×	
広島	吉原	寛永 12	江戸前	×	○	×	
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	○	×	×	
奈良	西田	江戸前	江戸前	×	×	×	カヤ
大阪	左近	江戸前	江戸前	×	×	×	不明
奈良	豊田	寛文 2	江戸中	○	×	×	
広島	木原	寛文 5	江戸中	×	×	○	
兵庫	岡田	延宝 2	江戸中	×	×	×	桧
山梨	平田	17 C 後	江戸中	×	○	×	
千葉	花野井	17 C 後	江戸中	×	×	×	桐
静岡	中村	貞享 5	江戸中	×	×	○	
岐阜	牧村	元禄 14	江戸中	×	○	×	
奈良	白井	元禄頃	江戸中	×	×	×	桐
福井	坪川	17 C 末	江戸中	×	×	×	不明
長野	春原	17 C 末	江戸中	×	○	×	
埼玉	高橋	17 C 末	江戸中	○	×	×	
埼玉	高麗	17 C 末	江戸中	×	×	×	杉
秋田	鈴木	17 C 末	江戸中	×	○	×	
福井	瓜生	元禄 12	江戸中	○	×	×	
山口	菊屋	江戸中	江戸中	×	×	×	タブノキ
山形	尾形	江戸中	江戸中	×	○	×	
和歌山	増田	宝永 3	江戸中	×	×	○	不明
群馬	茂木	江戸中	江戸中	×	×	×	檜
福島	馬場	江戸中	江戸中	×	○	×	
岡山	犬養	江戸中	江戸中	×	×	×	桐
茨城	山本	江戸中	江戸中	×	×	×	桧
大阪	奥田	江戸中	江戸中	×	×	×	桐
大阪	山本	江戸中	江戸中	×	○	×	
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	×	×	×	桧
福島	横山	江戸中	江戸中	×	×	○	
大阪	高橋	江戸中	江戸中	×	×	×	桐
香川	細川	江戸中	江戸中	×	○	×	
香川	恵利	江戸中	江戸中	×	○	×	不明
島根	堀江	18 C 前	江戸中	×	○	×	
静岡	大鐘	18 C 初	江戸中	×	×	○	
福井	橋本	18 C 初	江戸中	○	×	×	
埼玉	小野	18 C 初	江戸中	×	○	×	
愛媛	真鍋	18 C 初	江戸中	×	○	×	
新潟	長谷川	享保元	江戸中	×	×	×	ヒバ
埼玉	吉田	享保 6	江戸中	○	×	×	
大阪	北田	宝永 5 ~享保 19	江戸中	×	×	○	
茨木	飛田	江戸中	江戸中	×	×	○	
静岡	友田	18 C 前	江戸中	×	○	×	
高知	山中	18 C 前	江戸中	×	×	×	不明
福島	旧五十嵐	享保 14	江戸中	×	×	×	榎
栃木	三森	享保 18	江戸中	○	×	×	
大阪	杉山	享保 19	江戸中	×	○	×	
新潟	佐藤	元文 3	江戸中	×	×	×	不明
静岡	植松	延享元	江戸中	○	×	×	
奈良	上田	延享元	江戸中	×	×	×	桧
埼玉	新井	延享 2	江戸中	×	○	×	
和歌山	妹背	延享 3	江戸中	○	×	×	
茨城	太田	18C 中	江戸中	×	×	×	クルミ
広島	太田	18 C 中	江戸後	×	×	×	桐
岩手	菊池	18 C 中	江戸後	×	○	×	
宮城	我妻	宝暦 3	江戸後	×	○	×	
滋賀	宮地	宝暦 4	江戸後	○	×	×	
石川	時国	宝暦 6	江戸後	○	×	×	
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	×	○	×	
愛媛	豊島	宝暦 8	江戸後	×	×	○	不明
岩手	工藤	宝暦 9	江戸後	×	○	×	

県名	建物名	年代	年代区分	樺	栗	松	その他材種
京都	瀧澤	宝暦 10	江戸後	×	×	×	桧
富山	佐伯	明和 4 移築	江戸後	×	×	×	ヒバ
山口	熊谷	明和 5	江戸後	×	×	○	
青森	平山	明和 6	江戸後	×	×	×	ヒバ
奈良	中	明和	江戸後	○	×	×	
大分	神尾	明和 8	江戸後	×	×	×	杉
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	×	×	×	桧
岐阜	小坂	安永 2	江戸後	×	×	×	桧
茨城	埜	18 C 後	江戸後	○	×	×	
奈良	藤田	18 C 後	江戸後	×	×	○	
栃木	荒井	18 C 後	江戸後	×	○	×	
大分	後藤	江戸後	江戸後	×	×	×	杉
青森	石場	18 C 前	江戸後	×	×	×	ヒバ
栃木	羽石	18 C 後	江戸後	×	×	○	
愛知	望月	18 C 後	江戸後	×	○	×	
岡山	前原	18 C 後	江戸後	×	○	×	
福岡	平川	18 C 後	江戸後	×	×	○	
大分	矢羽田	18 C 後	江戸後	×	×	×	杉
宮城	佐藤	18 C 後	江戸後	×	○	×	
奈良	片岡	天明 2	江戸後	×	×	○	
和歌山	鈴木	天明 5	江戸後	×	×	×	椎
広島	奥	天明 8	江戸後	×	○	×	
佐賀	吉村	天明 9	江戸後	×	×	×	杉
富山	武田	寛政	江戸後	×	×	×	杉
宮城	中澤	江戸後	江戸後	×	×	×	不明
三重	町井	江戸後	江戸後	○	×	×	
岡山	森江	17 C 末	江戸後	×	○	×	
栃木	岡本	江戸後	江戸後	×	○	×	
広島	林	18 C 末	江戸後	×	×	×	杉
高知	竹内	18 C 末	江戸後	×	×	×	不明
富山	嶋	18 C 末	江戸後	○	×	×	
奈良	河合	江戸後	江戸後	×	×	○	
奈良	中橋	江戸後	江戸後	×	×	×	桧
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	×	○	×	
埼玉	大沢	寛政 4	江戸後	○	×	×	
岐阜	荒川	寛政 8	江戸後	×	×	×	桧
岐阜	若山	寛政 9	江戸後	×	○	×	
岡山	大橋	寛政 9	江戸後	×	×	○	
島根	熊谷	文化	江戸後	○	×	×	
山梨	八代	文化 5	江戸後	×	×	×	不明
福井	谷口	文化 6	江戸後	×	×	×	不明
石川	喜多	19 C 初	江戸後	○	×	×	
岩手	藤野	19 C 前	江戸後	×	○	×	
秋田	嵯峨	19C 前	江戸後	×	○	×	
京都	行永	文政 8	江戸後	○	×	×	
富山	浮田	文政 11	江戸後	×	×	×	ヒバ
徳島	福永	文政 11	江戸後	×	×	×	桐
秋田	草薨	天保頃	江戸末	×	×	×	杉
愛知	服部	天保	江戸末	×	×	×	桐
宮崎	黒木	天保 6	江戸末	×	×	×	杉
福岡	永沼	天保 10	江戸末	×	×	×	桐
栃木	入野	天保 12	江戸末	○	×	×	
大分	行徳	弘化 4	江戸末	×	×	×	杉
佐賀	土井	江戸末	江戸末	×	×	×	不明
秋田	大山	19 C 中	江戸末	○	×	×	
長野	小野	江戸末	江戸末	○	×	×	
熊本	太田	江戸末	江戸末	×	×	×	桑
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	○	×	×	
和歌山	中筋	嘉永 5	江戸末	○	×	×	
大阪	鴻池新田	嘉永 6	江戸末	×	×	×	桐
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	×	×	×	タブ
奈良	音村	安政 2	江戸末	×	×	×	桧
秋田	三浦	文久元	江戸末	×	○	×	
徳島	田中	元治 2	江戸末	○	×	×	
福井	石倉	慶応	江戸末	○	×	×	

一覧表 -18 座敷柱幅（尺）(2-4-1 2-4-2)

・中間値…(最大柱幅 + 最小柱幅) ÷ 2

・一様に細い…座敷柱幅が一様に細いもの。座敷柱が.50尺以下の柱幅で占められ、その誤差 ((最大幅 - 最小幅) ÷ 2) が.03尺以下のもの「座敷柱幅が一様に細い」ということにする。本文では誤差のことをばらつきと言っているので注意。

県名	建物名	年代	年代区分	樺	栗	松	その他材種
奈良	藤岡	18 C後	明治	×	×	×	松
愛媛	本芳我	明治 17	明治	×	×	○	
佐賀	山口	明治	明治	×	×	×	杉
北海道	中村頃	明治 22	明治	×	×	×	ヒバ
愛媛	上芳我	明治 27	明治	×	×	○	

県名	建物名	年代	年代区分	柱幅	±誤差	測定	一様に細い
福井	堀口	18 C初	江戸中	0.73	0.28	A	×
福島	五十嵐	享保 3	江戸中	0.65	0.25	D	×
宮城	中澤	江戸後	江戸後	0.65	0.15	B	×
静岡	大鐘	18 C初	江戸中	0.62	0.10	B	×
宮城	我妻	宝暦 3	江戸後	0.61	0.03	A	×
新潟	佐藤	元文 3	江戸中	0.60	0.10	D	×
秋田	嵯峨	19C 前	江戸後	0.60	0.01	A	×
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	0.59	0.07	B	×
岩手	藤野	19 C前	江戸後	0.59	0.09	A	×
岐阜	若山	寛政 9	江戸後	0.59	0.02	B	×
富山	佐伯	明和 4 移築	江戸後	0.59	0.14	A	×
岐阜	大戸	天保 4	江戸末	0.58	不明	C	不明
福井	瓜生	元禄 12	江戸中	0.58	0.19	A	×
福井	橋本	18 C初	江戸中	0.58	0.08	B	×
石川	小倉	江戸末	江戸末	0.57	0.07	B	×
秋田	土田	17 C後	江戸中	0.57	不明	D	不明
秋田	草薨	天保頃	江戸末	0.57	0.02	A	×
岩手	菅野	享保 13	江戸中	0.57	0.10	A	×
奈良	今西	慶安 3	江戸前	0.57	0.07	C	×
新潟	笹川	文政 9	江戸後	0.55	0.01	A	×
長崎	本田	江戸中	江戸中	0.55	0.05	B	×
愛知	服部	天保	江戸末	0.55	0.04	B	×
広島	木原	寛文 5	江戸中	0.55	0.05	A	×
埼玉	吉田	享保 6	江戸中	0.54	0.05	B	×
奈良	中村	寛永 9	江戸前	0.54	0.03	B	×
福島	馬場	江戸中	江戸中	0.53	0.11	B	×
秋田	大山	19 C中	江戸末	0.53	0.01	A	×
富山	嶋	18 C末	江戸後	0.53	0.07	D	×
兵庫	岡田	延宝 2	江戸中	0.53	0.02	B	×
大阪	高橋	江戸中	江戸中	0.52	不明	B	不明
岩手	伊藤	18 C後	江戸後	0.52	0.08	B	×
島根	堀江	18 C前	江戸中	0.52	0.05	B	×
静岡	友田	18 C前	江戸中	0.52	0.02	B	×
福井	坪川	17 C末	江戸中	0.51	0.01	A	×
山形	有路	江戸中	江戸中	0.51	0.04	B	×
茨城	山本	江戸中	江戸中	0.51	0.03	B	×
宮城	佐藤	18 C後	江戸後	0.51	0.06	A	×
石川	時国	宝暦 6	江戸後	0.51	0.01	A	×
静岡	中村	貞享 5	江戸中	0.50	0.03	B	×
東京	大場	宝暦 3	江戸後	0.50	0.03	A	×
茨木	中崎	元禄元	江戸中	0.50	不明	C	不明
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	0.50	0.10	C	×
山梨	門西	17 C末	江戸中	0.50	0.04	B	×
熊本	境	文政 13	江戸末	0.50	0.10	A	×
岡山	前原	18 C後	江戸後	0.50	不明	B	不明
北海道	三戸部頃	明治 20	明治	0.50	不明	C	不明
宮崎	藤田	天明 7	江戸後	0.50	不明	D	不明
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	0.50	0.05	A	×
福井	谷口	文化 6 頃	江戸後	0.50	0.10	A	×
新潟	長谷川	享保元	江戸中	0.49	0.02	A	×
秋田	三浦	文久元	江戸末	0.49	0.01	B	○
神奈川	北村	貞享 4	江戸中	0.49	0.08	B	×
栃木	荒井	18 C後	江戸後	0.49	0.01	A	○
茨城	羽生	江戸中	江戸中	0.49	0.07	C	×
静岡	植松	延享元	江戸中	0.49	0.12	D	×
沖縄	上江洲	宝暦 4	江戸後	0.49	0.01	B	○
岐阜	牧村	元禄 14	江戸中	0.49	0.07	A	×
青森	平山	明和 6	江戸後	0.49	0.01	A	○
兵庫	箱木	室町後	室町	0.49	0.07	C	×
滋賀	宮地	宝暦 4	江戸後	0.48	0.08	C	×
佐賀	川打	江戸中	江戸中	0.48	0.05	D	×
和歌山	鈴木	天明 5	江戸後	0.48	不明	B	不明
奈良	米谷	18 C前	江戸中	0.48	0.02	C	○
福岡	平川	18 C後	江戸後	0.48	0.07	B	×
大阪	左近	江戸前	江戸前	0.48	0.08	B	×

県名	建物名	年代	年代区分	柱幅	土誤差	測定	一様に 細い
広島	幡山	江戸中	江戸中	0.48	0.03	B	×
岐阜	田中	18 C 初	江戸中	0.47	0.07	B	×
埼玉	平山	18 C 前	江戸中	0.47	0.04	B	×
栃木	入野	天保 12	江戸末	0.47	0.01	B	○
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	0.47	0.02	A	○
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	0.47	0.02	A	○
栃木	三森	享保 18	江戸中	0.47	0.02	B	○
奈良	西田	江戸前	江戸前	0.47	0.02	B	○
山梨	平田	17 C 後	江戸中	0.46	0.06	B	×
茨城	塙	18 C 後	江戸後	0.46	不明	C	不明
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	0.46	不明	C	不明
佐賀	山口	明治	明治	0.46	不明	C	不明
愛媛	山中	18C 後	江戸後	0.46	不明	B	不明
広島	奥	天明 8	江戸後	0.46	0.01	A	○
鹿児島	古市島	弘化 3	江戸末	0.46	0.01	B	○
山口	菊屋	江戸中	江戸中	0.46	0.02	A	○
栃木	羽石	18 C 後	江戸後	0.46	0.02	B	○
大分	矢羽田	18 C 後	江戸後	0.46	0.02	B	○
島根	佐々木	天保 7	江戸末	0.45	0.01	B	○
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	0.45	0.05	B	×
神奈川	伊藤	18 C 初	江戸中	0.45	不明	D	不明
茨木	椎名	延宝 2	江戸中	0.45	0.05	B	×
大阪	山本	江戸中	江戸中	0.45	0.05	D	×
群馬	彦部	17 C 前	江戸前	0.45	0.05	C	×
愛媛	上芳我	明治 27	明治	0.45	不明	D	不明
大阪	北田	宝永 5~ 享保 19	江戸中	0.45	0.01	A	○
青森	石場	18 C 前	江戸後	0.45	0.01	A	○
青森	笠石	18 C 後	江戸後	0.45	0.05	D	×
茨城	太田	18C 中	江戸中	0.45	不明	B	不明
兵庫	古井	室町後	室町	0.45	0.05	C	×
千葉	花野井	17 C 後	江戸中	0.45	0.05	C	×
京都	石田	慶安 3	江戸前	0.45	不明	C	不明
新潟	若林	明和 6 火 災後	江戸後	0.45	不明	C	不明
鹿児島	二階堂島	文化 6	江戸後	0.45	不明	D	不明
千葉	御子神	安永 8	江戸後	0.45	不明	D	不明
埼玉	高橋	17 C 末	江戸中	0.45	0.02	C	○
千葉	作田	17 C 後	江戸中	0.45	0.03	A	×
埼玉	小野	18 C 初	江戸中	0.45	0.02	C	○
奈良	片岡	天明 2	江戸後	0.45	0.02	A	○
和歌山	中筋山	嘉永 5	江戸末	0.45	0.01	A	○
広島	吉原	寛永 12	江戸前	0.45	0.04	A	×
山形	尾形	江戸中	江戸中	0.44	0.01	B	○
奈良	藤田	18 C 後	江戸後	0.44	0.04	B	×
宮崎	黒木	天保 6	江戸末	0.44	不明	C	不明
京都	渡邊	江戸中	江戸中	0.44	0.04	C	×
神奈川	関	17 C 前	江戸前	0.44	0.04	B	×
愛知	望月	18 C 後	江戸後	0.44	0.05	B	×
長野	曾根原	17 C 中	江戸前	0.43	0.03	B	×
福岡	数山	天保 13	江戸末	0.43	0.03	A	×
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	0.43	0.01	A	○
愛媛	本芳我	明治 17	明治	0.43	不明	C	不明
福島	旧五十嵐	享保 14	江戸中	0.43	0.05	B	×
徳島	小采	天保	江戸末	0.43	0.02	B	○
京都	行永	文政 8	江戸後	0.43	0.03	A	×
大分	神尾	明和 8	江戸後	0.43	0.03	B	×
大阪	杉山	享保 19	江戸中	0.43	0.01	B	○
大阪	吉村	江戸前	江戸前	0.43	0.02	C	○
山梨	八代	文化 5	江戸後	0.43	0.02	A	○
奈良	高木	文政~嘉 永	江戸末	0.43	0.02	B	○
徳島	木村	元禄 12	江戸中	0.43	0.06	B	×
奈良	河合	江戸後	江戸後	0.42	0.02	B	○
埼玉	高麗	17 C 末	江戸中	0.42	0.08	D	×
奈良	臼井	元禄頃	江戸中	0.42	0.01	B	○
岩手	中村	文久元	江戸末	0.41	0.01	A	○
奈良	中	明和	江戸後	0.41	0.04	A	×
岡山	大橋	寛政 9	江戸後	0.41	0.04	A	×
富山	浮田	文政 11	江戸後	0.41	0.02	A	○

県名	建物名	年代	年代区分	柱幅	土誤差	測定	一様に 細い
北海	中村道	明治 22	明治	0.41	0.00	A	○
京都	伊佐	享保 19	江戸中	0.40	不明	A	不明
新潟	渡辺	文化 14	江戸後	0.40	0.01	A	○
福岡	永沼	天保 10	江戸末	0.40	0.02	A	○
山梨	高野	江戸後	江戸後	0.40	0.01	A	○
福井	石倉	慶志	江戸末	0.40	0.01	A	○
京都	澤井	元文 5	江戸中	0.40	不明	A	不明
岡山	石井	江戸末	江戸末	0.40	0.02	A	○
三重	町井	江戸後	江戸後	0.40	不明	C	不明
岡山	森江	17 C 末	江戸後	0.40	0.05	D	×
島根	熊谷	文化	江戸後	0.40	0.02	A	○
徳島	田中	元治 2	江戸末	0.40	不明	C	不明
広島	林	18 C 末	江戸後	0.40	不明	C	不明
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	0.40	不明	D	不明
奈良	上田	延享元	江戸中	0.40	0.02	B	○
徳島	福永	文政 11	江戸後	0.40	不明	C	不明
愛媛	真鍋	18 C 初	江戸中	0.40	不明	D	不明
山口	目加田	19C 前	江戸後	0.40	不明	C	不明
大阪	鴻池新田	嘉永 6	江戸末	0.40	0.02	A	○
京都	角屋	江戸後	江戸後	0.40	0.03	A	×
山口	熊谷	明和 5	江戸後	0.40	0.01	A	○
長野	小野	江戸末	江戸末	0.40	0.02	B	○
岐阜	小坂	安永 2	江戸後	0.40	不明	B	不明
奈良	音村	安政 2	江戸末	0.40	0.04	C	×
北海	笹浪道	19 C 前	江戸後	0.40	0.03	A	×
滋賀	大角	元禄頃	江戸中	0.39	0.01	A	○
和歌山	増田山	宝永 3	江戸中	0.39	0.01	A	○
熊本	太田	江戸末	江戸末	0.39	0.01	B	○
徳島	長岡	享保 12	江戸中	0.39	0.11	D	×
広島	頼	安政 2	江戸末	0.39	0.02	C	○
富山	武田	寛政	江戸後	0.39	0.01	A	○
長野	春原	17 C 末	江戸中	0.39	0.08	B	×
鳥取	後藤	正徳 4	江戸中	0.39	0.03	A	×
京都	瀧澤	宝暦 10	江戸後	0.39	0.01	B	○
奈良	中橋	江戸後	江戸後	0.39	0.03	B	×
栃木	岡本	江戸後	江戸後	0.38	不明	A	不明
茨木	飛田	江戸中	江戸中	0.38	0.02	B	○
長野	真山	明和 3	江戸後	0.38	不明	D	不明
群馬	黒澤	江戸末	明治	0.38	0.02	C	○
奈良	藤岡	18 C 後	明治	0.38	0.01	B	○
石川	松下	19 C 中	江戸末	0.38	0.01	A	○
和歌山	妹背山	延享 3	江戸中	0.37	0.01	A	○
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	0.37	0.02	A	○
香川	細川	江戸中	江戸中	0.37	0.04	B	×
長野	横田	寛政 6	江戸後	0.37	0.01	B	○
山口	口羽	19 C 中	江戸末	0.36	0.01	A	○
岐阜	桑原	寛政 12	江戸後	0.35	不明	D	不明
石川	喜多	19 C 初	江戸後	0.35	0.01	A	○
和歌山	柳川山	文化 4	江戸後	0.35	不明	B	不明
沖縄	中村	江戸後	江戸後	0.35	不明	A	不明
大分	行徳	弘化 4	江戸末	0.35	0.00	B	○
香川	恵利	江戸中	江戸中	0.34	0.07	D	×
広島	太田	18 C 中	江戸後	0.33	0.02	A	○
大阪	奥田	江戸中	江戸中	0.33	0.02	A	○

一覧表 -19 座敷柱種一覧 (2-4-3)

報告書参照または筆者目視確認による

県名	建物名	年代	年代区分	杉皮	面皮	桧ヒバ	梅	松	栗	その他
宮城	中澤	江戸後	江戸後	×	×	×	×	×	×	不明
静岡	大鐘	18 C初	江戸中	×	×	×	×	×	×	櫻
宮城	我妻	宝暦 3	江戸後	×	×	×	×	×	○	
新潟	佐藤	元文 3	江戸中	×	×	×	×	×		
秋田	嵯峨	19C 前	江戸後	○	×	×	×	×		
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	○	×	×	×	×		
岐阜	若山	寛政 9	江戸後	○	×	○	×	×	×	
富山	佐伯	明和 4 移築	江戸後	×	×	○	×	×	×	
福井	瓜生	元禄 12	江戸中	○	×	×	×	×	×	
福井	橋本	18 C初	江戸中	×	×	×	×	×	○	
秋田	草薨	天保頃	江戸末	○	×	×	×	×	×	
広島	木原	寛文 5	江戸中	○	○	×	×	○	×	
愛知	服部	天保	江戸末	×	×	×	×	×	×	
埼玉	吉田	享保 6	江戸中	×	×	×	×	×	×	
奈良	中村	寛永 9	江戸前	×	×	○	×	×	×	
福島	馬場	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	×	
富山	嶋	18 C末	江戸後	○	×	○	×	×	×	
兵庫	岡田	延宝 2	江戸中	×	×	×	○	×	×	
大阪	高橋	江戸中	江戸中	×	×	×	○	×	×	
島根	堀江	18 C前	江戸中	×	×	×	×	×	×	
静岡	友田	18 C前	江戸中	○	×	×	×	×	×	
茨城	山本	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	×	
福井	坪川	17 C末	江戸中	×	×	×	×	×	×	
宮城	佐藤	18 C後	江戸後	×	×	×	×	×	×	
石川	時国	宝暦 6	江戸後	○	○	×	×	×	×	
静岡	中村	貞享 5	江戸中	×	×	×	○	×	×	
岡山	前原	18 C後	江戸後	×	×	×	×	×	○	
福井	谷口	文化 6 頃	江戸後	○	×	×	×	×	×	
静岡	植松	延享元	江戸中	×	×	×	×	×	×	
新潟	長谷川	享保元	江戸中	○	○	×	×	×	×	
栃木	荒井	18 C後	江戸後	○	○	×	×	×	×	
秋田	三浦	文久元	江戸末	○	×	×	×	×	×	
岐阜	牧村	元禄 14	江戸中	×	×	×	×	×	×	
青森	平山	明和 6	江戸後	×	×	○	×	×	×	
滋賀	宮地	宝暦 4	江戸後	×	×	×	×	×	×	
福岡	平川	18 C後	江戸後	○	×	×	×	×	×	
和歌山	鈴木	天明 5	江戸後	×	×	×	×	×	×	
大阪	左近	江戸前	江戸前	×	×	×	×	×	×	
栃木	入野	天保 12	江戸末	○	○	×	×	×	×	
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	×	○	×	○	×	×	
奈良	西田	江戸前	江戸前	×	×	×	×	×	×	
栃木	三森	享保 18	江戸中	○	○	×	×	×	×	
山梨	平田	17 C後	江戸中	×	×	×	○	×	×	
佐賀	山口	明治	明治	×	×	×	×	×	×	
茨城	塙	18 C後	江戸後	○	×	×	×	○	×	
京都	行永	文政 8	江戸後	×	×	○	×	×	×	桧面皮
広島	奥	天明 8	江戸後	×	○	×	×	×	×	
山口	菊屋	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	×	
大分	矢羽田	18 C後	江戸後	×	×	×	×	×	×	
栃木	羽石	18 C後	江戸後	×	×	×	×	○	×	
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	×	×	×	×	×	○	
大阪	山本	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	○	
大阪	北田	宝永 5 ~享保 19	江戸中	○	×	×	○	×	×	
茨城	太田	18C 中	江戸中	×	×	×	×	×	×	
青森	石場	18 C前	江戸後	×	×	○	×	×	×	
千葉	花野井	17 C後	江戸中	×	×	×	×	×	×	
愛媛	上芳我	明治 27	明治	×	×	×	○	×	×	
埼玉	高橋	17 C末	江戸中	○	×	×	×	×	×	
埼玉	小野	18 C初	江戸中	×	×	×	×	×	×	
奈良	片岡	天明 2	江戸後	×	×	○	×	×	×	
和歌山	中筋山	嘉永 5	江戸末	×	×	×	○	×	×	
広島	吉原	寛永 12	江戸前	×	×	×	×	○	×	
山形	尾形	江戸中	江戸中	×	○	×	×	×	×	翌桧

県名	建物名	年代	年代区分	杉皮	面皮	桧ヒバ	梅	松	栗	その他
奈良	藤田	18 C後	江戸後	×	×	×	○	×	×	
宮崎	黒木	天保 6	江戸末	○	×	×	×	×	×	
神奈川	関	17 C前	江戸前	×	×	×	×	○	×	
愛知	望月	18 C後	江戸後	×	×	×	×	×	×	
福島	旧五十嵐	享保 14	江戸中	×	×	×	×	×	×	楨
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	×	×	○	×	×	×	
愛媛	本芳我	明治 17	明治	×	×	○	×	×	×	
大分	神尾	明和 8	江戸後	○	×	×	○	×	×	
大阪	杉山	享保 19	江戸中	×	×	×	○	×	×	
山梨	八代	文化 5	江戸後	×	×	×	×	×	×	
埼玉	高麗	17 C末	江戸中	×	×	×	×	×	×	
奈良	河合	江戸後	江戸後	×	×	○	×	×	×	
奈良	臼井	元禄頃	江戸中	○	○	×	○	×	×	
奈良	中	明和	江戸後	×	×	○	×	×	×	
岡山	大橋	寛政 9	江戸後	○	×	×	○	×	×	
富山	浮田	文政 11	江戸後	×	×	○	×	×	×	
北海	中村道	明治 22	明治	×	×	○	×	×	×	
奈良	上田	延享元	江戸中	×	×	○	×	×	×	
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	×	○	×	○	×	×	
三重	町井	江戸後	江戸後	×	×	×	×	×	○	
広島	林	18 C末	江戸後	×	×	×	×	×	×	
愛媛	真鍋	18 C初	江戸中	×	×	×	×	×	○	
岡山	森江	17 C末	江戸後	×	×	×	×	×	○	
島根	熊谷	文化	江戸後	×	×	×	×	○	×	
徳島	福永	文政 11	江戸後	×	×	×	×	×	×	
福岡	永沼	天保 10	江戸末	×	×	×	○	×	×	
徳島	田中	元治 2	江戸末	×	×	×	○	×	×	
福井	石倉	慶応	江戸末	○	○	×	×	×	×	
山口	熊谷	明和 5	江戸後	○	○	×	○	○	×	
岐阜	小坂	安永 2	江戸後	×	×	○	×	×	×	
長野	小野	江戸末	江戸末	×	×	×	×	×	×	
大阪	鴻池新田	嘉永 6	江戸末	×	○	×	×	×	×	
奈良	音村	安政 2	江戸末	×	×	○	×	×	×	
和歌山	増田山	宝永 3	江戸中	○	×	×	○	×	×	
熊本	太田	江戸末	江戸末	×	×	×	×	×	×	
長野	春原	17 C末	江戸中	×	×	×	×	×	×	
富山	武田	寛政	江戸後	×	○	×	×	×	×	
奈良	中橋	江戸後	江戸後	×	○	○	×	×	×	
京都	瀧澤	宝暦 10	江戸後	○	×	×	×	×	×	
茨木	飛田	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	×	
栃木	岡本	江戸後	江戸後	○	×	×	×	×	×	
奈良	藤岡	18 C後	明治	○	○	×	○	×	×	
和歌山	妹背山	延享 3	江戸中	○	○	×	○	×	×	
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	○	○	×	×	×	×	
香川	細川	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	○	
石川	喜多	19 C初	江戸後	○	○	×	×	×	×	
大分	行徳	弘化 4	江戸末	○	○	×	×	×	×	
香川	恵利	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	×	
大阪	奥田	江戸中	江戸中	○	○	×	×	×	×	
広島	太田	18 C中	江戸後	○	○	×	○	×	×	

一覧表 -20 座敷のN値(2-5)

N = 部屋面積(尺²) ÷ 柱幅(尺)

県名	建物名	年代	年代区分	座敷柱幅(尺)	座敷の広さ 桁行(尺) 梁間(尺)	N	測定
京都	角屋	江戸後	江戸後	0.40	22.5 25.6	3693	A
広島	太田	18 C中	江戸後	0.33	16.1 19.3	2846	A
香川	細川	江戸中	江戸中	0.37	19.4 19.4	2822	B
徳島	長岡	享保 12	江戸中	0.39	16.0 22.1	2333	D
青森	笠石	18 C後	江戸後	0.45	18.0 25.0	2223	D
徳島	木村	元禄 12	江戸中	0.43	19.6 19.6	2123	B
長野	横田	寛政 6	江戸後	0.37	12.6 19.0	1799	B
和歌山	柳川	文化 4	江戸後	0.35	13.1 16.1	1718	B
熊本	太田	江戸末	江戸末	0.39	19.3 13.0	1650	B
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	0.37	12.9 16.2	1566	A
大阪	奥田	江戸中	江戸中	0.33	13.0 13.0	1547	A
香川	恵利	江戸中	江戸中	0.34	13.0 13.0	1507	D
奈良	藤岡	18 C後	明治	0.38	16.2 13.0	1497	B
新潟	渡辺	文化 14	江戸後	0.40	15.4 15.4	1482	A
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	0.40	15.4 15.4	1482	D
青森	石場	18 C前	江戸後	0.45	18.9 15.7	1470	A
神奈川	関	17 C前	江戸前	0.44	18.1 15.0	1436	B
徳島	小采	天保	江戸末	0.43	16.3 16.3	1429	B
大分	行徳	弘化 4	江戸末	0.35	13.0 13.0	1409	B
滋賀	大角	元禄頃	江戸中	0.39	16.2 13.0	1385	A
北海道	笹浪	19 C前	江戸後	0.40	12.0 18.0	1384	A
兵庫	古井	室町後	室町	0.45	21.9 12.5	1359	C
山口	熊谷	明和 5	江戸後	0.40	16.1 13.0	1346	A
徳島	田中	元治 2	江戸末	0.40	13.0 16.2	1313	C
山口	口羽	19 C中	江戸末	0.36	13.0 13.0	1305	A
石川	松下	19 C中	江戸末	0.38	12.0 15.0	1276	A
和歌山	妹背	延享 3	江戸中	0.37	13.2 13.2	1273	A
岐阜	桑原	寛政 12	江戸後	0.35	12.4 12.4	1255	D
富山	武田	寛政	江戸後	0.39	15.0 12.0	1214	A
長野	春原	17 C末	江戸中	0.39	12.0 15.0	1214	B
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	0.47	16.4 16.4	1214	A
石川	喜多	19 C初	江戸後	0.35	12.0 12.0	1172	A
愛媛	本芳我	明治 17	明治	0.43	13.1 16.2	1148	C
京都	瀧澤	宝曆 10	江戸後	0.39	13.0 13.0	1140	B
山梨	高野	江戸後	江戸後	0.40	14.9 12.0	1117	A
和歌山	増田	宝永 3	江戸中	0.39	13.0 13.0	1112	A
埼玉	高麗	17 C末	江戸中	0.42	12.4 15.6	1097	D
群馬	黒澤	江戸末	明治	0.38	12.4 12.4	1089	C
新潟	笹川	文政 9	江戸後	0.55	18.2 18.2	1089	A
広島	頼	安政 2	江戸末	0.39	12.7 12.7	1088	C
大阪	鴻池新田	嘉永 6	江戸末	0.40	13.0 13.0	1083	A
神奈川	伊藤	18 C初	江戸中	0.45	12.0 18.0	1069	D
栃木	岡本	江戸後	江戸後	0.38	12.4 12.4	1069	A
茨木	飛田	江戸中	江戸中	0.38	12.4 12.4	1066	B
三重	町井	江戸後	江戸後	0.40	13.0 13.0	1059	C
奈良	上田	延享元	江戸中	0.40	13.0 13.0	1059	B
京都	澤井	元文 5	江戸中	0.40	13.0 13.0	1056	A
京都	伊佐	享保 19	江戸中	0.40	13.0 13.0	1056	A
徳島	福永	文政 11	江戸後	0.40	13.0 13.0	1056	C
愛媛	上芳我	明治 27	明治	0.45	13.1 16.2	1044	D
秋田	三浦	文久元	江戸末	0.49	15.8 15.8	1033	B
宮崎	藤田	天明 7	江戸後	0.50	13.1 19.6	1025	D
愛媛	山中	18C後	江戸後	0.46	13.1 16.2	1000	B
長野	真山	明和 3	江戸後	0.38	12.0 12.0	997	D
山梨	八代	文化 5	江戸後	0.43	15.0 12.0	997	A
広島	林	18 C末	江戸後	0.40	12.6 12.6	995	C
山口	目加田	19C前	江戸後	0.40	12.6 12.6	992	C
愛媛	真鍋	18 C初	江戸中	0.40	12.5 12.5	984	D
茨城	太田	18C中	江戸中	0.45	12.6 15.7	979	B
茨木	椎名	延宝 2	江戸中	0.45	12.6 15.7	974	B

県名	建物名	年代	年代区分	座敷柱幅(尺)	座敷の広さ 桁行(尺) 梁間(尺)	N	測定
大阪	杉山	享保 19	江戸中	0.43	13.2 13.2	968	B
群馬	彦部	17 C前	江戸前	0.45	12.5 15.6	965	C
福井	石倉	慶応	江戸末	0.40	12.4 12.4	961	A
千葉	作田	17 C後	江戸中	0.45	15.5 12.5	957	A
岐阜	小坂	安永 2	江戸後	0.40	12.2 12.2	957	B
兵庫	箱木	室町後	室町	0.49	16.6 13.5	954	C
岡山	大橋	寛政 9	江戸後	0.41	12.7 12.7	952	A
沖縄	中村	江戸後	江戸後	0.35	9.4 12.4	949	A
京都	行永	文政 8	江戸後	0.43	13.0 13.0	943	A
奈良	高木	文政~ 嘉永	江戸末	0.43	13.0 13.0	938	B
長野	小野	江戸末	江戸末	0.40	12.1 12.1	937	B
山形	有路	江戸中	江戸中	0.51	15.6 15.6	936	B
大阪	吉村	江戸前	江戸前	0.43	13.0 13.0	936	C
秋田	土田	17 C後	江戸中	0.57	18.9 16.0	931	D
福岡	数山	天保 13	江戸末	0.43	13.1 13.1	923	A
富山	浮田	文政 11	江戸後	0.41	12.3 12.3	915	A
奈良	白井	元禄頃	江戸中	0.42	9.9 16.2	905	B
埼玉	高橋	17 C末	江戸中	0.45	12.1 15.0	895	C
奈良	藤田	18 C後	江戸後	0.44	13.1 13.1	881	B
宮崎	黒木	天保 6	江戸末	0.44	13.0 13.0	879	C
北海道	中村	明治 22	明治	0.41	12.0 12.0	878	A
福島	旧五十嵐	享保 14	江戸中	0.43	12.6 12.6	861	B
奈良	片岡	天明 2	江戸後	0.45	13.1 13.1	861	A
広島	吉原	寛永 12	江戸前	0.45	13.1 13.1	860	A
和歌山	中筋山	嘉永 5	江戸末	0.45	13.0 13.0	854	A
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	0.45	13.1 13.1	852	B
鹿児島	二階堂	文化 6	江戸後	0.45	13.1 13.1	848	D
青森	平山	明和 6	江戸後	0.49	15.8 12.6	844	A
島根	佐々木	天保 7	江戸末	0.45	13.1 13.1	842	B
大阪	北田	宝永 5 ~享保 19	江戸中	0.45	13.1 13.1	842	A
京都	石田	慶安 3	江戸前	0.45	13.0 13.0	838	C
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	0.47	15.0 12.0	832	A
奈良	音村	安政 2	江戸末	0.40	9.9 13.1	830	C
山口	菊屋	江戸中	江戸中	0.46	13.1 13.1	827	A
大分	矢羽田	18 C後	江戸後	0.46	13.1 13.1	827	B
山形	尾形	江戸中	江戸中	0.44	12.6 12.6	821	B
岡山	森江	17 C末	江戸後	0.40	10.0 13.1	819	D
埼玉	平山	18 C前	江戸中	0.47	15.0 12.0	813	B
佐賀	山口	明治	明治	0.46	13.1 13.1	809	C
岩手	菅野	享保 13	江戸中	0.57	16.0 16.0	802	A
福岡	永沼	天保 10	江戸末	0.40	13.0 9.8	798	A
長野	曾根原	17 C中	江戸前	0.43	12.0 12.0	781	B
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	0.43	12.0 12.0	778	A
奈良	中	明和	江戸後	0.41	10.0 13.0	773	A
広島	幡山	江戸中	江戸中	0.48	13.2 13.2	772	B
愛知	望月	18 C後	江戸後	0.44	12.1 12.1	769	B
栃木	羽石	18 C後	江戸後	0.46	12.5 12.5	755	B
東京	大場	宝暦 3	江戸後	0.50	15.4 12.7	753	A
福岡	平川	18 C後	江戸後	0.48	13.1 13.0	741	B
岩手	伊藤	18 C後	江戸後	0.52	15.8 12.6	734	B
佐賀	川打	江戸中	江戸中	0.48	13.0 13.0	734	D
静岡	中村	貞享 5	江戸中	0.50	12.2 15.1	733	B
奈良	河合	江戸後	江戸後	0.42	9.9 13.1	731	B
埼玉	小野	18 C初	江戸中	0.45	12.0 12.0	731	C
栃木	三森	享保 18	江戸中	0.47	12.5 12.5	723	B
石川	時国	宝暦 6	江戸後	0.51	12.2 15.1	719	A
大分	神尾	明和 8	江戸後	0.43	13.0 9.9	715	B
新潟	若林	明和 6 火災後	江戸後	0.45	12.0 12.0	711	C
福島	馬場	江戸中	江戸中	0.53	12.6 15.8	707	B
栃木	入野	天保 12	江戸末	0.47	12.5 12.5	705	B
京都	渡邊	江戸中	江戸中	0.44	10.4 13.1	703	C

県名	建物名	年代	年代区分	座敷柱幅(尺)	座敷の広さ 桁行(尺) 梁間(尺)	N	測定
岩手	中村	文久元	江戸末	0.41	9.5 12.6	701	A
熊本	境	文政13	江戸末	0.50	13.1 13.1	687	A
山梨	平田	17 C後	江戸中	0.46	12.0 12.0	683	B
滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	0.48	12.5 12.5	675	C
岐阜	牧村	元禄14	江戸中	0.49	12.5 12.5	668	A
埼玉	吉田	享保6	江戸中	0.54	15.5 12.5	665	B
沖縄	上江洲	宝暦4	江戸後	0.49	12.6 12.6	662	B
茨城	羽生	江戸中	江戸中	0.49	12.6 12.6	661	C
奈良	中橋	江戸後	江戸後	0.39	9.9 9.9	657	B
岐阜	田中	18 C初	江戸中	0.47	12.0 12.0	654	B
栃木	荒井	18 C後	江戸後	0.49	12.5 12.5	651	A
大阪	山本	江戸中	江戸中	0.45	10.0 13.2	651	D
島根	堀江	18 C前	江戸中	0.52	13.1 13.1	647	B
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	0.50	12.7 12.7	642	C
大阪	高橋	江戸中	江戸中	0.52	13.1 13.1	638	B
福井	谷口	文化6	江戸後	0.50	12.5 12.5	634	A
新潟	佐藤	元文3	江戸中	0.60	15.0 15.0	625	D
鹿児島	古市島	弘化3	江戸末	0.46	9.9 13.0	624	B
広島	奥	天明8	江戸後	0.46	9.9 13.1	613	A
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	0.46	13.0 9.9	611	C
新潟	長谷川	享保元	江戸中	0.49	12.1 12.1	610	A
茨城	山本	江戸中	江戸中	0.51	12.6 12.6	607	B
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	0.50	14.6 10.3	602	A
神奈川	北村	貞享4	江戸中	0.49	12.0 12.0	601	B
静岡	植松	延享元	江戸中	0.49	12.0 12.0	600	D
和歌山	鈴木山	天明5	江戸後	0.48	10.5 13.1	598	B
岩手	藤野	19 C前	江戸後	0.59	12.8 16.0	589	A
福井	坪川	17 C末	江戸中	0.51	9.7 15.8	589	A
大阪	左近	江戸前	江戸前	0.48	10.0 13.3	584	B
北海	三戸道	明治20	明治	0.50	12.0 12.0	580	C
茨城	塙	18 C後	江戸後	0.46	12.7 9.6	575	C
山梨	門西	17 C末	江戸中	0.50	15.1 9.3	563	B
広島	木原	寛文5	江戸中	0.55	12.9 12.9	560	A
秋田	草薨	天保頃	江戸末	0.57	15.0 12.0	559	A
静岡	友田	18 C前	江戸中	0.52	12.1 12.1	556	B
千葉	花野井	17 C後	江戸中	0.45	12.1 9.2	555	C
千葉	御子神	安永8	江戸後	0.45	12.0 9.1	543	D
奈良	今西	慶安3	江戸前	0.57	13.2 13.2	543	C
宮城	佐藤	18 C後	江戸後	0.51	11.6 11.6	526	A
愛知	服部	天保	江戸末	0.55	12.4 12.4	518	B
岡山	前原	18 C後	江戸後	0.50	9.9 13.0	513	B
秋田	大山	19 C中	江戸末	0.53	12.0 12.0	513	A
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	0.60	12.0 15.0	508	A
宮城	我妻	宝暦3	江戸後	0.61	12.0 15.0	492	A
福井	瓜生	元禄12	江戸中	0.58	12.7 12.7	490	A
兵庫	岡田	延宝2	江戸中	0.53	13.1 10.0	477	B
茨木	中崎	元禄元	江戸中	0.50	12.6 9.5	477	C
福井	橋本	18 C初	江戸中	0.58	12.5 12.5	471	B
奈良	中村	寛永9	江戸前	0.54	10.1 13.3	468	B
石川	小倉	江戸末	江戸末	0.57	12.1 12.1	448	B
岐阜	大戸	天保4	江戸末	0.58	12.2 12.2	442	C
奈良	西田	江戸前	江戸前	0.47	13.4 7.0	432	B
長崎	本田	江戸中	江戸中	0.55	9.9 13.1	430	B
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	0.59	12.2 12.2	425	B
岐阜	若山	寛政9	江戸後	0.59	12.0 12.0	421	B
富山	嶋	18 C末	江戸後	0.53	12.2 9.2	399	D
福島	五十嵐	享保3	江戸中	0.65	12.6 12.6	376	D
静岡	大鐘	18 C初	江戸中	0.62	12.0 12.0	376	B
宮城	中澤	江戸後	江戸後	0.65	12.0 12.0	341	B
富山	佐伯	明和4	江戸後	0.59	12.2 9.1	326	A
福井	堀口	18 C初	江戸中	0.73	15.5 9.3	275	A

一覧表 -21 長押成 (尺) (2-6-1)

長押成の測定で図面測定 (D) を行うと ± 0.10 尺ほどのずれがでるため、図面測定 (D) は行わなかった。「最小・代表値」は、基本的には最小値を示す。しかし、民家によっては代表値しかわからない場合があるため、その場合は代表値を表し、「最大」欄に「ほど」と記入した。

県名	建物名	年代	年代区分	座敷柱幅平均(尺)	長押成 (尺)		長押成 ÷ 座敷柱幅	測定
					平均	± 誤差		
宮城	我妻	宝暦 3	江戸後	0.61	0.68	0.00	1.12	A
大阪	山添	宝永 2	江戸中	不明	0.60	ほど	不明	B
秋田	嵯峨	19C 前	江戸後	0.60	0.52	0.02	0.87	A
茨城	山本	江戸中	江戸中	0.51	0.51	0.03	1.00	B
徳島	長岡	享保 12	江戸中	0.39	0.50	ほど	1.28	B
秋田	草薨	天保頃	江戸末	0.57	0.50	0.00	0.88	A
福島	五十嵐	享保 3	江戸中	0.65	0.50	ほど	0.77	B
新潟	笹川	文政 9	江戸後	0.55	0.49	0.07	0.89	A
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	0.50	0.48	0.02	0.95	A
広島	木原	寛文 5	江戸中	0.55	0.48	0.00	0.87	A
埼玉	吉田	享保 6	江戸中	0.54	0.47	0.00	0.87	C
静岡	中村	貞享 5	江戸中	0.50	0.47	0.02	0.93	B
秋田	大山	19 C 中	江戸末	0.53	0.47	0.04	0.88	A
栃木	荒井	18 C 後	江戸後	0.49	0.46	ほど	0.94	A
岩手	後藤	元禄~宝永	江戸中	不明	0.45	0.00	不明	B
千葉	花野井	17 C 後	江戸中	0.45	0.45	ほど	1.00	B
茨木	中崎	元禄元	江戸中	0.50	0.45	0.00	0.90	B
岐阜	大戸	天保 4	江戸末	0.58	0.45	ほど	0.78	B
東京	大場	宝暦 3	江戸後	0.50	0.45	0.07	0.89	X
青森	平山	明和 6	江戸後	0.49	0.44	0.00	0.91	A
埼玉	平山	18 C 前	江戸中	0.47	0.44	0.06	0.94	B
栃木	入野	天保 12	江戸末	0.47	0.44	ほど	0.94	B
福井	瓜生	元禄 12	江戸中	0.58	0.44	ほど	0.77	C
徳島	木村	元禄 12	江戸中	0.43	0.43	0.03	1.01	B
佐賀	吉村	天明 9	江戸後	不明	0.43	0.00	不明	C
宮崎	黒木	天保 6	江戸末	0.44	0.43	0.02	0.98	B
大阪	北田	宝永 5 ~享保 19	江戸中	0.45	0.43	0.00	0.96	C
山形	尾形	江戸中	江戸中	0.44	0.43	0.00	0.98	B
長野	曾根原	17 C 中	江戸前	0.43	0.43	ほど	1.00	
栃木	三森	享保 18	江戸中	0.47	0.43	ほど	0.92	B
静岡	友田	18 C 前	江戸中	0.52	0.43	0.03	0.83	B
石川	時国	宝暦 6	江戸後	0.51	0.43	0.05	0.84	A
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	0.47	0.42	0.01	0.91	C
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	0.43	0.42	0.01	0.98	A
青森	石場	18 C 前	江戸後	0.45	0.42	0.00	0.93	A
山梨	八代	文化 5	江戸後	0.43	0.41	0.01	0.96	A
新潟	渡辺	文化 14	江戸後	0.40	0.41	0.06	1.03	A
徳島	小采	天保	江戸末	0.43	0.41	0.00	0.95	B
愛媛	山中	18C 後	江戸後	0.46	0.41	0.00	0.89	B
石川	喜多	19 C 初	江戸後	0.35	0.41	0.13	1.16	A
群馬	彦部	17 C 前	江戸前	0.45	0.40	0.01	0.89	B
富山	浮田	文政 11	江戸後	0.41	0.40	0.08	0.99	A
和歌山	中筋山	嘉永 5	江戸末	0.45	0.40	0.02	0.90	A
茨城	羽生	江戸中	江戸中	0.49	0.40	ほど	0.82	C
新潟	長谷川	享保元	江戸中	0.49	0.40	0.00	0.82	A
茨城	塙	18 C 後	江戸後	0.46	0.40	ほど	0.87	B
千葉	尾形	享保 13	江戸中	不明	0.40	ほど	不明	B
秋田	鈴木	17 C 末	江戸中	不明	0.40	0.00	不明	B
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	0.47	0.40	0.01	0.84	A
山梨	高野	江戸後	江戸後	0.40	0.39	0.01	0.98	A
鹿児島	二階島	文化 6	江戸後	0.45	0.39	ほど	0.87	C
広島	奥	天明 8	江戸後	0.46	0.39	0.00	0.85	A
京都	角屋	江戸後	江戸後	0.40	0.39	0.04	0.97	A
三重	町井	江戸後	江戸後	0.40	0.38	0.00	0.95	B
奈良	片岡	天明 2	江戸後	0.45	0.38	0.02	0.85	A
島根	佐々木	天保 7	江戸末	0.45	0.38	0.00	0.84	B
富山	武田	寛政	江戸後	0.39	0.38	0.06	0.97	A
沖縄	上江洲	宝暦 4	江戸後	0.49	0.38	0.03	0.77	B
長野	横田	寛政 6	江戸後	0.37	0.37	0.00	1.01	B

県名	建物名	年代	年代区分	座敷柱幅平均(尺)	長押成 (尺)		長押成 ÷ 座敷柱幅	測定
					平均	± 誤差		
愛媛	豊島	宝暦 8	江戸後	不明	0.37	0.00	不明	C
大阪	吉村	江戸前	江戸前	0.43	0.37	0.00	0.87	B
愛知	望月	18 C 後	江戸後	0.44	0.37	0.00	0.85	B
岡山	石井	江戸末	江戸末	0.40	0.37	0.03	0.93	A
富山	嶋	18 C 末	江戸後	0.53	0.37	0.00	0.70	C
栃木	岡本	江戸後	江戸後	0.38	0.37	0.02	0.96	A
茨木	飛田	江戸中	江戸中	0.38	0.36	0.00	0.95	B
京都	伊佐	享保 19	江戸中	0.40	0.36	0.00	0.90	A
長野	真山	明和 3	江戸後	0.38	0.36	0.00	0.95	B
山口	目加田	19C 前	江戸後	0.40	0.36	0.00	0.90	B
岡山	犬養	江戸中	江戸中	不明	0.36	0.00	不明	B
兵庫	箱木	室町後	室町	0.49	0.36	0.00	0.74	C
京都	行永	文政 8	江戸後	0.43	0.36	0.00	0.85	A
島根	堀江	18 C 前	江戸中	0.52	0.36	0.00	0.70	B
福井	石倉	慶応	江戸末	0.40	0.36	0.02	0.89	A
和歌山	増田山	宝永 3	江戸中	0.39	0.36	0.01	0.91	A
大分	行徳	弘化 4	江戸末	0.35	0.35	0.00	1.01	B
徳島	田中	元治 2	江戸末	0.40	0.35	0.00	0.88	B
北海	中村道	明治 22	明治	0.41	0.35	0.02	0.86	A
群馬	阿久沢	江戸中	江戸中	不明	0.35	ほど	不明	B
岩手	中村	文久元	江戸末	0.41	0.35	0.00	0.85	A
島根	熊谷	文化	江戸後	0.40	0.35	0.00	0.88	A
和歌山	妹背山	延享 3	江戸中	0.37	0.34	0.00	0.92	C
山口	菊屋	江戸中	江戸中	0.46	0.34	0.00	0.75	A
福岡	永沼	天保 10	江戸末	0.40	0.34	0.00	0.85	A
大阪	杉山	享保 19	江戸中	0.43	0.34	0.00	0.80	B
滋賀	大角	元禄頃	江戸中	0.39	0.34	0.03	0.86	A
福井	谷口	文化 6	江戸後	0.50	0.34	0.03	0.68	A
和歌山	柳川山	文化 4	江戸後	0.35	0.33	ほど	0.94	C
石川	松下	19 C 中	江戸末	0.38	0.33	0.00	0.88	A
奈良	高木	文政~嘉永	江戸末	0.43	0.33	0.00	0.78	C
岐阜	荒川	寛政 8	江戸後	不明	0.33	0.00	不明	B
広島	林	18 C 末	江戸後	0.40	0.33	0.02	0.83	B
沖縄	中村	江戸後	江戸後	0.35	0.33	0.03	0.93	A
北海	笹浪	19 C 前	江戸後	0.40	0.32	0.00	0.81	A
新潟	若林	明和 6 火災後	江戸後	0.45	0.32	0.00	0.71	C
鳥取	後藤	正徳 4	江戸中	0.39	0.32	0.01	0.83	A
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	0.37	0.31	0.01	0.85	A
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	0.40	0.31	ほど	0.78	B
奈良	藤岡	18 C 後	明治	0.38	0.30	0.00	0.80	B
埼玉	高麗	17 C 末	江戸中	0.42	0.30	0.00	0.71	B
広島	太田	18 C 中	江戸後	0.33	0.29	0.02	0.88	A
山口	口羽	19 C 中	江戸末	0.36	0.27	0.00	0.75	A
山口	熊谷	明和 5	江戸後	0.40	0.25	0.00	0.63	A

一覧表-22 指鴨居成(尺)(2-6-2)

4-2-2と4-3で述べるが、指鴨居の使用法には、②指鴨居が大きな柱間にしかないもの、③狭い柱間でも指鴨居がつくもの(柱勝)、④指鴨居を端から端まで通すもの(指鴨居勝)、⑤柱間が大きくなれば指鴨居が太くなるもの、⑥指鴨居の成を揃えるもの、狐鴨居(4-2-2)の6種がある。「最小・代表値」は、基本的には最小値を示す。しかし、民家によっては代表値しかわからない場合があるため、その場合は代表値を表し、「最大」欄に「ほど」と記入した。

県名	建物名	年代	年代区分	指鴨居成(尺)		②	③	④	⑤	⑥	狐鴨居	測定
				最小・代表値	最大							
山梨	高野	江戸後	江戸後	0.90	2.30	×	◎	×	×	◎	×	A
大阪	鴻池新田	嘉永6	江戸末	1.00	1.90	×	×	○	×	◎	×	A
福岡	永沼	天保10	江戸末	0.35	1.88	△	○	×	×	◎	○	A
福井	石倉	慶応	江戸末	1.05	1.87	×	×	×	×	×	○	A
和歌	増田山	宝永3	江戸中	0.82	1.85	×	○	◎	×	○	×	A
奈良	今西	慶安3	江戸前	1.00	1.80	×	×	×	○	×	×	D
兵庫	岡田	延宝2	江戸中	0.46	1.78	×	×	×	○	×	×	D
秋田	草薨	天保頃	江戸末	0.49	1.75	×	◎	◎	◎	◎	◎	C
京都	角屋	江戸後	江戸後	0.49	1.72	×	×	×	×	×	×	A
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	1.50	1.70	×	×	○	×	○	○	A
大阪	奥田	江戸中	江戸中	1.19	1.63	○	×	×	○	×	×	A
新潟	渡辺	文化14	江戸後	1.40	1.60	×	×	◎	×	○	○	A
京都	澤井	元文5	江戸中	0.80	1.60	×	○	×	○	×	×	A
滋賀	大角	元禄頃	江戸中	1.16	1.57	×	×	×	×	○	×	A
大阪	杉山	享保19	江戸中	1.50	1.55	×	×	×	×	○	×	A
富山	佐伯	明和4	江戸後移築	0.83	1.53	×	○	○	◎	×	×	A
青森	石場	18C	江戸後	1.50	1.50	×	×	×	○	×	×	A
広島	頼	安政2	江戸末	0.70	1.50	×	×	×	×	×	×	C
秋田	三浦	文久元	江戸末	1.50	ほど	×	○	○	×	○	○	D
岡山	大橋	寛政9	江戸後	1.00	1.50	×	×	×	×	×	×	A
岐阜	大戸	天保4	江戸末	0.95	1.50	×	○	○	○	×	×	D
奈良	藤田	18C	江戸後	0.77	1.47	×	×	×	○	×	×	B
富山	武田	寛政	江戸後	1.16	1.46	○	○	×	×	◎	○	A
広島	太田	18C	江戸後	1.00	1.45	×	×	×	×	×	×	A
山口	熊谷	明和5	江戸後	0.38	1.45	×	×	×	○	○	◎	A
和歌	妹背山	延享3	江戸中	0.73	1.44	×	○	○	×	×	×	A
三重	町井	江戸後	江戸後	1.30	1.43	×	×	×	×	○	○	C
富山	浮田	文政11	江戸後	1.10	1.42	×	×	×	×	◎	○	A
大阪	高橋	江戸中	江戸中	0.50	1.42	×	×	×	×	×	×	B
佐賀	西岡	安政2	江戸末	0.70	1.40	×	○	×	×	×	○	A
石川	喜多	19C	江戸後	1.40	ほど	×	○	×	×	×	○	A
大阪	北田	宝永5	江戸中	0.90	1.40	×	×	○	×	○	×	A
埼玉	大沢	寛政4	江戸後	1.17	1.40	×	×	×	×	×	×	B
岐阜	若山	寛政9	江戸後	0.77	1.36	×	○	×	×	×	×	C
愛媛	渡部	慶応2	江戸末	1.33	ほど	×	◎	◎	×	◎	◎	C
滋賀	西川	宝永3	江戸中	0.92	1.32	×	×	×	×	○	○	A
新潟	長谷川	享保元	江戸中	0.97	1.32	×	○	×	×	○	×	A
徳島	田中	元治2	江戸末	0.80	1.30	×	○	○	×	○	○	C
群馬	黒澤	江戸末	明治	1.20	1.30	×	×	×	×	○	×	C
京都	伊佐	享保19	江戸中	1.20	1.30	×	○	○	×	○	○	A
大阪	吉村	江戸前	江戸前	0.82	1.30	×	×	×	×	×	○	C
北海	中村道	明治22	明治	0.94	1.30	×	×	×	×	×	○	A
栃木	入野	天保12	江戸末	0.88	1.30	×	○	×	×	○	×	D
岩手	中村	文久元	江戸末	0.65	1.30	×	×	○	×	○	◎	A
新潟	佐藤	元文3	江戸中	1.00	1.30	×	○	○	×	×	×	D
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	1.06	1.30	○	×	×	×	×	×	A
奈良	中村	寛永9	江戸前	0.83	1.30	×	○	×	○	○	×	B
富山	嶋	18C	江戸後	1.30	1.30	×	×	×	×	×	○	D
奈良	森村	享保17	江戸中	1.09	1.30	×	×	◎	×	◎	○	B

県名	建物名	年代	年代区分	指鴨居成(尺)		②	③	④	⑤	⑥	狐鴨居	測定
				最小・代表値	最大							
島根	熊谷	文化	江戸後	1.22	1.28	×	×	○	×	◎	○	A
新潟	笹川	文政9	江戸後	1.07	1.26	×	○	○	×	○	×	A
大分	行徳	弘化4	江戸末	0.80	1.23	×	×	○	×	○	○	B
宮崎	黒木	天保6	江戸末	1.02	1.23	○	×	○	×	×	×	C
徳島	福永	文政11	江戸後	0.86	1.20	×	×	○	×	×	×	D
島根	佐々木	天保7	江戸末	0.98	1.20	×	×	◎	×	○	○	D
静岡	大鐘	18C	江戸中	1.00	1.20	×	×	×	×	×	×	C
京都	行永	文政8	江戸後	0.92	1.19	×	○	○	×	◎	×	A
青森	平山	明和6	江戸後	0.62	1.19	×	○	×	○	○	◎	A
岐阜	小坂	安永2	江戸後	0.40	1.18	×	○	×	×	×	×	C
奈良	高木	文政~	江戸末	0.67	1.15	×	○	×	×	○	○	B
北海	笹浪道	19C	江戸後	0.97	1.14	×	×	○	×	×	◎	A
奈良	上田	延享元	江戸中	0.62	1.12	×	○	○	×	○	○	B
愛媛	山中	18C後	江戸後	1.12	ほど	×	○	×	×	×	×	C
奈良	河合	江戸後	江戸後	0.75	1.12	×	○	×	×	○	×	B
奈良	中	明和	江戸後	0.58	1.11	○	×	×	×	×	×	A
茨城	山本	江戸中	江戸中	0.74	1.11	○	×	×	○	×	×	B
奈良	豊田	寛文2	江戸中	0.92	1.11	×	×	×	×	×	×	B
熊本	太田	江戸末	江戸末	1.10	ほど	×	○	○	×	○	×	D
埼玉	吉田	享保6	江戸中	1.05	1.10	×	○	×	×	×	×	B
島根	堀江	18C	江戸中	0.46	1.10	×	○	○	○	×	×	C
福井	谷口	文化6	江戸後	0.42	1.10	×	×	○	×	×	○	A
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	1.00	1.10	×	○	×	不	明	○	B
大阪	山添	宝永2	江戸中	0.90	1.10	×	×	×	×	×	×	D
佐賀	吉村	天明9	江戸後	0.70	1.10	×	○	×	×	○	○	C
鳥取	後藤	正徳4	江戸中	0.80	1.09	×	×	×	×	×	○	A
奈良	中橋	江戸後	江戸後	0.64	1.07	×	×	×	×	○	×	B
秋田	大山	19C	江戸末	0.70	1.06	×	○	×	×	×	◎	A
宮城	中澤	江戸後	江戸後	0.50	1.06	×	×	×	○	×	×	B
愛媛	上芳我	明治27	明治	1.04	1.05	×	×	×	×	○	×	D
長野	小野	江戸末	江戸末	1.05	ほど	×	×	×	×	×	×	D
大阪	左近	江戸前	江戸前	0.80	1.05	×	○	×	○	×	×	D
京都	瀧澤	宝暦10	江戸後	1.01	1.04	×	×	×	×	×	×	D
岡山	犬養	江戸中	江戸中	0.60	1.04	○	○	×	○	×	×	D
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	0.73	1.03	×	×	×	×	×	×	D
奈良	藤岡	18C後	明治	0.60	1.01	×	×	×	×	○	×	B
千葉	御子神	安永8	江戸後	0.53	1.01	○	×	×	○	×	×	C
福井	瓜生	元禄12	江戸中	0.73	1.01	×	○	×	×	×	○	A
和歌	柳川山	文化4	江戸後	1.00	ほど	×	×	×	×	○	○	C
岐阜	林主屋	安永2	江戸後	0.70	1.00	×	○	×	×	×	○	D
岐阜	桑原	寛政12	江戸後	0.75	1.00	×	○	×	×	○	×	D
東京	大場	宝暦3	江戸後	0.79	1.00	×	○	×	×	○	○	A
福岡	平川	18C後	江戸後	0.65	1.00	○	×	×	×	×	×	B
大分	神尾	明和8	江戸後	0.80	1.00	×	○	○	×	○	×	D
大阪	山本	江戸中	江戸中	0.50	1.00	×	×	×	×	×	×	D
奈良	米谷	18C	江戸中	0.45	1.00	×	○	×	×	×	×	C
和歌	谷山山	寛延2	江戸中	1.00	ほど	×	×	×	×	×	×	D
岡山	石井	江戸末	江戸末	0.42	1.00	×	×	×	×	○	×	A
愛媛	豊島	宝暦8	江戸後	0.73	1.00	○	×	×	×	○	×	D
高知	関川	文政2	江戸後	1.00	ほど	×	○	×	×	○	○	C

県名	建物名	年代	年代区分	指鴨居成(尺)		狐鴨居						測定
				最小	最大	②	③	④	⑤	⑥		
奈良	片岡	天明2	江戸後	0.68	0.98	×	×	○	×	○	×	A
山口	菊屋	江戸中	江戸中	0.91	0.98	×	○	×	×	◎	◎	A
北海	三戸部	明治20頃	明治	0.80	0.98	○	×	×	○	×	×	D
奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	0.58	0.97	×	○	×	×	◎	×	B
福岡	数山	天保13	江戸末	0.93	0.96	×	×	×	×	○	×	A
大分	矢羽田	18C	江戸後	0.73	0.96	○	×	×	×	×	×	B
滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	0.96	0.96	◎	○	×	×	○	×	D
熊本	境	文政13	江戸末	0.95	ほど	×	×	×	×	×	×	A
茨城	羽生	江戸中	江戸中	0.95	ほど	○	×	×	×	×	×	C
広島	奥	天明8	江戸後	0.88	0.95	×	○	×	×	◎	◎	A
広島	木原	寛文5	江戸中	0.73	0.95	×	○	○	×	○	○	A
福井	坪川	17C	江戸中末	0.55	0.93	×	○	×	×	○	×	A
奈良	西田	江戸前	江戸前	0.55	0.93	◎	×	×	◎	×	×	B
奈良	音村	安政2	江戸末	0.78	0.92	×	×	×	×	×	×	B
山口	目加田	19C前	江戸後	0.90	0.90	×	○	×	×	×	×	C
山梨	門西	17C	江戸中末	0.90	0.90	○	×	×	×	×	×	D
福井	堀口	18C	江戸中初	0.60	0.90	×	○	×	○	×	×	A
大分	後藤	江戸後	江戸後	0.90	ほど	×	○	○	×	×	×	D
奈良	臼井	元禄頃	江戸中	0.35	0.89	×	○	×	×	◎	×	B
広島	吉原	寛永12	江戸前	0.41	0.89	×	○	×	○	×	○	A
山梨	八代	文化5	江戸後	0.45	0.86	×	×	×	×	×	×	A
鹿児	二階	文化6	江戸後	0.86	ほど	×	×	○	×	×	×	D
鹿児	古市	弘化3	江戸末	0.63	0.86	×	○	×	×	○	×	B
徳島	小采	天保	江戸末	0.41	0.85	×	×	◎	×	○	×	B
宮崎	藤田	天明7	江戸後	0.85	ほど	○	×	×	×	×	×	C
埼玉	平山	18C	江戸中前	0.60	0.84	×	○	×	×	×	×	C
岡山	森江	17C	江戸後末	0.60	0.83	×	○	○	○	×	×	D
宮城	我妻	宝暦3	江戸後	0.39	0.82	×	○	×	○	○	×	A
愛知	望月	18C	江戸後	0.80	0.80	○	×	×	×	×	×	D
京都	渡邊	江戸中	江戸中	0.80	0.80	○	×	×	×	×	×	B
岡山	前原	18C	江戸後	0.61	0.80	×	○	×	○	×	×	D
高知	山中	18C	江戸中前	0.80	ほど	×	×	○	×	○	×	D
長野	真山	明和3	江戸後	0.40	0.79	○	×	×	×	×	×	D
長野	曾根	17C	江戸中	0.78	0.78	○	×	×	×	×	×	D
沖縄	上江洲	宝暦4	江戸後	0.50	0.76	○	×	×	×	×	○	B
石川	松下	19C	江戸中	0.70	0.75	×	○	×	×	×	○	D
栃木	羽石	18C	江戸後	0.75	ほど	○	×	×	×	×	×	C
長野	横田	寛政6	江戸後	0.75	ほど	×	×	×	×	×	×	C
岩手	藤野	19C	江戸前	0.60	0.71	○	×	×	×	×	×	A
山口	口羽	19C	江戸中	0.55	0.70	○	×	×	×	×	×	C
栃木	岡本	江戸後	江戸後	0.70	ほど	○	×	×	×	×	×	A
茨木	椎名	延宝2	江戸中	0.70	ほど	○	×	×	×	×	×	D
千葉	作田	17C	江戸中後	0.70	ほど	○	×	×	×	×	×	A
鳥取	矢部	江戸前	江戸前	0.60	0.70	○	○	○	×	×	×	C
岩手	伊藤	18C	江戸後	0.70	0.70	×	×	◎	×	×	×	D
茨城	塙	18C	江戸後	0.70	ほど	○	×	×	×	×	×	D
宮城	佐藤	18C	江戸後	0.65	0.70	○	×	×	×	×	×	A

県名	建物名	年代	年代区分	指鴨居成(尺)		狐鴨居						測定
				最小	最大	②	③	④	⑤	⑥		
長崎	本田	江戸中	江戸中	0.56	0.70	×	×	○	×	×	×	D
岩手	小原	18C	江戸後	0.70	0.70	○	×	×	×	×	×	D
福井	橋本	18C	江戸中初	0.68	0.68	×	○	○	×	×	×	C
岐阜	牧村	元禄14	江戸中	0.59	0.66	○	×	×	×	×	×	A
広島	幡山	江戸中	江戸中	0.65	ほど	×	○	×	×	×	×	D
佐賀	川打	江戸中	江戸中	0.65	0.65	×	×	×	×	×	×	D
島根	道面	19C前	江戸後	0.65	0.65	○	×	×	×	×	×	D
京都	石田	慶安3	江戸前	0.64	0.64	○	×	×	×	×	×	D
愛知	服部	天保	江戸末	0.63	0.63	×	×	×	×	×	○	D
富山	羽馬	江戸中	江戸中	0.63	0.63	○	×	×	×	×	×	C
香川	恵利	江戸中	江戸中	0.30	0.60	○	×	×	×	×	×	D
愛媛	真鍋	18C	江戸中初	0.60	ほど	×	○	×	×	×	×	D
佐賀	山口	明治	明治	0.40	0.60	×	○	×	×	×	×	D
岐阜	田中	18C	江戸中初	0.60	ほど	○	×	○	×	×	×	D
石川	小倉	江戸末	江戸末	0.60	0.60	×	×	○	×	×	×	B
兵庫	友井	元禄頃	江戸中	0.58	ほど	×	×	○	×	×	×	C
徳島	木村	元禄12	江戸中	0.55	0.55	○	×	○	×	×	×	B
神奈	伊藤	18C	江戸中初	0.50	ほど	×	○	×	×	×	×	C
埼玉	高橋	17C	江戸中末	0.50	ほど	×	×	×	×	×	×	D
福島	馬場	江戸中	江戸中	0.50	ほど	○	○	×	×	×	×	D
高知	竹内	18C	江戸後末	0.50	ほど	×	○	○	○	×	×	D
山形	矢作	江戸後	江戸後	0.47	0.47	○	×	×	×	×	×	D
和歌	中筋	嘉永5	江戸末	0.27	0.43	×	×	×	×	○	×	A
静岡	植松	延享元	江戸中	0.26	0.42	×	○	×	×	×	×	D
沖縄	中村	江戸後	江戸後	0.35	0.35	○	×	×	×	×	×	A

一覧表-23 薄鴨居成(尺)(2-6-3)

薄鴨居成の図面測定(D)を行うと±0.10尺ほどのずれがでるため、図面測定(D)は行わなかった。「最小・代表値」は、基本的には最小値を示す。しかし、民家によっては代表値しかわからない場合があるため、その場合は代表値を表し、「最大」欄に「ほど」と記入した。

県名	建物名	年代	年代区分	指鴨居成(尺)		測定	県名	建物名	年代	年代区分	指鴨居成(尺)		測定
				最小・代表値	最大						最小・代表値	最大	
大阪	鴻池新田	嘉永6	江戸末	0.18	0.40	A	静岡	植松	延享元	江戸中	0.18	0.18	C
福井	石倉	慶応	江戸末	0.16	0.38	A	福岡	永沼	天保10	江戸末	0.17	0.17	A
岡山	大橋	寛政9	江戸後	0.18	0.35	A	山口	早川	文政	江戸後	0.17	0.17	C
佐賀	西岡	安政2	江戸末	0.17	0.33	A	大阪	奥田	江戸中	江戸中	0.17	0.17	A
石川	喜多	19C初	江戸後	0.15	0.31	A	青森	石場	18C前	江戸後	0.17	0.17	A
沖縄	中村	江戸後	江戸後	0.18	0.28	A	奈良	藤田	18C後	江戸後	0.17	ほど	C
広島	太田	18C中	江戸後	0.09	0.26	A	京都	伊佐	享保19	江戸中	0.17	0.17	A
岡山	石井	江戸末	江戸末	0.18	0.24	A	茨城	太田	18C中	江戸中	0.17	ほど	C
福井	谷口	文化6	江戸後	0.18	0.23	A	奈良	上田	延享元	江戸中	0.17	0.17	C
愛媛	豊島	宝暦8	江戸後	不明	0.22	C	奈良	河合	江戸後	江戸後	0.17	0.17	C
広島	吉原	寛永12	江戸前	0.22	0.22	A	島根	堀江	18C前	江戸中	0.17	0.17	C
滋賀	西川	宝永3	江戸中	0.13	0.22	A	鳥取	後藤	正徳4	江戸中	0.16	0.17	A
石川	松下	19C中	江戸末	0.21	ほど	A	大阪	左近	江戸前	江戸前	0.17	0.17	C
新潟	渡辺	文化14	江戸後	0.18	0.20	A	千葉	御子神	安永8	江戸後	0.17	ほど	C
広島	頼	安政2	江戸末	0.10	0.20	C	奈良	藤岡	18C後	明治	0.17	0.17	C
北海	中村	明治22	明治	0.16	0.20	A	大分	神尾	明和8	江戸後	0.17	ほど	C
青森	平山	明和6	江戸後	0.17	0.20	A	福岡	数山	天保13	江戸末	0.17	0.17	A
秋田	土田	17C後	江戸中	0.20	0.20	C	山口	目加田	19C前	江戸後	0.17	0.17	C
茨城	山本	江戸中	江戸中	0.20	ほど	C	埼玉	平山	18C前	江戸中	0.17	ほど	C
秋田	大山	19C中	江戸末	0.11	0.20	A	宮城	佐藤	18C後	江戸後	0.17	0.17	A
愛媛	上芳我	明治27	明治	0.20	0.20	C	新潟	若林	明和6	江戸後	0.17	0.17	C
大分	矢羽田	18C後	江戸後	0.16	0.20	C	香川	恵利	江戸中	江戸中	0.17	0.17	C
群馬	阿久沢	江戸中	江戸中	0.20	ほど	C	愛媛	真鍋	18C初	江戸中	0.17	0.17	C
京都	石田	慶安3	江戸前	0.20	ほど	C	埼玉	高麗	17C末	江戸中	0.17	ほど	C
大阪	北田	宝永5 ~享保19	江戸中	0.16	0.19	A	埼玉	高橋	17C末	江戸中	0.17	ほど	C
静岡	友田	18C前	江戸中	0.18	0.19	C	山梨	八代	文化5	江戸後	0.17	0.17	A
岩手	菊池	18C中	江戸後	0.19	0.19	C	山梨	高野	江戸後	江戸後	0.16	0.16	A
佐賀	吉村	天明9	江戸後	0.19	0.19	C	兵庫	岡田	延宝2	江戸中	0.16	ほど	C
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	0.18	0.18	A	京都	角屋	江戸後	江戸後	0.15	0.16	A
大阪	杉山	享保19	江戸中	0.18	0.18	C	滋賀	大角	元禄頃	江戸中	0.16	ほど	A
静岡	中村	貞享5	江戸中	0.18	0.18	C	秋田	三浦	文久元	江戸末	0.16	0.16	C
岩手	後藤	元禄~ 宝永	江戸中	0.18	0.18	C	岩手	中村	文久元	江戸末	0.15	0.16	A
富山	武田	寛政	江戸後	0.18	0.18	A	大分	行徳	弘化4	江戸末	0.16	ほど	C
和歌	妹背山	延享3	江戸中	0.18	0.18	A	島根	佐々木	天保7	江戸末	0.16	0.16	C
富山	浮田	文政11	江戸後	0.18	0.18	A	京都	瀧澤	宝暦10	江戸後	0.16	0.16	C
新潟	長谷川	享保元	江戸中	0.18	0.18	A	熊本	境	文政13	江戸末	0.16	0.16	A
山梨	星野	嘉永2-4	江戸末	0.16	0.18	A	鹿児島	二階堂	文化6	江戸後	0.16	ほど	C
岩手	佐々木	江戸後	江戸後	0.15	0.18	A	鹿児島	古市島	弘化3	江戸末	0.16	ほど	C
島根	熊谷	文化	江戸後	0.18	0.18	A	徳島	木村	元禄12	江戸中	0.16	0.16	C
新潟	笹川	文政9	江戸後	0.18	0.18	A	山形	尾形	江戸中	江戸中	0.15	0.15	C
千葉	尾形	享保13	江戸中	0.18	ほど	C	長野	真山	明和3	江戸後	0.15	0.15	B
奈良	中	明和	江戸後	0.18	0.18	A	群馬	黒澤	江戸末	明治	0.14	ほど	C
埼玉	吉田	享保6	江戸中	0.18	0.18	C							
宮城	中澤	江戸後	江戸後	0.18	0.18	C							
秋田	嵯峨	19C前	江戸後	0.18	0.18	A							
岩手	菅野	享保13	江戸中	0.15	0.18	A							
山口	菊屋	江戸中	江戸中	0.18	0.18	A							
広島	木原	寛文5	江戸中	0.18	0.18	A							
広島	奥	天明8	江戸後	0.18	0.18	C							
山梨	平田	17C後	江戸中	0.18	0.18	C							
沖縄	上江洲	宝暦4	江戸後	0.18	ほど	C							
岩手	藤野	19C前	江戸後	0.17	0.18	A							
広島	林	18C末	江戸後	0.16	0.18	C							
岐阜	牧村	元禄14	江戸中	0.18	0.18	A							
広島	幡山	江戸中	江戸中	0.18	0.18	C							
福島	馬場	江戸中	江戸中	0.18	ほど	C							
和歌	中筋山	嘉永5	江戸末	0.16	0.18	A							

一覧表-24 貫の断面寸法 (2-6-4)

報告書記載値が実測値を使用した。「最小・代表値」は、基本的には最小値を示す。しかし、民家によっては代表値しかわからない場合があるため、その場合は代表値を表し、「最大」欄に「ほど」と記入した。

県名	建物名	年代	年代区分	貫幅 (尺)	貫成 (尺)	
					最小	最大代表値
岩手	伊藤	18 C 後	江戸後	0.14	0.44	0.66
富山	浮田	文政 11	江戸後	0.10	0.40	0.65
岐阜	牧村	元禄 14	江戸中	0.08	0.39	0.59
福井	石倉	慶応	江戸末	不明	0.30	0.56
山形	有路	江戸中	江戸中	0.11	0.55	ほど
富山	佐伯	明和 4	江戸後	0.10	0.41	0.55
茨城	山本	江戸中	江戸中	0.13	0.45	0.55
大阪	杉山	享保 19	江戸中	0.08	0.53	ほど
滋賀	西川	宝永 3	江戸中	0.10	0.40	0.50
岐阜	大戸	天保 4	江戸末	0.13	0.50	ほど
滋賀	宮地	宝暦 4	江戸後	0.30	0.50	
			外壁 3 広間 5 図			
福井	谷口	文化 6	江戸後	不明	0.35	0.50
富山	武田	寛政	江戸後	0.10	0.33	0.50
新潟	長谷川	享保元	江戸中	0.10	0.40	0.50
新潟	佐藤	元文 3	江戸中	不明	0.50	0.50
宮城	我妻	宝暦 3	江戸後	0.10	0.40	0.50
岩手	藤野	19 C 前	江戸後	0.10	0.50	0.50
広島	奥	天明 8	江戸後	0.08	0.40	0.50
福岡	平川	18 C 後	江戸後	0.09	0.50	0.50
佐賀	西岡	安政 2	江戸末	0.07	0.40	0.50
岐阜	若山	寛政 9	江戸後	0.13	0.48	ほど
静岡	中村	貞享 5	江戸中	.09-.13	0.40	0.48
秋田	大山	19 C 中	江戸末	不明	0.48	0.48
石川	喜多	19 C 初	江戸後	不明	0.47	ほど
福岡	数山	天保 13	江戸末	0.11	0.46	ほど
石川	時国	宝暦 6	江戸後	0.13	0.45	ほど
宮城	洞口	宝暦頃	江戸後	0.10	0.45	ほど
兵庫	箱木	室町後	室町	.18-.25	0.36	0.45
岩手	後藤	元禄~宝永	江戸中	0.10	0.45	0.45
岡山	前原	18 C 後	江戸後	0.10	0.45	0.45
熊本	境	文政 13	江戸末	0.10	0.45	0.45
埼玉	吉田	享保 6	江戸中	0.08	0.40	0.45
山形	尾形	江戸中	江戸中	0.11	0.43	0.44
岩手	中村	文久元	江戸末	0.11	0.44	0.44
大阪	高橋	江戸中	江戸中	0.11	0.43	ほど
山形	矢作	江戸後	江戸後	0.11	0.43	0.43
青森	石場	18 C 前	江戸後	0.10	0.43	0.43
栃木	荒井	18 C 後	江戸後	0.07	0.42	ほど
秋田	奈良	宝暦頃	江戸後	不明	0.42	0.42
大阪	鴻池新田	嘉永 6	江戸末	不明	0.41	ほど
岩手	菊池	18 C 中	江戸後	0.14	0.41	0.41
島根	道面	19C 前	江戸後	0.09	0.41	0.41
和歌	妹背山	延享 3	江戸中	0.10	0.36	0.40
奈良	高木	文政~嘉永	江戸末	0.08	0.40	ほど
兵庫	岡田	延宝 2	江戸中	0.09	0.40	ほど
福井	瓜生	元禄 12	江戸中	0.13	0.40	ほど
福井	堀口	18 C 初	江戸中	不明	0.30	0.40
秋田	三浦	文久元	江戸末	0.11	0.40	ほど
鹿児島	鹿児古市	弘化 3	江戸末	0.10	0.40	ほど
茨城	羽生	江戸中	江戸中	0.10	0.40	ほど
栃木	羽石	18 C 後	江戸後	0.10	0.40	ほど
新潟	渡辺	文化 14	江戸後	0.11	0.40	0.40
静岡	植松	延享元	江戸中	0.09	0.30	0.40
山梨	平田	17 C 後	江戸中	0.10	0.30	0.40
栃木	岡本	江戸後	江戸後	0.10	0.40	ほど
埼玉	平山	18 C 前	江戸中	0.10	0.40	ほど
千葉	花野井	17 C 後	江戸中	0.10	0.40	ほど

県名	建物名	年代	年代区分	貫幅 (尺)	貫成 (尺)	
					最小	最大代表値
千葉	尾形	享保 13	江戸中	0.10	0.40	ほど
秋田	土田	17 C 後	江戸中	0.20	0.40	0.40
千葉	御子神	安永 8	江戸後	0.10	0.40	ほど
秋田	嵯峨	19C 前	江戸後	不明	0.40	0.40
宮城	中澤	江戸後	江戸後	0.10	0.40	ほど
青森	平山	明和 6	江戸後	0.10	0.40	0.40
北海	三戸部	明治 20	明治	0.10	0.40	0.40
北海	中村	明治 22	明治	0.08	0.40	0.40
徳島	福永	文政 11	江戸後	0.09	0.40	ほど
広島	幡山	江戸中	江戸中	0.13	0.40	0.40
徳島	木村	元禄 12	江戸中	0.07	0.33	0.40
神奈	関川	17 C 前	江戸前	0.12	0.37	0.40
福井	坪川	17 C 末	江戸中	0.10	0.34	0.40
奈良	西田	江戸前	江戸前	0.15	0.40	0.40
岩手	菅野	享保 13	江戸中	不明	0.39	0.39
広島	木原	寛文 5	江戸中	0.08	0.39	0.39
奈良	森村	享保 17	江戸中	0.13	0.39	ほど
兵庫	古井	室町後	室町	0.18	0.39	ほど
茨城	太田	18C 中	江戸中	0.10	0.39	ほど
大阪	北田	宝永 5	江戸中	0.07	0.38	0.38
		~享保 19				
大阪	奥田	江戸中	江戸中	0.07	0.38	0.38
山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末	0.11	0.38	0.38
鳥取	後藤	正徳 4	江戸中	不明	0.38	0.38
島根	熊谷	文化	江戸後	0.08	0.38	0.38
山口	口羽	19 C 中	江戸末	0.07	0.38	0.38
香川	恵利	江戸中	江戸中	0.08	0.38	0.38
大分	後藤	江戸後	江戸後	0.09	0.38	0.38
大分	神尾	明和 8	江戸後	0.09	0.38	0.38
秋田	草薨	天保頃	江戸末	不明	0.38	ほど
岡山	石井	江戸末	江戸末	0.08	0.38	ほど
東京	大場	宝暦 3	江戸後	不明	0.38	0.38
長野	曾根原	17 C 中	江戸前	0.10	0.37	ほど
奈良	豊田	寛文 2	江戸中	0.11	0.37	ほど
大阪	吉村	江戸前	江戸前	0.09	0.37	ほど
京都	石田	慶安 3	江戸前	0.15	0.36	0.36
茨木	飛田	江戸中	江戸中	0.10	0.36	0.36
富山	羽馬	江戸中	江戸中	0.16	0.36	ほど
福島	馬場	江戸中	江戸中	0.12	0.36	ほど
沖縄	上江洲	宝暦 4	江戸後	0.16	0.36	ほど
島根	佐々木	天保 7	江戸末	0.11	0.35	0.35
広島	吉原	寛永 12	江戸前	0.08	0.35	0.35
広島	頼	安政 2	江戸末	0.07	0.35	0.35
福島	旧五十嵐	享保 14	江戸中	0.11	0.35	ほど
愛媛	真鍋	18 C 初	江戸中	不明	0.35	ほど
愛媛	山中	18C 後	江戸後	0.09	0.35	ほど
福井	橋本	18 C 初	江戸中	0.10	0.33	0.33
京都	行永	文政 8	江戸後	不明	0.30	0.30
富山	嶋	18 C 末	江戸後	0.09	0.30	0.30
奈良	音村	安政 2	江戸末	0.08	0.30	ほど
岐阜	田中	18 C 初	江戸中	0.10	0.30	ほど
石川	松下	19 C 中	江戸末	不明	0.29	ほど
奈良	藤岡	18 C 後	明治	不明	0.26	0.28
奈良	片岡	天明 2	江戸後	0.10	0.28	ほど
奈良	上田	延享元	江戸中	0.10	0.27	ほど

垂直材の配置と使用法一覧 3/6

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章	節	項	小区分	柱幅	片蓋	座敷	半間	座敷1間	式台	土間の半間	大壁補強	真壁片蓋	真壁角柱	床壁裏	二階用の外周半間	広間の半間	外壁等間隔	加工斑	正面	五平柱	大戸口	畳割	特殊	狐柱・束	柱幅の段階的調整	段階数						
					2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
東海	静岡	植松	延享元	江戸中	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	2						
	岐阜	小坂	安永2	江戸後	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×					
	岐阜	林主屋	安永2		×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×				
	愛知	望月	18C後		×	○	×	×	×	×	×	×	×	◎	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	三重	町井	江戸後		×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	2				
	岐阜	荒川	寛政8		×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	2				
	岐阜	若山	寛政9		×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	岐阜	桑原	寛政12		×	×	○	×	○	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×			
	岐阜	林隠居屋	文政12		○	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	愛知	服部	天保		江戸末	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	2				
岐阜	大戸	天保4	×			×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
愛知	東松	明治34	明治	×	×	×	◎	×	×	×	×	◎	○	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
関東	神奈川	関	17C前	江戸前	×	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	神奈川	石井	17C後	江戸中	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	千葉	作田	17C後		○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	千葉	花野井	17C後		×	○	×	×	◎	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	神奈川	北村	貞享4		×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×		
	埼玉	高麗	17C末		×	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	埼玉	高橋	17C末		○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	埼玉	小野	18C初		×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	神奈川	伊藤	18C初		×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	埼玉	吉田	享保6		×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	
	埼玉	平山	18C前		×	×	○	×	○	×	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	◎	3	×	×	×		
	千葉	尾形	享保13		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	埼玉	新井	延享2		×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	岐阜	矢籠原	宝暦元		×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	
	東京	大場	宝暦3		×	×	○	×	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
千葉	御子神	安永8	江戸後		○	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
埼玉	大沢	寛政4	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
東京	宮崎	19C中	江戸末	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
近畿	兵庫	箱木	室町後	室町	○	×	×	×	○	×	◎	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	兵庫	古井	室町後		○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	奈良	中村	寛永9		×	×	○	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	大阪	左近	江戸前		×	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	西田	江戸前		×	○	×	◎	◎	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	吉村	江戸前		×	○	×	◎	◎	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	今西	慶安3		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	京都	石田	慶安3		×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	奈良	豊田	寛文2		×	○	×	○	×	×	△	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	兵庫	岡田	延宝2		江戸中	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
奈良	白井	元禄頃	○	×	×	○	×	×	×	◎	○	×	◎	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
兵庫	友井	元禄頃	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		

一覧表 -26 水平材の配置と使用法一覧 (4章) 1/5

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章節項小区分														
					指鴨居なし	指鴨居 柱間大にのみ	指鴨居 狭い柱間に指鴨居	指鴨居 端から端まで通す	指鴨居 柱間で丈変化	指鴨居 丈揃える	指鴨居 片蓋指物	指鴨居 大戸口マガサ意匠	指鴨居 狐鴨居全て	指鴨居 過渡的な狐鴨居	指鴨居 指鴨居・長押	指鴨居 指鴨居一三面	指鴨居 指鴨居・薄鴨居	指鴨居 外部内部境	指鴨居 薄狐鴨居
東北	秋田	土田	17 C後	江戸中	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	秋田	鈴木	17 C末		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	福島	横山	江戸中		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	福島	馬場	江戸中		×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	山形	有路	江戸中		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	山形	尾形	江戸中		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	福島	五十嵐	享保3		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	岩手	後藤	元禄~宝永		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	岩手	菅野	享保13		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	福島	旧五十嵐	享保14		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	岩手	小原	18 C中	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	岩手	菊池	18 C中	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	宮城	我妻	宝暦3	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	秋田	奈良	宝暦頃	×	×	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	宮城	洞口	宝暦頃	×	×	○	×	不明	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	岩手	工藤	宝暦9	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	青森	平山	明和6	×	×	○	×	○	×	×	◎	×	○	×	×	×	×	×	
	岩手	伊藤	18 C後	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	青森	石場	18 C前	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	青森	笠石	18 C後	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	宮城	佐藤	18 C後	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	山形	矢作	江戸後	×	○	×	×	×	×	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	
	岩手	佐々木	江戸後	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	宮城	中澤	江戸後	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	秋田	嵯峨	19C前	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	岩手	藤野	19 C前	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	北海道	笹浪	19 C前	×	×	×	○	×	×	◎	×	○	×	×	×	×	×	×	
	秋田	草薨	天保頃	×	×	◎	○	◎	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	
	秋田	大山	19 C中	×	×	○	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	○	×	
	秋田	三浦	文久元	×	×	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	
岩手	中村	文久元	×	×	×	○	○	×	◎	×	○	×	×	×	×	×	×		
北海道	三戸部	明治20頃	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
北海道	中村	明治22頃	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×		
甲信	群馬	彦部	17 C前	江戸前	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	長野	曾根原	17 C中		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	茨木	椎名	延宝2	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	山梨	平田	17 C後	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	茨木	中崎	元禄元	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	長野	春原	17 C末	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	山梨	門西	17 C末	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	茨城	山本	江戸中	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	茨城	羽生	江戸中	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	群馬	生方	江戸中	×	○	×	×	×	×	×	不明	×	×	×	×	×	×		
	群馬	戸部	江戸中	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	群馬	茂木	江戸中	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	群馬	阿久沢	江戸中	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	茨木	飛田	江戸中	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	栃木	三森	享保18	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	茨城	太田	18C中	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	長野	真山	明和3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	茨城	塙	18 C後	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	栃木	羽石	18 C後	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	栃木	荒井	18 C後	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×		

水平材の配置と使用法一覧 2/5

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章節項小区分														
					指鴨居なし	指鴨居 柱間大にのみ	指鴨居 狭い柱間に指鴨居	指鴨居 端から端まで通す	指鴨居 柱間で丈変化	指鴨居 丈揃える	指鴨居 片蓋指物	指鴨居 大戸口マガサ意匠	指鴨居 狐鴨居全て	指鴨居 過渡的な狐鴨居	指鴨居 指鴨居・長押	指鴨居 指鴨居一三面	指鴨居 指鴨居・薄鴨居	指鴨居 外部内部境	指鴨居 薄狐鴨居
甲信	山梨	高野	江戸後	江戸後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
		栃木	岡本		江戸後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	長野	横田	寛政 6	文化 5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
		山梨	八代		文化 5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	長野	入野	天保 12	江戸末	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
		小野	江戸末		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	山梨	星野	嘉永 2-4	江戸末 明治	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	群馬	黒澤	江戸末		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
北陸	福井	坪川	17 C末	江戸中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		瓜生	元禄 12		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	富山	羽馬	江戸中	18 C初	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		堀口	18 C初		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	石川	座主	18 C初	江戸中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		江向	18 C初		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	福井	橋本	18 C初	江戸中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		長谷川	享保元		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	新潟	佐藤	元文 3	宝暦 6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		時国	宝暦 6		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	富山	佐伯	明和 4 移築	明和 6 火災後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		若林	明和 6 火災後		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	富山	武田	寛政	江戸後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		嶋	18 C末		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	福井	谷口	文化 6 頃	江戸後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		喜多	19 C初		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	新潟	渡辺	文化 14	文政 9	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		笹川	文政 9		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	富山	浮田	文政 11	江戸末	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		小倉	江戸末		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
石川	松下	19 C中	江戸末	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	石倉	慶応		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
岐阜	牧村	元禄 14	江戸中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	中村	貞享 5		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
静岡	田中	18 C初	江戸中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	大鐘	18 C初		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
静岡	友田	18 C前	延享元	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	植松	延享元		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
岐阜	林主屋	安永 2	江戸後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	小坂	安永 2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
愛知	望月	18 C後	江戸後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	町井	江戸後		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
岐阜	荒川	寛政 8	江戸後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	若山	寛政 9		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
岐阜	桑原	寛政 12	江戸後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	林隠居屋	文政 12		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
愛知	服部	天保	江戸末	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	大戸	天保 4		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
愛知	東松	明治 34	明治	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	不明	不明		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
関東	神奈川	関	17 C前	江戸前	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
		花野井	17 C後		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	千葉	作田	17 C後	江戸中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
		石井	17 C後		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	神奈川	北村	貞享 4	江戸中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
		高橋	17 C末		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	埼玉	高麗	17 C末	江戸中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
		小野	18 C初		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		

水平材の配置と使用法一覧 3/5

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章節項小区分																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
					指鴨居 指鴨居なし	指鴨居 柱間大にのみ	指鴨居 狭い柱間に指鴨居	指鴨居 端から端まで通す	指鴨居 柱間で丈変化	指鴨居 丈揃える	指鴨居 片蓋指物	指鴨居 大戸口マガサ意匠	指鴨居 狐鴨居全て	指鴨居 過渡的な狐鴨居	指鴨居 指鴨居・長押	指鴨居 指鴨居一三面	指鴨居 指鴨居・薄鴨居	指鴨居 外部内部境	指鴨居 薄狐鴨居	指鴨居 凹凸狐鴨居	
関東	神奈川	伊藤	18 C 初		×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	埼玉	吉田	享保 6		×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	埼玉	平山	18 C 前	江戸中	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	千葉	尾形	享保 13		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	埼玉	新井	延享 2		×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	岐阜	矢筈原	宝暦元		×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	東京	大場	宝暦 3	江戸後	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	千葉	御子神	安永 8		×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	埼玉	大沢	寛政 4		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	東京	宮崎	19 C 中	江戸末	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
近畿	兵庫	古井	室町後	室町	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	兵庫	箱木	室町後		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	中村	寛永 9		×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	左近	江戸前		×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	吉村	江戸前	江戸前	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×
	奈良	西田	江戸前		×	◎	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	京都	石田	慶安 3		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	今西	慶安 3		×	×	×	○	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	豊田	寛文 2		×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	兵庫	岡田	延宝 2		×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	白井	元禄頃		×	×	○	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	兵庫	友井	元禄頃		×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	滋賀	大角	元禄頃		×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	山添	宝永 2		×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	滋賀	西川	宝永 3		×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	京都	渡邊	江戸中		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	奥田	江戸中		×	○	×	×	○	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	高橋	江戸中		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	山本	江戸中		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	和歌山	増田	宝永 3	江戸中	×	×	○	◎	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	北田	宝永 5 ~享保 19		×	×	×	○	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	米谷	18 C 前		×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	森村	享保 17		×	×	×	◎	×	◎	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	杉山	享保 19		×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	京都	伊佐	享保 19		×	×	○	○	×	◎	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	京都	澤井	元文 5		×	×	○	×	○	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	上田	延享元		×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×
	和歌山	妹背	延享 3		×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	和歌山	谷山	寛延 2		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	滋賀	宮地	宝暦 4		×	◎	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	京都	瀧澤	宝暦 10		×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	中	明和		×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	藤田	18 C 後		×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	片岡	天明 2		×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	和歌山	鈴木	天明 5		×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
京都	角屋	江戸後	江戸後	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
奈良	河合	江戸後		×	×	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
奈良	中橋	江戸後		×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
大阪	高林	寛政 11		不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	
和歌山	柳川	文化 4		×	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	
京都	行永	文政 8		×	×	○	○	◎	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
奈良	高木	文政~ 嘉永	江戸末	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	
奈良	岩本	嘉永頃		×	×	○	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

水平材の配置と使用法一覧 4/5

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章節項小区分															
					指鴨居なし	指鴨居 柱間大にのみ	指鴨居 狭い柱間に指鴨居	指鴨居 端から端まで通す	指鴨居 柱間で丈変化	指鴨居 丈揃える	指鴨居 片蓋指物	指鴨居 大戸口マガサ意匠	指鴨居 狐鴨居全て	指鴨居 過渡的な狐鴨居	指鴨居 指鴨居・長押	指鴨居 指鴨居一〇三面	指鴨居 指鴨居・薄鴨居	指鴨居 外部内部境	指鴨居 薄狐鴨居	指鴨居 凹凸狐鴨居
近畿	和歌山	中筋	嘉永 5	江戸末	×	×	×	×	×	○	◎	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	鴻池新田	嘉永 6		×	×	○	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	奈良	音村	安政 2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
中国	奈良	藤岡	18 C 後	明治	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	広島	吉原	寛永 12	江戸前	×	○	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	
	鳥取	矢部	江戸前		×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	広島	木原	寛文 5	江戸中	×	×	○	×	○	○	△	○	×	○	○	×	×	×	×	
	山口	菊屋	江戸中		×	×	○	×	◎	○	○	◎	×	○	×	×	×	×	×	
	岡山	犬養	江戸中	江戸中	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	広島	幡山	江戸中	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×		
	島根	堀江	18 C 前	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	鳥取	後藤	正徳 4	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×		
	広島	太田	18 C 中	×	×	×	×	×	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×		
	山口	熊谷	明和 5	×	×	×	×	○	○	◎	◎	×	◎	×	×	×	×	×		
	山口	国森	明和 5	×	×	○	×	×	○	×	◎	×	○	×	×	×	×	×		
	岡山	前原	18 C 後	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	広島	奥	天明 8	×	×	○	×	◎	×	○	◎	×	○	×	×	○	×	×		
	岡山	森江	17 C 末	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	広島	林	18 C 末	江戸後	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	岡山	大橋	寛政 9		×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	島根	熊谷	文化	×	×	○	×	◎	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×		
	山口	早川	文政	×	×	×	×	○	○	不明	◎	×	○	×	×	○	×	×		
	島根	道面	19C 前	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
山口	目加田	19C 前	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
徳島	福永	文政 11	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
島根	佐々木	天保 7	×	×	×	◎	×	○	◎	○	×	○	×	×	○	×	×			
岡山	石井	江戸末	江戸末	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×		
山口	口羽	19 C 中		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
広島	頼	安政 2	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
四国	徳島	木村	元禄 12	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	香川	恵利	江戸中	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	香川	細川	江戸中	江戸中	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	愛媛	真鍋	18 C 初		×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	高知	山中	18 C 前	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	徳島	長岡	享保 12	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	愛媛	豊島	宝暦 8	×	○	×	×	×	×	○	×	○	×	○	×	×	×	×		
	愛媛	山中	18C 後	江戸後	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	高知	竹内	18 C 末		×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	高知	関川	文政 2	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○		
	徳島	小采	天保	×	×	×	◎	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	徳島	田中	元治 2	江戸末	×	×	○	×	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	
	愛媛	渡部	慶応 2		×	×	◎	×	◎	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	
愛媛	本芳我	明治 17	明治	×	×	×	×	×	○	不明	×	×	×	×	×	×	×	×		
愛媛	上芳我	明治 27		×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
九州	佐賀	川打	江戸中	江戸中	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	長崎	本田	江戸中		×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	沖縄	上江洲	宝暦 4	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×		
	大分	神尾	明和 8	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	福岡	平川	18 C 後	×	○	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×		
	大分	後藤	江戸後	×	×	○	○	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	大分	矢羽田	18 C 後	江戸後	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	宮崎	藤田	天明 7		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	佐賀	吉村	天明 9	×	×	○	×	○	×	△	○	×	○	×	×	×	×	×		
	沖縄	中村	江戸後	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	鹿児島	二階堂	文化 6	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
熊本	境	文政 13	江戸末	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			

水平材の配置と使用法一覧 5/5

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章	節	項	小区分	指鴨居													
					4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
					指鴨居なし	指鴨居																
					指鴨居なし	指鴨居																
九州	宮崎	黒木	天保 6	江戸末	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	福岡	永沼	天保 10		×	△	○	×	×	×	◎	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	福岡	数山	天保 13		×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大分	行徳	弘化 4		×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×
	鹿児島	古市	弘化 3		×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	佐賀	土井	江戸末		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	熊本	太田	江戸末		×	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	佐賀	西岡	安政 2		×	×	○	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	福岡	中島	安政 6		×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	佐賀	山口	明治		明治	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

一覧表 -27 その他の配置と使用法一覧 (4章・5章) 1/5

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章節項目																							
					4 4 2 1	4 1 2 2	4 1 1	4 1 1	4 1 1	4 1 1	4 1 1	4 1 1	4 4 3 1	4 4 3 3	4 4 5 2	4 5 3 4	4 5 5 4	4 5 5 6	4 5 5 7	4 6 2 1	4 6 3 4	4 6 4 2	5 1 1	5 2 1				
					広間 指鴨居	長押 床	座敷飾り 天井	梁	欄間	付書院	床敷飾数 床脇(押入以外)	土間の太い化粧梁	梁 広間の天井下梁(簀天并倉)	座敷に梁	土壁厚真の調整	塗籠貫	座敷に貫	貴 広間四面貫	両面貫	外壁の貫	成調整 長押成調整	指物成調整	土間の太い薄鴨居	貫成調整	軒形式の意匠操作	床奥行調整		
東北	秋田	土田	17 C後	江戸中	×	×	○	○	○	×	×	×	×	3	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	
	秋田	鈴木	17 C末		×	○	○	○	×	○	×	×	×	2	×	×	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	福島	横山	江戸中		×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	○	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×
	福島	馬場	江戸中		○	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	山形	有路	江戸中		○	○	○	○	×	○	×	×	4	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	山形	尾形	江戸中		×	×	○	○	○	×	○	×	×	4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
	福島	五十嵐	享保3		×	○	○	○	×	○	×	×	×	2	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	岩手	後藤	元禄~宝永		×	○	○	○	×	○	×	×	×	2	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	岩手	菅野	享保13		×	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	福島	旧五十嵐	享保14		×	×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	岩手	小原	18 C中	○	×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	岩手	菊池	18 C中	○	×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	宮城	我妻	宝暦3	○	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	○	◎	◎	○	×	○	×	◎	×	×	
	秋田	奈良	宝暦頃	○	×	○	○	×	×	×	×	×	3	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×	◎	×	×	
	宮城	洞口	宝暦頃	○	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	
	岩手	工藤	宝暦9	○	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	◎	×	○	×	×	×	×	×	×	×	
	青森	平山	明和6	○	×	○	○	○	×	×	×	×	4	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	
	岩手	伊藤	18 C後	○	×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	青森	石場	18 C前	○	○	○	○	×	○	○	○	○	6	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	
	青森	笠石	18 C後	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	
	宮城	佐藤	18 C後	○	×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	山形	矢作	江戸後	○	×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	
	岩手	佐々木	江戸後	○	○	○	○	○	×	×	×	×	3	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	
	宮城	中澤	江戸後	○	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	秋田	嵯峨	19C前	×	○	○	○	○	×	×	×	×	3	×	○	×	○	×	○	×	○	×	×	×	?	◎	×	
	岩手	藤野	19 C前	○	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	北海道	笹浪	19 C前	○	×	○	○	○	×	×	×	×	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	秋田	草薨	天保頃	○	×	○	○	○	×	×	○	○	5	◎	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	
	秋田	大山	19 C中	○	×	○	○	○	×	×	×	×	3	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
	秋田	三浦	文久元	○	×	○	○	○	×	○	○	○	6	◎	○	×	○	×	○	×	○	×	×	×	◎	×	×	
岩手	中村	文久元	○	×	○	○	×	×	○	×	×	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×		
北海道	三戸部	明治20頃	○	×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
北海道	中村	明治22頃	○	×	○	○	○	×	○	○	○	6	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×		
群馬	彦部	17 C前	×	○	○	○	×	×	×	×	×	2	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×		
長野	曾根原	17 C中	×	○	○	○	×	○	○	○	5	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×		
茨木	椎名	延宝2	○	○	○	○	×	○	×	×	×	2	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
山梨	平田	17 C後	×	×	○	×	×	○	×	×	○	2	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×		
茨木	中崎	元禄元	×	○	○	○	×	×	×	×	×	2	×	×	○	×	◎	×	×	○	×	×	×	×	×	×		
長野	春原	17 C末	×	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×		
山梨	門西	17 C末	○	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×		
茨城	山本	江戸中	○	○	○	○	×	×	×	×	×	4	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	×		
茨城	羽生	江戸中	○	×	○	×	×	×	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
群馬	生方	江戸中	○	×	○	×	×	×	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
群馬	戸部	江戸中	×	○	○	○	×	×	×	×	×	3	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
群馬	茂木	江戸中	×	×	×	×	○	×	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×		
群馬	阿久沢	江戸中	○	×	×	○	×	×	×	×	×	2	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×		
茨木	飛田	江戸中	×	○	○	○	○	×	×	×	×	3	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×		
栃木	三森	享保18	○	○	○	○	×	○	×	×	×	4	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×		
茨城	太田	18C中	×	×	×	×	○	×	×	×	×	0	×	×	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
長野	真山	明和3	○	×	○	○	○	×	○	○	○	6	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
茨城	塙	18 C後	○	○	○	○	×	○	○	○	6	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○		

その他の配置と使用法一覧 2/5

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章節項目小区分																								
					広間指鴨居	長押	床	天井	座敷飾り	梁	欄間	付書院	床敷飾数	座敷飾数	土間の太い化粧梁	梁	座敷に梁	土壁厚真の調整	塗鴉貫	座敷に貫	広間四面貫	両面貫	外壁の貫	長押成調整	指物成調整	土間の太い薄鴨居	貫成調整	貫成調整	軒形式の意匠操作
甲信		栃木 羽石	18 C後		◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		栃木 荒井	18 C後		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎
		山梨 高野	江戸後	江戸後	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		栃木 岡本	江戸後		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×
		長野 横田	寛政 6		×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		山梨 八代	文化 5		×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×
		栃木 入野	天保 12		○	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		長野 小野	江戸末	江戸末	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		山梨 星野	嘉永 2-4		×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		群馬 黒澤	江戸末	明治	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
北陸		福井 坪川	17 C末		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		福井 瓜生	元禄 12		○	×	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		富山 羽馬	江戸中		○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		福井 堀口	18 C初		○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		石川 座主	18 C初	江戸中	×	×	○	×	×	×	×	×	×	◎	×	○	○	◎	○	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×
		富山 江向	18 C初		○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		福井 橋本	18 C初		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		新潟 長谷川	享保元		○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
		新潟 佐藤	元文 3		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		石川 時国	宝暦 6		×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	◎	○	○	×	◎	○	×	×	◎	○	×
		富山 佐伯	明和 4 移築		○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		新潟 若林	明和 6 火災後		○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○
		富山 武田	寛政		○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
		富山 嶋	18 C末	江戸後	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		福井 谷口	文化 6 頃		○	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
		石川 喜多	19 C初		○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	◎	○	×	○	×	○	×	×	×	×
		新潟 渡辺	文化 14		○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	◎	○	×	×	○
		新潟 笹川	文政 9		○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○
富山 浮田	文政 11		○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
石川 小倉	江戸末		×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
石川 松下	19 C中	江戸末	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×		
福井 石倉	慶応		×	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×		
東海		岐阜 牧村	元禄 14		○	×	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		静岡 中村	貞享 5		×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	
		岐阜 田中	18 C初	江戸中	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		静岡 大鐘	18 C初		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		静岡 友田	18 C前		○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	?	×	×	×	×	×	
		静岡 植松	延享元		○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		岐阜 林主屋	安永 2		○	×	○	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	
		岐阜 小坂	安永 2		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		愛知 望月	18 C後		○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		三重 町井	江戸後	江戸後	○	×	○	○	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	
岐阜 荒川	寛政 8		×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×			
岐阜 若山	寛政 9		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
岐阜 桑原	寛政 12		○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×			
岐阜 林隠居屋	文政 12		×	×	○	○	×	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
愛知 服部	天保	江戸末	○	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×			
岐阜 大戸	天保 4		○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
愛知 東松	明治 34	明治	○	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
関東		神奈川 関	17 C前	江戸前	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		千葉 花野井	17 C後	江戸中	×	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		千葉 作田	17 C後		○	○	○	○	○	○	×	×	×	◎	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

その他の配置と使用法一覧 3/5

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代	年代区分	章節項目小区分																						
					4 4 2 1	4 1 2 1	4 1 1	4 1 1	4 1 1	4 1 1	4 1 1	4 1 1	4 4 3 1	4 4 3 1	4 4 3 5	4 5 2	4 5 3	4 5 4	4 5 5	4 5 6	4 5 7	4 6 1	4 6 2	4 6 3	4 6 4	5 1 1	5 2 1
					広間 指鴨居	長押 床	座敷飾り 天井	梁	欄間	付書院	床敷飾数 床脇(押入以外)	土間の太い化粧梁	梁 広間の天井下梁(簀天井倉)	座敷に梁	土壁厚真の調整	塗篋貫	座敷に貫	貴 広間四面貫	両面貫	外壁の貫	成調整 長押成調整	指物成調整	土間の太い薄鴨居	貫成調整	軒形式の意匠操作	床奥行調整	
関東	神奈川	石井	17 C 後		×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	1	×	○	○	×	×	◎	×	×	×	×	×	×
	神奈川	北村	貞享 4		×	○	○	○	○	×	×	×	×	3	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	埼玉	高橋	17 C 末		×	×	○	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×
	埼玉	高麗	17 C 末		×	○	○	○	×	×	×	×	×	3	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	埼玉	小野	18 C 初	江戸中	×	×	×	×	×	○	×	×	×	0	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
	神奈川	伊藤	18 C 初		○	○	×	○	○	×	×	×	×	2	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	埼玉	吉田	享保 6		○	○	○	○	×	×	×	×	×	3	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	埼玉	平山	18 C 前		○	○	○	○	○	×	×	×	×	3	×	○	○	×	×	×	○	◎	×	×	×	×	×
	千葉	尾形	享保 13		×	○	○	○	×	○	×	×	×	2	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	埼玉	新井	延享 2		○	×	○	○	○	×	×	×	×	3	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
	岐阜	矢籠原	宝暦元		○	×	○	○	×	×	×	×	○	4	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
	東京	大場	宝暦 3	江戸後	○	○	○	○	×	×	×	×	2	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△
	千葉	御子神	安永 8		○	○	○	○	×	×	○	×	4		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	埼玉	大沢	寛政 4		×	×	×	×	×	×	×	×	0	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	東京	宮崎	19 C 中	江戸末	×	○	○	○	×	×	×	×	3	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
近畿	兵庫	古井	室町後	室町	×	×	×	×	○	×	×	0	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	兵庫	箱木	室町後		×	×	×	○	×	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×
	奈良	中村	寛永 9		○	○	○	○	×	×	×	○	4	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	○
	大阪	左近	江戸前		○	×	○	×	×	○	×	2	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	吉村	江戸前	江戸前	○	×	○	○	○	○	×	5	○	○	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	○	×	×	×
	奈良	西田	江戸前		○	×	○	×	○	×	×	2	×	×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	京都	石田	慶安 3		×	×	○	×	×	×	×	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	今西	慶安 3		○	×	○	×	×	×	×	2	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	豊田	寛文 2		○	×	○	×	○	×	×	2	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	兵庫	岡田	延宝 2		○	×	○	×	○	×	×	2	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
	奈良	白井	元禄頃		○	×	○	×	○	×	×	1	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	兵庫	友井	元禄頃		○	×	○	×	○	×	×	1	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	滋賀	大角	元禄頃		○	×	○	○	×	○	○	6	×	×	×	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	◎
	大阪	山添	宝永 2		○	×	○	○	○	×	×	3	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	滋賀	西川	宝永 3		○	×	○	○	×	○	○	5	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	○	×	◎	×	×
	京都	渡邊	江戸中		○	×	○	×	○	×	×	1	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	奥田	江戸中		×	×	○	×	○	×	×	3	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
	大阪	高橋	江戸中		○	×	○	×	○	×	×	3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	大阪	山本	江戸中		○	×	○	○	×	○	×	2	×	○	○	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	和歌山	増田	宝永 3	江戸中	○	×	○	○	×	○	○	6	○	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	○	○	○
	大阪	北田	宝永 5 ~享保 19		○	×	○	○	×	○	×	4	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	奈良	米谷	18 C 前		○	×	×	×	×	×	×	0	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×
	奈良	森村	享保 17		○	×	○	○	×	○	○	6	○	×	×	×	×	×	○	◎	×	×	×	×	◎	×	×
	大阪	杉山	享保 19		○	×	○	○	×	○	○	6	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	◎	○	○	○
	京都	伊佐	享保 19		×	×	○	○	×	○	○	6	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○
	京都	澤井	元文 5		○	×	○	×	○	×	○	4	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○
	奈良	上田	延享元		○	×	○	×	○	×	×	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
和歌山	妹背	延享 3		○	×	○	○	×	○	×	5	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	
和歌山	谷山	寛延 2		○	×	×	○	×	×	×	1	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
滋賀	宮地	宝暦 4		○	×	○	×	×	×	×	2	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
京都	瀧澤	宝暦 10		×	×	○	×	×	×	×	3	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	
奈良	中	明和		○	×	○	×	×	×	○	2	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	
奈良	藤田	18 C 後	江戸後	○	×	○	×	○	×	×	1	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	
奈良	片岡	天明 2		○	×	○	○	×	×	×	3	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	◎	×	
和歌山	鈴木	天明 5		○	○	○	×	○	×	×	2	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	
京都	角屋	江戸後		○	×	○	○	×	○	○	6	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	

意匠操作数 2/6

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代区分	意匠操作数	2	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5	平面積 (㎡)	座敷節数	柱幅区分数	村役人	商人	武士		
					5	2	4	2	3	3	4	4	2	2	6	6	6	1							2	1
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯						
					柱幅五区分以上	座敷柱が一樣に細い	一間間隔の片蓋柱	太く見せるための五平柱	狐柱・狐束	二段階以上の柱幅調整	狐鴨居	大戸口のマガサ	土間に太い梁を見せる意識	片蓋胴差	指鴨居の成を揃えるもの	広間の四面に貫を見せる	長押成の調整	指物成の調整	薄鴨居成の調整	軒の意匠操作	床奥行調整					
北陸	新潟	笹川	文政9 江戸後	5	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1120	6	○					
		愛知 服部	天保 江戸末		○	×	×	×	×	○	○	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	226	3	5			
東海	岐阜	荒川	寛政8 江戸後	5	不明	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	345	6	○					
		京都 瀧澤	18 C前 江戸後		○	×	×	◎	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	222	3	5			
近畿	大阪	北田	宝永5~享保19 江戸中	5	×	○	×	×	×	○	◎	○	×	×	×	×	×	×	291	4	5	○				
		奈良 藤岡	18 C後 明治		×	○	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	181	5	3			○	
	和歌山 中筋	嘉永5 江戸末	×		○	×	×	×	×	×	○	◎	×	×	×	×	×	◎	×	419	6	4	○			
	和歌山 妹背	延享3 江戸中	○		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	312	5	5	○			
九州	福岡	中島	安政6 江戸末	5	不明	×	×	×	×	○	不明	○	×	×	×	×	×	×	211	5		○				
		大分 行徳	弘化4 江戸末		×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	◎	×	216	4	3	○			
東北	秋田	大山	19 C中 江戸末	5	○	×	×	×	×	?	◎	×	○	×	×	×	×	×	287	3	5	○				
		青森 石場	18 C前 江戸後		×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	323	6	3				
甲信	山梨	八代	文化5 江戸後	5	×	○	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	233	6	2					
東海	岐阜	林主屋	安永2 江戸後	5	不明	×	×	×	×	○	不明	×	○	×	×	×	×	×	468	4		○	○			
		静岡 中村	貞享5 江戸中		○	×	◎	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	239	2	5	○			
関東	埼玉	高橋	17 C末 江戸中	5	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	◎	×	128	1						
		東京 大場	宝暦3 江戸後		○	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	△	191	2	5	○			
近畿	奈良	河合	江戸後 江戸後	4	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	166	2	2			○		
		奈良 高木	文政~嘉永 江戸末		×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	147	6	1			○	
	奈良 豊田	寛文2 江戸中	不明		×	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	143	2	2			○		
	大阪 山添	宝永2 江戸中	不明		不明	○	×	×	×	×	◎	○	×	×	×	×	×	○	115	3						
	大阪 吉村	江戸前 江戸前	○		×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	354	5	2	○				
	和歌山 柳川	文化4 江戸後	×		不明	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	○	189	3	3			○		
中国	広島	木原	寛文5 江戸中	5	×	×	×	×	×	△	○	○	×	×	×	×	×	122	3	3			○			
四国	愛媛	渡部	慶応2 江戸末	5	不明	×	×	×	×	○	×	×	◎	×	×	○	×	×	325	4						
		徳島 小采	天保 江戸末		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	60	2	2				
九州	大分	神尾	明和8 江戸後	5	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	157	2	3	○					
東北	宮城	洞口	宝暦頃 江戸後	5	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	246	1	7					
		長野 小野	江戸末 江戸末		○	○	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	305	3	8	○			
	山梨 平田	17 C後 江戸中	○		×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	183	2	6	○				
	山梨 星野	嘉永2-4 江戸末	○		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	377	4	4	○	○			
茨城	山本	江戸中 江戸中	5	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	244	4	6						
北陸	富山	佐伯	明和4 移築 江戸後	5	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	89	2	3					
		静岡 植松	延享元 江戸中		×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	133	1	3	○			
東海	岐阜	桑原	寛政12 江戸後	5	不明	×	×	×	×	不明	○	×	×	×	×	×	×	×	546	4						
		奈良 藤田	18 C後 江戸後		×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	△	×	×	×	214	1	4	○			
近畿	奈良	中村	寛永9 江戸前	3	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	220	4	2	○				
		奈良 白井	元禄頃 江戸中		○	○	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	131	1	2	○	○		
	奈良 上田	延享元 江戸中	×		○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	148	3	3	○				
	兵庫 岡田	延宝2 江戸中	×		×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	654	2	3			○		
中国	鳥取	矢部	江戸前 江戸前	5	○	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	209	4	6	○				
		鳥取 後藤	正徳4 江戸中		×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	381	5	3	○	○		
	島根 堀江	18 C前 江戸中	×		×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	156	3	3					
	広島 幡山	江戸中 江戸中	○		×	×	×	×	×	○	○	×	△	×	×	×	×	×	135	2	5					
山口	国森	明和5 江戸後	5	×	不明	×	×	◎	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	139	5				○			
四国	徳島	田中	元治2 江戸末	5	×	不明	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	182	3				○	○		

意匠操作数 3/6

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	年代区分	章節項 小区分 6-1-1の番号 年代	意匠操作数	2	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	5	平面積 (m ²)	座敷節数	柱幅区分数	村役人	商人	遠隔地商人	武士					
						2	4	3	3	4	4	4	4	4	4	4	5	2												
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰								
						柱幅五区分以上	座敷柱が一様に細い	一間間隔の片蓋柱	太く見せるための五平柱	狐柱・狐束	二段階以上の柱幅調整	狐鴨居	大戸口のマグサ	土間に太い梁を見せる意識	片蓋胴差	指鴨居の成を揃えるもの	広間の四面に貫を見せる	長押成の調整	指物成の調整	薄鴨居成の調整	軒の意匠操作	床奥行調整								
四国	愛媛	豊島	宝暦8	江戸後	3	不明	不明	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	428	6	○				
	高知	関川	文政2	江戸後		×	不明	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	◎	×	172	5	2	○					
九州	福岡	数山	天保13	江戸末		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	199	1	1			
東北	福島	五十嵐	享保3	江戸中	2	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	101	2	2				
	福島	旧五十嵐	享保14	江戸中		×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	117	0	2			
甲信	山形	有路	江戸中	江戸中	2	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	269	4	4	○			
	秋田	嵯峨	19C前	江戸後		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	281	3	4	○				
甲信	長野	春原	17C末	江戸中	2	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	143	1	3	○					
	群馬	彦部	17C前	江戸前		×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	361	2			○	
	群馬	黒澤	江戸末	明治		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	348	4	3	○		
北陸	長野	横田	寛政6	江戸後	2	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	161	3	3			○	
	石川	座主	18C初	江戸中		×	不明	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	102	1				
北陸	富山	嶋	18C末	江戸後	2	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	138	3	2				
	新潟	佐藤	元文3	江戸中		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	152	2	2					
東海	岐阜	牧村	元禄14	江戸中	2	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	126	3	3				
	愛知	東松	明治34	明治		不明	不明	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	162	2	3			○
関東	静岡	友田	18C前	江戸中	2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	144	3	3	○			
	千葉	作田	17C後	江戸中		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	不明	4	3	○		
近畿	神奈川	北村	貞享4	江戸中	2	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	134	3	3				
	埼玉	吉田	享保6	江戸中		×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	202	3	3			
近畿	奈良	岩本	嘉永頃	江戸末	2	×	不明	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	160	3	3	○			
	奈良	音村	安政2	江戸末		×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	120	2	2	○		
近畿	奈良	中橋	江戸後	江戸後	2	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	112	0	2			○	
	奈良	中	明和	江戸後		×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	231	2	3						
中国	滋賀	宮地	宝暦4	江戸後	2	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	86	2	3				
	奈良	西田	江戸前	江戸前		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	116	2	2			
中国	奈良	米谷	18C前	江戸中	2	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	130	0	2			○	
	奈良	今西	慶安3	江戸前		×	×	×	×	×	×	◎	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	215	2	2	○		
中国	徳島	福永	文政11	江戸後	2	不明	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	◎	×	127	2	2				○		
	広島	林	18C末	江戸後		不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	◎	×	185	4	2	○				
四国	高知	山中	18C前	江戸中	2	×	不明	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	◎	135	1	2							
九州	佐賀	吉村	天明9	江戸後	2	不明	不明	×	×	×	×	○	△	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	114	3					
	熊本	太田	江戸末	江戸末		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	162	4	4			○
九州	大分	矢羽田	18C後	江戸後	2	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	161	1	1	○			
	鹿児島	古市	弘化3	江戸末		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	104	3	1	○		
東北	沖繩	上江洲	宝暦4	江戸後	2	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	220	3	2	○			
	福島	馬場	江戸中	江戸中		×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	128	0	2			
東北	秋田	土田	17C後	江戸中	1	不明	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	221	3					
	秋田	鈴木	17C末	江戸中		不明	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	303	2	○			
東北	岩手	菅野	享保13	江戸中	1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	251	1	4	○						
	岩手	佐々木	江戸後	江戸後		不明	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	210	3	2			
北海道	北海道	笹浪	19C前	江戸後	2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	190	3	2				

意匠操作数 4/6

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	章 節 項 小区分 6-1-1の番号 年代区分	意匠操作数	2	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5	平面積 (㎡)	座敷飾数	柱幅区分数	村役人	商人	商人	武士	
					2	4	2	4	5	6	3	2	4	3	2	2	5	6								1
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯						
					柱幅五区分以上	座敷柱が一様に細い	一間間隔の片蓋柱	太く見せるための五平柱	狐柱・狐束	二段階以上の柱幅調整	狐鴨居	大戸口のマグサ	土間に太い梁を見せる意識	片蓋胴差	指鴨居の成を揃えるもの	広間の四面に貫を見せる	長押成の調整	指物成の調整	薄鴨居成の調整	軒の意匠操作	床奥行調整					
甲信	長野	曾根原	17 C中	江戸前	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	276	5	1	○				
	山梨	門西	17 C末	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	135	1	3	○				
	茨木	飛田	江戸中	江戸中	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	142	3	3					
	茨城	塙	18 C後	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	227	6	4	○				
	栃木	羽石	18 C後	江戸後	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	126	1						
	群馬	生方	江戸中	江戸中	不明	不明	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	235	1						
	群馬	戸部	江戸中	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	132	3	3					
北陸	新潟	若林	明和6 火災後	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	194	5	1				○		
	福井	坪川	17 C末	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	168	2	2	○				
東海	愛知	望月	18 C後	江戸後	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	118	2	3						
	岐阜	林隠居屋	文政12	江戸後	×	不明	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	89	5					○		
	岐阜	若山	寛政9	江戸後	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	210	1	2	○	○				
	岐阜	田中	18 C初	江戸中	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	146	0	1				○		
関東	岐阜	小坂	安永2	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	117	1	4	○	○				
	埼玉	小野	18 C初	江戸中	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	87	0	3						
	埼玉	大沢	寛政4	江戸後	×	不明	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	92	0	2				○		
	千葉	尾形	享保13	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	129	2	2	○				
	千葉	御子神	安永8	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	反例	×	×	×	×	×	○	126	4	2					
	神奈川	伊藤	18 C初	江戸中	不明	不明	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	144	2		○					
近畿	岐阜	矢籠原	宝暦元	江戸後	不明	不明	×	×	○	×	×	不明	×	×	×	×	×	390	4							
	京都	渡邊	江戸中	江戸中	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	127	1	2	○					
	大阪	山本	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	124	2	3	○					
	大阪	左近	江戸前	江戸前	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	127	2	3						
中国	和歌山	鈴木	天明5	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	123	2	3						
	岡山	前原	18 C後	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	106	0	2						
	広島	吉原	寛永12	江戸前	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	191	1	4	○					
	山口	目加田	19C前	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	188	5	1				○		
	山口	口羽	19 C中	江戸末	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	117	4	1				○		
四国	徳島	長岡	享保12	江戸中	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	79	1	2						
	愛媛	上芳我	明治27	明治	×	不明	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	△	192	4	3				○		
	愛媛	本芳我	明治17	明治	×	不明	×	×	×	×	不明	×	○	×	×	×	△	166	5	3				○		
九州	沖縄	中村	江戸後	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	153	3	1						
	福岡	平川	18 C後	江戸後	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	163	1	1						
	佐賀	川打	江戸中	江戸中	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	79	1	2						
	佐賀	土井	江戸末	江戸末	不明	不明	○	×	×	×	×	不明	×	×	×	×	×	226	5					○		
	佐賀	山口	明治	明治	×	不明	○	×	×	×	×	不明	×	×	×	×	×	126	3	3						
	大分	後藤	江戸後	江戸後	不明	不明	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	108	1		○					
	宮崎	藤田	天明7	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	90	0	2						
宮崎	黒木	天保6	江戸末	×	不明	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	128	3	3	○						

意匠操作数 5/6

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	章 節 項 小区分		意匠操作数	① 柱幅五区分以上	② 座敷柱が 一様に細い	③ 一間間隔の 片蓋柱	④ 太く見せる ための五平柱	⑤ 狐柱・狐束	⑥ 二段階以上 の柱幅調整	⑦ 狐鴨居	⑧ 大戸口の マガサ	⑨ 土間に太い 梁を見せる 意識	⑩ 片蓋胴差	⑪ 指鴨居の成 を揃えるもの	⑫ 広間の四面 に貫を見せる	⑬ 長押成の調整	⑭ 指物成の調整	⑮ 薄鴨居成の調整	⑯ 軒の意匠操作	⑰ 床奥行調整	平面積 (㎡)	座敷節数	柱幅区分数	村役人	遠隔地商人	商人	武士
			6-1-1の番号	年代区分																									
東北	福島	横山	江戸中	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	155	0	3				
	山形	矢作	江戸後	江戸後	不明	不明	×	×	×	×	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	171	0					
	岩手	後藤	元禄～ 宝永	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	233	2	3				
	岩手	小原	18 C 中	江戸後	不明	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	204	0					
	岩手	菊池	18 C 中	江戸後	不明	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	175	0					
	岩手	伊藤	18 C 後	江戸後	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	120	0	1				
	岩手	藤野	19 C 前	江戸後	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	132	1	3				
	青森	笠石	18 C 後	江戸後	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	191	1	2				
	北海道	三戸部	明治 20 頃	明治	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	58	0	1				
	岩手	工藤	宝暦 9	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	257	1		○			
宮城	中澤	江戸後	江戸後	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	151	1	4					
宮城	佐藤	18 C 後	江戸後	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	134	0	3					
甲信	長野	真山	明和 3	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	187	6	2					
	茨木	椎名	延宝 2	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	147	2	3					
	茨木	中崎	元禄元	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	125	2	3					
	茨城	羽生	江戸中	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	147	1	3	○				
	群馬	茂木	江戸中	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	115	0						
	茨城	太田	18C 中	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	76	0	3	○			
北陸	福井	堀口	18 C 初	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	112	1	2					
	石川	小倉	江戸末	江戸末	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	157	2	2					
	富山	羽馬	江戸中	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	113	2						
	富山	江向	18 C 初	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	不明	3						
福井	橋本	18 C 初	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	80	0	2	○					
東海	岐阜	大戸	天保 4	江戸末	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	251	4						
	静岡	大鐘	18 C 初	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	253	3	4	○				
関東	埼玉	高麗	17 C 末	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	136	3	2					
	埼玉	新井	延享 2	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	87	3		○				
	千葉	花野井	17 C 後	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	143	2	2					
	神奈川	関	17 C 前	江戸前	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	171	1	3	○				
	神奈川	石井	17 C 後	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	141	1		○				
東京	宮崎	19 C 中	江戸末	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	81	3							
近畿	京都	石田	慶安 3	江戸前	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	93	1	2					
	大阪	高橋	江戸中	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	146	3	5	○				
	大阪	高林	寛政 11	江戸後	×	不明	不明	不明	不明	不明	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	338	5		○				
	兵庫	古井	室町後	室町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	113	0	2					
	兵庫	箱木	室町後	室町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	96	1	2					
	兵庫	友井	元禄頃	江戸中	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	107	1	2					
	和歌山	谷山	寛延 2	江戸中	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	110	1	1		○	○		
中国	島根	道面	19C 前	江戸後	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	47	1	1						

意匠操作数 6/6

◎…典型例 ○…該当 ×…該当無または不明

地域	県名	名	章 節 項 小区分 6-1-1の番号 年代区分	意匠操作数	2	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	5	平面積 (㎡)	座敷飾数	柱幅区分数	村役人	遠隔地商人	商人	武士							
					2	4	2	4	5	2	2	3	3	4	4	2	2	5								6	1					
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰											
					柱幅五区分以上	座敷柱が一樣に細い	一間間隔の片蓋柱	太く見せるための五平柱	狐柱・狐束	二段階以上の柱幅調整	狐鴨居	大戸口のマグサ	土間に太い梁を見せる意識	片蓋胴差	指鴨居の成を揃えるもの	広間の四面に貫を見せる	長押成の調整	指物成の調整	薄鴨居成の調整	軒の意匠操作	床奥行調整											
中国	岡山	犬養	江戸中 江戸中	0	×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	207	4	○					
	岡山	森江	17 C末 江戸後		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	88	1	3			
四国	徳島	木村	元禄 12 江戸中		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	150	2	2			
	香川	恵利	江戸中 江戸中		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	113	1	2			
	香川	細川	江戸中 江戸中		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	75	1	2			
	愛媛	真鍋	18 C初 江戸中		×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	59	2	2	○		
	愛媛	山中	18C 後 江戸後		×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	115	2	1			
	高知	竹内	18 C末 江戸後		×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	56	1	3		○	
九州	長崎	本田	江戸中 江戸中		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	79	1	2			
	熊本	境	文政 13 江戸末		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	112	0				
	鹿児島	二階堂	文化 6 江戸後		×	不明	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	118	3	1			

参考図書

著者・編者	著・編 書名	発行者	発行年 月
藤田元春	著 増補 日本民家史	刀江書院	1937 2
伊藤郷爾	著 中世住宅史	東京大学出版会	1958 5
大河直躬	著 日本の民家—その美しさと構造—	社会思想社	1962 7
伊藤ていじ	著 民家は生きてきた	鹿島出版会	1963 1
文化庁	編 民家のみかた調べかた	第一法規出版	1967 1
豊田武・児玉幸多	編 交通史 体系日本史叢書 24	山川出版社	1970 12
川島宙次	著 滅びゆく民家—間取・構造・内部	主婦と生活社	1973 11
川島宙次	著 滅びゆく民家—屋根外観	主婦と生活社	1973 5
鈴木充	著 日本の美術 37 民家	小学館	1975 3
小倉強	著 東北の民家 増補版第2刷	相模書房	1976 6
文化庁	監 文化財講座 日本の建築 5 近世II・近代	第一法規出版株式会社	1976 10
彰国社	編 建築大辞典 縮刷版	彰国社	1976 3
石原憲治	著 日本農民建築の研究	南洋堂書店出版部	1976 6
小林博	著 街道 生きている近世 2	納屋嘉治	1978 11
宮澤智士	編 越後の民家 中越編 新潟県民家緊急調査報告III	新潟県教育委員会	1979 3
福山市教育委員会	編 鞆の伝統産業	福山市教育委員会	1979 3
宮澤智士	編 日本の民家 第二巻 農家II	学習研究社	1980 6
吉田靖	編 日本の民家 第五巻 町家I	学習研究社	1980 11
鈴木嘉吉	編 日本の民家 第六巻 町家II	学習研究社	1980 9
宮澤智士	編 越後の民家 上越編 新潟県民家緊急調査報告I	新潟県教育委員会	1980 3
林野全考	著 近畿の民家—畿内を中心とする四間取り民家の研究—	相模書房	1980 11
吉田靖	編 日本の民家 第一巻 農家I	学習研究社	1981 9
工藤圭章	編 日本の民家 第三巻 農家III	学習研究社	1981 1
宮澤智士	編 日本の民家 第四巻 農家IV	学習研究社	1981 5
鈴木充	編 日本の民家 第七巻 町家III	学習研究社	1981 7
宮澤智士	編 越後の民家 下越編 新潟県民家緊急調査報告III	新潟県教育委員会	1981 3
太田博太郎	著 日本住宅史の研究(日本建築史論集II)	岩波書店	1984 11
日本建築学会民家語彙集録部会	編 日本民家語彙集解	紀伊國屋書店	1985 10
吉田靖	著 日本における近世民家(農家)の系統的発展	奈良文化財研究所	1985 3
小林昌人	著 民家と風土	岩崎美術社	1985 10
川島宙次	著 民家のデザイン	相模書房	1986 11
江差町教育委員会	編 北前船 日本海文化と江差	「北前船」編集委員会	1986
観光資源保護財団	編 撞木造りの街並みと米沢街道—新潟県関川村の村づくり—	日本ナショナルトラスト	1988 3
宮澤智士	著 日本列島民家史	住まいの図書館出版局	1989 7
館和夫	著 江差追分物語	北海道新聞社	1989 2
牧野隆信	著 北前船の研究	法政大学出版局	1989 3
草野和夫	著 東北民家史研究	中央公論美術出版	1991 4
児玉幸多	編 日本交通史	吉川弘文館	1992 11
気象庁	著・編 日本気候図 1990年版	大蔵省印刷局	1993 8
藤井恵介	著 日本建築のレトリック／組物を見る	INAX	1994 3
地方史研究協議会	編 地方史事典	弘文堂	1997 4
中山清	著 近世大地主制の成立と展開	吉川弘文館	1998 2
コンラッド・タットマン著 熊崎実訳	日本人はどのように森をつくってきたのか	築地書館	1998 8
加藤貞仁	著 海の総合商社 北前船	無明舎出版	2003 3
大場修	著 近世近代町家建築史論	中央公論美術出版	2004 12
米子市史編さん協議会	編 新修 米子市史 第二巻 通史編 近世	米子市	2004 3
源愛日児	著 指物(指付け技法)の変遷過程と歴史的木造加工の類型化に関する研究	文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書	2005 3
日本民族建築学会	編 写真でみる民家大辞典	柏書房	2005 4
網野善彦	著 日本の歴史をよみなおす(全)	筑摩書房	2005 7
加藤貞仁	著 北前船と秋田	無明舎出版	2005 1
丸山雍成	著 参勤交代	吉川弘文館	2007 7
中西総一	著 海の富豪の資本主義	名古屋大学出版会	2009 11
文化庁文化財部参事官(建造物担当)	編 国宝・重要文化財建造物目録	文化庁	2009 3
福山市教育委員会	編 江戸末期からの鞆山山焼	福山市教育委員会	2009 10
廣江正幸	著 狛犬見聞録:来待石・福光石の唐獅子文化:出雲・石見	ワン・ライン	2010 5
金澤雄記	著 飯田・下伊那業書 2 建造物編 1 本棟造と養蚕建築	飯田市歴史研究所	2011 3
土本俊和	著 棟持柱祖形論	中央公論美術出版	2011 2
中村達太郎	著 日本建築辞彙	中央公論美術出版	2011 10
杉山伸也	著 日本経済史 近世—現代	岩波書店	2012 5
近江八幡市史編集委員会	編 近江八幡の歴史 第五巻 商人と商い	近江八幡市	2012 3
長峰正秀	著 豊前国英彦山 その歴史と信仰	海鳥社	2016 8
文化庁	策定 重要文化財(建造物)耐震基礎診断実施要領		2001.4 裁定 2012.6 改正

参考報告書

番号	県名	編者	報告書名	発行者	発行年	月
報 001	三重	文化財建造物保存技術協会	重要文化財町井家住宅主屋・書院修理工事報告書	重要文化財町井家住宅修理委員会	1980	9
報 002	愛知	文化財建造物保存技術協会	重要文化財服部家住宅(主屋・離座敷)修理工事報告書	服部家住宅修理委員会	1979	12
報 003	愛知	文化財建造物保存技術協会	重要文化財望月家住宅保存修理工事報告書	望月靖雄	1984	3
報 004	長野	文化財建造物保存技術協会	重要文化財財真山家住宅修理工事報告書	重要文化財真山家住宅修理委員会	1977	2
報 005	長野	文化財建造物保存技術協会	重要文化財春原家住宅修理工事報告書	春原家住宅修理委員会	1981	3
報 006	長野	文化財建造物保存技術協会	重要文化財曾根原家住宅保存修理工事報告書	曾根原家住宅修理委員会	1977	12
報 007	長野	文化財建造物保存技術協会	重要文化財小野家住宅主屋ほか二棟保存修理工事報告書	小野良文	2013	11
報 010	岐阜	文化財建造物保存技術協会	重要文化財牧村家住宅修理工事報告書	重要文化財牧村家住宅修理委員会	1982	3
報 011	滋賀	滋賀県教育委員会文化財文化財保護課	重要文化財旧西川家住宅(主屋・土蔵)修理工事報告書	滋賀県教育委員会文化財文化財保護課	1988	6
報 013	京都	京都府教育庁指導部文化財保護課	重要文化財澤井家住宅修理工事報告書	京都府教育庁指導部文化財保護課	2007	3
報 014	京都	京都府教育庁指導部文化財保護課	重要文化財行永家住宅修理工事報告書	京都府教育庁指導部文化財保護課	2002	12
報 015	京都	京都府教育庁指導部文化財保護課	重要文化財石田家住宅修理工事報告書	京都府教育庁指導部文化財保護課	1975	3
報 016	京都	京都府教育庁指導部文化財保護課	重要文化財伊佐家住宅(主屋)修理工事報告書	京都府教育庁指導部文化財保護課	1982	9
報 017	京都	京都府教育庁指導部文化財保護課	重要文化財瀧澤家住宅修理工事報告書	京都府教育庁指導部文化財保護課	1985	12
報 018	京都	京都府教育庁指導部文化財保護課	重要文化財渡邊家住宅修理工事報告書	京都府教育庁指導部文化財保護課	1978	3
報 020	京都	京都府教育庁指導部文化財保護課	重要文化財角屋(主屋奥棟)東奥蔵・西奥蔵・台所蔵修理工事報告書	京都府教育庁指導部文化財保護課	1989	3
報 021	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財北田家住宅主屋・表門・乾蔵・北蔵・土堀(含裏門)・撥木納屋修理工事報告書	北田騰造	1988	12
報 022	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財奥田家住宅主屋・表門・乾蔵・旧綿蔵・納屋・米蔵修理工事報告書	財団法人奥田邸保存会	1993	2
報 023	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財高橋家住宅修理工事報告書	重要文化財高橋家住宅修理委員会	1973	12
報 025	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財山本家住宅修理工事報告書	重要文化財山本家住宅修理委員会	1975	3
報 026	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財左近家住宅修理工事報告書	重要文化財左近家住宅修理委員会	1982	3
報 027	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財高林家住宅修理委員会	重要文化財高林家住宅主屋・表門修理工事報告書	1979	3
報 028	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財藤田家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1985	12
報 029	奈良	奈良県立民族博物館	重要文化財旧岩本家住宅移築修理工事報告書	奈良県	1980	12
報 030	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財藤岡家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1998	9
報 031	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財森村家住宅保存修理工事報告書	奈良県教育委員会	2006	3
報 032	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財河合家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1983	11
報 033	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財中村家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1974	8
報 034	奈良	奈良県立民族博物館	重要文化財旧臼井家住宅移築修理工事報告書	奈良県	1977	3
報 035	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財片岡家住宅主屋・南門修理工事報告書	奈良県教育委員会	1981	6
報 036	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財音村家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1981	2
報 037	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財上田家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1982	5
報 038	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財高木家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1979	4
報 039	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財中橋家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1979	7
報 040	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財中家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1975	7
報 041	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財豊田家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1976	9
報 043	福井	滋賀県教育委員会	重要文化財大角家住宅保存修理工事報告書	滋賀県教育委員会	1970	
報 045	滋賀	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	重要文化財旧宮地家住宅移築修理工事報告書	滋賀県教育委員会	1970	3
報 046	愛知	博物館 明治村	重要文化財(建造物)旧東松家住宅保存修理工事報告書	博物館 明治村	2004	3
報 047	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財山添家住宅修理工事報告書	山添家住宅保存修理委員会	1973	1
報 048	兵庫	古井家住宅(千年家)保存修理委員会	重要文化財古井家住宅修理工事報告書	古井家住宅(千年家)保存修理委員会	1971	12
報 049	兵庫	文化財建造物保存技術協会	重要文化財箱木家住宅(千年家)保存修理工事報告書	重要文化財 箱木家住宅修理委員会	1979	1
報 050	兵庫	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧岡田家住宅保存修理工事報告書(災害復旧)	伊丹市	1999	3
報 051	兵庫	文化財建造物保存技術協会	重要文化財友井家住宅保存修理(移築)工事報告書	山南町教育委員会	1977	12
報 052	和歌山	和歌山県文化財センター	重要文化財旧中筋家住宅主屋ほか五棟修理工事報告書	和歌山市	2010	3
報 053	和歌山	和歌山県文化財センター	重要文化財増田家住宅主屋・表門保存修理工事報告書	増田裕	1986	9
報 054	和歌山	和歌山県文化財センター	重要文化財旧名手本陣妹背家住宅(主屋他二棟)修理工事報告書	妹背武雄	1993	3
報 055	沖縄	文化財建造物保存技術協会	重要文化財中村家住宅主屋・宅地(石垣)修理工事報告書	中村榮俊	1989	9
報 056	岐阜	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧太田脇本陣林家住宅主屋・質倉・表門・借物倉修理工事報告書	林由是	1985	12
報 056	岐阜	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧太田脇本陣林家住宅主屋ほか四棟保存修理工事報告書	林由是	2005	3
報 058	岐阜	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧若山家住宅保存修理工事報告書	和田正美	1998	3
報 059	岐阜	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧田中家住宅修理工事報告書	高山市	1973	12
報 060	岐阜	岐阜県益田郡下呂町役場	重要文化財大戸家住宅移築工事報告書	岐阜県益田郡下呂町役場	1963	3

番号	県名	編者	報告書名	発行者	発行年	月
報 061	岐阜	文化財建造物保存技術協会	重要文化財荒川家住宅主屋・土蔵保存修理工事報告書	丹生川村	1987	12
報 062	岐阜	文化財建造物保存技術協会	重要文化財小坂家住宅修理工事報告書	小坂良治	1983	11
報 063	福井	文化財建造物保存技術協会	重要文化財瓜生家住宅保存修理工事報告書	宗教法人神明社	1975	11
報 064	福井	文化財建造物保存技術協会	重要文化財谷口家住宅修理工事報告書	真陽社	1978	6
報 065	福井	文化財建造物保存技術協会	重要文化財堀口家住宅修理工事報告書	真陽社	1972	9
報 066	石川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財時国家住宅保存修理工事報告書	時国信弘	2005	12
報 067	石川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財座主家住宅修理工事報告書	重要文化財座主家住宅修理委員会	1974	11
報 068	石川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧松下家住宅保存修理工事（移築）報告書	金沢市	2006	3
報 069	石川	石川県石川郡白峰村	重要文化財小倉家住宅修理工事報告書	石川県石川郡白峰村	1964	12
報 070	石川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財喜多家住宅主屋・表門・道具倉・味噌倉保存修理工事報告書	財団法人 喜多家保存会	2005	3
報 073	石川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧鯖波本陣石倉家住宅四棟保存修理工事報告書	金沢市	2009	3
報 074	石川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財羽馬家住宅修理工事報告書	羽馬外二	1963	12
報 075	富山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財佐伯家住宅修理工事報告書	重要文化財 佐伯家住宅修理委員会	1973	9
報 076	富山	富山県教育委員会	重要文化財財嶋家住宅修理工事報告書	富山県教育委員会	1972	3
報 077	富山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財武田家住宅修理工事報告書	重要文化財武田家住宅修理委員会	1975	12
報 078	富山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財浮田家住宅保存修理工事報告書	富山市教育委員会	1983	3
報 081	新潟	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧長谷川家住宅主屋・表門・井籠蔵・帳蔵・新蔵・庭堀・裏門修理工事報告書	越路町	1989	12
報 082	新潟	文化財建造物保存技術協会	重要文化財若林家住宅修理工事報告書	村上市	1989	1
報 085	新潟	文化財建造物保存技術協会	重要文化財渡辺家住宅修理工事報告書	公益財団法人 重要文化財渡邊家保存会	1965	10
報 086	新潟	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧笹川家住宅修理工事報告書	味方村	1983	3
報 087	新潟	文化財建造物保存技術協会	重要文化財佐藤家住宅保存修理工事報告書	重要文化財 佐藤家住宅保存修理委員会	1980	8
報 091	静岡	文化財建造物保存技術協会	重要文化財植松家住宅保存修理工事報告書	裾野市	1974	8
報 092	静岡	文化財建造物保存技術協会	重要文化財友田家住宅修理工事報告書	重要文化財 友田家住宅保存修理委員会	1984	3
報 093	静岡	文化財建造物保存技術協会	重要文化財中村家住宅保存修理工事報告書	雄踏町	2003	12
報 094	静岡	文化財建造物保存技術協会	重要文化財大鐘家住宅主屋・長屋門保存修理工事報告書	大鐘家住宅修理委員会	1981	9
報 095	山梨	重要文化財門西家住宅修理委員会	重要文化財門西家住宅修理工事報告書	重要文化財門西家住宅修理委員会	1969	12
報 096	山梨	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧平田家住宅修理工事報告書	小淵沢町	1993	3
報 098	山梨	文化財建造物保存技術協会	重要文化財八代家住宅修理工事報告書	重要文化財八代家住宅修理委員会	1977	12
報 099	山梨	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧高野家住宅主屋ほか八棟保存修理工事報告書	塩山市	2001	3
報 100	山梨	文化財建造物保存技術協会	重要文化財星野家住宅主屋・宅地内建物（厩・板堀）保存修理工事報告書	重要文化財星野家住宅修理委員会	1994	3
報 101	福島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財五十嵐家住宅修理工事報告書	只見町	1974	12
報 102	福島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧五十嵐家住宅保存修理工事報告書	会津坂下町	1997	3
報 103	福島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧滝沢本陣横山家住宅修理工事報告書	重要文化財旧滝沢本陣横山家住宅修理委員会	1978	3
報 104	福島	松本市教育委員会文化課	旧馬場家住宅調査・移築復原工事報告書	松本市教育委員会	1975	20
報 105	山形	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧有路家住宅修理工事報告書	最上町	1973	3
報 106	山形	文化財建造物保存技術協会	重要文化財尾形家住宅修理工事報告書	上山市	1976	8
報 107	山形	文化財建造物保存技術協会	重要文化財矢作家住宅保存修理工事報告書	山形県新庄市	1978	1
報 109	秋田	文化財建造物保存技術協会	三浦館修復の記録 三浦家住宅主屋ほか7棟保存修理工事報告書	三浦館保存会	2006	2
報 110	秋田	文化財建造物保存技術協会	重要文化財土田家住宅修理工事報告書	重要文化財土田家住宅修理委員会	1985	12
報 111	秋田	文化財建造物保存技術協会	重要文化財奈良家住宅修理工事報告書	秋田県教育委員会	1971	12
報 112	秋田	文化財建造物保存技術協会	重要文化財草薨家住宅保存修理工事報告書	草薨稲太郎	1996	3
報 113	秋田	文化財建造物保存技術協会	重要文化財嵯峨家住宅修理工事報告書	重要文化財嵯峨家住宅修理委員会	1984	9
報 114	秋田	文化財建造物保存技術協会	重要文化財大山家住宅修理工事報告書	重要文化財大山家住宅修理委員会	1981	3
報 115	秋田	文化財建造物保存技術協会	重要文化財鈴木家住宅修理工事報告書	重要文化財鈴木家住宅修理委員会	1982	12
報 116	宮城	文化財建造物保存技術協会	重要文化財我妻家住宅（主屋・板蔵）修理工事報告書	重要文化財我妻家住宅修理委員会	1981	1
報 117	宮城	文化財建造物保存技術協会	重要文化財洞口家住宅修理工事報告書	洞口京一	1983	3
報 118	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧後藤家住宅修理工事報告書	江刺市教育委員会	1967	8
報 119	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧菅野家住宅修理工事報告書	岩手県北上市	1972	6
報 120	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財小原家住宅保存修理工事報告書	東和町教育委員会	1976	8
報 121	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財菊池家住宅保存修理工事報告書	岩手県遠野市	1979	2
報 122	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財伊藤家住宅保存修理工事報告書	伊藤喜四郎	1978	11
報 123	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財藤野家住宅・佐々木家住宅修理工事報告書	岩手県	1980	3
報 123	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財藤野家住宅・佐々木家住宅修理工事報告書	岩手県	1980	3
報 124	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧中村家住宅修理工事報告書	盛岡市	1973	12
報 125	青森	文化財建造物保存技術協会	重要文化財石場家住宅保存修理工事報告書	石場清勝	1982	3
報 126	青森	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧平山家住宅修理工事報告書	五所川原市	1981	3
報 127	青森	文化財建造物保存技術協会	重要文化財笠石家住宅修理工事報告書	十和田湖町	1976	8
報 129	北海道	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧笹浪家住宅（主屋・土蔵）保存修理工事報告書	上ノ国町教育委員会	2002	12
報 130	北海道	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧三戸部家住宅保存修理工事報告書	伊達市	1997	3

番号	県名	編者	報告書名	発行者	発行年 月
報 131	北海道	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧中村家住宅保存修理工事報告書	江差町	1982 3
報 134	鳥取	文化財建造物保存技術協会	重要文化財矢部家住宅修理工事報告書	八東市	1977 3
報 135	鳥取	文化財建造物保存技術協会	重要文化財後藤家住宅修理工事報告書	後藤家住宅修理委員会	1981 6
報 137	島根	文化財建造物保存技術協会	重要文化財熊谷家住宅主屋ほか五棟保存修理工事報告書	大田氏	2005 12
報 138	島根	文化財建造物保存技術協会	重要文化財 堀江家住宅保存修理工事報告書	堀江泰正	2007 9
報 140	島根	文化財建造物保存技術協会	重要文化財道面家住宅保存修理工事報告書	島根県鹿足郡六日市町	1976 12
報 141	島根	文化財建造物保存技術協会	重要文化財佐々木家住宅保存修理工事報告書	西郷町	2004 9
報 142	岡山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧犬養家住宅修復工事報告書	岡山県	1992 3
報 144	岡山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財大橋家住宅保存修理工事報告書	重要文化財大橋家住宅修理委員会	1995 3
報 145	岡山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧矢掛脇本陣高草家住宅修理工事報告書	重要文化財旧矢掛脇本陣高草家住宅修理委員会	1986 3
報 146	岡山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧矢掛本陣石井家住宅保存修理工事報告書	重要文化財旧矢掛本陣石井家住宅修理委員会	1991 3
報 147	岡山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財前原家住宅修理工事報告書	重要文化財前原家住宅修理委員会	1974 8
報 148	岡山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財森江家住宅移築修理工事報告書	富村	1976 4
報 149	広島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財奥家住宅保存修理工事報告書	奥博光	2010 3
報 150	広島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財吉原家住宅納屋修理工事報告書	吉原久司	1998 1
報 151	広島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財木原家住宅修理工事報告書	広島県賀茂郡高屋町	1968 12
報 154	広島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧幡山家住宅修理工事報告書	見良坂町	1925
報 155	広島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財太田家住宅主屋他八棟修理工事報告書	重要文化財太田家住宅保存修理委員会	2001 12
報 156	広島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財春風館頼家住宅・復古館頼家住宅保存修理工事報告書	重要文化財春風館頼家住宅復古館頼家住宅保存修理委員会	1997 3
報 157	山口	文化財建造物保存技術協会	重要文化財菊屋家住宅主屋・本蔵・金蔵・米蔵・釜場・附土塀修理工事報告書	菊屋喜十郎	1981 3
報 158	山口	文化財建造物保存技術協会	重要文化財熊谷家住宅(主屋・宝蔵)修理工事報告書	財団法人熊谷美術館	1980 1
報 159	山口	文化財建造物保存技術協会	重要文化財早川家住宅修理工事報告書	早川源一	1983 3
報 160	山口	文化財建造物保存技術協会	重要文化財国森家住宅修理工事報告書	重要文化財国森家住宅保存修理委員会	1984 12
報 161	山口	文化財建造物保存技術協会	重要文化財目加田家住宅修理工事報告書	岩国市	1979 3
報 162	山口	文化財建造物保存技術協会	重要文化財口羽家住宅主屋・表門修理工事報告書	口羽良通	1979 2
報 163	徳島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財木村家住宅修理工事報告書	木村家住宅修理委員会	1984 12
報 164	徳島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財長岡家住宅保存移築修理工事報告書	徳島県脇町	1979 8
報 167	徳島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財田中家住宅修理工事報告書	重要文化財田中家住宅修理委員会	1981 6
報 169	徳島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧恵利家住宅保存修理工事(移築)報告書	大川町	2001 9
報 171	香川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財細川家住宅保存修理工事報告書	重要文化財細川家住宅修理委員会	1977 12
報 172	愛媛	文化財建造物保存技術協会	重要文化財上芳賀家住宅主屋ほか九棟保存修理工事報告書	内子町	2011 12
報 174	愛媛	文化財建造物保存技術協会	重要文化財本芳我家住宅主屋ほか三棟保存修理工事報告書	芳賀大輔	2006 12
報 175	愛媛	文化財建造物保存技術協会	重要文化財真鍋家住宅修理工事報告書	重要文化財真鍋家住宅修理委員会	1979 3
報 176	愛媛	文化財建造物保存技術協会	重要文化財豊島家住宅(主屋)修理工事報告書	松山市教育委員会	1974 3
報 177	愛媛	文化財建造物保存技術協会	重要文化財山中家住宅修理工事報告書	愛媛県浮穴郡美川村	1977 3
報 178	愛媛	文化財建造物保存技術協会	重要文化財渡部家住宅修理工事報告書	松山市教育委員会	1976 3
報 180	高知	文化財建造物保存技術協会	重要文化財山中家住宅修理工事報告書	重要文化財山中家住宅修理委員会	1976 3
報 181	高知	文化財建造物保存技術協会	重要文化財竹内家住宅修理工事報告書	重要文化財竹内家住宅修理委員会	1974 5
報 182	高知	文化財建造物保存技術協会	重要文化財関川家住宅修理工事報告書	重要文化財関川家住宅修理委員会	1978 3
報 184	福岡	文化財建造物保存技術協会	重要文化財平川家住宅保存修理工事報告書	平川家住宅修理委員会	1981 3
報 185	福岡	文化財建造物保存技術協会	重要文化財永沼家住宅修理工事報告書	永沼家住宅修理委員会	1989 11
報 186	福岡	文化財建造物保存技術協会	重要文化財数山家住宅保存修理工事報告書	添田町	1980 3
報 187	福岡	文化財建造物保存技術協会	重要文化財中島家住宅(主屋・醤油蔵・酒蔵・中門・塀)修理工事報告書	重要文化財中島家住宅修理委員会	1985 3
報 189	佐賀	文化財建造物保存技術協会	重要文化財川打家住宅移築修理工事報告書	多久市	2001 3
報 190	佐賀	文化財建造物保存技術協会	重要文化財西岡家住宅保存修理工事報告書	嬉野市教育委員会	2011 2
報 192	佐賀	文化財建造物保存技術協会	重要文化財吉村家住宅保存修理工事報告書	重要文化財吉村家住宅修理委員会	1984 3
報 193	佐賀	文化財建造物保存技術協会	重要文化財土井家住宅修理工事報告書	佐賀県大町町教育委員会	1977 3
報 194	佐賀	文化財建造物保存技術協会	重要文化財山口家住宅修理工事報告書	重要文化財山口家住宅修理委員会	1978 12
報 195	長崎	文化財建造物保存技術協会	重要文化財本田家住宅修理工事報告書	長崎市教育委員会	1974 9
報 196	熊本	文化財建造物保存技術協会	重要文化財境家住宅保存修理工事報告書	熊本県	1977 12
報 197	熊本	文化財建造物保存技術協会	重要文化財太田家住宅修理工事報告書	熊谷家住宅()	2009 8
報 199	大分	文化財建造物保存技術協会	重要文化財後藤家住宅保存修理工事報告書	後藤家住宅修理委員会	1978 3
報 200	大分	文化財建造物保存技術協会	重要文化財神尾家住宅修理工事報告書	重要文化財 神尾家住宅修理工事報告書	1980 3
報 201	大分	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧矢羽田家住宅保存修理工事報告書	大山町	1985 3
報 202	大分	文化財建造物保存技術協会	重要文化財行徳家住宅保存修理工事報告書	重要文化財 行徳家住宅保存修理委員会	1991 8
報 203	宮崎	文化財建造物保存技術協会	重要文化財藤田家住宅保存修理工事報告書	宮崎県教育委員会	1978 9
報 204	宮崎	文化財建造物保存技術協会	重要文化財黒木家住宅修理工事報告書	宮崎県	1975 8
報 205	鹿児島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財二階堂家住宅保存修理工事報告書	二階堂進	1987 7

番号	県名	編者	報告書名	発行者	発行年	月
報 206	鹿児島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財古市家住宅保存修理工事報告書	中種子町	2002	12
報 207	沖縄	文化財建造物保存技術協会	重要文化財上江洲家住宅主屋・前の屋・石牆保存修理工事報告書	重要文化財 上江洲家住宅修理委員会	1995	3
報 209	茨木	文化財建造物保存技術協会	重要文化財椎名家住宅修理工事報告書	重要文化財椎名家住宅修理委員会	1971	
報 210	茨木	文化財建造物保存技術協会	重要文化財中崎家住宅修理工事報告書	中崎家住宅修理委員会	1975	3
報 212	茨木	文化財建造物保存技術協会	重要文化財飛田家住宅修理工事報告書	茨城県古河市	1976	3
報 213	茨城	文化財建造物保存技術協会	重要文化財山本家住宅保存修理工事報告書	山本文男	1994	3
報 214	茨城	文化財建造物保存技術協会	重要文化財塙家住宅保存修理工事報告書	塙仲雄	1983	9
報 215	茨城	文化財建造物保存技術協会	重要文化財羽生家住宅修理工事報告書	重要文化財羽生家住宅修理委員会	1979	3
報 216	栃木	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧羽石家住宅移築修理工事報告書	茂木町教育委員会	1978	8
報 217	栃木	文化財建造物保存技術協会	重要文化財岡本家住宅保存修理工事報告書	岡本郁男	2014	12
報 218	栃木	文化財建造物保存技術協会	重要文化財三森家住宅(主屋・表門)保存修理工事報告書	重要文化財三森家住宅主屋・表門保存修理委員会	1985	12
報 219	栃木	文化財建造物保存技術協会	重要文化財荒井家住宅(主屋・表門)修理工事報告書	重要文化財荒井家住宅修理委員会	1984	3
報 220	栃木	文化財建造物保存技術協会	重要文化財入野家住宅(主屋・表門)保存修理工事報告書	入野孝	1988	12
報 221	群馬	文化財建造物保存技術協会	重要文化財生方家住宅移築修理工事報告書	沼田市	1973	6
報 222	群馬	文化財建造物保存技術協会	重要文化財戸部家住宅保存修理工事報告書	水上町教育委員会	1974	8
報 223	群馬	文化財建造物保存技術協会	重要文化財茂木家住宅保存修理工事報告書	富岡市教育委員会	1977	3
報 224	群馬	文化財建造物保存技術協会	重要文化財阿久沢家住宅保存修理工事報告書	重要文化財阿久沢家住宅保存修理委員会	1975	8
報 225	群馬	文化財建造物保存技術協会	重要文化財彦部家住宅主屋保存修理工事報告書	彦部敏郎	1999	3
報 226	群馬	文化財建造物保存技術協会	重要文化財黒澤家住宅修理工事報告書	群馬県上野村	1982	3
報 228	埼玉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧高橋家住宅保存修理工事報告書	朝霞市教育委員会	2008	3
報 229	埼玉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財高麗家住宅保存修理工事報告書	重要文化財高麗家住宅修理委員会	1977	9
報 231	埼玉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財平山家住宅保存修理工事報告書	重要文化財平山家住宅修理委員会	2008	3
報 232	埼玉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財小野家住宅保存修理工事報告書	所沢市教育委員会	1978	12
報 233	埼玉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財新井家住宅移築修理工事報告書	埼玉県長静町	1975	3
報 234	埼玉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財大沢家住宅保存修理工事報告書	大沢東洋	1992	12
報 236	千葉	普請帳研究会 宮沢智士	重要文化財旧花野井家住宅修理工事報告書(増補版)	千葉県野田市	1991	4
報 237	千葉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧尾形家住宅移築修理工事報告書	丸山町	1972	12
報 238	千葉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧御子神家住宅移築修理工事報告書	千葉県教育委員会	1973	6
報 240	神奈川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財関家住宅表門修理工事報告書	不明	1985	9
報 241	茨城	文化財建造物保存技術協会	重要文化財太田家住宅復旧修理工事報告書	川崎市	1994	3
報 243	岩手	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧藤家住宅移築修理工事報告書	不明	1972	3
報 244	千葉	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧作田家住宅移築修理工事報告書	川崎市	1971	3
報 245	神奈川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財竜宝寺旧石井家住宅修理工事報告書	重要文化財竜宝寺旧石井家住宅修理委員会	1970	9
報 246	富山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧江向家住宅移築修理工事報告書	川崎市	1970	3
報 247	神奈川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧北村家住宅移築修理工事報告書	川崎市	1968	3
報 248	神奈川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財伊藤家住宅(川崎市金程)移築修理工事報告書	川崎市教育委員会	1966	3
報 249	神奈川	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧矢原家住宅移築修理工事報告書	三溪園重要文化財修理実施委員会	1960	11
報 250	宮城	文化財建造物保存技術協会	重要文化財中澤家住宅保存修理工事報告書	名取市	1976	11
報 252	宮城	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧佐藤家住宅修理工事報告書	宮崎県角田市	1972	12
報 254	東京	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧宮崎家住宅移築修理工事報告書	群馬県上野市	1979	8
報 255	福井	文化財建造物保存技術協会	重要文化財橋本家住宅移築修理工事報告書	大野市	1973	12
報 256	福井	文化財建造物保存技術協会	重要文化財坪川家住宅修理工事報告書	重要文化財坪川家住宅修理委員会	1969	3
報 257	長野	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧横田家住宅修理工事報告書	長野市	1991	10
報 258	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財吉村家住宅修理工事報告書	大阪府教育委員会	1970	7
報 261	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧鴻池新田会所史跡鴻池新田会所跡修理工事報告書	真陽社	1996	3
報 262	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財西田家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1991	3
報 264	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財旧米谷家住宅修理工事報告書	奈良県教育委員会	1994	3
報 265	和歌山	和歌山県文化財研究会	重要文化財旧柳川家住宅(主屋・前蔵)・旧谷山家住宅移築修理工事報告書	和歌山県教育委員会	1971	9
報 266	和歌山	和歌山県文化財研究会	重要文化財旧柳川家住宅(主屋・前蔵)・旧谷山家住宅移築修理工事報告書	和歌山県教育委員会	1971	9
報 267	大阪	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧杉山家住宅修理工事報告書	不明	1987	9
報 270	東京	文化財建造物保存技術協会	重要文化財大場家住宅調査報告書	世田谷区教育委員会	1985	3
報 271	徳島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財旧小采家住宅修理工事報告書	東祖谷山村	1983	8
報 272	徳島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財福永家住宅主屋他五棟修理工事報告書	重要文化財福永家住宅主屋修理委員会	1984	3
報 273	広島	文化財建造物保存技術協会	重要文化財林家住宅保存修理工事報告書	重要文化財林家住宅修理委員会	1983	3
報 274	奈良	奈良県文化財保存事務所	重要文化財今西家住宅修理工事報告書	奈良県文化財保存事務所	1962	1
報 277	岐阜	文化財建造物保存技術協会	重要文化財桑原家住宅(主屋他四棟)修理工事報告書	重要文化財桑原家住宅修理委員会	1981	3
報 278	和歌山	文化財建造物保存技術協会	重要文化財鈴木家住宅修理工事報告書	鈴木芳蔵	1982	12
報 279	埼玉	和歌山県文化財研究会	重要文化財吉田家住宅修理工事報告書	重要文化財吉田家住宅修理委員会	1998	12

参考論文

著者	論文名	書名	発行年	月	頁
大熊喜邦	江戸時代住宅に関する法令と其影響附住宅に関する政策	建築雑誌 35 号	1921	10	535 - 566
高沢裕一	米作単作地帯の農業構造	幕末維新の農業構造	1963	2	
吉田純一	柱寸法による民家の編年に関する一考察 石川県奥能登地方の民家	日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)	1972	10	1277 - 1278
吉田純一	柱寸法による近世上層民家の接客部に関する一考察 大阪平野と奈良盆地の場合	日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)	1973	10	1555 - 1556
大野秀敏	吉島家住宅の形態構造とその意味論的關係	日本建築学会論文報告集第 278 号	1979	4	163 - 175
土田良一	江戸時代における街道交通量	歴史地理学 117	1982	6	28 - 38
大石圭一・原田武夫	日本海における昆布輸送路成立の歴史的考察	日本水上交通史論集第 2 巻	1987		
マーティン・モリス	近世初期上層住宅の台所と庶民住宅	建築史学	1996	11	2 - 33
丸山俊明、日向進	山城国南部における建築規制の転換について—江戸時代の山城国農村部における建築規制(その 1)—	日本建築学会計画系論文集 第 535 号	2000	9	223 - 230
丸山俊明、日向進	京都町奉行所の明和 4 年 12 月の触書について—江戸時代の山城国農村部における建築規制(その 2)—	日本建築学会計画系論文集 第 539 号	2001	1	247 - 254
火原阿弥	化粧貫からみた民家の意匠傾向に関する研究	2003 年度 京都府立大学環境デザイン学科卒業研究(大場研究室)	2003		
滝澤秀人、島崎広史、土本俊和、遠藤由樹	ウダツと大黒柱 切妻民家の中央柱列における棟持柱の建築的差異	日本建築学会計画系論文集第 604 号	2006	6	151 - 158
鈴木重治	靱皿山焼の陶磁史上の課題と意義—生産と流通を中心に—	江戸末期からの靱皿山焼	2009	10	66 - 77
清水擴	近世東国民家の柱間寸法と畳割の分布(一)—関東地方—	建築史学	2014	3	47 - 65
上田忠司、麓和善	奈良県近世民家の軸組における差物仕口の変遷過程に関する研究—日本伝統民家の軸組における差物仕口に関する研究その 1—	日本建築学会計画系論文集 第 80 巻 第 715 号	2015	9	2091 - 2100
中室勝郎	輪島塗史の研究—塗師文化と輪島のかたち—	石川県輪島漆芸美術館紀要第 11 号	2016	3	45 - 54
上田忠司、麓和善	西日本近世民家の軸組における差物仕口の変遷過程に関する研究—日本伝統民家の軸組における差物仕口に関する研究その 2—	日本建築学会計画系論文集 第 81 巻 第 721 号	2016	3	741 - 749

調査日程

重要文化財民家 230 棟の修理工事報告書は仕事の合間に 2016 年 4～11 月に読んだが、重要文化財民家の報告書にも記述のばらつきが大きく、実測が必要だと判断した民家が相当数あった。報告書における柱幅等の部材幅記述が不十分な民家や現地で確認すべきと判断した特徴的な意匠操作を持つ民家とにおいて、実測を行った。実測調査の日程は以下の通り。

2012年	川)	12/25 西岡家(佐賀)
7/1 笹川家(新潟)	9/22 中筋家 妹背家(和歌山 柳澤宏江氏同行)	12/27 永沼家 数山家(福岡)
7/2 長谷川家(新潟)		
9/29 武田家(富山)	9/23 中筋家 増田家(和歌山)	2017年
9/30 武田家(富山)	9/25 奥田家 杉山家(大阪)	3/18 西川家 大角家(滋賀)
10/1 浮田家(富山)	10/20 奈良家(秋田)	4/8 伊佐家 澤井家(京都)
10/2 佐伯家(富山)	10/21 草彌家(秋田) 中村家(岩 手)	4/19 大橋家(岡山)
11/15-17 渡辺家(新潟)		4/20 後藤家(鳥取)
12/6 作田家(千葉)	10/22 嵯峨家(秋田)	4/21 熊谷家(島根)
12/11-12 武田家(富山)	10/23 中村家 笹浪家(北海道)	4/22 石井家(岡山) 木原家 (広島)
	10/25 平山家 石場家(青森)	
2016年	11/25 北田家 鴻池新田会所(大 阪)	4/23 吉原家 太田家(広島)
4/10 牧村家(岐阜)		4/30 大場家(東京)
7/1 中村家(沖縄)	11/26 片岡家 中家(奈良)	5/28 奥家(広島)
8/13 境家(熊本)	11/27 角屋(京都)	7/9 行永家(京都)
8/15 菊屋家(山口)	12/4 岡本家 荒井家(栃木 金 碩顯氏同行)	7/30 菅野家(岩手)
8/16 熊谷家 口羽家(山口)		7/31 佐々木家 藤野家(岩手)
9/16 坪川家 谷口家 堀口家 (福井)	12/16 我妻家(宮城)	9/2 大山家(秋田)
9/17 瓜生家(福井)	12/23 八代家 星野家(山梨 金 碩顯氏同行)	9/8 佐藤家(宮城)
9/18 時国家(石川)		
9/19 喜多家 石倉家 松下家(石 行)	12/24 高野家(山梨 金碩顯氏同 行)	

以上の67棟において特記ない限り筆者一人で実測調査を行った。この内、通常非公開または休館中であるのに、民家の研究ということで公開と実測を許可いただいたのは、佐伯家、熊谷家、時国家、喜多家、中筋家、増田家、奥田家、草彌家、嵯峨家、片岡家、中家、角屋、我妻家、八代家、星野家、西岡家、永沼家、大角家、伊佐家、後藤家、奥家である。その他は通常公開中であるが、実測をするということで前もって依頼し、許可をいただき実測を行った。快く実測を許可いただいた各所有者、各管理者、各市町村の担当者にはお世話になった。謝意を示す。

実地に赴くことで、報告書に記載されていない寸法だけでなく、図面と写真だけで判断していたことによる思い違い、報告書の間違い、各地の博物館等によって知った各地の風土の歴史、各地のすばらしい景色や食事や温泉などの日本の風土の豊かさ、を体感することができた。これらはすべて本論文の論旨を構想するための糧となっている。

